

2024（令和 6）年度

履 修 要 項

【2024（令和 6）年度入学者用】

〔重要〕

※履修要項は卒業時まで
使います。大切に保管
して下さい。



鹿児島国際大学
THE INTERNATIONAL UNIVERSITY OF KAGOSHIMA

2024(令和6)年度学年暦【経済学部、福祉社会学部、国際文化学部】

前 期							後 期						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6			1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13	6	7	8	9	10	11	12
14	15	16	17	18	19	20	13	14	15	16	17	18	19
21	22	23	24	25	26	27	20	21	22	23	24	25	26
28	29	30					27	28	29	30	31		
			1	2	3	4					1	2	
5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9
12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16
19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23
26	27	28	29	30	31		24	25	26	27	28	29	30
						1	1	2	3	4	5	6	7
2	3	4	5	6	7	8	8	9	10	11	12	13	14
9	10	11	12	13	14	15	15	16	17	18	19	20	21
16	17	18	19	20	21	22	22	23	24	25	26	27	28
23	24	25	26	27	28	29	29	30	31				
30													
	1	2	3	4	5	6				1	2	3	4
7	8	9	10	11	12	13	5	6	7	8	9	10	11
14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18
21	22	23	※24	25	26	27	19	20	21	22	※23	24	25
28	29	30	31				26	27	28	29	30	31	
				1	2	3						1	
4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8
11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15
18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22
25	26	27	28	29	30	31	23	24	25	26	27	28	
1	2	3	4	5	6	7						1	
8	9	10	11	12	13	14	2	3	4	5	6	7	8
15	16	17	18	19	20	21	9	10	11	12	13	14	15
22	23	24	25	26	27	28	16	17	18	19	20	21	22
29	30						23	24	25	26	27	28	29
							30	31					

記号

	オリエンテーション		祝日・休日(又は振替休日)
	日曜・長期休暇・振休・大学入学共通テスト等		学期試験
	※ 補講日		祝日・振替休日の授業日

授業時数

	月	火	水	木	金	土
前期	15	15	15	15	15	15
後期	15	15	15	16(注)	15	15

(注)後期の授業時数は、入学試験(木曜日予定)に伴う休講日を含む。
※補講時間:水曜日の5限(5月22日を除く)、土曜日の3・4限

2024(令和6)年度学年暦【看護学部1年生】

前							期	後							期
日	月	火	水	木	金	土	【4月】	日	月	火	水	木	金	土	【10月】
	1	2	3	4	5	6	4 入学式			1	2	3	4	5	
7	8	9	10	11	12	13	4～9 10 オリエンテーション 前期授業開始	6	7	8	9	10	11	12	
14	15	16	17	18	19	20		13	14	15	16	17	18	19	14 17～23 スポーツの日(平常授業) 履修登録取消し期間
21	22	23	24	25	26	27		20	21	22	23	24	25	26	
28	29	30					29 昭和の日(平常授業)	27	28	29	30	31			30 振休(5/6分)
			1	2	3	4	【5月】						1	2	【11月】
5	6	7	8	9	10	11	1～7 2 履修登録取消し期間 振休(4/29分) 振替休日(平常授業)	3	4	5	6	7	8	9	4 振替休日(平常授業)
12	13	14	15	16	17	18	6	10	11	12	13	14	15	16	15 15～18 振休(7/15分) 大学祭
19	20	21	22	23	24	25	22 学友会総会(5限)	17	18	19	20	21	22	23	18 19 振休(10/14分) 振休(11/4分)
26	27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	
						1	【6月】	1	2	3	4	5	6	7	【12月】
2	3	4	5	6	7	8		8	9	10	11	12	13	14	
9	10	11	12	13	14	15		15	16	17	18	19	20	21	
16	17	18	19	20	21	22		22	23	24	25	26	27	28	
23	24	25	26	27	28	29		29	30	31					30 30～1/3 冬季休業開始 一斉休暇(年末年始)
30															
	1	2	3	4	5	6	【7月】				1	2	3	4	【1月】
7	8	9	10	11	12	13		5	6	7	8	9	10	11	3 4 冬季休業終了 後期授業再開
14	15	16	17	18	19	20	15 海の日(平常授業)	12	13	14	15	16	17	18	13 17 成人の日(平常授業) 振休(1/13分)
21	22	23	※24	25	26	27	24 27 補講日 前期授業終了	19	20	21	22	※23	24	25	18・19 23 大学入学共通テスト(17日準備) 補講日
28	29	30	31				29～8/5 前期試験期間	26	27	28	29	30	31		25 27～2/4 後期授業終了 後期試験期間
				1	2	3	【8月】							1	【2月】
4	5	6	7	8	9	10	6 夏季休業開始	2	3	4	5	6	7	8	5 春季休業開始
11	12	13	14	15	16	17	7～9 13～15 集中講義期間 一斉休暇(盆休)	9	10	11	12	13	14	15	10～17 後期追試験期間
18	19	20	21	22	23	24	19～21 前期追試験期間	16	17	18	19	20	21	22	21 成績発表
25	26	27	28	29	30	31	26 成績発表	23	24	25	26	27	28		28～3/3 再試験期間
1	2	3	4	5	6	7	【9月】							1	【3月】
8	9	10	11	12	13	14	3 10 再試験日 再試験成績発表	2	3	4	5	6	7	8	
15	16	17	18	19	20	21	19 19 夏季休業終了 秋季卒業式	9	10	11	12	13	14	15	14 再試験成績発表
22	23	24	25	26	27	28	20 20～25 秋季入学式 オリエンテーション	16	17	18	19	20	21	22	19 卒業式
29	30						26 後期授業開始	23	24	25	26	27	28	29	24～26 オリエンテーション
								30	31						

記号



オリエンテーション



祝日・休日(又は振替休日)



日曜・長期休暇・振休・大学入学共通テスト等



学期試験



補講日



祝日・振替休日の授業日

授業時数

	月	火	水	木	金	土
前期	15	15	15	15	15	15
後期	15	15	15	16(注)	15	15

(注)後期の授業時数は、入学試験(木曜日予定)に伴う休講日を含む。
※補講時間:水曜日の5限(5月22日を除く)、土曜日の3・4限

2024(令和6)年度学年暦【看護学部2年生】

前							期	後							期	
日	月	火	水	木	金	土	【4月】	日	月	火	水	木	金	土	【10月】	
		1	2	3	4	5	2 3 4 健康診断 前期授業開始 入学式				1	2	3	4	5	14 21~26 30 スポーツの日(平常授業) 履修登録取消し期間 振休(5/6分)
7	8	9	10	11	12	13		6	7	8	9	10	11	12		
14	15	16	17	18	19	20		13	14	15	16	17	18	19		
21	22	23	24	25	26	27		20	21	22	23	24	25	26		
28	29	30					29 昭和の日(平常授業)	27	28	29	30	31				
			1	2	3	4	【5月】						1	2	【11月】	
5	6	7	8	9	10	11	2 6 振休(4/29分) 振替休日(平常授業) 学友会総会(5限)	3	4	5	6	7	8	9	4 振替休日(平常授業)	
12	13	14	15	16	17	18		10	11	12	13	14	15	16	15 15~18 振休(7/15分) 大学祭	
19	20	21	22	23	24	25		17	18	19	20	21	22	23	18 19 振休(10/14分) 振休(11/4分)	
26	27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30		
						1	【6月】	1	2	3	4	5	6	7	【12月】	
2	3	4	5	6	7	8	15~22 健康回復看護総論実習	8	9	10	11	12	13	14	30 30~1/3 冬季休業開始 一斉休暇(年末年始)	
9	10	11	12	13	14	15		15	16	17	18	19	20	21		
16	17	18	19	20	21	22		22	23	24	25	26	27	28		
23	24	25	26	27	28	29		29	30	31						
30																
	1	2	3	4	5	6	【7月】				1	2	3	4	【1月】	
7	8	9	10	11	12	13	15 海の日(平常授業) 24 27 補講日 前期授業終了 29~8/6 前期試験期間	5	6	7	8	9	10	11	3 4 13 17 18・19 23 27 27 28~2/4 冬季休業終了 後期授業再開 成人の日(平常授業) 振休(1/13分) 大学入学共通テスト(17日準備) 補講日 金曜日の授業 後期授業終了 後期試験期間	
14	15	16	17	18	19	20		12	13	14	15	16	17	18		
21	22	23	※24	25	26	27		19	20	21	22	※23	24	25		
28	29	30	31					26	※27	28	29	30	31			
				1	2	3	【8月】							1	【2月】	
4	5	6	7	8	9	10	7 7~9 13~15 夏季休業開始 集中講義期間 一斉休暇(盆休)	2	3	4	5	6	7	8	5 10~18 21 28~3/3 春季休業開始 後期追試験期間 成績発表 再試験期間	
11	12	13	14	15	16	17	16~23 前期追試験期間	9	10	11	12	13	14	15		
18	19	20	21	22	23	24	26 成績発表	16	17	18	19	20	21	22		
25	26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28			
1	2	3	4	5	6	7	【9月】							1	【3月】	
8	9	10	11	12	13	14	3~6 10 10 11・12 13~28 19 20 30 再試験期間 再試験成績発表 夏季休業終了 オリエンテーション 看護展開基礎実習 秋季卒業式 秋季入学式 後期授業開始	2	3	4	5	6	7	8	4~21 14 19 24~26 追加実習 再試験成績発表 卒業式 オリエンテーション	
15	16	17	18	19	20	21		9	10	11	12	13	14	15		
22	23	24	25	26	27	28		16	17	18	19	20	21	22		
29	30							23	24	25	26	27	28	29		
								30	31							

記号

オリエンテーション 祝日・休日(又は振替休日)

日曜・長期休暇・振休・大学入学共通テスト等 実習

学期試験 ※ 補講日等 祝日・振替休日の授業日

授業時数

	月	火	水	木	金	土
前期	15	15	15	15	15	—
後期	15	15	15	15	15	—

(注)2年生前期の授業時数は、実習期間(6/15~22)は含まない。
※補講時間:水曜日の5限(5月22日を除く)、土曜日の1・2限

はじめに

この「履修要項」は、学生生活を過ごしていくうえで、大変重要なことが記載されています。卒業する時にこの冊子が「親友」となっている人は、きっと充実した学生生活を送っているはずです。あなたも事あるごとに「履修要項」に目を通してください。

『Ⅰ 建学の精神』では、学園・大学の歴史を記しています。また、教育方針からは、あなたがどのような人になってもらいたいかわかると思います。

『Ⅱ 修学上の基本事項』では、本学における1年間の行事予定、時間割の見方や履修登録の仕方、授業や試験のことなど、修学に関する基本的なことを記しています。その他、「地域人材育成プログラム」「グローバル英語プログラム」「学部横断プログラム」についての説明もあります。

『Ⅲ カリキュラム』では、学部・学科ごとに、それぞれの教育課程はどうなっているのか、どのような教職・資格がとれるのかを記しています。大学の決まりごと（学則や各学部履修規程など）にしたがって、わかりやすく書かれていますので、あなたの学科に関する部分をよく読んで、正しく理解してください。

『Ⅳ 資格課程等（全学共通）』では、文字どおり全学に開かれた資格について説明しています。あなたの目標や単位の修得状況などを踏まえて、希望する資格がある時には参照してください。

『Ⅴ 教室・研究室棟略図』は、大学の建物・教室・研究室について紹介しています。広いキャンパスです。わからない時には、確認してください。

大学におけるあなたの一番の務めは日常の学習にあります。この「履修要項」は卒業するまで手元におき、存分に活用してください。また、わからないことがあったら、遠慮せずにあなたが所属する学科の先生方や、学生総合支援センター内にある教務部（教務課・実習支援課）を訪ねて、確認してください。

あなたの学生生活が充実したものとなることを願っています。

目 次

学年暦

はじめに	1
------	---

目 次	2
-----	---

I 建学の精神

1 学園の目的と建学の趣旨	6
2 鹿児島国際大学3つのポリシー	8

II 修学上の基本事項

1 年間行事	12
2 単位制	13
3 学生への連絡方法	16
4 学生情報システムについて	17
5 時間割表の見方	21
6 ナンバリングコード	23
7 履修登録	28
8 スポーツ実習の履修	36
9 ボランティア活動（共通教育科目）の受講について	38
10 「学部横断プログラム」の受講について	39
11 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の受講について	40
12 「地域人材育成プログラム」[グローバル英語プログラム]の受講について	42
13 グローカル教養教育	44
14 授 業	46
15 試 験	49
16 成 績	50
17 履修に関するQ & A	52

III カリキュラム

経済学部 経済学科

カリキュラム	61
教職課程	70
地域人材育成プログラム（経済学科）	84

経済学部 経営学科

カリキュラム	87
教職課程	95
地域人材育成プログラム（経営学科）	111

福祉社会学部 社会福祉学科

カリキュラム	117
社会福祉士国家試験受験資格	126

精神保健福祉士国家試験受験資格	128
介護福祉士養成課程	130
教職課程	133
特別支援学校教員養成課程	145
社会福祉主事（任用資格）	147
地域人材育成プログラム（社会福祉学科）	149
福祉社会学部 児童学科	
カリキュラム	153
教職課程	163
保育士養成課程	173
地域人材育成プログラム（児童学科）	178
国際文化学部 国際文化学科	
カリキュラム	183
教職課程	195
学芸員資格課程	210
日本語教員養成課程	211
地域人材育成プログラム（国際文化学科）	212
国際文化学部 音楽学科	
カリキュラム	215
教職課程	229
地域人材育成プログラム（音楽学科）	240
看護学部 看護学科	
カリキュラム	245
Ⅳ 資格課程等（全学共通）	
司書課程（音楽学科，看護学科を除く）	265
司書教諭課程（看護学科を除く）	266
グローバル英語プログラム	267
学部横断プログラム	268
日本語特別プログラム（留学生対象）	271
Ⅴ 教室・研究室棟略図	

I 建学の精神



津曲貞助（津曲学園創立者）
明治12年（1879）～昭和24年（1949）



津曲早子（津曲貞助の母）
～大正13年（1924）

1 学園の目的と建学の趣旨

鹿児島国際大学の設置母体である学校法人津曲学園の寄附行為には、学園の設立目的として、「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、地域と時代の要請に応じる人材を育成することを目的とする。」を掲げており、そこには学園の創設者である津曲貞助翁の教育に対する思いが込められています。

ここでは、学園の教育方針と建学の趣旨（原文漢文訓読体）の一部を紹介し、本学の教育研究の原点について紹介します。

(1) 津曲学園の教育方針

教育勅語ノ御聖旨ヲ奉體シテ善良なる国民ヲ養成セントス

(2) 津曲学園建学の趣旨（現代文要約）

山紫水明の地には、往々にして偉人が生まれると、世の人々は言う。このことを私達の鹿児島島の地で考えると、北の地には、高くそびえる大きく神聖な山、高千穂があり、鹿児島島の周りには洋々とした豊かな海が取り巻いて流れている。さらに、日本の歴史を顧みると、鹿児島は、皇室御先祖のゆかりの地であり、立国の夜明けの美しい光は、ここから始まった。「ににぎのみこと」と「ひこほほでみのみこと」と「うがやふきあえすのみこと」の三代の神様から、神武天皇まで、私達の祖先は十分に真心をおつくしして、国を建てるという大きな事業に力を添えてお助けした。その時から、君国に対して国民のなすべき時には命を捨て、また、明治維新には優れた人材を続々と世に輩出して、わが国の時勢を一転して極めて優れた功績をあげ、本県の名を高めた。それだけでなく、本県は古くから外国文化の入口となり、地位の高い人や低い人の教育も、長所をとり入れ、欠点を補い、十分に儒学・仏教を理解し、土の気風を養い、婦女の守るべき道徳を育て、さらにキリスト教が外国から渡って来たことで西洋文化を取り入れ、それでもって明治文化の先駆けとなった。

今私達の日本は、世界の三大国家の一国であって、アジア諸国と協力しながら、太平洋の平和を確保しつつ、アジアの文化を基調として、欧米諸国の文物のすぐれた点を取り入れ、東西を一つにした世界最高の文化を創るべき立場にある。そこで私達鹿児島県人は、わが国に課せられたこの大きな責務の遂行においても、又先に立ってその任務を果たさなければならない。その方法はいろいろあると思うが、その根本は、教育事業を完成することであると信じる。以上、私が教育をもって国家のために力をつくすべく自分の体を捧げようとする理由である。

考えると、私の先祖肝属兼矩（かねのり）は、学問を究め、正しい道を磨いて、世の中の発展や人々の役に立ちとうとしたが、不幸にして早く亡くなり、その思いはかなわなかった。私の両親は、そのことを非常に残念に思い、私にこれを受け継ぐことを頼んだ。特に母は、現在入学が困難である女学校建設を早急に、と言いつづけた。そこで私は自分の微力であることを顧みず決断をして、このすばらしい教育的環境の地に先ず高等女学校を建てる。そして次第に、幼稚園から大学までの一貫教育体制の学園にし、それによって今ある教育施設の欠陥を補うとともに、大いに私学の特徴を発揮するようにしたい。私達の学園に在職する人々は、どうか、自律自重して研学にはげみ、みんなと協力し合って国家・社会の正義の為に身をささげる精神を養い育て、内においては、永遠に続く皇室をお助けし、外にむかっては、世界文化の進展に貢献して欲しいと願う。

大正11年12月12日

鹿児島津曲学園創設者 津曲 貞助

（学校法人津曲学園 HP より抜粋 <http://www.iuk.ac.jp/tsumagari/>）

① 自治的訓練

- ア 自学自習ノ習慣ヲ養ハントス
- イ 公民的教養ニ徹底セントス
- ウ 依頼心ヲ斥ケ、独立自営ノ精神ヲ涵養セントス
- エ 自主、自律、真ノ自由ニ徹底セシメントス
- オ 研究的、進歩的頭脳ヲ造成セントス
- カ 義務遂行ノ念ヲ養ハントス
- キ 国憲国法遵守ノ精神ヲ養ヒ立憲法治国民ノ意識ニ悟到セシメントス

② 和衷協同、犠牲奉公

- ア 友愛同情心ヲ扶植シ寛恕ノ念を養ハントス
- イ 反省謹慎ノ美風ヲ馴致セントス
- ウ 共存共栄、互助互譲ノ精神ヲ哺育セントス
- エ 感謝報恩ノ念ヲ涵養セントス
- オ 私利私欲ヲ斥ケ犠牲心ノ発揚ニ努メシメントス
- カ 人格ノ光ヲ仰ギ之ニ悦服スルノ風ヲ助長セントス

③ 私学特徴発揮

- ア 官僚的気風ヲ斥ケ、立憲自治ヲ基調トスル民衆的精神ヲ訓練セントス
- イ 画一的方法ヲ斥ケ、個性ニ適合セル個別的取扱ヲ重視シ、天賦ノ特徴ヲ伸長セシメントス
- ウ 人格教育ニ重キヲ置キ、操守強固ニシテ熱誠能感、生動独創ノ力ヲ啓発セントス
- エ 美良高雅ナル伝統的精神ヲ扶植樹立セントス

(津曲学園 10周年記念誌より一部抜粋)

注)『寄附行為』とは、学校法人の基本的な規則を定めたもので、会社などの社団法人の組織活動について定めた『定款』に代わるもの。

2 鹿児島国際大学 3つのポリシー

(1) 鹿児島国際大学の基本理念

本学は、「東西文化の融合」「地域社会への貢献」の建学の精神の下に、次のとおり基本理念を定めています。

- 国際的視野でものを考え、地域社会に貢献する人材を育成します。
- 地域に暮らす人々の生活を生涯支え続けるための人材を育成します。

(2) 鹿児島国際大学の目的

本学は、鹿児島の進取開明の伝統を継承しつつ、東西文化の融合と地域社会への貢献を趣旨とする建学の精神に則り、学術的知識・技能の教育研究を推進し、国際社会及び地域社会の発展に寄与しうる人材を養成することを目的としています。

(3) 教学ミッション

本学は、基本理念及び目的を達成するために、教学ミッションとして、「意思形成能力」と「コミュニケーション能力（意思伝達能力）」を向上させる取組みに注力します。

(4) ディプロマ・ポリシー

鹿児島国際大学は、基本理念及び目的を達成するため、教学ミッションに基づいた教育を行い、厳正な成績評価のもと、卒業に必要な所定の単位を修め、各課程教育により、次の能力を備えた学生に学位を授与します。

（知識・技能）

DP1 専門分野で修得した知識・経験を総合的に応用し、主体的に課題の解決に取り組む能力（課題探求能力と問題解決力）を身に付けている。

（思考・判断・表現）

DP2 豊かな社会生活、職業生活を送る上で必要な意思形成能力と意思伝達能力を身に付けている。

DP3 知識や経験を積極的に活用し、的確に判断する能力を身に付けている。

（関心・意欲・態度）

DP4 新しい知識や経験に積極的な関心を抱き、自ら学び続けようとする意欲がある。

DP5 幅広い視野に基づいて他者を尊重し、多様な文化を理解することができる。

(5) カリキュラム・ポリシー

鹿児島国際大学は、基本理念、目的及びディプロマ・ポリシーを達成するために次の方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成・実施し、教学ミッションに基づいた教育を行います。

CP1 すべての学生に提供する「共通教育科目」と、各学部学科に設置する「専門教育科目」との接合に力を注ぎ、教養と専門知識・技術とを幅広く身に付けるために、それぞれの学部・学科の教育目的にあわせて科目を体系的に配置します。

CP2 カリキュラム・マップやナンバリングコードにより、カリキュラムの体系性を可視化します。

CP3 外国語による授業の配置、短期・長期の留学機会の確保、海外でのインターンシップの実施などの方策によって、国際社会に必要な技能・教養を養成します。

CP4 教員と学生あるいは学生同士が交流しながら学べるよう、少人数による演習（ゼミナール）を配置します。

CP5 学生が地域社会との関わりを通じて成長できるフィールドワークやインターンシップに関する科目やプログラムを設けます。

CP6 厳正かつ公平な成績評価を保证するために G P A 制度を実施するとともに、履修した科目の学修を確実に進めるように履修登録単位数の上限設定制度を設けます。

CP7 教育課程の適切性や学生の学修成果についての評価指標を定めるとともに、教育方法等について検証・改善を行います。

CP8 教職員の教育技能を高める一連の F D ・ S D 活動を行います。

CP9 多様な学習歴を持つ学生が自立した社会人として自主的に考え学ぶ力を身に付けられるよう、キャリ

アデザイン教育を充実させるとともに、アクティブ・ラーニングを推進します。

(6) アドミッション・ポリシー

鹿児島国際大学は、基本理念、目的、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、本学での学修を目指す次のような人を国内外に広く求めます。また、そのために志願者の能力と適性を多面的・総合的に評価する多様な選抜方法を定め、実施します。

(知識・技能)

AP1 大学教育を受けるのに必要な高等学校の教育課程を修得している人。

AP2 高等学校までの「国語」「英語」などの学びを通じて、聞く・話す・読む・書くに関する基礎的内容を身に付けている人。

(思考・判断・表現)

AP3 身近な問題を多面的・論理的に考え説明できる人。

AP4 他者を尊重し、豊かな人間関係をつくる意思のある人。

(関心・意欲・態度)

AP5 社会が培ってきた文化や社会の将来に関心のある人。

AP6 チャレンジ精神を持ち、困難なことに取り組む意欲のある人。

AP7 地域社会及び国際社会の発展に寄与する意欲のある人。

Ⅱ 修学上の基本事項

1 年間行事

大学における1年間の主な行事予定は「学年暦」に定められていますので、必ず確認してください。

本学は、前期と後期からなる2期制（セメスター制）を採用しています。

授業は、前・後期ともそれぞれ15回行われます。授業時数を確保するために、休講した場合は必ず補講があります。また、祝日・振替休日に平常授業が行われる場合もありますので注意してください。

この他、毎週水曜日の5限と土曜日の午後（3・4限）は補講時間となっています。

各期の授業前には、オリエンテーションが行われます。オリエンテーション期間には履修説明・相談、履修登録のほか、大学の各学部・学科及び関係部局から大事な説明等がありますので、このオリエンテーションにも必ず出席してください。

詳細や変更点については、その都度、教務課の掲示板又は伊敷キャンパス掲示板等を通じてお知らせしますので、見落とすことがないよう、十分注意してください。

なお、2年次以降の学年暦は、3月末に行われるオリエンテーションで配布される他、教務課掲示板、伊敷キャンパス掲示板、学生情報システムの「学内共有ファイル」、大学ホームページ等にも掲載しますので、必ず確認して下さい。

2 単 位 制

(1) 単位制とは

単位制とは、各授業科目ごとに一定の基準で定められている単位を修得する制度です。

単位とは、学修時間を表わす名称であり、その修得は、個々の科目について所定の時間を学修（授業時間外での学修を含む）し、試験やその他の方法により合格と判定されたとき初めて達成されます。この単位の集積をもって卒業の要件を満たしていくことになります。

授業科目には、講義・演習・実習・実技などの種類があり、前期又は後期で終了する半期科目、1年間にわたる通年科目があります。

それぞれの単位の数え方は次のとおりです。

全 学 部 共 通	講 義	半期科目	週1～2コマ	1～5単位	1 コマは90分 授業を示す。
	演 習	通年科目	週1コマ	4～5単位	
	実 習	半期科目	週1～2コマ	1～2単位	
	語 学	半期科目	週1コマ	1単位	

※芸術等の分野における個人指導による実技等については、本学が定める時間の授業をもって1単位としています。

(2) 進級に必要な単位数

履修規程に、それぞれの学部・学科で「進級に必要な要件」が決められています。1年次から計画的な履修をしなければ、進級できない恐れも出てきます。

経済学部

学 科	進級年次	進 級 要 件
経 済	3年次	2年次に1年以上在籍し、かつ、2年次までの修得単位数が40単位以上であること。
経 営	3年次	2年次に1年以上在籍し、かつ、2年次までの修得単位数が40単位以上であること。

福祉社会学部

学 科	進級年次	進 級 要 件
社会福祉	3年次	2年次に1年以上在籍し、かつ、2年次までの修得単位数が40単位以上であること。
児 童	2年次	1年次に1年以上在籍し、かつ、1年次までの修得単位数が16単位以上であること。

国際文化学部

学 科	進級年次	進 級 要 件
国際文化	3年次	2年次に1年以上在籍し、かつ、2年次までの修得単位数が40単位以上であること。
音 楽	3年次	2年次に1年以上在籍し、かつ、2年次までの修得単位数が40単位以上であること。

※ここでの修得単位数とは、卒業に必要な単位として計算される科目の修得単位数です。

※上記進級年次以外の年次への進級については、必要な要件はありません。

※上記の進級要件を満たせなかった学生は、現年次に留め置きとなりますが、学期末に進級要件を満たした場合は、翌期から進級できます。

看護学部

学 科	進級年次	進 級 要 件
看 護	2 年次	(1) 1 年次に 1 年以上在籍（ただし、休学期間は除く）していること。 (2) 1 年次後期終了までに履修すべき専門基礎科目及び専門科目の必修科目における単位未修得科目が 2 科目以内であること。
	3 年次	(1) 2 年次に 1 年以上在籍（ただし、休学期間は除く）していること。 (2) 2 年次後期終了までに履修すべき専門基礎科目及び専門科目の必修科目における単位未修得科目が 2 科目以内であること。
	4 年次	(1) 3 年次に 1 年以上在籍（ただし、休学期間は除く）していること。 (2) 3 年次後期終了までに履修すべき専門基礎科目及び専門科目の必修科目における単位未修得科目が 2 科目以内であること。

※上記の進級要件を満たせなかった学生は、現年次に留め置きとなりますが、学期末に進級要件を満たした場合は、翌期から進級できます。

(3) 卒業に必要な単位数

学則により、それぞれの学部・学科について卒業に必要な単位数は以下のとおり決められています。

また、学部・学科によって、卒業に必要な単位数の他にコース修了など細かな決まりがありますので P55以降の内容をよく理解するようにしてください。

経済学部

学 科	共通教育科目		専門教育科目		合計
	必 修	選 択	必 修	選 択	
経 済		30		94	124
経 営		30	4	90	

福祉社会学部

学 科	共通教育科目		専門教育科目		合計
	必 修	選 択	必 修	選 択	
社 会 福 祉		14	8	102	124
児 童（保育系コース）		15	28	81	
児 童（児童教育系コース）		15	27	82	

国際文化学部

学 科	共通教育科目		専門教育科目		合計
	必 修	選 択	必 修	選 択	
国 際 文 化		30	4	90	124
音 楽		26	16	82	

看護学部

学 科	共通教育科目		専門教育科目		合計
	必 修	選 択	必 修	選 択	
看 護	10	8	103	8	129

(4) 年次別制限単位数

各年次ごとに履修できる単位の上限がそれぞれ前期・後期に定められています。1年次から計画的に履修しなければ、高学年になって無理をすることになり、場合によっては留年の恐れもできます。

各年次の制限単位数は次のとおりです。(前期及び後期の単位の上限に注意)

経済学部

1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年次 (留年生を含む)	
48		48		48		48	
前期24	後期24	前期24	後期24	前期24	後期24	前期24	後期24

福祉社会学部

1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年次 (留年生を含む)	
48		48		48		48	
前期24	後期24	前期24	後期24	前期24	後期24	前期24	後期24

国際文化学部

1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年次 (留年生を含む)	
44		44		44		48	
前期22	後期22	前期22	後期22	前期22	後期22	前期24	後期24

制限単位数が25未満の学期であっても前学期の GPA が3.0 (児童学科では3.6) を超えた学生は、所定の手続を経て25単位を上限として履修登録することができます。この場合、追加単位の次学期への繰り越しはできません。(GPA については、P50を参照)

他学部・他学科の専門教育科目、教職に関する科目及び資格課程独自の科目は履修制限単位には含まれません。ただし、これらの科目を卒業所要単位として履修する場合は、年次別制限単位数に含まれます。

また、単位互換科目を卒業所要単位として履修する場合も年次別制限単位数に含まれます。

看護学部

1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年次 (留年生を含む)	
48		48		48		48	
前期24	後期24	前期24	後期24	前期24	後期24	前期24	後期24

卒業所要単位数としない履修科目の登録は、上記の表に示された単位制限には含まれません。また、集中講義科目及び実習科目も上記の表に示された単位制限には含まれません。

制限単位数が25未満の学期であっても前学期の GPA が3.0を超えた学生は、所定の手続を経て25単位を上限として履修登録することができます。この場合、追加単位の次学期への繰り越しはできません。(GPA については、P50を参照)

他学部・他学科の専門教育科目は履修制限単位には含まれません。なお、卒業所要単位として履修することはできません。

(5) 他学部・他学科の単位認定

所属する学部・学科以外の開講科目(演習・実習・実技・事前登録を要する科目は除く)を履修したい場合は、指定する期日までに「卒業指定科目等登録願」を提出しなければ認められません。(卒業所要単位として履修する場合もしない場合も提出の必要があります。)

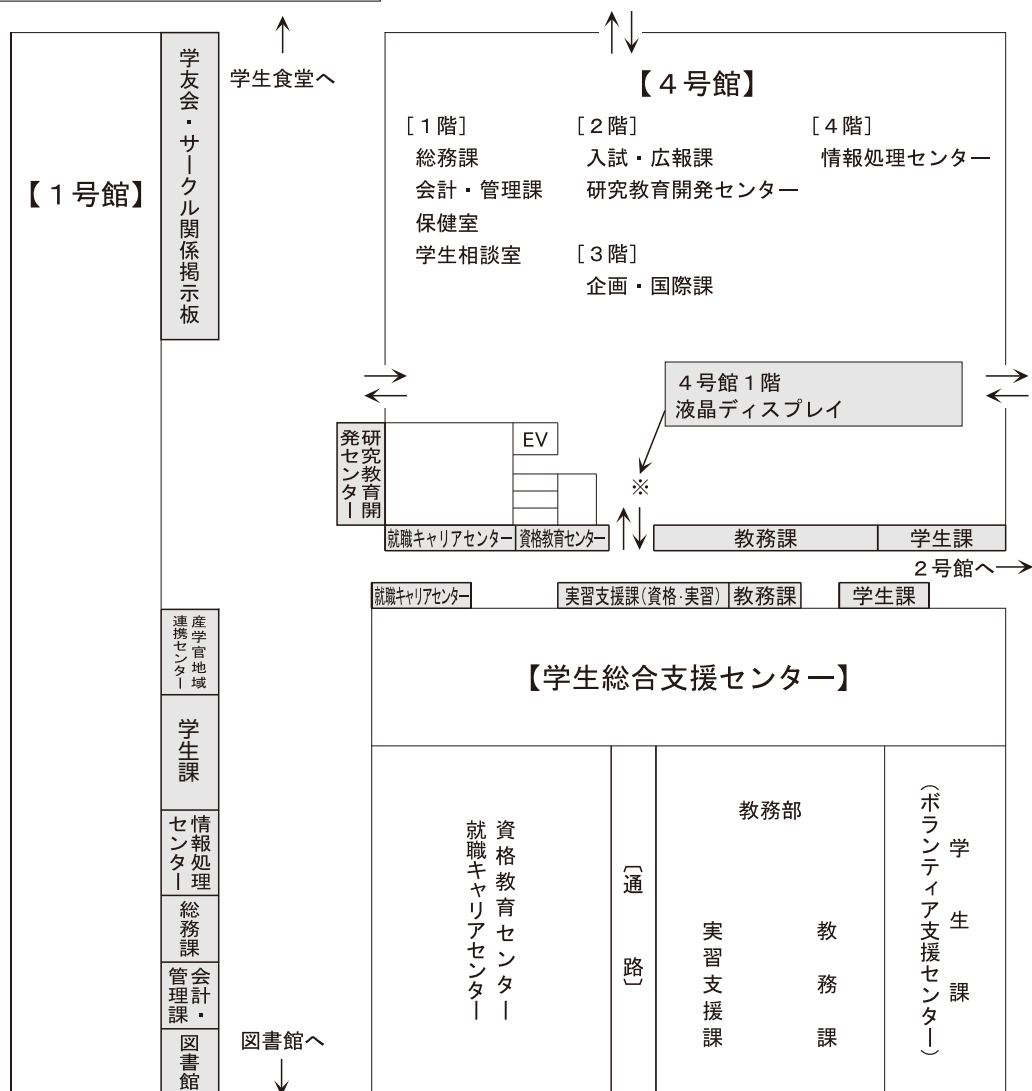
また、「卒業指定科目等登録願」は提出した年度のみ有効です。

3 学生への連絡方法

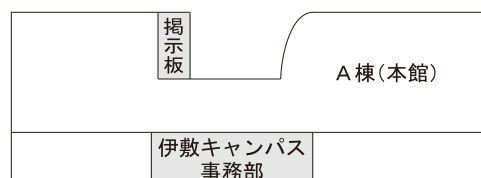
学生への通知，連絡等は掲示板および学生情報システムによって行います。

掲示板は大学と学生を結ぶ最も重要な情報伝達手段です。掲示を見なかったために後になって支障をきたすことのないように，登下校の際は必ず掲示を見る習慣をつけてください。

坂之上キャンパス掲示板設置場所



伊敷キャンパス掲示板設置場所



電話・メールなどでは間違いが生じやすいため
質問等は直接窓口に来室してください。

4 学生情報システムについて

(1) 学生情報システム「LiveCampus U」(以下、LCU)とは

LCUは、みなさんの学生生活を支援するための Web サイトです。

教員と学生とのコミュニケーション、教職員からの各種通知、連絡、休講・補講情報、授業教材のダウンロード、レポート提出、学生個人の成績情報、授業出席情報等が利用できるようになっています。

自宅からも出席状況確認、教材のダウンロード、レポート提出、就職関係の求人や企業情報等の確認ができます。

(2) ブラウザの起動

LCUは、パソコンやスマートフォンのブラウザ（インターネット）を利用する Web システムです。

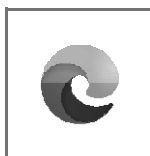
学内と学外（自宅等）のパソコンでは、次のようにブラウザの初期画面が異なります。

学内から利用の場合

学内からの利用は、次の教室や場所に設置のパソコンからの場合です。

- 情報処理教室や実習室
- 4号館4階カフェテリア室（自習室）、グループ学習室（7号館）
- 就職キャリアセンター（学生総合支援センター内）
- 図書館検索コーナー及びマルチメディアスペース
- 貸出用ノートパソコン（学内無線 LAN 接続時のみ可）

パソコンのデスクトップ上、もしくはタスクバー（画面下部）の「Microsoft Edge」を起動すると、パソコンの設置場所に応じたトップページ（学内用リンク集）が表示されます。



← Microsoft Edge のアイコン ※学内・学外共通

▼ 学生用トップページ

鹿児島国際大学
学生メニュー
鹿児島国際大学 学生用トップページ

大学イントラネット

学生情報システム LiveCampus U (LCU)	Microsoft 365 メール、Word、Excel 等 (SSO)	図書館	図書館OPAC 蔵書検索
Moodle3	Moodle4	WiFiデバイス登録システム	

動画マニュアル

LCU:ログイン_学生 ログイン方法_学生	LCU:履修登録 履修登録_1科目登録	LCU:履修登録 履修登録_複数科目登録	LCU:履修登録 履修登録_登録科目削除
--------------------------	------------------------	-------------------------	-------------------------

研究倫理・コンプライアンス研修（学内のみ視聴可）

2022年度動画

検索エンジン

Google	YAHOO! JAPAN	Bing
--------	--------------	------

表示されたトップページの「学生情報システム LiveCampus U (LCU)」のリンクをクリックします。

学外から利用の場合

自宅や公共施設等にあるパソコンから利用する場合は、大学公式ホームページのリンクから利用します。

鹿児島国際大学ホームページ <https://www.iuk.ac.jp/> へアクセス

リンク順：[在学生・保護者の皆さま]→[学生情報システム LiveCampus U (LCU)]

① 大学ホームページ



ホームページの右上部の[在学生・保護者の皆さま]のリンクをクリックします。

② 在学生・保護者の方へ



[学生情報システム LiveCampus U (LCU)] のリンクをクリックします。

(3) LCU のログイン画面

「(2) ブラウザの起動」の学内・学外の利用手順いずれからでも以下のログイン画面が表示されます。操作方法については、「(4) LCU へのログイン方法」で説明します。

▼ LCUログイン画面



(4) LCU へのログイン方法

1) LCU ログイン開始



LCUログイン画面の【ログイン】ボタンをクリックします。

2) ユーザー認証

- ① 学生は「ネットワーク利用書」のユーザーIDとパスワードを入力します。

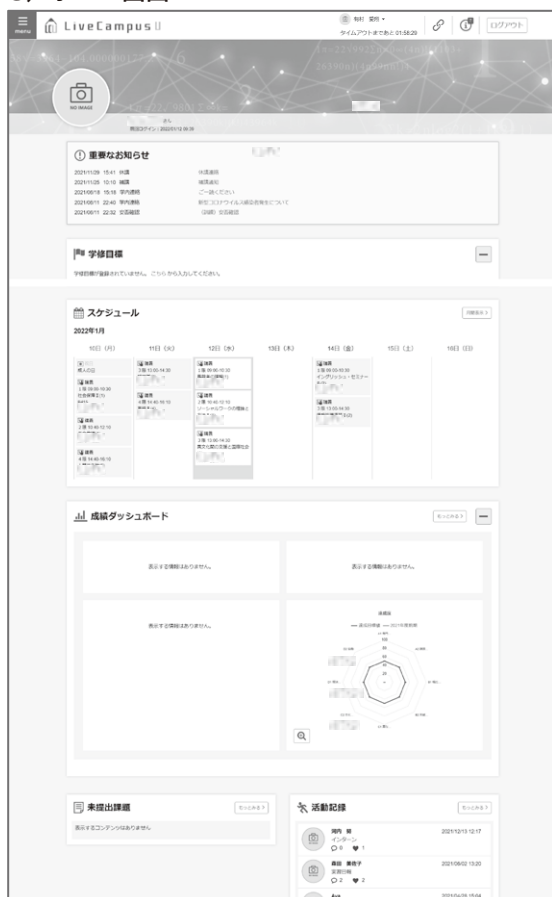
※アルファベットは、大文字小文字の区別に注意してください。

- ② 【Login】ボタンをクリックします。

2) で認証されるとホーム画面が表示されます。また、スマートフォンでは以下のように表示されます。

※画面の情報は、すべてサンプルです。本学で管理している個人情報ではありません。

3) ホーム画面



▼ スマートフォン画面サンプル



(5) ホーム画面の情報や機能

LCUのホーム画面の機能を①～⑫で紹介します。なお、詳細な操作方法については、別途、各機能ごとに説明します。

▼ ホーム画面サンプル

The screenshot shows the LiveCampus U home page. At the top, there's a navigation bar with a menu icon (1), the site name 'LiveCampus U', and a login/logout button. Below this is a banner area with various notices and deadlines (2). The main content area is divided into several sections: 'Important Notices' (3), 'Academic Goals' (4), 'Schedule' (5), 'Performance Dashboard' (6), 'Upcoming Assignments' (7), 'Lending Library/PC' (8), 'Search Board' (9), 'Activity Record' (10), 'Unsubmitted Assignments' (11), and 'Activity Record' (12). Each section has a 'もっとみる' (View More) button.

① システム利用中、常に画面の上部に表示されるメニューバーです。左端の [menu] からは、次のメニューに進むことができます。

- 連絡通知
- スケジュール・予約
- 履修登録
- 授業・課題（レポート等）
- 学修ポートフォリオ
- 就職
- マイ Info
- キャンパス Info

② 他のサイトへのリンク集
従来の学外メニューにありました「Moodle」などの各種システムのリンクが表示されます。

③ 連絡通知等の案内一覧が表示されます。

④ 時期に応じて、以下の確認すべき情報が表示され、バナーをクリックすると、関連する機能へアクセスできます。

- 成績発表の案内
- 履修登録期限の案内
- 未提出課題件数
- 学修成果提出期限
- 志望調査登録期限
- 新着求人情数

⑤ 個人設定で、設定した画像が表示されます。

⑥ 前回ログインした日時が表示されます。

⑤ 送信者が『重要なお知らせ』として設定した連絡通知が表示されます。

⑥ 学修目標が設定されている場合に表示されます。[もっとみる] クリックすると学修目標機能が表示されます。

⑦ 当週のスケジュールが表示されます。[もっとみる] クリックするとスケジュール機能が表示されます。

⑧ 学生個人の成績ダッシュボードが表示されます。[もっとみる] クリックすると詳細情報が表示されます。

⑨ 未提出の課題が表示されます。[もっとみる] クリックすると課題・アンケート一覧が表示されます。

⑩ 授業掲示板のコメント情報が表示されます。[もっとみる] クリックすると掲示板のスレッド一覧が表示されます。

⑪ 貸出中の図書とパソコンの情報が表示されます。

⑫ 活動記録の登録情報が表示されます。[もっとみる] クリックすると活動記録一覧が表示されます。

5 時間割表の見方

(1) ○○○○年度 時間割表 ○○学部 ○○学科

曜日		月曜日						火曜日
時限	学年	開講期	科目名	担当教員	教室	指定	ペア	
1 時限	1	前期	○○○○	○○○○○				
		前期	○○○○○○○○	○○○○○				
		後期	○○○○○	○○○○○				
		前期	○○○○○○○	○○○○○				
		後期	○○○○○○○	○○○○○				
		前期	○○○○○○○○	○○○○○				
		前期	○○○○ (○○○○入学者)	○○○○○				
	2		○○○○○○○					
			○○○○○○○○○					
			○○○○○○○					
2 時限	3							
	4							

(2) 他学部・他学科科目履修について

他学部・他学科の科目（演習・実習・事前登録を要する科目は除く）を履修する場合は、必ず、「卒業指定科目等登録願」を提出してください。

届出なしの科目登録はできません。また、「卒業指定科目等登録願」は提出した年度のみ有効です。

(3) 資格課程科目履修について

資格課程の科目を履修する場合は、必ず、資格課程履修費を納入してください。

納入なしの科目登録はできません。

(4) 時間割表の見方

学 年

……1年→1年生の配当を意味します。1年生は高年次（2, 3, 4年次配当）の科目を履修することはできませんが、高年次において低年次の科目を履修することはできます。（ただし、履修できない科目もあります。）

開 講 期

……前期→前期開講科目 後期→後期開講科目

通年科目の場合は、ペア欄に「通年」と表示されます。また、単位計算は、前期・後期に登録が分かれているので、単位を2等分して計算してください。

集中講義については、前期→夏季休業中 後期→春季休業中に行います。また、開講される期間が重複する場合、複数の科目を履修することができないことがあります。

科 目 名

……(○○○○入学者) →入学年度によっては、履修できない科目があります。

指 定

……数字は、組を示し当該年次に適用します。（例10→10組）

教職→教職課程 特支→特別支援学校教員養成課程

司書→司書課程 司教→司書教諭課程 介護→介護福祉士課程 学芸員→学芸員資格課程

日教→日本語教員養成課程 日特→日本語特別プログラム

指定以外の学年・組・学科は、履修できません。また、教職・資格課程科目は必要な手続きを行った人しか履修できません。

担当教員

……開講する科目の担当者です。

ペ ア

……欄に示されている場合は、その曜日・時限も必ず履修登録しなければなりません。単位計算は、授業が週2回に分かれているので、単位を2等分して計算してください。

コ ー ス

……各学科において、コース登録・変更ができる学年および時期が決まっています。各学科のカリキュラム表を参照して、登録・変更してください。

6 ナンバリングコード

ナンバリングコードは、学問分野の中で、その科目がどのような位置付けとなっているかを示す、学問分野中での住所のような役割を持っています。

鹿児島国際大学では、国際的な通用性も考慮した上で、「課程と開設学部学科・研究科等」を示す文字コード、「レベル、授業形態、学問分野」を示す6桁の数字コードで構成します。

(例) B_GEN103310 (学士課程, 共通教育: 経済学)

	大分類コード (文字コード)		レベルコード	授業形態コード	学問分野コード
	課程コード	開設学部学科・研究科等コード			
(例)	B	GEN	1	0	3310
詳細	表1	表2	表3	表4	表5

文字コードは、「課程コード」(表1)とアンダーバー以降の「開設学部学科・研究科等コード」(表2-1, 2-2)からなり、これら2つを合わせたものが「大分類コード」となります。また、6桁の数字は6桁目からそれぞれ、授業のレベルを示す「レベルコード」(表3)、授業の方法を示す「授業形態コード」(表4)、そして学問分野を示す「学問分野コード」(表5)としています。

学生の皆さんは、毎学期、卒業や免許資格取得に向かい、授業科目を順序良く履修していくことが必要になります。履修する科目全体のバランス(難易度)などを確認しながら、適切な履修計画を立てるための指針としてこの情報を活用してください。また、留学時や編入時など、他大学にて単位認定を受ける場合にも活用することが出来ます。

表1 (課程コード)

コード	課程
B	学士課程【Bachelor of Arts [BA] Program】
M	修士課程(博士前期課程)【Master of Arts [MA] Program】
D	博士課程(博士後期課程)【Doctor of Philosophy [PhD] Program】

表2-1 (開設学部学科・研究科等コード)

コード	学部学科・研究科等
GEN	共通教育
ECO	経済学部経済学科・経済学研究科
BUS	経済学部経営学科
WEL	福祉社会学部社会福祉学科・福祉社会学研究科
CHL	福祉社会学部児童学科
INT	国際文化学部国際文化学科・国際文化研究科
MUS	国際文化学部音楽学科
NUR	看護学部看護学科

表2-2 (開設学部学科・研究科等コード)

コード	免許資格課程
TEA	教職課程【Teacher Training Program】
SNE	特別支援学校教員養成課程【Special Needs Education School Teacher Training Program】
LIB	司書課程【Librarian Program】
TLI	司書教諭課程【Teacher Librarian Program】
SOW	社会福祉士国家試験受験資格【Social Worker Program】
PSW	精神保健福祉士国家試験受験資格【Psychiatric Social Worker Program】

CAW	介護福祉士養成課程【Care Worker Program】
CHC	保育士養成課程【Child Care Certificate Program】
CUR	学芸員資格課程【Curator Program】
JLT	日本語教員養成課程【Japanese Language Teacher Training Program】
JSL	日本語特別プログラム【Japanese as a Second Language Program】
GEP	グローバル英語プログラム【Global English Program】
UEP	学部横断プログラム【University-wide Education Program】

表3（レベルコード）

コード	レベル	学部科目
0	大学入学前に修得すべき内容を扱う科目	
1	基礎科目	
2	発展科目	
3	応用科目	
4	卒業論文・卒業研究関連科目	大学院科目
5	大学院（修士・博士前期）基礎科目	
6	大学院（修士・博士前期）発展科目（研究指導科目を含む）、 大学院（博士後期）基礎科目	
7	大学院（博士後期）発展科目（研究指導科目を含む）	
8		
9	その他（レベル分けが出来ない科目など）	

表4（授業形態コード）

コード	授業形態
0	講義
1	演習（新入生ゼミナール，専門演習，論文・研究指導，ワークショップ，対話・討論型授業）
2	実技（外国語基礎，体育実技，音楽レッスン）
3	実習，調査，研修
4	
5	
6	
7	
8	
9	その他

学問分野コード

学問分野コードは、当該科目の学問分野を示すコードで、本学の附属図書館を含め全国の図書館で採用されている図書の分類システムである「日本十進分類法（新訂10版）」の小数点第1位までの4桁を準用しています。

日本十進分類法を準用することにより、同一科目の「学問分野コード」は全学統一した基準の基で当該科目が体系化されたカリキュラムのどのような位置付けにあるかを示すと同時に図書館で参考文献等を探す際に、このコードを手がかりとして活用することができます。

表5 (学問分野コード)

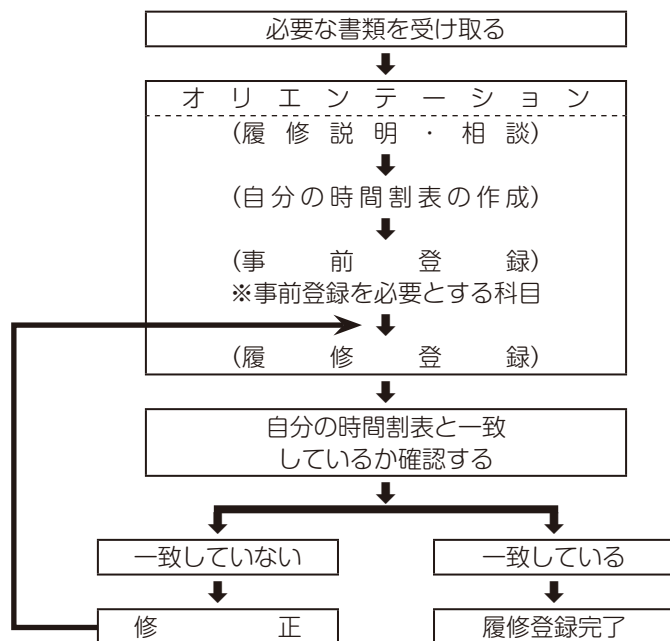
第 1 次区分		第 2 次区分		第 3 次区分		学問分野コード	分目名		
0	総記	00	総記	000	総記	0000	分類なし		
				002	知識、学問、学術	0027	研究法、調査法		
				007	情報学、情報科学	0070	情報学、情報科学		
						0071	情報理論、映像（情報学）		
						0073	情報と社会、情報政策、情報倫理		
						0076	データ処理、情報処理、コンピュータシステム、システム分析		
						0078	情報工学		
						0079	情報通信、データ通信、コンピュータネットワーク		
				01	図書館、図書館情報学	010	図書館、図書館情報学	0107	司書課程
		017	学校図書館			0170	学校図書館		
		06	団体、博物館	069	博物館	0690	博物館		
0695	博物館資料の展示								
1	哲学	10	哲学	100	哲学	1000	哲学（概論）		
		11	哲学各論	110	哲学各論	1100	哲学各論		
				14	心理学	140	心理学	1401	心理学理論
		141	普通心理学、心理各論	1417		行動、衝動			
		143	発達心理学	1430		発達心理学			
		146	臨床心理学、精神分析学	1460		臨床心理学			
				1468		芸術療法、音楽療法			
		15	倫理学、道徳	150	倫理学、道徳	1500	倫理学、道徳		
		16	宗教	160	宗教	1600	宗教		
2	歴史	20	歴史、世界史、文化史	200	歴史	2000	歴史		
				202	歴史補助学	2025	考古学		
				209	世界史、文化史	2090	人類の歴史、世界史、文化史		
		21	日本史	210	日本史	2100	日本史、日本学		
						2101	通史		
				219	九州地方	2197	鹿児島県の歴史		
		22	アジア史、東洋史	220	アジア史、東洋史	2200	アジア史、東洋史		
				221	朝鮮	2210	朝鮮史		
				222	中国	2220	中国史		
		23	ヨーロッパ史、西洋史	230	ヨーロッパ史、西洋史	2300	ヨーロッパ史、西洋史		
		29	地理、地誌、紀行	290	地理、地誌、紀行	2901	地理学、人文地理学、地誌学（8 歴史地理学）		
		3	社会科学	30	社会科学	300	社会科学	3000	社会科学
				31	政治	311	政治学、政治思想	3110	政治学
						319	外交、国際問題	3190	国際関係、外交、国際問題
				32	法律	321	法学	3210	法学
323	憲法					3230	憲法		
						3231	日本国憲法		
						3239	行政法		
324	民法、民事法					3240	民法、民事法、民法理論、民法学、私法学		
						3246	5 後見、保佐、成年後見制度		
325	商法、商事法					3250	商法、商事法		
						3252	会社法		
328	諸法			3286	労働法				
				3287	諸法、社会・厚生法				
33	経済			331	経済学、経済思想	3310	経済学、経済思想		
		3311	経済数学、経済統計、計量経済学						
		3312	経済学説史、経済思想史						
		3318	経済各論（2 資本の理論、産業資本経済学）、（4 交換の理論、流通、価値、価格）						
		332	経済史・事情、経済体制	3320	経済史・事情、経済体制				
				3321	日本経済史・事情				
				3329	経済地理、地域経済				
		333	経済政策、国際経済	3330	経済政策、国際経済、経済法				
				3331	経済政策・理論				
				3335	国土計画、地域計画、総合開発				
				3336	国際経済				
		335	企業、経営	3350	企業、経営				
				3351	経営学、経営経済学、経営者、企業者論				
				3352	経営史・事情				
				3353	起業構造、産業組織、企業形態、中小企業				
				3354	外国会社				
				3358	NPO				
336	経営管理	3360	経営管理						
		3361	経営政策、経営計画、経営情報、経営数学、経営統計						
		3363	経営組織、管理組織						
		3364	人事管理、労務管理、人間関係、ビジネスマナー						
		3367	営業管理、商業経営、商店、マーケティング						

4	自然科学	34	財政	338	金融、銀行、信託	3368	財務管理、経営財務、経営比較、経営分析
						3369	財務会計、企業会計、会計学、国際会計、簿記
						3380	金融理論・学説、信用理論・学説、金融工学
						3381	金融市場、資金、(5 証券市場、株式市場、有価証券、預金市場)
						3389	国際金融
				339	保険	3391	保険理論、保険数学、アクチュアリー
				341	財政学、財政思想	3410	財政学、財政思想、公共経済
				345	租税	3451	税法
		36	社会	361	社会学	3610	社会学
						3614	社会心理学、コミュニケーション、コミュニケーション理論
						3615	文化、文化社会学、文化変容、社会進歩、社会解体
						3616	3 家族社会学、血縁集団、家族
						3617	地域社会
						3640	社会保障
				364	社会保障	3640	社会保障
				366	労働経済、労働問題	3662	9 職業、職種、職業紹介
				368	社会病理	3680	社会病理
				369	社会福祉	3690	社会福祉、介護福祉、福祉
						3691	福祉政策、行財政、社会福祉事業、福祉従事者
						3692	公的扶助、生活保護、救貧制度、(6 老人福祉、高齢者福祉)、(7 障害者福祉)、(8 精神障害者福祉)
						3694	児童福祉、(3 社会的養護)
						3697	地域福祉、セツルメント、ボランティア、(5 司法福祉、更生保護)
						3699	医療社会福祉
		37	教育	371	教育学、教育思想	3711	教育哲学
						3713	教育社会学
						3714	教育心理学
				373	教育政策、教育制度、教育行財政	3730	教育政策、教育制度、教育行財政
				375	教育課程、学習指導、教科別教育	3750	教育課程、学習指導、教科別教育
						3752	生活指導、生徒指導、(3 教育相談、個別指導)、(5 進路指導、職業指導)
				376	幼児・初等・中等教育	3761	幼児教育、保育、就学前教育、幼稚園、保育園、(1 理論、方法、幼児心理)、(2 幼児教育史、事情)、(53 人間関係、社会)、(56 表現)
				378	障害児教育、特別支援教育	3780	障害児教育、特別支援教育
						3786	知的障害児
						3788	発達障害児
				379	社会教育	3790	社会教育、生涯学習
		38	風俗習慣、民俗学、民族学	389	民族学、文化人類学	3890	民族学、文化人類学
	自然科学	41	数学	410	数学	4100	数学
				417	確率論、数理統計学	4170	確率論、数理統計学
		44	天文学、宇宙科学	448	地球、天文地理学	4480	地球、天文地理学
		45	地球科学、地学	450	地球科学、地学	4500	自然地理学、地球科学、地学
		46	生物科学、一般生物学	460	生物科学、一般生物学	4600	生物科学、一般生物学
				461	理論生物学、生命論	4610	理論生物学、生命論
				468	生態学	4680	生態学（生物と環境との関係）
		48	動物学	481	一般動物学	4817	動物生態学
		49	医学、薬学	490	医学	4900	医学
				491	基礎医学	4911	解剖学
						4914	生化学
						4915	薬理学〔薬物学〕
						4916	病理学
						4917	細菌学、病理微生物学
				492	臨床医学、診断・治療	4921	診断学、臨床検査法
						4929	看護学、各科看護法、看護師試験
				493	内科学	4930	内科学
						4937	精神医学
				494	外科学	4947	リハビリテーション
				498	衛生学、公衆衛生、予防医学	4980	衛生学、公衆衛生、予防医学
						4981	衛生行政、厚生行政
5	技術	51	建設工学、土木工学	519	環境工学、公害	5190	環境工学、公害、環境経済学
		59	家政学、生活科学	590	家政学、生活科学	5900	家政学、生活科学
				596	食品、料理	5961	食品栄養
				599	育児	5990	育児
		60	産業	602	産業史・事情、物産誌	6020	産業史・事情、物産、地場産業
6	産業	60	産業	607	研究法、指導法、産業教育	6070	研究法、指導法、産業教育
				611	農業経済・行政・経営	6110	農業経済・行政・経営
		61	農業	611	農業経済・行政・経営	6113	食糧問題、食糧経済
						6701	商業概論、商学
						6710	商業政策・行政
		67	商業	670	商業	6701	商業概論、商学
				671	商業政策・行政	6710	商業政策・行政

				678	貿易	6780	貿易, 貿易理論, 思想, 国際価値論
		68	運輸, 交通, 観光事業	689	観光事業	6890	観光事業
						6891	観光政策, 行政, 法令
						6896	旅行斡旋業, 添乗員, ガイド
7	芸術	72	絵画, 書, 書道	728	書, 書道	7280	書, 書道
		76	音楽, 舞踊, バレエ	760	音楽	7607	研究法, 指導法, 音楽教育
				761	音楽の一般理論, 音楽学	7610	音楽の一般理論, 音楽学
						7615	和声学, ハーモニー
						7616	対位法
						7617	楽式
						7618	作曲法
						7619	演奏, 指揮, 伴奏
				762	音楽史, 各国の音楽	7620	音楽史, 民俗音楽
				763	楽器, 器楽	7630	器楽
						7632	鍵盤楽器
				764	器楽合奏	7640	器楽合奏
						7642	室内楽, 重奏
						7646	吹奏楽
				766	劇音楽	7661	オペラ
				767	声楽	7671	声楽, 発声法, 歌唱法
						7674	合唱, 重唱
				768	邦楽	7680	邦楽
		77	演劇, 映画, 大衆芸能	771	劇場, 演出, 演技	7710	劇場, 演出, 演技
				772	演劇史, 各国の演劇	7720	演劇史, 各国の演劇
		78	スポーツ, 体育	780	スポーツ, 体育	7800	スポーツ, 体育
						7801	体育理論, 体育学
8	言語	80	言語	801	言語学	8010	言語学
						8019	手話・点字
		81	日本語	810	日本語	8100	日本語
						8101	日本語理論, 国語学
						8102	国語史
						8107	日本語教育
				811	音声, 音韻, 文字	8111	日本語音声, 音韻, 文字
				816	文章, 文体, 作文	8160	日本語文章, 文体, 作文
				817	読本, 解釈, 会話	8170	日本語読本, 解釈, 会話
		82	中国語, その他の東洋の諸言語	820	中国語	8200	中国語
				821	音声, 音韻, 文字	8210	音声, 音韻, 文字
				827	読本, 解釈, 会話	8278	中国語会話
				829	その他の東洋の諸言語	8291	朝鮮語, 韓国語
		83	英語	830	英語	8300	英語
						8301	理論, 英語学, 英語学史
				831	音声, 音韻, 文字	8310	音声, 音韻, 文字
						8311	音声, 発音, 音韻
				834	語彙	8340	英語 語彙
				835	文法, 語法	8350	文法, 語法
				836	文章, 文体, 作文	8360	文章, 文体, 作文
		837	読本, 解釈, 会話	8374	和文英訳		
				8375	英文解釈, 英文和訳		
				8377	英語読本		
				8378	英会話		
84	ドイツ語, その他のゲルマン諸語	840	ドイツ語	8400	ドイツ語		
85	フランス語, プロバンス語	850	フランス語	8500	フランス語		
86	スペイン語, ポルトガル語	860	スペイン語	8600	スペイン語		
87	イタリア語, その他のロマンス諸語	870	イタリア語	8700	イタリア語		
9	文学	90	文学	900	文学	9000	文学
				909	児童文学研究	9090	児童文学研究
		91	日本文学	910	日本文学	9100	日本文学
				919	漢詩文, 日本漢文学	9190	漢詩文, 日本漢文学
		92	中国文学, その他の東洋文学	920	中国文学	9200	中国文学
				929	その他の東洋文学	9291	韓国文学
		93	英米文学	930	英米文学	9300	英米文学

7 履修登録

科目の選択から登録まで



履修登録は前期の登録時に一年分（前・後期分）行います。履修登録しない学生は授業及び試験は受けられません。

履修登録は、学生情報システム（LCU）を利用して登録します。詳しい履修登録方法については、学生情報システム（LCU）の「学内共有ファイル」にある、操作説明（動画）を参照してください。

注意！ 指定された期間でのみ履修修正及び取消しを行うことができます。

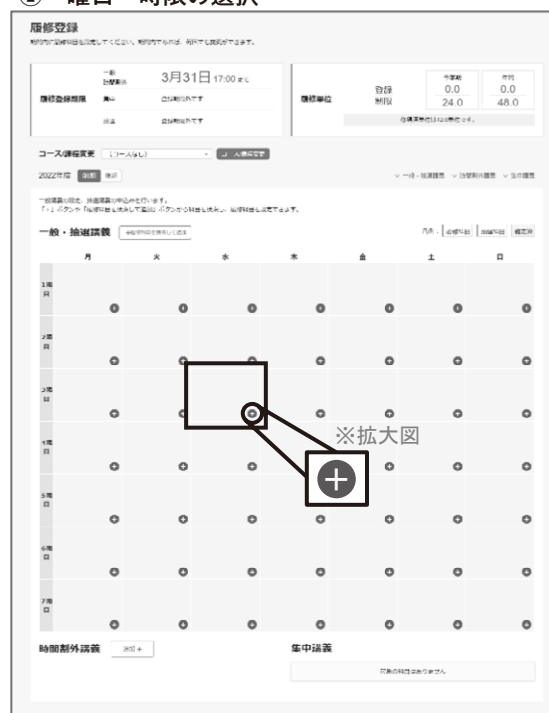
(1) 履修科目の登録

① 履修登録メニューの選択



左上の [menu] をクリックし、メニュー一覧から [履修登録] をクリックします。

② 曜日・時限の選択



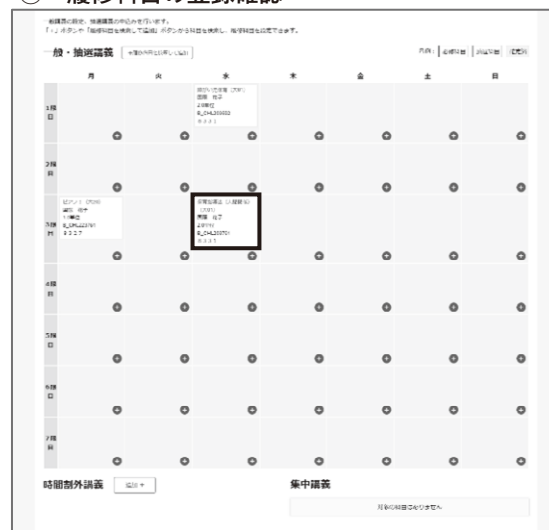
履修科目の登録は、履修登録画面で曜日・時限の [+(プラス)] ボタンをクリックします。

③ 履修科目の選択画面



登録する科目行の左端にあるチェックボックスをクリックし、『☑』に表示が変わったことを確認して [登録] ボタンをクリックします。

④ 履修科目の登録確認



「② 曜日・時限の選択」画面に戻りますので、登録した科目を確認します。

⑤ 別の曜日・時限に登録する場合

続けて、別の曜日・時限に履修科目を登録する場合は、②～④を繰り返して操作します。

(2) 履修科目の削除

① 削除する履修科目の選択

登録した履修科目をクリックします。

② 履修科目の登録確認

登録した履修科目の詳細画面が表示されますので、確認して「削除」ボタンをクリックします。

③ 複数の履修科目を削除する場合

続けて、履修科目を削除する場合は、①～②を繰り返して操作します。

(3) 個人時間割表の印刷

① 個人時間割出力

履修登録画面の下部の「個人時間割出力」ボタンをクリックします。

② ブラウザの出力操作

「開く」または「名前を付けて…」ボタンをクリックします。

※「開く」ボタン
ブラウザや PDF 閲覧ソフトを起動して印刷のみ行いたい場合

※「名前を付けて…」ボタン
パソコンなどにダウンロード（保存）してから、ブラウザや PDF 閲覧ソフトで印刷を行いたい場合

③ 個人時間割の表示

個人時間割が記載された「履修登録確認票」が表示されます。

④ 個人時間割の印刷

▼ブラウザ (Microsoft Edge) の場合

ブラウザでは、右上の「印刷」ボタンで印刷します。

▼Acrobat Reader (PDF閲覧ソフト) の場合

Acrobat Reader では、左上の「印刷」ボタンで印刷します。

履修登録票の記入例

(国際文化学部音楽学科以外)

※多く見られるミスの例
・前期と後期の間違い
・制限単位オーバー
・二重登録

※再度のチェックを!!

履 修 登 録 票

〇〇〇〇年度

鹿児島国際大学

学籍番号							提出日	〇〇〇〇年	月	日
年度入学	学部		学科		年	組	番			
フリガナ						現住所				
氏名						〒				
生年月日	昭和・平成	年	月	日生	区()	-	携帯()	-		

		時間割表					
		月	火	水	木	金	土
		科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
		担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)
1時限	前期 通年	科目名 担当者名 単位数 ()	科目名 担当者名 単位数 ()	科目名 担当者名 単位数 ()	科目名 担当者名 単位数 ()	科目名 担当者名 単位数 ()	科目名 担当者名 単位数 ()
2時限	前期 通年						
3時限	前期 通年						
4時限	前期 通年						
5時限	前期 通年						
集中講義等							
登録する単位数		卒業に必要な単位数	その他の単位数	合計	コース名 ()		

※時間割表を参照して記入してください。
担当者名を記入する。()は単位数

今年度、登録する卒業に必要な単位数を前期、後期それぞれ記入してください。
※制限単位に注意

他学部・他学科、資格課程科目のうち、卒業に必要な単位数以外の単位数を前期、後期それぞれ記入してください。

コース名は時間割表を参照して記入してください。

		時間割表					
		月	火	水	木	金	土
		科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
		担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)
1時限	後期	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
		担当者名 単位数 ()	担当者名 単位数 ()	担当者名 単位数 ()	担当者名 単位数 ()	担当者名 単位数 ()	担当者名 単位数 ()
2時限	後期						
		()	()	()	()	()	()
3時限	後期						
		()	()	()	()	()	
4時限	後期						
		()	()	()	()	()	
5時限	後期						
		()	()		()	()	
集中講義等							
		()	()	()	()	()	
登録する単位数		卒業に必要な単位数	その他の単位数	合計	コース名 ()		

※時間割表を参照して記入してください。
 担当者名を記入する。()は単位数

今年度、登録する卒業に必要な単位数を前期、後期それぞれ記入してください。
 ※制限単位に注意

他学部・他学科、資格課程科目のうち、卒業に必要な単位数以外の単位数を前期、後期それぞれ記入してください。

コース名は時間割表を参照して記入してください。

※多く見られるミスの例
 ・前期と後期の間違い
 ・制限単位オーバー
 ・二重登録

※再度のチェックを!!

(国際文化学部 音楽学科)

履 修 登 録 票

鹿児島国際大学

〇〇〇〇年度

提出日 〇〇〇〇年 月 日

学籍番号						
年度入学	学科	年	組	番		
フリガナ				現住所		
氏名				〒		
生年月日	昭和・平成	年	月	日生	TEL()	携帯()

		時間割表					
		月	火	水	木	金	土
		科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
1時限	前期	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)
	通年	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
2時限	前期	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)
	通年	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
3時限	前期	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)
	通年	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
4時限	前期	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)
	通年	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
5時限	前期	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)
	通年	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
集中 その他		担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)
		科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
		担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)
		科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
		担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)
※自分のコース・課程に○をし、楽器名(※主科の楽器名は管弦打楽器のみ)及び担当者名を記入すること。							
主科	コース・課程		楽器	担当者	副科	楽器	担当者
	声乐コース						
	ピアノ課程	ピアノ演奏家課程					
	管弦打楽器課程	管弦打楽器演奏家課程					

※時間割表を参照して記入してください。
 担当者名を記入する。()は単位数

※レッスン科目の「Web 履修登録」は、「時間割外講義」欄に登録して下さい。
 但し、「履修登録票」への記入は通常レッスンを行う時限に記入して下さい。

時間割表							
		月	火	水	木	金	土
		科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
		担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)	担当者名(単位数)
1時限	後期	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
		担当者名 単位数 ()	担当者名 単位数 ()	担当者名 単位数 ()	担当者名 単位数 ()	担当者名 単位数 ()	担当者名 単位数 ()
2時限	後期						
		()	()	()	()	()	()
3時限	後期						
		()	()	()	()	()	
4時限	後期						
		()	()	()	()	()	
5時限	後期						
		()	()		()	()	
集中 その他							
	()	()	()	()	()	()	
	()	()	()	()	()	()	
	()	()	()	()	()	()	
※自分のコース・課程に○をし、楽器名(※主科の楽器名は管弦打楽器のみ)及び担当者名を記入すること。							
	コース・課程		楽器	担当者		楽器	担当者
主科	声乐コース				副科		
	ピアノ課程	ピアノ演奏家課程			副科		
	管弦打楽器課程	管弦打楽器演奏家課程			副科		

※時間割表を参照して記入してください。
 担当者名を記入する。()は単位数

※レッスン科目の「Web 履修登録」は、「時間割外講義」欄に登録して下さい。
 但し、「履修登録票」への記入は通常レッスンを行う時限に記入して下さい。

8 スポーツ実習の履修

(1) 履修についての留意事項

① 単 位

「スポーツ実習」は、半期で1単位です。各学科によって、履修方法、卒業要件等が異なりますので、履修規程を熟読しておいてください。

② 履修方法

「スポーツ実習」は、下表に示す「スポーツ実習Ⅰ～Ⅴ」の中から、前期あるいは後期に1科目を事前登録で選択します。しかし、制限人数以内の授業に限り、前期、後期ともに登録することができます。

なお、「スポーツ実習Ⅰ～Ⅴ」は、授業科目名を表しますので、同一授業科目名の実施種目を複数履修することはできません。

授業科目と種目の対応関係

授業科目名	実 施 種 目
スポーツ実習Ⅰ	バスケットボール、バレーボール (屋内集団球技種目)
スポーツ実習Ⅱ	バドミントン、卓球 (屋内個人球技種目)
スポーツ実習Ⅲ	健康コース、ニュースポーツ、ストレングストレーニング&コンディショニング、陸上競技、アウトドアスポーツ (個人種目)
スポーツ実習Ⅳ	テニス (屋外個人球技種目)
スポーツ実習Ⅴ	サッカー、ソフトボール (屋外集団球技種目)

③ 健康コース

健康コース（スポーツ実習Ⅲ）は、病気や怪我およびその後遺症等の事由により、他種目の履修に支障がある学生を主な対象とします。具体的な実施内容は、履修学生の状況に応じて決定します。

④ 健康診断

「スポーツ実習」を履修する学生は、本学で実施される健康診断を必ず受診し、事前に自己の健康状態を把握しておいてください。また、授業に不都合が生じるような場合には届け出てください。

⑤ 服 装

服装は、「スポーツ実習」を行うにふさわしいものを着用してください。特に、テニスを受講する学生は、テニスシューズを着用してください。

⑥ 更 衣

男子はフィールドハウスの更衣室、女子は学友会機関棟1階の女子更衣室を利用してください。

⑦ 集合・解散

集合場所や連絡等、授業運営については担当教員の指示に従い、迅速に行ってください。
第1回目の授業は、すべてフィールドハウスに集合してください。

⑧ その他

履修等に関して不明な点は、担当教員または教務課に申し出てください。

(2) 事前登録について

【事前登録】

「スポーツ実習」も講義科目同様、新入生オリエンテーション期間中に事前登録を行います。事前登録しない場合は、受講できないこともありますので注意してください。

なお、2年生以上についても、在学生オリエンテーション期間中の「事前登録」で登録を行ってください。日時の詳細は、オリエンテーション日程表で確認してください。

(3) 「スポーツ実習」の開設時間と担当者

授業時間		担当者	前 期	後 期
月曜日	3限	吉本	スポーツ実習Ⅲ（アウトドアスポーツ）	スポーツ実習Ⅰ（バスケットボール）
	4限	吉本	スポーツ実習Ⅲ（陸上競技）	スポーツ実習Ⅰ（バレーボール）
火曜日	2限	加藤	スポーツ実習Ⅲ（健康コース）	
	3限	加藤	スポーツ実習Ⅰ（バレーボール）	
	4限	吉本	スポーツ実習Ⅲ（ストレングストレーニング & コンディショニング）	
水曜日	3限	福満	スポーツ実習Ⅴ（ソフトボール）	スポーツ実習Ⅲ（ニュースポーツ）
	4限	福満	スポーツ実習Ⅱ（バドミントン）	スポーツ実習Ⅱ（バドミントン）
木曜日	3限	加藤	スポーツ実習Ⅱ（バドミントン）	スポーツ実習Ⅱ（バドミントン）
	4限	加藤		スポーツ実習Ⅴ（サッカー）

9 ボランティア活動（共通教育科目）の受講について

「ボランティア活動（共通教育科目）」は、学生がボランティア活動に参加し、地域社会に貢献することをおし、実践的な学習ができるように支援することを目的としています。なお、単位認定に必要な履修登録及び書類等の提出を行った学生に対して評価を行い、単位を修得することができます。

(1) ボランティア活動実施の時期及び期間

- ・単位認定の対象となるボランティア活動は、本学に入学後に実施したものに限る。
- ・各年度の単位認定の対象となるボランティア活動は、前年度の1月から3月及び当該年度の4月から12月の期間に実施した活動とする。
- ・各年度の単位認定のために必要なボランティア活動の時間数は、合計60時間以上とする。

(2) 履修登録の手続き

- (1) 単位認定を希望する学生は、学生ボランティア支援センター（学生課）で必要書類を受け取り、合計60時間以上の活動実績をあげた時点で、学生ボランティア支援センターに①「ボランティア活動の単位認定申請書」（別記様式第1号）、②「ボランティア活動証明書」（別記様式第2号）、③「ボランティア活動レポート」（2000字以上：書式自由）を各年度後期の授業最終日までに提出してください。
- (2) 上記①②③を提出した後、教務課へ「ボランティア活動」（後期集中）の「履修登録」を申し出てください。
- (3) 「ボランティア活動」の履修登録は、履修制限単位数に含まれます。※看護学部は除く
よって、履修登録を申し出た際に、履修制限単位数を超過する場合は、すでに履修登録を行っている2単位を削除もしくは「ボランティア活動」の履修登録は行えません。

※「ボランティア活動」の単位認定の詳細については、①学生便覧（ボランティア活動の単位認定実施要項）、②シラバスを参照してください。

10 「学部横断プログラム」の受講について

本プログラムは、学部横断の学修を促進するため、5つのプログラムを設置しています。修了要件を満たした場合には修了証が交付されます。興味のあるプログラムを積極的に履修してみましょう。詳しくは268ページを参照してください。

データサイエンス・AI プログラム

データサイエンス・AI への関心を高め、それらを適切に理解し、活用する基礎的な能力を育成することを目的として、数理・データサイエンス・AI に関する知識と技術を総合的に修得します。

公共経済プログラム

経済学の専門知識に基づいて、憲法、福祉行財政、地方財政など公共政策に関わる諸問題について正しく理解、説明、かつ評価できるとともに、必要な改革のデザインと執行を担う人材育成を目指します。

金融経済プログラム

金融機関での実務に精通した人材の育成を目指し、金融ビジネスの現場で求められる経済学の基礎知識から、金融実務に関する知識まで総合的に修得します。

鹿児島プログラム

鹿児島の歴史、経済、文化、福祉及び財政などを広く学び、鹿児島の魅力を発信できる人材育成を目指します。また、就職試験等でよく問われる地元の歴史・文化について総合的に修得します。

メンタルヘルスプログラム

ストレスの多い現代社会で暮らすためには、身体の健康だけでなく心の健康（メンタルヘルス）を保つことも極めて重要であることから、心の健康について幅広く学びます。

11 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の受講について

国の施策である「AI戦略2019」では、2025年までに「文理を問わず、全ての大学・高専生が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得」することを目標に掲げています。

「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」は、高度情報化社会（Society 5.0）において学生一人ひとりが今後求められるリテラシー（いわゆる「読み・書き・そろばん」的な素養）である情報スキル、数理・データサイエンス・AIに関するスキルを修得することを目的とします。

大学では、この教育プログラムの「データサイエンス・AI入門」を前述のリテラシーを育成するための導入および基礎として位置づけています。データサイエンス・AIを活用し、適切なアルゴリズムを用いて科学的手法に基づいたデータ分析を行うことで、論理的な分析・課題解決ができるスキルが身につきます。そのことが、地域社会で求められている高度デジタル人材の1歩へとつながりますので、ぜひ履修・修得してください。

数理・データサイエンス・AIと各専門分野の関係：

- 経済・経営の分野では、AIを利用することで、業務の改善や高付加価値の製品開発、ビジネスモデル開発につながっています。このことが、グローバル化にもつながっています。
- 福祉および看護の分野では、複雑化する事務処理やビッグデータの分析・管理などについてデータサイエンス・AIの活用、介護ロボット等の導入が進められています。
- 教育の分野では、GIGAスクール構想に伴う「教育の情報化」が進められており、データサイエンスおよびAIの利活用が進められています。
- 芸術の分野では、クリエイティブな領域において「アイデア」・「素材」・「評価」などに数理・データサイエンス・AIが活用されはじめています。

（表1）

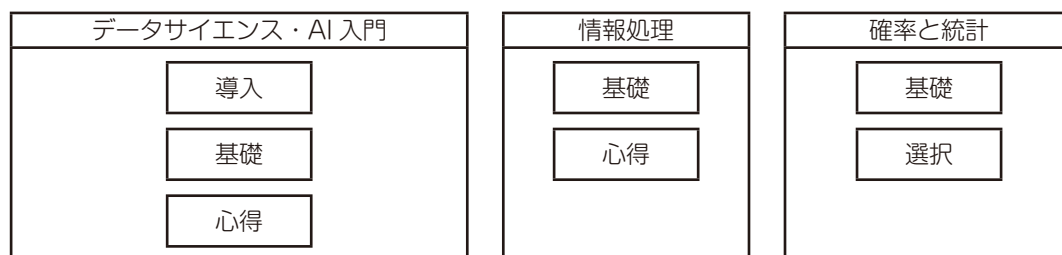
○経済学科・経営学科・国際文化学科・音楽学科・看護学科

科 目		年次	単位	修了単位数
履修指定科目	データサイエンス・AI入門	1	2	4単位
	情報処理	1	2	
選 択 科 目	確率と統計	1	2	

○社会福祉学科・児童学科

科 目		年次	単位	修了単位数
履修指定科目	情報処理	1	2	4単位
選 択 科 目	データサイエンス・AI入門	1	2	
	確率と統計	1	2	

・「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」のカリキュラムイメージ



導入	社会におけるデータ AI 利活用 ・ 社会で起きている変化 ・ 社会で活用されているデータ ・ データ AI の活用領域 ・ データ AI 利活用のための技術 ・ データ AI 利活用の現場 ・ データ AI 利活用の最新動向
基礎	データリテラシー ・ データを読む ・ データを説明する ・ データを扱う
心得	データ AI 利活用における留意事項 ・ データ AI を扱う上での留意事項 ・ データを守る上での留意事項
選択	・ 統計および数理基礎（確率）

12 「地域人材育成プログラム」「グローバル英語プログラム」の受講について

「地域人材育成プログラム」及び「グローバル英語プログラム」は、本学が平成27年度から5年間にわたり、文部科学省から「地（知）の拠点（COC）」大学として認定をうけ取り組んできた事業「フィールドワークをベースにした地域が求める人材育成プログラム」を継承したプログラムです。

I 地域人材育成プログラム

「地域人材育成プログラム」は、地域に貢献できる人材を育成するために実施している教育プログラムです。地域の課題解決力を身につけ、地方創生の中心となって活躍する人材の育成を目的としています。

（表1）にある16単位以上を修得した学生に対し卒業時に「地域人材育成プログラム修了証」を申請に基づいて授与します。また、3年次前期終了までに所定の単位を修得した学生に対し、「地域人材育成プログラム修了見込証明書」を発行し、地元での就職活動に活用できるようにします。各学科別の履修方法については、各学科のページを参照してください。

（表1）

経済学部・福祉社会学部・国際文化学部国際文化学科

	地域人材育成プログラム	単位数	修了単位数
(1)	「地域志向」科目	2単位	16 単位
(2)	「キャリアデザイン」科目	2単位	
(3)	地域人材育成科目	8単位	
(4)	地域フィールド演習	4単位	

国際文化学部音楽学科

	地域人材育成プログラム	単位数	修了単位数
(1)	「地域志向」科目	2単位	16 単位
(2)	「キャリアデザイン」科目	2単位	
(3)	地域人材育成科目	4単位	
(4)	地域フィールド演習	8単位	

(1) 「地域志向」科目

地域への理解を深め地元へ愛着を持つことを目指します。

(2) 「キャリアデザイン」科目

学生のキャリア形成を支援する科目で、コミュニケーション能力と教養力の向上を目指します。

(3) 地域人材育成科目

地域に関係する専門科目です。地域の課題に専門的に取り組み、課題を解決する能力を身につけることを目指します。

(4) 地域フィールド演習

地域でのフィールドワークを取り入れた演習です。ゼミナールで地域課題に取り組み、解決策を提案することを目指します。

Ⅱ グローバル英語プログラム

「グローバル英語プログラム」は、英語を使った地域と世界とのビジネスを通して地域に貢献できる人材の育成を目的としています。

（表２）から16単位以上修得した学生を「グローバル英語プログラム修了」と認定し、修了証を授与します。この修了証は、地元での就職活動に活用できます。詳しくは267ページを参照してください。

（表２）

グローバル英語プログラム	単位	修了単位数
地域から世界へ	2	合計 16 単位 以上
海外インターンシップ	3	
英語オーラル・コミュニケーションⅠ	1	
英語オーラル・コミュニケーションⅡ	1	
英語リーディング	1	
英語ライティング	1	
Global Economy and Business	2	
英語海外研修	2	
英文読解の技法	2	
TOEIC・TOEFL 対策	2	
コミュニケーションのための英文法	2	
外書講読Ⅰ	2	
外書講読Ⅱ	2	
英語	2	
英語中級オーラル・スキルズⅠ	2	
英語中級オーラル・スキルズⅡ	2	
英語中級リーディング・スキルズ	2	
英語上級リーディング・スキルズ	2	

13 グローカル教養教育

鹿児島はひとつのキャンパス

—地域のリーダー養成のための大学連携と総合教育の構築—

【概要】

本取り組みは、平成20年度から平成22年度までの3年間文部科学省「戦略的大学連携事業」として国から補助金を得て鹿児島のすべての大学等が連携し、事業を推進してきました。平成23年度からは、その成果を基に一部の事業を「大学地域コンソーシアム鹿児島」に移管し、「グローバル教養教育」を維持発展させます。

以下、取り組み概要について説明します。

本取り組みでは、鹿児島のすべての大学等が連携し、放送大学や関係自治体等の協力を得て、鹿児島を「ひとつのキャンパス」と捉え、「グローバル」な発想に立って、学生の「生きる力」を醸成し、地域貢献に情熱を持つ地域のリーダー養成のための「知の拠点」の創出を目指します。

はじめに

現代の若者に「生きる力」が劣ってきたと言われています。卒業しても人生が定まらないケースが間々見られ、社会的負担が増大しています。一方、鹿児島では、若者の中央志向に歯止めがかからず、過疎化と経済低迷の課題を抱えています。

学生の「生きる力」の低下は、大衆迎合型の体質がグローバル化の波によって加速されたことによる、学生の自律の遅延であると分析することができます。このような視点で考えると、解決策が明瞭に見えてきます。それは、教員や社会が「グローバル」の視点を、様々なスケールで具現化することこそ、現代の緊急課題であると考えます。

(1) 連携取り組みの内容

本取り組みでは、図1に示すように高校生から社会人までの地域リーダー養成計画に基づき、大学等連携を推進します。まず、すべての大学等に共通して必要な教養教育を提供します。そのために、鹿児島県全体を「ひとつのキャンパス」と捉え、遠隔地を結びつけるためのICT運用体制を確立します。この二つの事業がスタートしますと、様々な教育活動が有機的に整備できます。このように、各大学等の個性を活かし、グローバルな視点で、一貫して地域のリーダー（ひいては世界のリーダー）を養成することが可能となります。これが本取り組みの目標です。

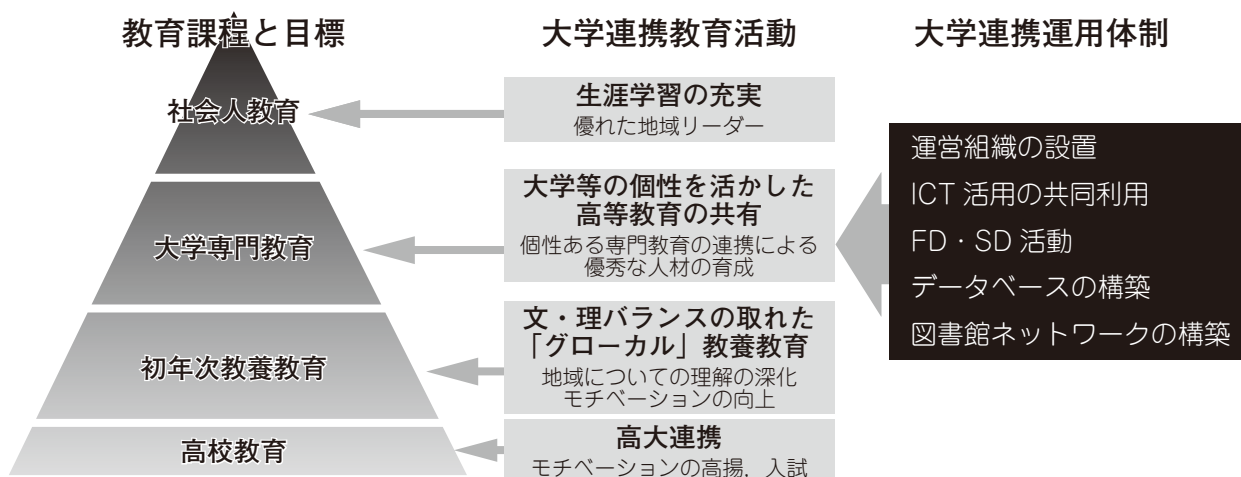


図1 地域のリーダー養成のための大学連携と総合教育

(2) 文・理のバランスの取れたグローバル教養教育の構築

大学等は、初年次学生（高等専門学校は4年生）を対象に、3つのグローバル教養教育を行います。そのプロセスを図2に示します。

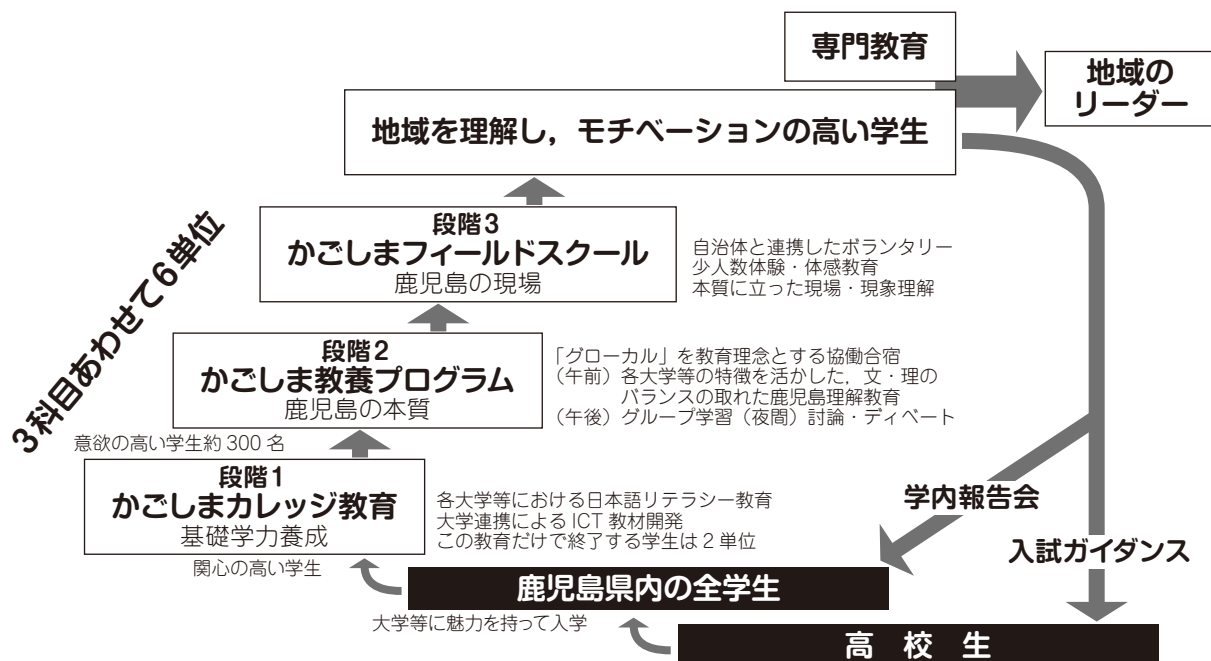


図2 文・理のバランスの取れたグローカル教養教育のプロセス

「かごしまカレッジ教育」(学部：新入生ゼミナールⅠ※福祉社会学部と看護学部は新入生ゼミナール)は、各大学等において、4～7月に開講し、日本語力を養成するものです。ここでは、大学等が連携し、全県同一の目標と方法で、論理的思考力や自己表現能力、コミュニケーション能力を養う日本語リテラシー教育を行います。

8月には、約3日間の共同合宿授業で「かごしま教養プログラム」を実施します。参加学生をシャッフルして、学生の身近にある鹿児島を素材に、各大学等の伝統と実績を活かしたリベラルアーツ教育を行います。その教育目標は、「鹿児島の本質と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える力を養成すること」です。グローカル教養教育の中心です。学生は、午前中、合同で講義を聞いた後、午後は、チューター支援の下で、グループで学習します。さらに、夜間は、総合討議やディベートなどを取り入れ、競争的に切磋琢磨します。

この合宿授業に引き続いて、約4日間の「かごしまフィールドスクール」を行い、鹿児島を体験・体感させます。この教育のために、関係自治体や経済団体の協力・支援を求め、地域と大学等が一体となって当たります。

グローカルな視点とは・・・

地球や国際社会全体はローカルな地域や個々の人間により成立しているのですが、グローバルな視点が優先されローカルな存在が軽視されるようになると、やがては極一部を除いて世界中の多様な文化や民族を否定することになりかねません。ローカルなものの中にグローバルな意味を見出し、地域の生活・文化・経済・社会などの発展を探るとともに、それらを世界に発信することを「グローカル」な視点と言います。この第一歩は「自分探し」や「地域理解」です。

14 授 業

(1) 授業の種類

開講する時期により次の種類の授業があります。

- ① 前期開講, 完結
前期の期間に行う授業です。
- ② 後期開講, 完結
後期の期間に行う授業です。
- ③ 通年
1年間を通して行う授業です。
- ④ 集中講義
一定期間に集中して開講される授業です。
 - ・ 集中講義期間…夏季休暇中又は春季休暇中（予定）
 - ・ 開講される集中講義は期間が重複するため、複数の科目を履修することができない場合があります。
- ⑤ 臨時授業
休講となった授業を補うための授業として補講等があります。
- ⑥ オンライン授業
本学では、補講の実施や、自然災害（風水害など）の発生などにより対面授業の実施が困難な場合などに
対面授業をオンライン授業に切り替えて実施する場合があります。その他、ハイブリッド型（対面授業とオンラ
イン授業を同時に行い、履修者がいずれかの形態によっても受講できる授業）で行う場合もあります。オンラ
イン授業を実施する場合は、事前に科目担当者より連絡がありますのでその指示に従ってください。

(2) 授 業 時 間

キャンパス \ 限	1 限	2 限	3 限	4 限	5 限
坂之上キャンパス	9:10～10:40	10:50～12:20	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
伊敷キャンパス	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

(3) 休 講

授業科目担当者が公務・出張・学会・病気などで授業が休講となる場合があります。休講は、LCU での連絡
通知で配信しますが、当日になって配信または掲示板に掲載することもありますので注意してください。

また、休講の指示がなく授業が始まらない場合は、教務課又は伊敷キャンパス事務部へ連絡して確認してくだ
さい。

なお、休講があった場合、補講を実施することになっています。補講は、各学期末の補講日のほか、補講時間
（水曜日の5限、土曜日の3・4限）等に行われます。詳細は、担当者の指示および掲示板に従ってください。

（P16「学生への連絡方法」参照）

(4) 臨 時 休 講

- ① 風水害の場合
「台風等非常時における授業・学期末試験等の取扱に関する申合せ（抜粋）」（P48）を参照してください。
- ② その他の場合
各授業科目がそれぞれの事情で休講となる場合は、その都度掲示あるいは LCU 等で連絡します。

(5) 欠 席 届

① 1 カ月以内の場合

本学では、公欠制度はありませんが、就職試験・病気・忌引などやむを得ない理由で授業を欠席した場合は、教務課又は伊敷キャンパス事務部備付の「欠席届」の用紙に必要事項を記入し、欠席した科目の担当者に提出してください。

② 1 カ月以上の場合

病気などの理由で1 カ月以上の長期欠席をする場合は、学生課へ申し出てください。

(6) 感染症の防止と措置

学校保健安全法施行規則に定める学校感染症（第一種から第三種）に罹患した場合は、速やかに学生課又は伊敷キャンパス事務部へ連絡し、必要な手続きを行ってください。必要な手続きを行った学生に対しては、履修上不利としないように配慮します。

台風等非常時における授業・学期末試験等の取扱いに関する申合せ（抜粋）

この申合せは、鹿児島市及びその周辺の自治体に避難指示等が発令され又は警戒レベル相当の防災気象情報が発表された場合及び不測の事態が生じた場合に、学生の事故防止を目的として、授業・学期末試験等（以下「授業等」という。）の取扱いに関し、必要な事項を定める。

1.（略）

2. 授業等の取扱い

(1) 授業等開始前の取扱い

ア 午後3時の時点で次の判断基準①～③までのいずれかの状況が予想される場合は、翌日の授業等について、原則として休講等の措置（オンライン授業への切り替えを含む。）を講じる。

【避難情報等（警戒レベル）】

① 鹿児島市を対象とする警戒レベル4（避難指示）以上の避難情報等の発令

【防災気象情報（警戒レベル相当情報）】

② 鹿児島市を対象とする警戒レベル4相当（氾濫危険情報、土砂災害警戒情報）以上の防災気象情報の発表

【公共交通機関情報】

③ 鹿児島市内の路線バスの運行見合わせ（運休を含む。）

イ 午前6時30分から授業等開始前までに判断基準①～③までのいずれかの状況が確認された場合は、当日の授業等について、原則として休講等の措置（オンライン授業への切り替えを含む。）を講じる。

(2) 授業等開始後の取扱い

前号の判断基準に準じて取り扱う。

(3) その他

前2号の取扱いにより、対面形式の授業等が実施される場合でも、学生が公共交通機関の運休等の影響を受け、やむを得ず授業等に遅刻又は授業等を欠席（早退を含む。）したときは、当該学生に不利益が生じないよう取り扱うものとする。

（注）

学外での実習・インターンシップ等の場合は、各実習先・各活動先の指示に従うものとする。

3. 休講等措置の連絡方法

(1)（略）

(2) 総合企画部は、学生、保護者及び一般社会に対してホームページ等により速やかに連絡する。

(3) 教務部及び学生部は、学生に対して学生情報システムにより速やかに連絡する。なお、授業等期間中の場合は、学内放送等でも連絡する。

(4)（略）

(5)（略）

4. その他

(1) この申合せにより休講した場合は、必ず補講するものとする。また、学期末試験期間の場合は、協議のうえ適切な措置を講ずるものとする。

(2) 大雪、地震等の不測の事態が生じた場合も、2「授業等の取扱い」に準ずる。

5.（略）

15 試 験

試験には、定期試験・追試験・臨時試験・再試験があります。いずれも日ごろの勉強の成果をあらわす機会ですから、真剣にそして慎重にのぞまなければなりません。

(1) 定期試験（詳細は学生便覧の「試験施行細則」を参照）

所定の授業の終了した学期末又は学年末に実施する場合と、中間的な成績評価を実施する場合とがあります。それぞれ学年暦により、実施される期間は決定しています。

また、科目及び担当者によりペーパーテスト、レポートなど実施方法が異なりますので、科目担当者の説明に注意してください。

なお、やむを得ない事由により定期試験を受験できない場合には、試験当日までに必ず教務課に申し出てください。

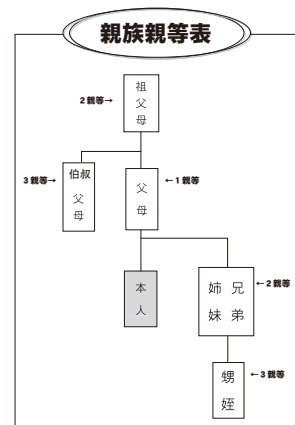
(2) 追 試 験（詳細は学生便覧の「追試験施行細則」を参照）

① 「追試験」とは、下記のような真にやむを得ない事由により定期試験を受験できなかった場合に行う試験です。

- ・ 3親等内の忌引または2親等内の危篤
- ・ 教育実習 ・ 就職試験
- ・ 交通機関の途絶および延着 ・ 交通事故
- ・ 不慮の災害 ・ 疾病
- ・ その他、特に認められる場合

② 追試験を受けようとする場合は、当該試験期間中又は試験期間終了後2日以内に所定の「追試験願」及び事由を証明する書類を教務課又は伊敷キャンパス事務部に提出してください。ただし、事由を証明する書類については、期限内に提出できない場合、追試験期間の初日までに提出してください。

③ 追試験の実施要項は、「試験施行細則」に準じます。



- (注意) 1. 通年科目の前期試験については、追試験を実施しない科目があります。
2. 定期試験がレポート及び授業中に行う試験による場合は、追試験は実施しません。
3. 追試験手続期間及び追試験期間は定期試験の日程により、変更になる場合があります。

(3) 臨時試験

上記の試験のほか、授業中あるいは特別な時間を設けて実施される試験です。授業中や掲示で伝達されることが多いので、注意してください。

(4) 再 試 験（詳細は学生便覧の「再試験施行細則」を参照）

再試験とは、経済学部、福祉社会学部及び国際文化学部では卒業年次在学者で、卒業に必要な単位が一定数不足した者に対して、各学期における卒業判定結果の発表直後に行う試験です。また、看護学部の在学者で定期試験等において不合格（「不可」の場合に限る）となった者に対して行う試験です。

(5) 受験上の注意事項

- ① 通常の授業と時間・教室などが変わる場合があります。その他、連絡事項はその都度掲示しますので、見落としや見誤りのないよう注意してください。
- ② 「学生証」は必ず携帯し、試験室では机の上に置いてください。「学生証」を忘れた場合は、学生課又は伊敷キャンパス事務部で「写真登録カード」の交付を受けてください。
- ③ 試験開始後20分以上の遅刻者は入室できません。なお、30分以内は退室できません。
- ④ 答案用紙には必ずペンかボールペンで学籍番号・氏名等を記入してください。
- ⑤ 監督者の指示や注意事項を厳守してください。
- ⑥ 答案用紙を試験室外に持ち出すと不正行為になります。
- ⑦ 試験中、不正行為をした場合は、規定により厳重に処分します。

16 成 績

(1) 成績発表

成績発表の日時・場所等については、その都度、教務課掲示板等で連絡します。（「学年暦」参照）

(2) 成績評価

成績評価の区分は下表のとおりです。「合格」の判定となれば、その科目（単位）を修得したことになります。なお、成績通知は評点、成績証明書は評語で示されています。

判定	合格					
評点	100～90	89～80	79～70	69～60		
評語	秀	優	良	可	合格 ^{※1}	認定 ^{※2}

判定	不合格				保留
評点	59～0				
評語	不可	不合格 ^{※1}	欠席 ^{※3}	無効 ^{※4}	保留 ^{※5}

※1 可否のみで成績を評価する場合

※2 本学の開講科目以外の授業科目及び外部試験等の結果により、評価する授業科目において合格と認められた学力を示した場合。ただし、単位互換協定書等により定めがある場合は、この限りでない。

※3 定期試験期間中に行われる試験を受験しなかった場合

※4 受講放棄又は授業中に課されるレポート課題等を提出しなかった場合

※5 履修未完了又はやむをえない事由により、当該期内に評価が行えない場合において、評価を保留し当該期以降の期に成績評価を行う場合

※1～※5の評語は、成績通知にも表示されます。

(3) GPA（Grade Point Average, グレード・ポイント・アベレージ）

GPA は、各科目の成績から特定の算出方法によって算出される成績評価値です。本学では、この値を年次別履修登録制限の変更や学習支援、成績優秀者の表彰等に活用します。

前学期の GPA が3.0（児童学科では3.6）を超えた学生は、所定の手続を経て25単位を上限として履修登録できます。この場合、追加単位の次学期への繰り越しはできません。（年次別制限単位数については、P15を参照）

なお、前学期の GPA が1.5未満の場合は、担任又は指導教員が本人と面談し、必要な学習支援を行います。

また、GPA1.5未満が2学期連続、又は通算で3学期になった学生に対しては、担任又は指導教員が本人及び保証人と面談し、必要な学習支援を行います。

更に、GPA1.0未満が3学期連続した学生に対しては、学生委員会及び教授会の審議を経て、学長が必要と認めた場合にのみ、学生部長が本人及び保証人に対して、退学を含めた修学の意味確認を行います。

この他、入学時から卒業時までの通算 GPA が4.0の学生は、卒業時に成績優秀者として表彰します。

GPA 算出方法（成績評価の評点に基づいて不合格の授業科目を含めて算出）

$$GPA = ((n \times GP) \text{ の総和 }) / (n \text{ の総和 })$$

n：履修申告した科目の単位

GP：評点 P が、60点以上の場合… $GP = (P - 50) / 10$

評点 P が、59点以下の場合… $GP = P / 60$ 小数点第3位を四捨五入

注) GP が4.0を超えた場合は、4.0とする。また、欠席・無効の成績は0点として計算する。

不合格科目の点数は、同一科目を再履修し合格した場合、GPA の算出対象とせず、合格した点数を、これに代えて算出対象とする。

(4) 坂之上キャンパスのみで実施する科目の成績の問い合わせ

発表された成績について疑問のある場合には、シラバスに掲載されているメールか、授業時等に指示のあった連絡方法で科目担当者へ申し出てください。ただし、次の①～③の場合には、教務課又は伊敷キャンパス事務部備付の「**成績調査依頼書**」に必要事項を記入し、成績発表日を含め2日以内に提出してください。

- ① 定期試験期間中に受験した科目が「欠席」になっている。
- ② 定期試験期間中に受験した科目に評点が記入されていない。
- ③ 定期試験期間中に受験しなかった科目に評点が記入されている。

(5) 伊敷キャンパスのみで実施する科目の成績の問い合わせ

発表された成績について疑問のある場合には、成績発表日を含め2日以内に伊敷キャンパス事務部又は教務課へ申し出てください。

次の①～④の場合には、伊敷キャンパス事務部又は教務課備付の「**成績調査依頼書**」に必要事項を記入し、提出してください。

- ① 定期試験期間中に受験した科目が「欠席」になっている。
- ② 定期試験期間中に受験した科目に評点が記入されていない。
- ③ 定期試験期間中に受験しなかった科目に評点が記入されている。
- ④ 定期試験期間中に受験した科目の成績に疑義がある。

17 履修に関するQ&A

(1) 単位制について

Q：卒業するためには何単位必要ですか？

A：卒業に必要な単位は、経済学部、福祉社会学部及び国際文化学部では124単位、看護学部では129単位です。
ただし、修得単位数が卒業に必要な単位数以上でも、それぞれの学科ごとに定められた科目区分で指定された卒業単位数を修得しなければ、卒業できません。

Q：履修登録に単位の制限がありますか？

A：1年間に履修できる単位数は、各年次、学科によって決まっています。『履修要項』の「年次別制限単位数」の頁を参照してください。また、1年次から計画的に履修すれば余裕をもって卒業に必要な単位数を修得できます。

Q：1年間に修得した単位数が少ない場合は、次の学年に進級できないのですか？

A：進級するためには、一定の単位数を修得していなければなりません。『履修要項』の「進級に必要な単位数」(P13)の頁を参照してください。

(2) 学生への連絡方法について

Q：掲示板の場所と内容は何ですか？

A：掲示板は、坂之上キャンパスの学生総合支援センター前、その周辺及び伊敷キャンパスA棟（本館）1階に設置しています。大学から皆さんへ重要な情報が掲示されますので、最低でも登下校時の2回は確認を行ってください。また、電話・メールによる問い合わせには間違いが生じやすいので、応じていません。

Q：連絡通知とは何ですか？

A：大学から皆さんへ緊急連絡を要する場合は、LiveCampus Uの連絡通知機能により様々な情報を通知しますので、即時に確認してください。

(3) 時間割表の見方について

Q：1年次に開講されている授業科目は、2年次以上でも履修できますか？

A：履修できます。ただし、「新入生ゼミナール」など履修できない授業科目もありますので、注意してください。
逆に、1年次生は高年次（2・3・4年次）配当の授業科目を履修することはできません。

Q：クラス指定された授業科目を別のクラスで受講することはできますか？

A：指定されたクラスの変更は、原則としてできません。

Q：週に2回ある授業科目で、一方の時限は都合がよいのですが、もう一方の時限に別に取りたい科目があります。どうすればよいですか？

A：週に2回ある授業科目は、両方の授業に出席しなければ成績評価を受けられません。また、同一曜日・時限に2科目以上を履修登録することはできません。

Q：他学部・他学科科目の履修手続きについて教えてください。

A：他学部・他学科科目の履修を希望する場合は、必ず指定された期間に「卒業指定科目等登録願」を教務課に提出しなければ認められません。また、「卒業指定科目等登録願」は提出した年度のみ有効です。

Q：『履修要項』の授業科目表にあって、「時間割表」や「授業内容（シラバス）」にない授業科目がありますか？

A：あります。その場合、その年度は休講を意味します。また、受講者数が5名未満の場合は、必修科目や演習、外国語科目（専門教育科目）、レッスン科目、教職・資格科目（必修）を除き、休講となる場合があります。

(4) 履修登録について

Q：履修登録はどのように行いますか？

A：履修登録までの流れは、『履修要項』の「履修登録」の頁を参照してください。また、履修登録はLCUを利用して登録しますので、LCUログイン時のIDとパスワードが必要となります。忘れたり、紛失したりした場合は、「証明書発行サービス（有料）」で発行してください。

Q：事前登録せずに事前登録科目を履修登録できますか？

A：事前登録科目は、授業の形態や使用教室などにより、あらかじめ人数制限を設けています。事前登録抽選結果後に、制限人数に達しない場合や履修を取りやめた学生がいた場合、通常の履修登録期間及び変更期間に登録することができます。その場合は、先着順となります。該当する授業科目や手続などの詳細は、オリエ

ンテーション資料で確認してください。

Q：既に単位を修得した授業科目をもう一度履修することはできますか？

A：できません。また、同じ授業科目を一度に2科目以上履修登録することもできません。

Q：一度、履修登録を行った授業科目を取り消したり変更したりできますか？

A：前期・後期に指定された修正期間中であれば修正ができます。ただし、修正ができない科目もあります。また、学期途中の指定された期間に登録済の科目を取消することができます。

Q：前期は、前期の科目のみを登録すればよいのですか？

A：いいえ。前期の履修登録時には、一年間の履修計画をたてて、後期の分まで登録してください。

Q：「必修科目」と「履修指定科目」は、どう違うのですか？

A：「必修科目」とは、指定された年次に履修し、卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目のことです。一方、「履修指定科目」とは、指定された年次に必ず履修しなければならない科目ですが、もし単位を修得できなかった場合、再履修することができない科目があります。その場合、不足単位は、他の科目で補うことになります。

(5) 授業について

Q：休講はありますか？

A：授業科目担当者が公務・出張・病気や行事などで授業が休講となる場合があります。その場合は、LCUの連絡通知などで確認できます。詳細は、『履修要項』の「学生への連絡方法」の頁を参照してください。

Q：授業を欠席する（した）場合の手続きは？

A：授業を欠席する（した）場合は、「欠席届」の用紙に必要事項を記入し、欠席する（した）授業科目担当者に提出してください。なお、公欠制度はありません。

ただし、感染症に罹患した場合や1ヵ月以上の長期欠席の場合、学生課への申し出が必要となることがあります。詳細は『履修要項』の「14 授業 (5)～(6)」（P47）を参照してください。

(6) 試験について

Q：定期試験期間中に用事が入り、受験できない場合はどうなりますか？

A：定期試験期間は、学年暦によりあらかじめ分かっている行事です。個人的な用事や都合で受験できない場合は、放棄したことになります。ただし、正当な事由により受験できない場合は、追試験の手続きを行う必要がありますので、教務課へ申し出てください。詳細は『履修要項』の「試験」の頁を参照してください。

Q：定期試験に「学生証」を忘れました。

A：「学生証」は必ず携帯するようにしてください。忘れた場合は、学生課又は伊敷キャンパス事務部で「写真登録カード」の交付を受けてください。

Q：定期試験はいつもと同じ教室で受験するのですか？

A：試験室は変わることがあります。教務課掲示板又は伊敷キャンパス掲示板に掲示しますので、確認してください。

(7) 成績について

Q：成績評価はどのような方法で行われますか？

A：試験の成績を主として、出席状況、平常の学習状況、レポートや小テストなどを総合して授業科目担当者が評価します。詳しくは「シラバス」で確認してください。

Q：発表された成績について疑問があります。

A：P51の「(4)坂之上キャンパスのみで実施する科目の成績の問い合わせ」、「(5)伊敷キャンパスのみで実施する科目の成績の問い合わせ」を参照してください。

Q：「履修指定」となっている授業科目の単位を修得できなかった場合、卒業できないのですか？

A：「履修指定」となっている授業科目は、当該年度に必ず履修しなければなりません。結果的に単位を修得できなかった場合でも、不足単位を他の科目で補うことにより卒業できます。

その他、不明な点は教務課で尋ねてください。

Ⅲ カリキュラム

経済学部

(1) **経済学部**の目的

経済学部は、経済及び経営に関する専門的な教育研究を行い、理論だけでなく実践的な知識と技能を備え、国際社会及び地域社会の発展に貢献する人材を養成することを目的とします。

(2) **ディプロマ・ポリシー**

経済学部では、目的を達成するために、所定の単位を修得したことにより、次のような段階に到達したと評価される学生に学位を授与します。

(知識・技能)

DP1 経済や経営に関する理論、歴史、政策、実践などに関する的確な基本的知識を身に付けている。

DP2 日本経済や国際経済に関する基礎知識を修得し、現代社会を生き抜く力を身に付けている。

(思考・判断・表現)

DP3 経済や経営、地域社会などの出来事や問題における課題を見いだし、その解決方法を提示することができる。

DP4 他人の意見を聞き、自分の考えを適切に表現して他の人に正確に伝え、社会の中で人々と協力しながら、問題を解決することができる。

(関心・意欲・態度)

DP5 経済や経営、地域社会などの出来事や問題に関心を持ち、それらを自らに関係することとして捉えることができる。

(3) **カリキュラム・ポリシー**

経済学部は、目的とディプロマ・ポリシーを達成するために、次の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

CP1 1～2年次には、専門教育への円滑な移行に必要な基礎学力を強化するために、全学共通の共通教育科目を配置します。新入生ゼミナールでは「大学での学び」について指導し、人文・社会・自然・地域志向の科目や外国語・健康科学の科目では幅広い教養と豊かな人間性を育みます。

CP2 2年次からは専門教育科目を配置します。一部は1年次から履修可能です。基本的な専門科目の修得を前提にして、経済学科では「日本経済」及び「金融・国際経済」の2領域に属する諸科目を配置します。経営学科では「組織マネジメント」と「会計」を2つの柱とし、これに加えて「情報」や「地域ビジネス」などの領域を設け、諸科目を系統的に配置します。

CP3 1年次から4年次の各学年において、教員と学生あるいは学生同士が交流しながら学べるよう、少人数による演習（ゼミナール）を配置します。

CP4 現場や地域社会での実践を体験しながら学べる、国内外でのインターンシップやフィールドワークなどの実習科目を設けます。

CP5 卒業後を見据え、キャリアデザイン教育を充実させます。キャリアデザイン科目により、自立した社会人として経済について考え、行動する力を養成します。

(4) **アドミッション・ポリシー**

経済学部は、目的、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、本学での学修を目指す次のような人を国内外に広く求めます。

(知識・技能)

AP1 経済学部の教育を受けるのに必要な高等学校の教育課程を修得している人。

(思考・判断・表現)

AP2 身近な問題を多面的・論理的に考え説明できる人。

(関心・意欲・態度)

AP3 地域・日本・世界における経済社会の動向に関心を持ち、これを専門的に学ぶ意欲のある人。

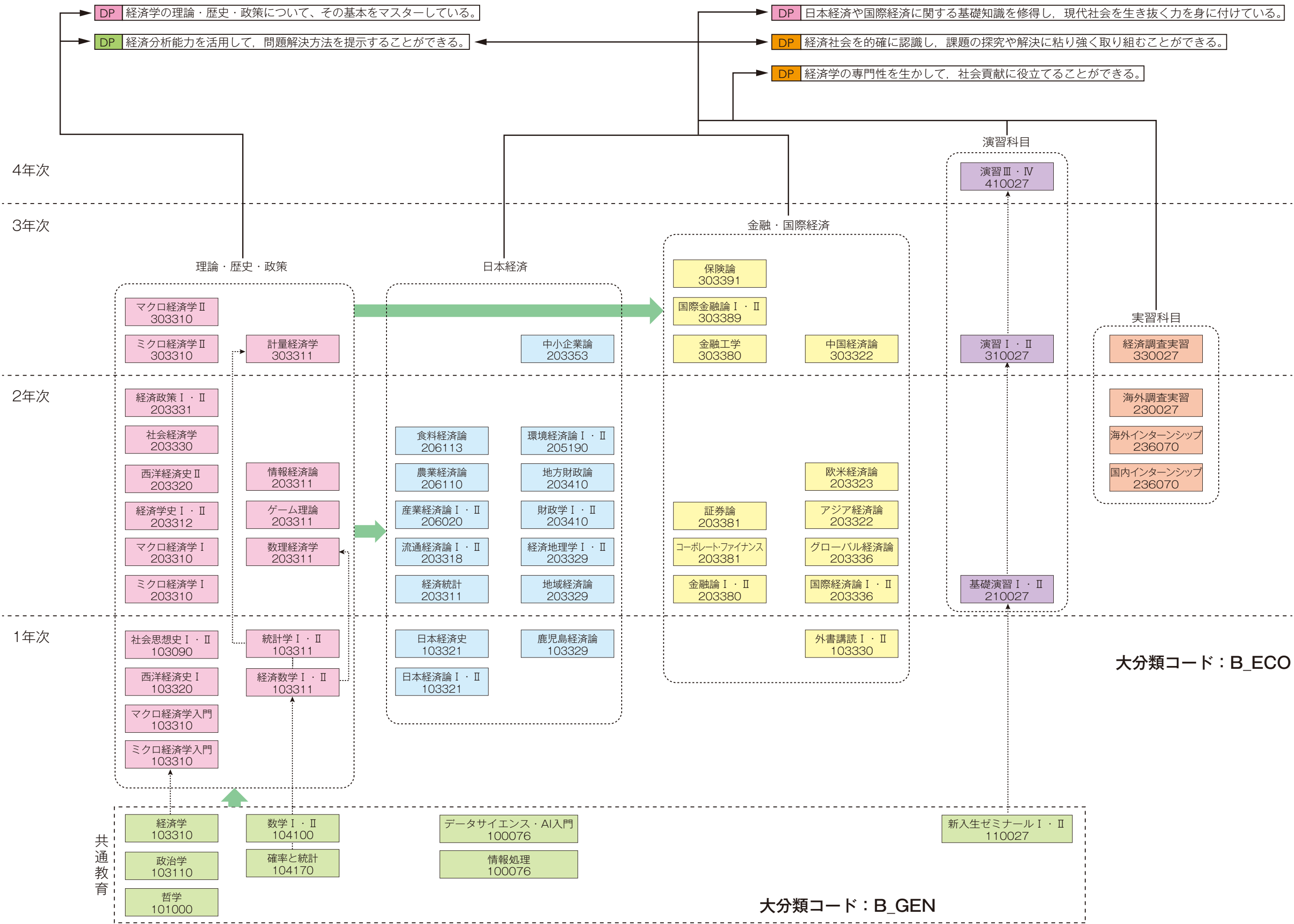
AP4 経済や経営に関する知識を身に付け、役立てたいと考えている人。

AP5 地域に愛着を持ち、地域社会の発展に貢献したいと考えている人。

経済学科

(1) 経済学科の目的	経済学科は、経済に関する専門的な教育研究を行い、経済情勢の分析能力と総合的な判断力を備え、国際化・情報化が進む現代社会の発展に貢献する人材を養成することを目的とします。
(2) ディプロマ・ポリシー	経済学科は、目的を達成するために、所定の単位を修得したことにより、次のような段階に到達したと評価される学生に学位を授与します。 (知識・技能) DP1 経済学の理論・歴史・政策について、その基本をマスターしている。 DP2 日本経済や国際経済に関する基礎知識を修得し、現代社会を生き抜く力を身に付けている。 (思考・判断・表現) DP3 経済分析能力を活用して、問題解決方法を提示することができる。 (関心・意欲・態度) DP4 経済学の専門性を生かして、社会貢献に役立てることができる。 DP5 経済社会を的確に認識し、課題の探究や解決に粘り強く取り組むことができる。
(3) カリキュラム・ポリシー	経済学科は、目的とディプロマ・ポリシーを達成するために、次の方針に基づいてカリキュラムを編成します。 CP1 共通教育科目により、経済学を学ぶための能力を磨きます。具体的には、人間の社会や自然についての幅広い知識や考え方を学び、外国語を学び、さらに情報処理技術を身に付け、豊かな人間性を育みます。 CP2 専門教育科目は、主に2年次から配置しています。経済学の柱は理論・歴史・政策です。これらの柱に沿って、全員が経済学の基本を学びます。 CP3 専門教育の基本科目と並行して、応用科目において、日本経済及び金融・国際経済の理論と実際を学びます。 CP4 1年次から4年次の各学年において、教員と学生あるいは学生同士が交流しながら学べるよう、少人数による演習（ゼミナール）を配置します。 CP5 実践力を養成するため、経済調査実習などの実習科目を設けます。 CP6 卒業後を見据え、キャリアデザイン教育を充実させます。キャリアデザイン科目により、自立した社会人として経済について考え、行動する力を養成します。
(4) アドミッション・ポリシー	経済学科は、目的、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、本学での学修を目指す次のような人を国内外に広く求めます。 (知識・技能) AP1 経済を学ぶための基礎的な能力（読む力、書く力、考える力）を備えている人。 (思考・判断・表現) AP2 身近な問題を多面的・論理的に考え説明できる人。 (関心・意欲・態度) AP3 自分の暮らしている社会の経済に関心のある人。 AP4 自分の身のまわりの人々の暮らしを良いものにしたいという意欲のある人。 AP5 経済の仕組みを理解したいという意欲のある人。

経済学科カリキュラムマップ



経済学部 経済学科

大学で提供されている科目は、共通教育科目と専門教育科目とがあります。それぞれに配当されている科目を履修し、単位を修得することになります。一定の条件を満たして、所定の単位数を修得しなければ卒業することはできません。

資格や免許を取得したい人は、これらとは別に設置された、それぞれの資格（免許）課程を履修し、各課程が定める条件にそって科目を履修することになります。

所定の年限で卒業（学士の称号を取得）し、必要な資格や免許を取得するためには、この全体のカリキュラム（教育課程）の組み立てをよく頭に入れたうえで、計画的に科目を履修していく必要があります。

1 共通教育科目

(1) 共通教育科目のねらい

大学に入学したみなさんが所属の学部・学科を問わず、まずは重点的に履修しなければならないのが共通教育科目であり、そのねらいは3つあります。それは、1) 大学で学ぶための基礎的な知識と技能を育成し、2) 将来の人生設計を構想し（キャリアデザイン）、3) 各自の専攻分野への関心を深めていくというものです。

(2) 履修科目を決定するために

「科目」の選択に当たっては、「科目表」と「時間割表」とを参照しながら、履修すべき科目を選択します。なお、科目の中には事前登録がないと履修できないものがありますから、「事前登録科目表」で、これを確認しておく必要があります。

最初に、当該年次のうち、履修指定科目が時間割のどの時限に当てられているかをチェックします。その年次において必ず履修しなければならないからです。上記以外の科目については、その選択に当たって、皆さんの主体性が要求されます。

1年次を例にとると、まず、「新入生ゼミナールⅠ・Ⅱ」、「データサイエンス・AI入門」、「情報処理」、「経済学」が履修指定になっています。これらを優先的に履修しなければなりません。

次いで、他の共通教育科目と1年次配当の専門教育科目とを同時に検討します。専門教育科目の履修モデルであるカリキュラムマップとナンバリングコードを参考にしながら、「シラバス」（授業内容）を熟読してください。自分が何を学びたいか、履修の順序をどうするかをよく考えて、しっかりとした履修計画を立てなければなりません。共通教育科目を2・3・4年次で履修することはさしつかえませんが、できるだけ早い年次で単位を修得した方が望ましいです。特に、教職課程の履修を希望する学生は周到な履修計画を立て、確実に単位を修得していかなければ後の履修にさしつかえます。

(3) 共通教育科目の履修方法

経済学科では、人間教養科目の「人文科学」、「社会科学」、「自然科学」、「地域志向」の4分野から6単位以上を修得しなければなりません。経済学はもともと道徳哲学や政治経済体系から生成された学問ですから、「哲学」や「政治学」の履修を特に勧めます。また、「確率と統計」や「数学Ⅰ・Ⅱ」は経済学理論や実証研究をよりよく理解するために必要な知識と技能を提供してくれるので、次の(4)の注意点をよく読んでください。

コミュニケーションスキルズ科目に関しては、英語のコア科目から2単位以上修得しなければなりません。それは、「英語オール・コミュニケーションⅠ・Ⅱ」（各1単位）からの2単位か、それとも「英語海外研修」からの2単位、どちらからでもかまいません。他の第二外国語の履修は自由選択です。

要するに、卒業所要単位数を満たすためには、共通教育科目の全体（基礎科目、人間教養科目、コミュニケーションスキルズ科目、スポーツ・健康科目）から、各分野の必要単位数を満たしたうえで合計30単位以上を修得しなければなりません。

(4) 数学・確率と統計の履修への注意点

現代の経済学では、あたかも理工系分野のように数学が多用されています。したがって、専門科目として「経済数学Ⅰ・Ⅱ」が用意されていますが、これだけでは足りません。特に専門科目の「統計学Ⅰ・Ⅱ」、「数理経済学」、「ゲーム理論」、「金融工学」を学ぶためには、その基礎知識として微分積分、確率論が必要となり、共通教育科目の「確率と統計」、「数学Ⅰ・Ⅱ」を履修することを強く推奨します。

(5) キャリアデザイン科目

キャリアデザイン科目は、学生のキャリア形成を支援する目的で設置しています。「コミュニケーション力育成」では、社会人基礎力やコミュニケーションに関する理論を学び、実践を通してコミュニケーション力を高めることができます。「論理的思考と数的処理」では、数学の基礎を固め、就職試験の準備をします。

(6) 地域志向科目について

地域志向科目は「地域人材育成プログラム」を構成する科目です。私たちが生活と学びの場としている地域の実情を知り、その課題を発見し、解決策を提案したり、実際に課題解決のための活動に取り組んだりする科目群です。(詳しくはP84を参照)

また、この地域志向科目の中に設置されている「かごしま教養プログラム」と「かごしまフィールドスクール」は、文部科学省「戦略的大学連携支援事業」の一貫として鹿児島県内の全大学・短大・高専の学生を対象として実施される連携教育プログラム「グローバル教養教育」の一部です。「グローバル教養教育」は、これらの科目と「かごしまカレッジ教育」を合わせて構成されていますが、この「かごしまカレッジ教育」については、本学では「新入生ゼミナールⅠ」がこれに対応しています。

2 専門教育科目

専門教育科目は、皆さんが学ぼうとしている経済学を、専門的に学修する科目です。経済学科では経済学の主要専門分野について、充実した科目群を用意しています。専門教育科目は、「基本科目」、「応用科目」、「演習科目」、「実習科目」に大別され、皆さんは、これらの科目のすべてを履修することができます。このうち「応用科目」は、「日本経済」と「金融・国際経済」から構成されています。

これら経済学の専門科目について、どの時期に、どの科目を、どのくらいの単位数で履修すればよいかを考える手がかりとして、経済学科のカリキュラムマップとナンバリングコードを参考にしてください。

また、経済学に深い関係を持つ「法学科目」と「関連科目」(経営学科科目と教職課程科目)等があります。

卒業所要単位数を満たすためには、専門教育科目から合計94単位以上を修得しなければなりません。先の共通教育科目の30単位以上と合わせて、全部で合計124単位以上が経済学科を卒業する要件になっています。

(1) 基本科目「理論・歴史・政策」

経済学専門教育の基本科目は、経済学の理論・歴史・政策の三本柱で構成されています。基本科目をしっかり履修することで、経済学の基礎学力が身につく、経済学の応用分野へ効率よく進んでいくことができます。

経済学の学習は「積み上げ式」とよくいわれます。例えば、ミクロ経済学とマクロ経済学を履修するとき、共通教育科目の「経済学」から専門教育科目のミクロ・マクロ経済学「入門」・「Ⅰ」・「Ⅱ」へと、段階的に履修していくことが効率的です。

1年次配当の「ミクロ経済学入門」と「マクロ経済学入門」は履修指定です。なお、理論・歴史・政策の科目群から16単位以上を修得しなければなりません。「ミクロ経済学入門」、「マクロ経済学入門」、「ミクロ経済学Ⅰ」、「マクロ経済学Ⅰ」、「経済学史Ⅰ・Ⅱ」、「西洋経済史Ⅰ・Ⅱ」、「経済政策Ⅰ・Ⅱ」、「統計学Ⅰ・Ⅱ」、「経済数学Ⅰ・Ⅱ」がコア科目なので、優先的に履修することが望ましいです。

(2) 応用科目「日本経済」

日本経済の科目群は、基本科目で学習した知識を応用して、現代日本経済をより深く理解するために重要な科目から構成されています。また、これらの応用科目に加えて、鹿児島の経済を理解するために、「鹿児島経済論」、

「地域経済論」,「農業経済論」など特色のある科目も含まれています。

経済学は広範な分野を考察の対象としており、基本科目で学修した知識を応用することで、日本経済の実態や構造の本質に迫ることができるようになります。そして、学問的な成果が社会の仕組みづくりに活かされている様子を学ぶことができます。

どの科目も自由に選択して履修することができますが、卒業所要単位数を満たすためには、この科目群の中から16単位以上修得しなければなりません。「日本経済論Ⅰ・Ⅱ」,「日本経済史」,「財政学Ⅰ・Ⅱ」,「産業経済論Ⅰ・Ⅱ」,「流通経済論Ⅰ・Ⅱ」,「環境経済論Ⅰ・Ⅱ」,「農業経済論」,「食料経済論」がコア科目なので、優先的に履修することが望ましいです。

(3) 応用科目「金融・国際経済」

金融と国際経済の科目群は、日本経済と世界経済のつながりを理解する上で重要な科目から構成されています。金融は経済の血液と言われるように、経済が安定的に発展する上で必要な社会インフラを提供しています。また、アジアや欧米などの経済論に加えて国際経済論・グローバル経済論を学ぶことで、世界経済を俯瞰する視点を養うことができます。

これらの科目を履修することによって、金融の社会インフラとしての意義を理解するとともに、世界経済の動向が国際貿易取引や国際金融取引を通じて日本経済に与える影響をより深く考察することができるようになります。

どの科目も自由に選択して履修することができますが、卒業所要単位数を満たすためには、この科目群から12単位以上修得しなければなりません。「金融論Ⅰ・Ⅱ」,「国際経済論Ⅰ・Ⅱ」,「国際金融論Ⅰ・Ⅱ」,「コーポレート・ファイナンス」,「証券論」,「金融工学」,「保険論」,「アジア経済論」,「欧米経済論」がコア科目なので、優先的に履修することが望ましいです。

(4) 演習科目

演習（ゼミナール、略してゼミ）とは、教員の指導のもとに少人数の学生が集まって研究し、発表・討論などを行うもので、社会人に必要な協調性やコミュニケーション能力を身につけるためにも大切な科目です。履修指定科目なので、全員配当された年次に履修しなければなりません。

1年次のときに、2年次の「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」の募集があります。自分の興味や関心のある研究テーマを掲げたゼミを選択し、ゼミ担当教員の許可が得られれば、そのゼミに所属することになります。そして、そのまま、3年次の「演習Ⅰ・Ⅱ」,4年次の「演習Ⅲ・Ⅳ（卒業研究含む）」へ進みます。「演習Ⅳ（卒業研究含む）」でゼミ担当教員の指導のもとで卒業論文（卒論）を完成し提出しなければなりません。

演習では、一方的・受動的に教員の話を聴くような一般の講義授業とは異なり、自分で調べて調査研究するという、主体的・能動的な学修姿勢が求められます。その過程の中でさまざまな問題意識が生まれ、問題解決能力が養われます。学生同士の結びつきも強まる中で、教員が個別に学修相談や就職相談にも乗ったりするので、自分の学修状況や将来を考える大切な機会となります。

(5) その他の専門教育科目

以上のほかに、次の専門教育科目群があります。

①「実習科目」は学外に出て実習を行う科目で、「国内インターンシップ」,「海外インターンシップ」,「海外調査実習」,「経済調査実習」があります。若いうちに、とりわけ大学生のうちに、できれば一度、海外で体験学習をした方が望ましいです。

②「法学科目」は経済と密接な関係のある法律を学ぶ科目で、卒業のためには4単位以上修得する必要があります。

③「関連科目」は主に経営学科が設けている専門教育科目の中で、経済学との関連が深いとか、資格取得に必要とか、就職後すぐに役に立つなどの理由で、経済学科の学生も学んでおいた方がよい科目です。

④「他学部・他学科開設及び教職・資格課程開設科目」は、自由に履修することができますが、どの科目が履修可能かは、履修規程を参照してください。なお、16単位までが卒業所要単位として加算可能になります。

各年次各学期で履修できる単位数の上限が設けられています。それを参考に、GPA（成績評価値）を落とさずに、できるだけより多くの単位数を早い年次で修得することが大事です。

3 履修上の留意点

(1) 年次配当の意味

「年次配当」は、科目の種類によって、少し意味が異なります。

履修指定科目となっている科目は、その年次において必ず履修しなければなりません。特に「新入生ゼミナール」は、1年次のみ履修することができます。万が一、単位を修得できなかった場合は、再履修できませんので、その不足単位を他の科目の履修で補わなければなりません。

履修指定科目以外の科目は、配当された年次以降に履修することができます。例えば、「2年次配当」というのは、「2年次以降に履修できる」ということを意味します。「3年次配当」であれば「3年次以降…」というようになります。履修できる年次になったら、できるだけ早い年次で履修することが望ましいですが、履修計画によっては高年次で履修してもさしつかえありません。

(2) 再履修について

ここで特に留意してほしいことがあります。コミュニケーションスキルズ科目の必要単位数を落としてしまった場合、翌年度以降に再履修しなければなりません。できるだけ努力して指定された年次にこれらの科目の単位を修得してください。

経済学科専門教育科目履修早見表

科目区分		科目名	修得単位数		年次配当			
					1年	2年	3年	4年
基本科目	理論・歴史・政策	ミクロ経済学入門 マクロ経済学入門	2 + 2 単位 (履修指定)		↔			
		21科目から自由選択	16単位以上		↔	↔	↔	
応用科目	日本経済	20科目から自由選択	16単位以上		↔	↔	↔	
	金融・国際経済	16科目から自由選択	12単位以上		↔	↔	↔	
演習科目		基礎演習Ⅰ・Ⅱ	2+2単位 (履修指定)			↔		
		演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	2+2+2+4単位 (履修指定)				↔	↔
実習科目		4科目から自由選択				↔	↔	
法学科目		9科目から自由選択	4単位以上		↔	↔	↔	
関連科目		23科目から自由選択			↔	↔	↔	
他学部・他学科開設及び 教職・資格課程開設科目			16 単位 まで		↔	↔	↔	↔
修得単位合計			94単位以上					

注： ↔ は年次配当を示す。配当された年次に履修するのが望ましい。

経済学科共通教育科目

科目区分			ナンバリングコード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数	
基礎科目	新入生ゼミナール		B_GEN110027	新入生ゼミナールⅠ	2	1	履修指定 (注)①参照	
			B_GEN110027	新入生ゼミナールⅡ	2	1		
	数理・データサイエンス・AI		B_GEN100076	データサイエンス・AI 入門	2	1		
			B_GEN100076	情報処理	2	1		
			B_GEN104170	確率と統計	2	1		
	キャリアデザイン		B_GEN116070	コミュニケーション力育成	2	1		
			B_GEN116070	キャリア形成のための一般教養Ⅰ	2	1		
			B_GEN116070	キャリア形成のための一般教養Ⅱ	2	1		
			B_GEN216070	キャリア形成のための一般教養Ⅲ	2	3		
			B_GEN216070	キャリア形成のための一般教養Ⅳ	2	3		
B_GEN206070			論理的思考と数的処理	2	2			
B_GEN216070			キャリア形成のための文章力育成	2	3			
人間教養科目	人文科学		B_GEN109100	日本文学	2	1	6単位以上	
			B_GEN109300	外国文学	2	1		
			B_GEN107610	音楽文化論	2	1		
			B_GEN102100	日本史	2	1		
			B_GEN102300	西洋史	2	1		
			B_GEN102200	東洋史	2	1		
			B_GEN102090	東西文化の交流	2	1		
			B_GEN101000	哲学	2	1		
			B_GEN101500	倫理学	2	1		
			B_GEN101401	心理学	2	1		
	社会科学		B_GEN103210	法学	2	1	履修指定 (注)②参照	
			B_GEN103231	日本国憲法	2	1		
			B_GEN103110	政治学	2	1		
			B_GEN103310	経済学	2	1		
			B_GEN103610	社会学	2	1		
			B_GEN102901	地理学	2	1		
	自然科学		B_GEN103000	社会科学概論	2	1		
			B_GEN104100	数学Ⅰ	2	1		
			B_GEN104100	数学Ⅱ	2	1		
			B_GEN104600	生命科学	2	1		
	地域志向		B_GEN104680	環境科学	2	1		
			B_GEN103617	地域創生Ⅰ	2	1		
			B_GEN103617	地域創生Ⅱ	2	1		
			B_GEN102100	Japanology	2	1		
			B_GEN103336	地域から世界へ	2	1		
			B_GEN110000	かごしま教養プログラム	2	1		
B_GEN110000			かごしまフィールドスクール	2	1			
B_GEN133697			ボランティア活動	2	1			
B_GEN100000			教養特講Ⅰ	2	1			
B_GEN100000			教養特講Ⅱ	2	1			
B_GEN100000			教養特講Ⅲ	2	1			
B_GEN100000			教養特講Ⅳ	2	1			
コミュニケーションスキルズ科目	英語	コア	B_GEN128311	英語オーラル・コミュニケーションⅠ	1	1	2単位以上 (注)③参照	
			B_GEN128311	英語オーラル・コミュニケーションⅡ	1	1		
			B_GEN138300	英語海外研修	2	1		
			B_GEN128377	英語リーディング	1	1		
		関連	B_GEN128360	英語ライティング	1	1		
			B_GEN108375	英文読解の技法	2	1		
	B_GEN108300		TOEIC・TOEFL 対策	2	1			
	B_GEN118350		コミュニケーションのための英文法	2	1			
	第二外国語	中国語	B_GEN118378	Global Economy and Business	2	1		
			B_GEN128200	基礎中国語Ⅰ	1	1		
			B_GEN128200	基礎中国語Ⅱ	1	1		
	B_GEN138200	中国語海外研修	2	1				

共通教育科目合計30単位以上

科目区分		ナンバリング コード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数	
	フランス語	B_GEN128500	基礎フランス語Ⅰ	1	1		
		B_GEN128500	基礎フランス語Ⅱ	1	1		
	ドイツ語	B_GEN128400	基礎ドイツ語Ⅰ	1	1		
		B_GEN128400	基礎ドイツ語Ⅱ	1	1		
	韓国語	B_GEN128291	基礎韓国語Ⅰ	1	1		
		B_GEN128291	基礎韓国語Ⅱ	1	1		
		B_GEN138291	韓国語海外研修	2	1		
	日本語 (留学生科目)	B_GEN128100	日本語入門Ⅰ	2	1		
		B_GEN128100	日本語入門Ⅱ	2	1		
		B_GEN108100	留学生のための日本事情	2	1		
	講義	B_GEN107801	日常生活に生かすスポーツ科学	2	1		
		B_GEN107801	現代社会とスポーツ	2	1		
スポーツ・健康科目	実習	B_GEN127800	スポーツ実習Ⅰ（屋内集団球技）	1	1		
		B_GEN127800	スポーツ実習Ⅱ（屋内個人球技）	1	1		
		B_GEN127800	スポーツ実習Ⅲ（個人種目）	1	1		
		B_GEN127800	スポーツ実習Ⅳ（屋外個人球技）	1	1		
		B_GEN127800	スポーツ実習Ⅴ（屋外集団球技）	1	1		

(注)

- ① 新入生ゼミナールⅠ，新入生ゼミナールⅡ，データサイエンス・AI入門及び情報処理は，履修指定とし，配当された年次に全員必ず登録し授業を受けなければならない。なお，新入生ゼミナールⅠ及び新入生ゼミナールⅡの再履修はできない。
- ② 経済学は，履修指定とし，配当された年次に全員必ず登録し授業を受けなければならない。
- ③ コミュニケーションスキルズ科目の英語は，コア科目の英語オーラル・コミュニケーションⅠ及び英語オーラル・コミュニケーションⅡ又は英語海外研修から2単位以上を修得しなければならない。

経済学科専門教育科目

科目区分		ナンバリングコード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数	
基本科目	理論・歴史・政策	B_ECO103310	ミクロ経済学入門	2	1	履修指定 (注)①参照	16単位以上
		B_ECO103310	マクロ経済学入門	2	1		
		B_ECO203310	ミクロ経済学Ⅰ	2	2		
		B_ECO203310	マクロ経済学Ⅰ	2	2		
		B_ECO303310	ミクロ経済学Ⅱ	2	3		
		B_ECO303310	マクロ経済学Ⅱ	2	3		
		B_ECO203312	経済学史Ⅰ	2	2		
		B_ECO203312	経済学史Ⅱ	2	2		
		B_ECO203331	経済政策Ⅰ	2	2		
		B_ECO203331	経済政策Ⅱ	2	2		
		B_ECO103320	西洋経済史Ⅰ	2	1		
		B_ECO203320	西洋経済史Ⅱ	2	2		
		B_ECO103090	社会思想史Ⅰ	2	1		
		B_ECO103090	社会思想史Ⅱ	2	1		
		B_ECO203330	社会経済学	2	2		
		B_ECO203311	情報経済論	2	2		
		B_ECO103311	統計学Ⅰ	2	1		
		B_ECO103311	統計学Ⅱ	2	1		
		B_ECO103311	経済数学Ⅰ	2	1		
		B_ECO103311	経済数学Ⅱ	2	1		
		B_ECO203311	数理経済学	2	2		
		B_ECO203311	ゲーム理論	2	2		
		B_ECO303311	計量経済学	2	3		
応用科目	日本経済	B_ECO103321	日本経済論Ⅰ	2	1	16単位以上	合計 94単位以上
		B_ECO103321	日本経済論Ⅱ	2	1		
		B_ECO103321	日本経済史	2	1		
		B_ECO203410	財政学Ⅰ	2	2		
		B_ECO203410	財政学Ⅱ	2	2		
		B_ECO206110	農業経済論	2	2		
		B_ECO206113	食料経済論	2	2		
		B_ECO206020	産業経済論Ⅰ	2	2		
		B_ECO206020	産業経済論Ⅱ	2	2		
		B_ECO203318	流通経済論Ⅰ	2	2		
		B_ECO203318	流通経済論Ⅱ	2	2		
		B_ECO205190	環境経済論Ⅰ	2	2		
		B_ECO205190	環境経済論Ⅱ	2	2		
		B_ECO203329	経済地理学Ⅰ	2	2		
		B_ECO203329	経済地理学Ⅱ	2	2		
		B_ECO203353	中小企業論	2	3		
		B_ECO203329	地域経済論	2	2		
		B_ECO103329	鹿児島経済論	2	1		
		B_ECO203410	地方財政論	2	2		
		B_ECO203311	経済統計	2	2		
	金融・国際経済	B_ECO203380	金融論Ⅰ	2	2	12単位以上	
		B_ECO203380	金融論Ⅱ	2	2		
		B_ECO303380	金融工学	2	3		
		B_ECO303391	保険論	2	3		
		B_ECO203381	コーポレート・ファイナンス	2	2		
		B_ECO203381	証券論	2	2		
		B_ECO203336	国際経済論Ⅰ	2	2		
		B_ECO203336	国際経済論Ⅱ	2	2		
		B_ECO303389	国際金融論Ⅰ	2	3		
		B_ECO303389	国際金融論Ⅱ	2	3		
		B_ECO203322	アジア経済論	2	2		
		B_ECO303322	中国経済論	2	3		
		B_ECO203323	欧米経済論	2	2		
		B_ECO203336	グローバル経済論	2	2		
		B_ECO103336	外書講読Ⅰ	2	1		
		B_ECO103336	外書講読Ⅱ	2	1		

科目区分	ナンバリングコード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数
演習科目	B_ECO210027	基礎演習Ⅰ	2	2	履修指定 (注)②③参照
	B_ECO210027	基礎演習Ⅱ	2	2	
	B_ECO310027	演習Ⅰ	2	3	
	B_ECO310027	演習Ⅱ	2	3	
	B_ECO410027	演習Ⅲ	2	4	
	B_ECO410027	演習Ⅳ（卒業研究含む）	4	4	
実習科目	B_ECO236070	国内インターンシップ	2	2	
	B_ECO236070	海外インターンシップ	3	2	
	B_ECO330027	経済調査実習	4	3	
	B_ECO230027	海外調査実習	3	2	
法学科目	B_ECO103287	消費者法	2	1	4単位以上
	B_ECO103240	民法入門	2	1	
	B_ECO103240	民法総論	2	1	
	B_ECO203330	経済法	2	2	
	B_ECO203250	商法	4	2	
	B_ECO203252	会社法	4	2	
	B_ECO203230	憲法	4	2	
	B_ECO203286	労働法Ⅰ	2	2	
	B_ECO303286	労働法Ⅱ	2	3	
関連科目	B_ECO103369	簿記原理	4	1	
	B_ECO103351	経営学総論	4	1	
	B_ECO106701	商学総論Ⅰ	2	1	
	B_ECO106701	商学総論Ⅱ	2	1	
	B_ECO203360	経営管理論Ⅰ	2	2	
	B_ECO203360	経営管理論Ⅱ	2	2	
	B_ECO203352	経営史Ⅰ	2	2	
	B_ECO203352	経営史Ⅱ	2	2	
	B_ECO303367	マーケティング論Ⅰ	2	3	
	B_ECO303367	マーケティング論Ⅱ	2	3	
	B_ECO203369	会計学原理Ⅰ	2	2	
	B_ECO203369	会計学原理Ⅱ	2	2	
	B_ECO203369	中級簿記論	2	1	
	B_ECO203369	上級簿記論	2	1	
	B_ECO206780	貿易論Ⅰ	2	2	
	B_ECO206780	貿易論Ⅱ	2	2	
	B_ECO303752	職業指導Ⅰ	2	3	
	B_ECO303752	職業指導Ⅱ	2	3	
	B_ECO302901	人文地理学概論	2	3	
	B_ECO304500	自然地理学概論	2	3	
	B_ECO302901	地誌学概論	2	3	
	B_ECO303210	法律学概論（国際法を含む）	2	3	
	B_ECO303110	政治学概論（国際政治を含む）	2	3	
他学部・他学科開設及び教職・資格課程開設科目					※16単位までを卒業所要単位として算入可。 (注)④参照

(注)

- ① ミクロ経済学入門及びマクロ経済学入門は、履修指定科目とし、配当された年次に全員必ず登録し授業を受けなければならない。
- ② 基礎演習Ⅰ及び基礎演習Ⅱは、半期科目とする。また、基礎演習の選択は、学科を超えて履修することができる。なお、基礎演習Ⅰ及び基礎演習Ⅱは、履修指定科目とし、配当された年次に全員必ず登録し授業を受けなければならない。
- ③ 演習Ⅰ、演習Ⅱ、演習Ⅲ及び演習Ⅳ（卒業研究含む）は、半期科目とする。また、演習の選択は、学科を超えて履修することができる。なお、演習科目は、履修指定科目とし、配当された年次に全員必ず登録し授業を受けなければならない。
- ④ 他学部・他学科開設及び教職・資格課程開設科目は、合計で16単位までを経済学科専門教育科目の卒業所要単位数〔合計94単位以上〕に算入することができる。その内容・手続については経済学部履修規程第7条に定める。

[教職課程]

(1) 経済学科で取得できる免許状の種類及び免許教科

教職課程履修規程第2条参照

(2) 免許状を得るための基礎資格及び修得単位数

教職課程履修規程第3条参照

(3) 教職課程履修資格

教職課程履修細則第6条参照

(4) 教職課程履修の手続

- ① 教職課程の履修を希望する場合は、1年次または2年次に実施される「教職課程履修希望者説明会」に出席し、配付される「履修希望願」を提出しなければなりません。

なお、「教職課程履修希望者説明会」は12月頃に実施する予定です。「資格・実習」の掲示板を必ず確認してください。

- ② 提出した者の中から(3)の資格要件による履修資格者をオリエンテーション時に「資格・実習」の掲示板で発表します。

- ③ 履修資格者は、所定の期日までに履修費（教職課程履修細則第12条参照）を納入してください。（2年次または3年次の申し込みになります。）

- ④ 履修費及び実習費等は、どのような理由があっても返金しません。

(5) 教育実習履修資格

教職課程履修細則第7条参照

教育実習の履修資格者は、オリエンテーション時に「資格・実習」の掲示板で発表しますので、確認のうえ履修登録してください。

4年次の4月末に教育実習費（教職課程履修細則第12条参照）の納入方法などについての説明会を実施しますので、必ず出席してください。

(6) 単位修得の方法

単位修得の方法については、「教職課程履修規程」及び「教職課程履修細則」をよく読んで理解してください。

なお、「教育の基礎的理解に関する科目等」の中には、卒業指定科目として登録可能なものがあります。（教職課程履修規程別表第4を参照）

(7) 履修カルテ

【目 的】

教職課程を履修して教育職員免許を取得しようとする学生は、必ず「履修カルテ」を作成しなければなりません。「履修カルテ」は、学生一人一人の学習状況をきめ細かく把握するためのものです。

また、成績公開後、定期的に学生情報システム（LCU）から「履修カルテ」のデータを提出することになりますので大切に管理（入力・更新）してください。

【作 成】

教職課程履修時から教育職員免許取得まで継続して作成します。

※決められた提出時期に「履修カルテ」の提出がない場合、「教育実習」及び「教職実践演習」の履修が認められないことがあります。また、免許状も授与できなくなることがありますので十分注意してください。

【内 容】

【履修カルテ A】①「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修状況

②「大学が独自に設定する科目」の履修状況

③「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修状況

【履修カルテ B】① 必要な資質能力についての自己評価

② 教職に関する体験・実習等の状況

③ 教職を目指す上でさらに身に付けなければならないと考えている事項

【作成の手順】

①学生情報システム（LCU）へアクセスし、メニューの「学修ポートフォリオ」から「履修カルテ」をクリックします。以下の項目について入力してください。

・「履修状況」

修得した科目について入力してください。

・「履修カルテ自己評価」

資質能力に関する自己評価を入力してください。

・「教職に関する体験・実習等の状況」

介護等体験、教育実習、学校関係のボランティア活動について入力してください。

・「教職を目指す事項」

教職を目指す上でさらに身に付けなければならないと考えている事項を入力してください。

②上記の項目について入力後、登録ボタン（更新）をクリックします。

③各学期の成績公開後、提出時期までに該当する項目に随時入力（更新）し、漏れがないか確認してください。

④提出時期に「履修カルテの提出」ボタンをクリックし提出する。（「履修カルテ」は Excel 出力し保存することが可能です。）

【履修カルテ作成・提出スケジュール】

2 年次 開始時	（更新）	「履修カルテ」を計画的に作成するため、入力項目等を理解する。
3 年次 後期開始前	提出①	2 年次までの記録について確認し、9 月中にデータ提出。
4 年次 前期開始前	提出②	3 年次までの記録について確認し、4 月中にデータ提出。
4 年次 後期開始前	提出③	4 年次前期までの記録について確認し、9 月中にデータ提出。
最終提出（4 年次12月頃）	提出④	全ての項目において入力漏れがないかを確認し、12月中にデータ提出。

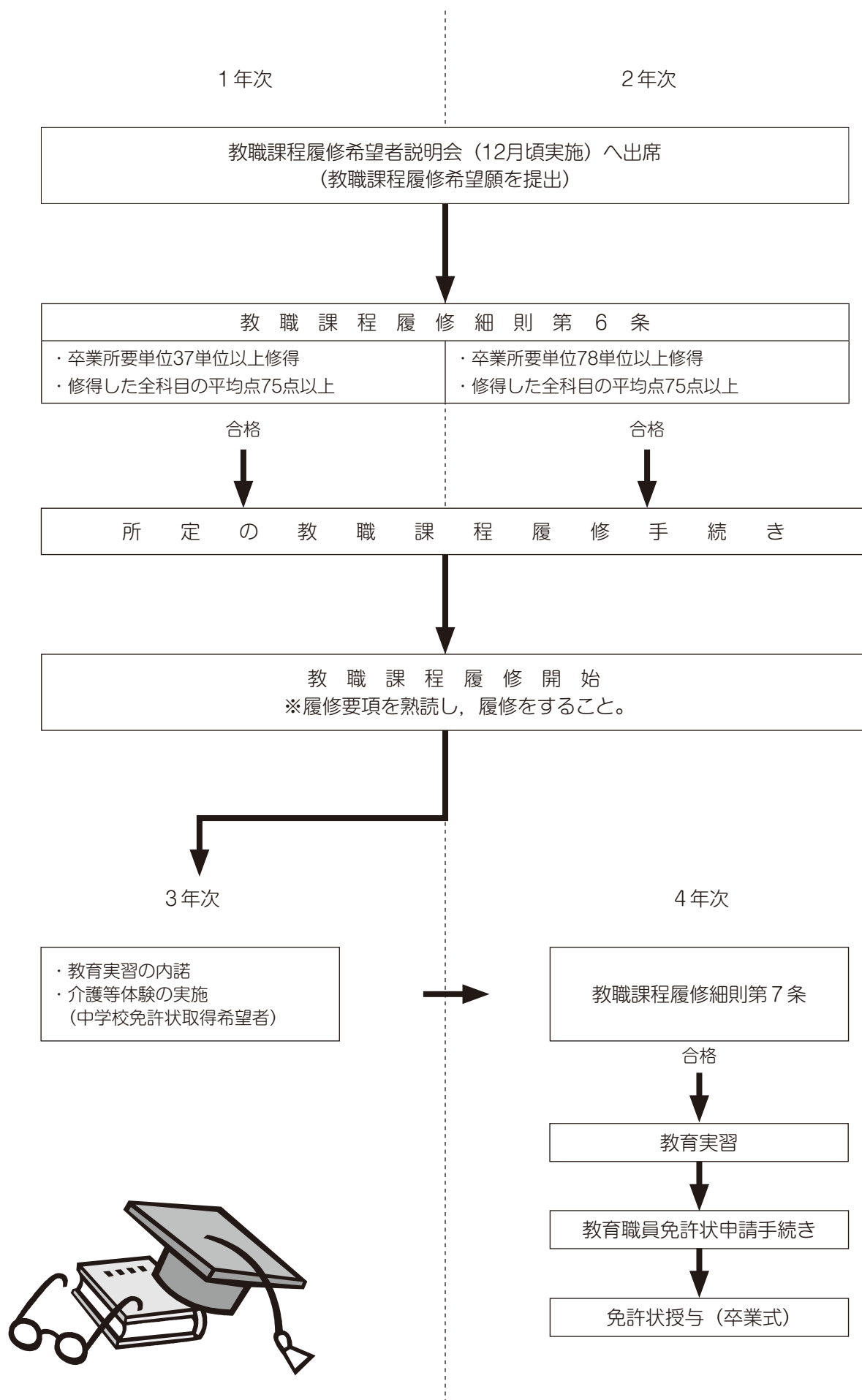
(8) 教職課程スケジュール表

教職課程のスケジュールは次の表のとおりです。ただし、この表は、あくまで予定ですので日程は掲示板にて確認してください。

教 職 課 程 ス ケ ジ ュ ー ル 表

学 年 月	1 年	2 年	3 年	4 年
3月		教 職 課 程 履 修 資 格 者 発 表 (オリエンテーション時) 履 修 カ ル テ 説 明 会 (オリエンテーション時)		教育実習履修資格者発表 (オリエンテーション時)
			介護等体験説明会 (第1回) (オリエンテーション時)	
4月		教 職 課 程 履 修 説 明 会	教 職 課 程 履 修 説 明 会 介護等体験説明会 (第2回)	教 職 課 程 履 修 説 明 会 教 育 実 習 説 明 会 教育実習費納入 (¥12,000-) (但し, 中学校実習は¥18,000-)
5月				取 得 希 望 免 許 教 科 届 提 出
6月			教 育 実 習 内 諾 説 明 会 介 護 等 体 験 説 明 会 (第3・4・5回) ~ 7 月	教 育 実 習 中 学 校 (3 週 間) 高 等 学 校 (2 週 間)
7月			教育実習予定校訪問 (内諾依頼)	
8月			教 育 実 習 報 告 会	教 育 実 習 報 告 会
9月				
10月			教 育 実 習 内 諾 書 提 出	
11月				教育職員免許状申請手続説明会(第1回)
12月	教 職 課 程 履 修 希望者説明会 (教職課程履修希望願提出)			
1月				教育職員免許状申請手続説明会(第2回)
2月				
3月				免 許 状 授 与 (卒 業 式 当 日)

教職課程の履修について



(9) 教職課程履修規程

第1条 教育職員の免許状を得ようとする者は、教育職員免許法、同法施行規則及び鹿児島国際大学学則の定めるところに従い、所定の単位を修得しなければならない。

第2条 本学教職課程の履修によって取得できる免許状は次のとおりである。(経済学科の場合)

学 部	学 科	免 許 状 の 種 類	
		免 許 状	免許教科
経 済 学 部	経 済 学 科	中 学 校教諭一種免許状	社 会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史
		高等学校教諭一種免許状	公 民
		高等学校教諭一種免許状	商 業

第3条 前条の免許状を得ようとする者は、次表に示した基礎資格及び本学における最低修得単位数をみたさなければならない。(経済学科の場合)

学部	学科	免許状の種類	免許教科	基礎資格	本学における最低修得単位数				
					教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	大学が独自に設定する科目	特別支援教育に関する科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
経済学部	経済学科	中学校教諭一種免許状	社会	学士の学位を有すること。	30	29	第3条第3項参照 〔中学校4単位〕 〔高等学校12単位〕	—	9
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史		34	25			
		高等学校教諭一種免許状	公民		34	25			
		高等学校教諭一種免許状	商業		34	25			

2 前項に規定する「領域及び保育内容の指導法に関する科目」、「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」、「大学が独自に設定する科目」、「特別支援教育に関する科目」及び教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目については、別表第1から別表第5に掲げるとおりとする。

3 経済学部と福祉社会学部（社会福祉学科）、国際文化学部の「大学が独自に設定する科目」の最低修得単位数（中学校4単位、高等学校12単位）は、「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は教育職員免許法で定めた最低修得単位数（中学校28単位、高等学校24単位）を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」の選択科目も併せて修得することができる。

第4条 小学校教諭一種免許状又は中学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、介護等体験特例法に基づき、介護等体験を行わなければならない。

第5条 教職課程の履修についての細則は別に定める。

第6条 この規程の改廃は、教職課程・教育実習委員会、教授会及び大学評議会の審議を経て、学長の承認を得なければならない。

経済学部（経済学科・経営学科）

免許法施行規則に定める 科目及び単位数		ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目				
科 目 名	単位数		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数
日 本 国 憲 法	2	B_TEA103231	日本国憲法	2	1	共通教育科目	2
体 育	2	B_TEA107801	日常生活に生かすスポーツ科学	2	1	//	2
		B_TEA107801	現代社会とスポーツ	2	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅰ(屋内集団球技)	1	1	//	1
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅱ(屋内個人球技)	1	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅲ(個人種目)	1	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅳ(屋外個人球技)	1	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅴ(屋外集団球技)	1	1	//	
外国語コミュニケーション	2	B_TEA128311	英語オーラルコミュニケーションⅠ	1	1	//	2
		B_TEA128311	英語オーラルコミュニケーションⅡ	1	1	//	
		B_TEA138300	英語海外研修	2	1	//	
数理、データ活用及び 人工知能に関する科目 又は情報機器の操作	2	B_TEA100076	情報処理	2	1	//	2
合 計							9

経済学部（経済学科） 中学校教諭一種免許（社会）

免許法施行規則に定める 科目の区分		ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目					最低修得 単位数	
科目区分	各科目に含め ることが必要 な事項		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属			
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	日本史・外国史	B_TEA102100	日本史	2	1	共通教育科目	6	全体から更に2単位
			B_TEA102300	西洋史	2	1	//		
			B_TEA102200	東洋史	2	1	//		
			B_TEA103321	日本経済史	2	1	専門教育科目		
			B_TEA103320	西洋経済史Ⅰ	2	1	//		
			B_TEA203320	西洋経済史Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA203352	経営史Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA203352	経営史Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA103090	社会思想史Ⅰ	2	1	//		
			B_TEA103090	社会思想史Ⅱ	2	1	//		
			B_TEA203312	経済学史Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA203312	経済学史Ⅱ	2	2	//		
		地理学（地誌を含む。）	B_TEA302901	人文地理学概論	2	3	//	6	
			B_TEA304500	自然地理学概論	2	3	//		
			B_TEA302901	地誌学概論	2	3	//		
			B_TEA203329	経済地理学Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA203329	経済地理学Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA205190	環境経済論Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA205190	環境経済論Ⅱ	2	2	//		
		「法律学, 政治学」	B_TEA303210	法律学概論(国際法を含む)	2	3	//	2	
			B_TEA303110	政治学概論(国際政治を含む)	2	3	//		
			B_TEA103287	消費者法	2	1	//		
			B_TEA103240	民法入門	2	1	//		
			B_TEA103240	民法総論	2	1	//		
			B_TEA203230	憲法	4	2	//		
			B_TEA203330	経済法	2	2	//		
			B_TEA203410	地方財政論	2	2	//		
		「社会学, 経済学」	B_TEA103310	マクロ経済学入門	2	1	//	4	
			B_TEA103310	ミクロ経済学入門	2	1	//		
			B_TEA203310	マクロ経済学Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA203310	ミクロ経済学Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA303310	マクロ経済学Ⅱ	2	3	//		
			B_TEA103311	経済数学Ⅰ	2	1	//		
			B_TEA103311	経済数学Ⅱ	2	1	//		
			B_TEA203331	経済政策Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA203331	経済政策Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA206020	産業経済論Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA206020	産業経済論Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA103321	日本経済論Ⅰ	2	1	//		
			B_TEA103321	日本経済論Ⅱ	2	1	//		
			B_TEA206113	食料経済論	2	2	//		
			B_TEA206110	農業経済論	2	2	//		
		B_TEA203318	流通経済論Ⅰ	2	2	//			

全体から更に2単位

免許法施行規則に定める 科目の区分			ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目				
科目区分		各科目に含めることが必要な事項		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数
			B_TEA203318	流通経済論Ⅱ	2	2	//	
			B_TEA303389	国際金融論Ⅰ	2	3	//	
			B_TEA303389	国際金融論Ⅱ	2	3	//	
			B_TEA203336	国際経済論Ⅰ	2	2	//	
			B_TEA203336	国際経済論Ⅱ	2	2	//	
			B_TEA203322	アジア経済論	2	2	//	
			B_TEA303322	中国経済論	2	3	//	
			B_TEA303380	金融工学	2	3	//	
			B_TEA203311	数理経済学	2	2	//	
	「哲学，倫理 学，宗教学」	B_TEA101000	哲学	2	1	共通教育科目	2	
		B_TEA101500	倫理学	2	1	//		
	各教科の指導法（情 報通信技術の活用を 含む。）		B_TEA303750	社会科教育法Ⅰ	2	3	教職課程に関する科目	8
			B_TEA303750	社会科教育法Ⅱ	2	3	//	
			B_TEA303750	社会科教育法Ⅲ	2	3	//	
			B_TEA303750	社会科教育法Ⅳ	2	3	//	
合 計								30

経済学部（経済学科） 高等学校教諭一種免許（地理歴史）

免許法施行規則に定める 科目の区分			ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目					
科目区分		各科目に含め ることが必要 な事項		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	日 本 史	B_TEA102100	日本史	2	1	共通教育科目	2	全 体 か ら 更 に 18 単 位
			B_TEA103321	日本経済史	2	1	専門教育科目		
			B_TEA203352	経営史Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA203352	経営史Ⅱ	2	2	//		
		外 国 史	B_TEA102300	西洋史	2	1	共通教育科目	4	
			B_TEA102200	東洋史	2	1	//		
			B_TEA103320	西洋経済史Ⅰ	2	1	専門教育科目		
			B_TEA203320	西洋経済史Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA103090	社会思想史Ⅰ	2	1	//		
			B_TEA103090	社会思想史Ⅱ	2	1	//		
			B_TEA203312	経済学史Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA203312	経済学史Ⅱ	2	2	//		
		人文地理学・ 自然地理学	B_TEA302901	人文地理学概論	2	3	//	4	
			B_TEA304500	自然地理学概論	2	3	//		
			B_TEA203329	経済地理学Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA203329	経済地理学Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA205190	環境経済論Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA205190	環境経済論Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA206780	貿易論Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA206780	貿易論Ⅱ	2	2	//		
		地 誌	B_TEA302901	地誌学概論	2	3	//	2	
	各教科の指導法（情報通 信技術の活用を含む。）	B_TEA303750	地理歴史科教育法Ⅰ	2	3	教職課程に関する科目	4		
		B_TEA303750	地理歴史科教育法Ⅱ	2	3	//			
合 計								34	

経済学部（経済学科） 高等学校教諭一種免許（公民）

免許法施行規則に定める 科目の区分		ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目							
科目区分	各科目に含め ることが必要な事項		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数			
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	B_TEA303210	法律学概論(国際法を含む)	2	3	専門教育科目	2	全 体 か ら 更 に 22 単 位	
			B_TEA303110	政治学概論(国際政治を含む)	2	3	//			
			B_TEA103287	消費者法	2	1	//			
			B_TEA103240	民法入門	2	1	//			
			B_TEA103240	民法総論	2	1	//			
			B_TEA203230	憲法	4	2	//			
			B_TEA203330	経済法	2	2	//			
			B_TEA203410	地方財政論	2	2	//			
		「社会学，経済学（国際経済を含む。）」	B_TEA103310	マクロ経済学入門	2	1	//	4		
			B_TEA103310	ミクロ経済学入門	2	1	//			
			B_TEA203310	マクロ経済学Ⅰ	2	2	//			
			B_TEA203310	ミクロ経済学Ⅰ	2	2	//			
			B_TEA303310	マクロ経済学Ⅱ	2	3	//			
			B_TEA103311	経済数学Ⅰ	2	1	//			
			B_TEA103311	経済数学Ⅱ	2	1	//			
			B_TEA203331	経済政策Ⅰ	2	2	//			
			B_TEA203331	経済政策Ⅱ	2	2	//			
			B_TEA206020	産業経済論Ⅰ	2	2	//			
			B_TEA206020	産業経済論Ⅱ	2	2	//			
			B_TEA103321	日本経済論Ⅰ	2	1	//			
			B_TEA103321	日本経済論Ⅱ	2	1	//			
			B_TEA206113	食料経済論	2	2	//			
			B_TEA206110	農業経済論	2	2	//			
			B_TEA203318	流通経済論Ⅰ	2	2	//			
			B_TEA203318	流通経済論Ⅱ	2	2	//			
			B_TEA303389	国際金融論Ⅰ	2	3	//			
			B_TEA303389	国際金融論Ⅱ	2	3	//			
			B_TEA203336	国際経済論Ⅰ	2	2	//			
			B_TEA203336	国際経済論Ⅱ	2	2	//			
			B_TEA203322	アジア経済論	2	2	//			
			B_TEA303322	中国経済論	2	3	//			
			B_TEA303380	金融工学	2	3	//			
			B_TEA203311	数理経済学	2	2	//			
		「哲学，倫理学，宗教学，心理学」	B_TEA101000	哲学	2	1	共通教育科目	2		
			B_TEA101500	倫理学	2	1	//			
			B_TEA101401	心理学	2	1	//			
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	B_TEA303750	公民科教育法Ⅰ	2	3	教職課程に関する科目	4			
		B_TEA303750	公民科教育法Ⅱ	2	3	//				
合 計								34		

経済学部（経済学科） 高等学校教諭一種免許（商業）

免許法施行規則に定める 科目の区分		ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目						
科目区分	各科目に含め ることが必要 な事項		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	商業の関係科目	B_TEA103351	経営学総論	4	1	専門教育科目	4	全 体 か ら 更 に 22 単 位
			B_TEA103369	簿記原理	4	1	//		
			B_TEA203360	経営管理論Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA203360	経営管理論Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA203381	コーポレート・ファイナンス	2	2	//		
			B_TEA203381	証券論	2	2	//		
			B_TEA203353	中小企業論	2	3	//		
			B_TEA203369	会計学原理Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA203369	会計学原理Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA203369	中級簿記論	2	1	//		
			B_TEA203369	上級簿記論	2	1	//		
			B_TEA303367	マーケティング論Ⅰ	2	3	//		
			B_TEA303367	マーケティング論Ⅱ	2	3	//		
			B_TEA106701	商学総論Ⅰ	2	1	//		
			B_TEA106701	商学総論Ⅱ	2	1	//		
			B_TEA303391	保険論	2	3	//		
			B_TEA103311	統計学Ⅰ	2	1	//		
			B_TEA103311	統計学Ⅱ	2	1	//		
			B_TEA203380	金融論Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA203380	金融論Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA303310	ミクロ経済学Ⅱ	2	3	//		
			B_TEA203250	商法	4	2	//		
			B_TEA203252	会社法	4	2	//		
	職業指導	B_TEA303752	職業指導Ⅰ	2	3	//	4		
		B_TEA303752	職業指導Ⅱ	2	3	//			
各教科の指導法（情報通 信技術の活用を含む。）	B_TEA303750	商業科教育法Ⅰ	2	3	教職課程に関する科目	4			
	B_TEA303750	商業科教育法Ⅱ	2	3	//				
合 計								34	

別表第3 大学が独自に設定する科目

中学校教諭一種免許・高等学校教諭一種免許

免許法施行規則に定める 科目の区分	ナンバリング コード	左記に対応する開設科目				
		授業科目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数
大学が独自に設定する科目	B_TEA200170	学習指導と学校図書館	2	2	司書教諭課程	教職課程 履修規程 第3条第 3項参照
	B_TEA200170	読書と豊かな人間性	2	2	//	
	B_TEA333761	離島教育の理解と体験的活動	2	3	教職課程に関する科目	
	B_TEA103617	地域創生Ⅰ	2	1	共通教育科目 経営学科専門教育科目	
	B_TEA103617	地域創生Ⅱ	2	1	//	
	B_TEA103336	地域から世界へ	2	1	共通教育科目	

別表第4 教育の基礎的理解に関する科目等

中学校教諭一種免許・高等学校教諭一種免許

免許法施行規則に定める科目区分等				ナンバリング コード	左記に対応する開設科目		最低修得単位数					
区分	科目	各科目に含めることが必要な事項	最低修得 単位数				中学校		高等学校		計	備 考
					必修	選択	必修	選択				
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	B_TEA203750	教育原理	2	2		2	2		
		・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		B_TEA203750	教職概論	2	2		2	2		
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		B_TEA203750	学校の制度	2	2		2	2		
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		B_TEA203714	教育心理学	2	2		2	2		
		・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		B_TEA303780	特別支援教育論	3	2		2	2		
		・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		B_TEA303750	教育課程論	3	2		2	2		
		第四欄		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳の理論及び指導法	中10 高8	B_TEA203750	道徳教育の指導法	3	2		
・総合的な学習（探究）の時間の指導法	B_TEA303750		特別活動・総合的な学習の時間		3		2		2			
・特別活動の指導法												
・教育の方法及び技術	B_TEA303750		教育の方法及び技術（情報通信技術の活用を含む）		3		2		2		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。	
・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法										進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を含む。		
・生徒指導の理論及び方法	B_TEA303752		生徒・進路指導論		3		2		2			
・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	B_TEA303752		学校教育相談		3		2		2			
・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法												
第五欄	教育実践に関する科目		教育実習		中5 高3		B_TEA333750	教育実習Ⅰ	4	5		
				B_TEA333750	教育実習Ⅱ	4			3			
		教職実践演習	2	B_TEA313750	教職実践演習（中・高）	4	2		2		2	
			中27 高23			合 計		中29 高25		中29 高25		

注）「中学校教諭」又は「中学校教諭及び高校教諭」の免許を取得する場合は、「教育実習Ⅰ」の単位を修得しなければなりません。「高校教諭」の免許のみ取得の場合は、「教育実習Ⅱ」の単位を修得してください。

以下の科目については、卒業指定科目として登録できます。なお、卒業所要単位として登録を希望する場合は、指定する期日までに「卒業指定科目等登録願」を必ず提出してください。また、「卒業指定科目等登録願」は提出した年度のみ有効です。

教 育 原 理	教 職 概 論	学 校 の 制 度
教 育 心 理 学	教 育 課 程 論	教育の方法及び技術（情報通信技術の活用を含む）

(10) 教職課程履修細則

第1条 教職課程履修規程第5条により、教職課程の履修に関する細則を次のとおり定める。

第2条 教職課程を履修できる者は、教育職員免許法及び本学学則の定めるところにより、本学学生及び科目等履修生とする。

第3条 本学教職課程の履修によって取得できる教育職員免許状は、次のとおりである。(経済学科の場合)

学 部	学 科	免 許 状 の 種 類	
		免 許 状	免許教科
経 済 学 部	経 済 学 科	中 学 校教諭一種免許状	社 会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史
		高等学校教諭一種免許状	公 民
		高等学校教諭一種免許状	商 業

第4条 教育職員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法、同法施行規則及び学則に従い、所定の単位を修得しなければならない。

2 中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状に係る教育の基礎的理解に関する科目等において開設される「教職概論」「教育原理」「教育心理学」「学校の制度」「教育課程論」及び「教育の方法及び技術（情報通信技術の活用を含む）」の修得単位は、所定の手続きを経て卒業に必要な単位に算入することができる。

第5条 削 除

第6条 教職課程は、第2年次から履修できるが、第4年次からの履修は認めない。

ただし、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状の教職課程を履修できる者は、次の要件をみたした者でなければならない。

- (1) 第2年次から履修する者は、1年次終了までに卒業所要単位を37単位以上修得し、修得した全科目の平均点が75点以上の者。
- (2) 第3年次から履修する者は、2年次終了までに卒業所要単位を78単位以上修得し、修得した全科目の平均点が75点以上の者。
- (3) 編入学生の場合は編入学前に修得した卒業所要単位全科目の平均点が75点以上の者。

第7条 「教育実習（幼・小）」（幼稚園・小学校の免許状を取得する者。）を履修できる者は、原則として次の別表1に掲げる教職課程に関する科目の単位を修得した者でなければならない。「教育実習Ⅰ」（中学校の免許状を取得する者。高等学校の免許状を併せて取得する者を含む。）又は「教育実習Ⅱ」（高等学校の免許状を取得する者。）を履修できる者は、次の別表2に掲げる教職課程に関する科目を修得し、実習を実施する教科において、本学で定める教科に関する専門的事項の最低修得単位数の半数以上の単位数を修得した者でなければならない。

(別表1) (略)

(別表2) (経済学科の場合)

教 職 課 程 に 関 す る 科 目			
中学社会	地理歴史	公民	商業
教育原理	教育原理	教育原理	教育原理
教職概論	教職概論	教職概論	教職概論
教育心理学	教育心理学	教育心理学	教育心理学
社会科教育法Ⅰ	地理歴史科教育法Ⅰ	公民科教育法Ⅰ	商業科教育法Ⅰ
社会科教育法Ⅱ	地理歴史科教育法Ⅱ	公民科教育法Ⅱ	商業科教育法Ⅱ

2 (略)

3 1, 2 項の条件をみたした者であっても当該年度に卒業の見込みがない者は「教育実習 (幼・小)」, 「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」及び「特別支援教育実習」の履修を認めない。

4 1, 2, 3 項の条件をみたした者であっても「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」, 「特別支援教育実習」履修資格認定時までの教職課程履修期間中に、学則第41条の規定に基づき懲戒処分を受けた者については、「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」, 「特別支援教育実習」の履修を認めないことがある。

5 (略)

第8条 第6条及び前条の要件をみたさない者でも教職課程履修者として適当と思われる者については選考のうえ、履修を認めることがある。

2 交換留学生及び認定留学生については留学制度の主旨を尊重し、留学終了後の履修認定について特別に配慮することがある。

第9条 第7条及び第8条に基づき、一旦「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」, 「特別支援教育実習」の履修を認められた者であっても、以下に示す事由により、実習校での実習を中止しかつ当該科目の履修を取り消すことがある。

(1) 当該科目の実習事前指導の講義に、特別な理由なく、欠席・遅刻する者。

(2) 教育実習にかかわる説明会に、特別な理由なく、欠席・遅刻する者。

(3) 教育実習に耐えうる健康状態にないと判断される者。

(4) 実習校での実習中に、実習生として著しく相応しくない言動があった者。

(5) 第7条及び第8条に基づく当該科目履修資格認定後、学則第41条の規定に基づき、懲戒処分を受けた者。

(6) その他、教育実習の実施に特別な支障がある場合。

第10条 (略)

第11条 「教職実践演習」は、履修予定年度の前期成績発表時まで「教育実習 (幼・小)」(児童学科), 「教育実習Ⅰ」(児童学科以外の学生), 「教育実習Ⅱ」(児童学科以外の学生) の単位を修得した者、又は履修予定年度後期に同時に「教育実習 (幼・小)」, 「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」の単位を修得する予定の者のみが履修できる。ただし、履修年度後期に「教育実習 (幼・小)」, 「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」の単位修得予定者がその単位を修得できなかった場合、同時期に履修する「教職実践演習」は履修取り消し又は評価「無効」とする。

第12条 教職課程履修希望者は、履修費を納入しなければならない。

また、「教育実習 (幼・小)」, 「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」及び「特別支援教育実習」を履修する者、介護等体験を行う者は、所定の期日までに次の表に掲げる実習費を納入しなければならない。

(別表) 納 入 金 (経済学科以外は略)

区 分	金 額
教 職 課 程 履 修 費	10,000円
教育実習費 (教育実習Ⅰ)	18,000円
教育実習費 (教育実習Ⅱ)	12,000円
介 護 等 体 験 費	実 費

第13条 履修費・実習費等は、どのような理由があっても返金しない。

【地域人材育成プログラム（経済学科）】

地域人材育成プログラムは、地域に貢献できる人材を育成するために実施している教育プログラムです。詳細はP42を参照してください。

	科目名	ナンバリング コード	授業科目	単位 数	年次 配当	所属	プログラム修 了所要単位数	
(1)	地域志向科目	B_GEN103617	地域創生Ⅰ	2	1	共通教育科目	2	合計16 単位 (③参照)
		B_GEN103617	地域創生Ⅱ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN103336	地域から世界へ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN110000	かごしま教養プログラム	2	1	共通教育科目		
		B_GEN110000	かごしまフィールドスクール	2	1	共通教育科目		
		B_GEN102100	Japanology	2	1	共通教育科目		
		B_GEN100000	教養特講Ⅰ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN100000	教養特講Ⅱ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN100000	教養特講Ⅲ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN100000	教養特講Ⅳ	2	1	共通教育科目		
(2)	キャリアデザイン科目	B_GEN116070	コミュニケーション力育成	2	1	共通教育科目	2	
		B_GEN206070	論理的思考と数的処理	2	2	共通教育科目		
		B_GEN216070	キャリア形成のための文章力育成	2	3	共通教育科目		
(3)	地域人材育成科目	B_ECO103329	鹿児島経済論	2	1	専門教育科目	8	
		B_ECO203410	地方財政論	2	2	専門教育科目		
		B_ECO203329	地域経済論	2	2	専門教育科目		
		B_ECO206110	農業経済論	2	2	専門教育科目		
		B_ECO206113	食料経済論	2	2	専門教育科目		
		B_ECO330027	経済調査実習	4	3	専門教育科目		
		B_ECO203353	中小企業論	2	3	専門教育科目		
		B_ECO236070	国内インターンシップ	2	2	専門教育科目		
		B_ECO236070	海外インターンシップ	3	2	専門教育科目		
(4)	地域フィールド演習 (①参照)	B_ECO210027	基礎演習Ⅰ	2	2	専門教育科目	4	
		B_ECO210027	基礎演習Ⅱ	2	2	専門教育科目		
		B_ECO310027	演習Ⅰ (②参照)	2	3	専門教育科目		
		B_ECO310027	演習Ⅱ	2	3	専門教育科目		

（履修上の注意事項）

- ①地域を研究のフィールドとした基礎演習（Ⅰ・Ⅱ）、演習（Ⅰ・Ⅱ）を「地域フィールド演習」として認定します。
 - ②3年次前期終了までに(1)～(3)（10単位）と地域フィールド演習としての演習Ⅰ（2単位）を修得した学生に対し、「地域人材育成プログラム修了見込証明書」を発行します。
 - ③最低取得単位数（合計16単位）を修得した学生に対し、卒業時に「地域人材育成プログラム修了証」を申請に基づいて授与します。
- 地域志向科目をとおして鹿児島に関心と愛着（地域マインド）を持ち、キャリアデザイン科目をとおして就業力を身につけ、地域人材育成科目で専門的に地域を学び、そして地域フィールド演習でフィールドワークを取り入れた地域研究に取り組む。これらの一連の教育プログラムを修了することで、地域に必要とされる人材を育成します。
 - 地域人材育成プログラム修了証（地域人材育成プログラム修了見込証明書）は、地域人材育成プログラムを修了した（修了見込である）ことを大学が証明するものです。これを県内企業での就職活動（エントリーシート、履歴書、就職面接など）で使うことで、あなたの鹿児島への関心、知識、思いが強く深いことをアピールできます。詳しくは、産学官地域連携センターに相談してください。

経営学科

(1) 経営学科の目的

経営学科は、経営や地域創生に関する専門的な教育研究を行い、企業経営及び地域再生・活性化に必要な知識、技能、意思決定力、さらに現場での実践力を備えた地域社会の発展に貢献する人材を養成することを目的とします。

(2) ディプロマ・ポリシー

経営学科は、目的を達成するために、所定の単位を修得したことにより、次のような段階に到達したと評価される学生に学位を授与します。

(知識・技能)

DP1 国際化するビジネスや地域社会について、十分な知識・技能を身に付けている。

(思考・判断・表現)

DP2 身に付けた知識・技能を用いて、思考し、自分で判断し、自分の考えを人々に伝えることができる。

(関心・意欲・態度)

DP3 国際化するビジネスや地域社会が抱える課題に関心を持ち、関わることができる。

(3) カリキュラム・ポリシー

経営学科は、目的とディプロマ・ポリシーを達成するために、次の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

CP1 学生一人一人の個性を伸ばし、ビジネスや地域への探究心を育む教育を最重要視します。

これを実践するために、教員一人一人と少人数の学生とが交流しながら学び合うゼミナール形式の授業が、4年間ずっと経営学科のカリキュラムには配置されています。1年次の新入生ゼミナールをはじめ、2年次から始まる演習科目（ゼミナール）では、学生のコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を含む総合的な判断能力を醸成するのはもちろん、教員がサポートしながら、卒業に向けて学生が勉強したいことを卒業研究としてまとめていきます。

CP2 幅広い視野と豊かな人間性を得られる教養と深い思考の土台となる専門性を重視します。

経営学科のカリキュラムでは、短期間では習得の両立が難しいこれら2つを学ぶ量のバランスが最適化されています。1年次を中心に共通教育科目で教養を身に付けたあと、2年次からは、経営学や会計学の知識や思考方法の修得のほか、自己の目指す進路に合わせて、マーケティング、統計学、情報処理、観光産業、まちづくり等も専門的に学べます。

CP3 国内・海外インターンシップやフィールドワークによって現場での意思決定と実践を体験し、国際化する地域ビジネスや地域社会で活躍する能力を養成します。

(4) アドミッション・ポリシー

経営学科は、目的、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、本学での学修を目指す次のような人を国内外に広く求めます。

(知識・技能)

AP1 経営学科の教育を受けるのに必要な高等学校の教育課程を修得している人。

AP2 経営を学ぶための基礎的な能力（読む力、書く力、考える力）を備えている人。

(思考・判断・表現)

AP3 身近な問題を多面的・論理的に考え説明できる人。

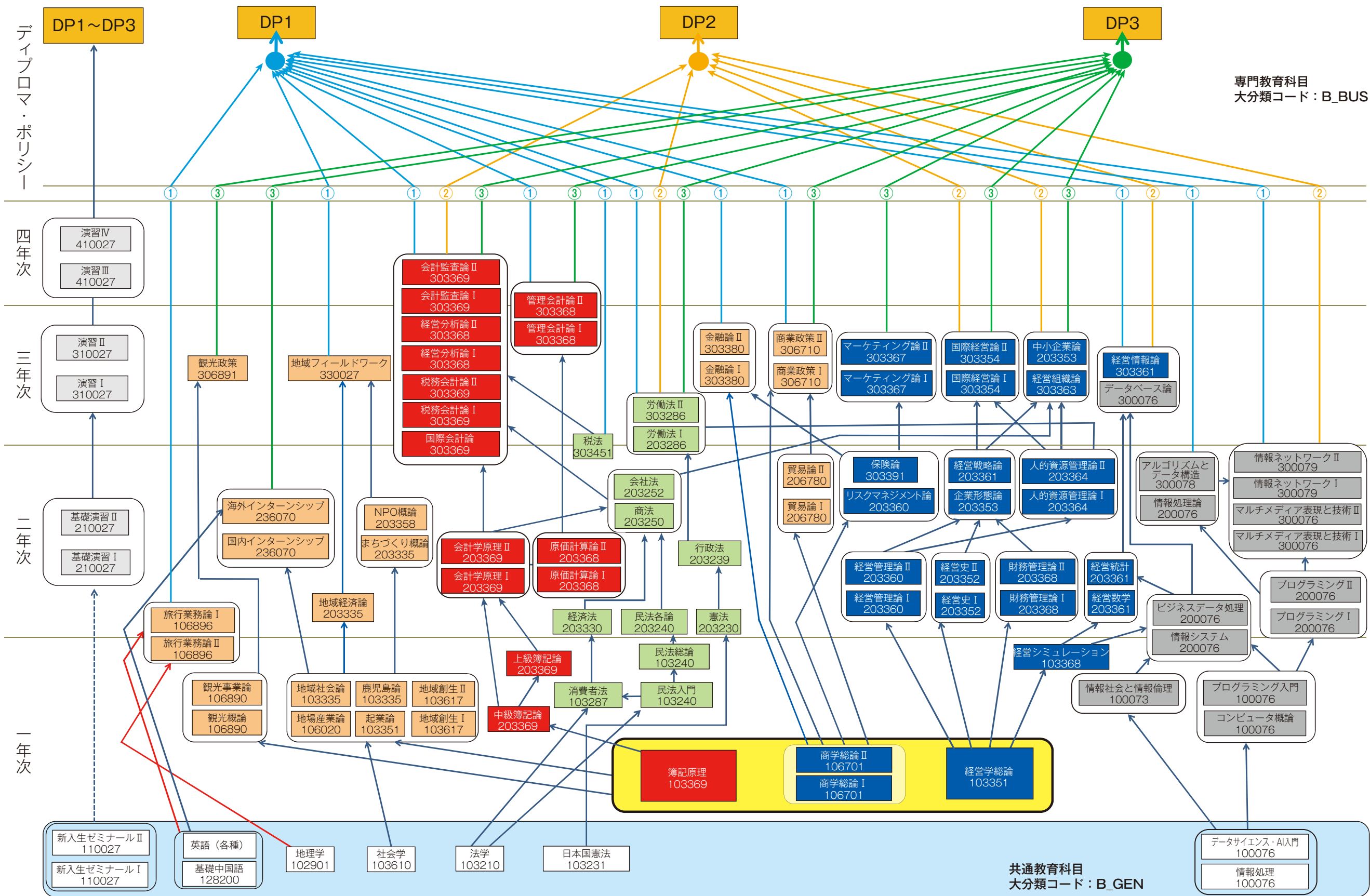
(関心・意欲・態度)

AP4 将来、地域社会やビジネス社会で活躍したいという意欲のある人。

AP5 独立した経営者になることや社会や企業で役立つ資格・技能の取得を目指す人。

AP6 観光について学び、その知識を地域の振興に活かしたい人。

経営学科カリキュラムマップ



DP1：国際化するビジネスや地域社会について、十分な知識・技能を身につけている。

DP2：身につけた知識・技能を用いて、思考し、自分で判断し、自分の考えを人々に伝えることができる。

DP3：国際化するビジネスや地域社会が抱える課題に関心を持ち、関わるることができる。

経済学部 経営学科

大学で提供されている科目は、共通教育科目と専門教育科目の2つのグループに大きく分かれます。卒業するためには、この2つのグループにそれぞれ配当されている科目を、一定の条件にそって履修し、単位を修得しなければなりません。資格や免許を取得したい人は、これらとは別に設置された、それぞれの資格（免許）課程を履修し、各課程が定める条件にそって科目を履修することになります。所定の年限で卒業（学士の称号を取得）し、必要な資格や免許を取得するためには、この全体のカリキュラム（教育課程）の組み立てをよく頭に入れたうえで、計画的に科目を履修していく必要があります。

1 共通教育科目

(1) 共通教育科目のねらい

大学に入学したみなさんが所属の学部・学科を問わず、まずは重点的に履修しなければならないのが共通教育科目であり、そのねらいは3つあります。それは、1) 大学で学ぶための基礎的な知識と技能を育成し、2) 将来の人生設計を構想し（キャリアデザイン）、3) 各自の専攻分野への関心を深めていくというものです。

(2) 履修科目を決定するために

「科目」の選択にあたっては、「科目表」と「時間割表」とを参照しながら、履修すべき科目を選択する必要があります。最初に、当該年次のうち、必修科目と履修指定科目とが時間割のどの時限にあてられているかをチェックします。その年次において必ず履修しなければならないからです。上記以外の科目については、その選択にあたって、みなさんの主体性が要求されます。

1年次を例にとると、まず、「新入生ゼミナールⅠ」、「新入生ゼミナールⅡ」、「データサイエンス・AI入門」及び「情報処理」が履修指定になっています。さらにコミュニケーションスキルズ科目から所定の単位を修得しなければなりません。指定に注意しながら、優先的に履修しましょう。

次いで、「時間割表」と対照しながら、共通教育科目と低年次配当の専門教育科目とを同時に検討します。この際、カリキュラムマップ、ナンバリングコードを参考にしながら、『授業内容（シラバス）』を熟読してください。自分の学びの方向性を展望しながら、履修の順序もよく考えて、しっかりとした履修計画を立てなければなりません。（ただし、「時間割表」は毎年変わりますので、今年度の「時間割表」で4年間の履修計画を完全に立ててしまうことはできません。）共通教育科目を2・3・4年次で履修することはさしつかえありませんが、できるだけ早い年次で単位を修得するほうが望ましいです。特に、教職課程の履修を希望する学生は周知な履修計画を立て、確実に単位を修得していかなければ後の履修にさしつかえます。

(3) 共通教育科目の履修方法

経営学科は、人間教養科目の「人文科学」、「社会科学」、「自然科学」、「地域志向」の4主題から6単位以上を修得しなければなりません。また、コミュニケーションスキルズ科目からは、英語のコア科目の「英語オーラル・コミュニケーションⅠ」、「英語オーラル・コミュニケーションⅡ」（各1単位）、「英語海外研修」（2単位）から2単位以上を修得する必要があります。さらに基礎科目、人間教養科目、コミュニケーションスキルズ科目、スポーツ・健康科目の全体から単位を修得して合計単位数を卒業所要単位数である30単位以上にしなければなりません。なお、「新入生ゼミナールⅠ」、「新入生ゼミナールⅡ」、「データサイエンス・AI入門」、「情報処理」（各2単位）は履修指定ですから、必ず履修してください。

(4) キャリアデザイン科目

キャリアデザイン科目は、学生のキャリア形成を支援する目的で設置しています。「コミュニケーション力育成」では、社会人基礎力やコミュニケーションに関する理論を学び、実践を通してコミュニケーション力を高めることができます。「論理的思考と数的処理」では、数学の基礎を固め、就職試験の準備をします。

(5) 「かごしま教養プログラム」と「かごしまフィールドスクール」について

共通教育科目の地域志向の中に設置されている「かごしま教養プログラム」と「かごしまフィールドスクール」は、「グローバル教養教育」として鹿児島県内の全大学・短大・高専の学生を対象として実施される連携教育プログラムの一部です。(詳しくは P44を参照)

なお、地域志向科目は、私たちが生活と学びの場としている地域の実情を知り、その課題を発見し、解決策を提案したり、実際に課題解決のための活動に取り組んだりする科目群です。

2 専門教育科目

経営学科は、経営や地域創生に関する専門的な教育研究を行い、企業経営及び地域再生・活性化に必要な知識、技能、意思決定力、さらに現場での実践力を備えた、地域社会の発展に貢献する人材を育成することを目的としています。

卒業に必要な経営学科の専門教育科目の単位数は94単位以上です。カリキュラムマップを参考にしながら、自分の学びの方向性を展望して、履修計画を立ててください。

(1) 経営学科基本科目の履修

みなさんは、まず1年次に共通教育科目を中心に履修しますが、専門教育科目の一部も履修することができます。その際は、1年次に配当されている「経営学科基本科目」から履修してください。「経営学科基本科目」のなかでも「簿記原理」は必修科目で、修得しなければ卒業できません。また、「経営学総論」、「商学総論Ⅰ」、「商学総論Ⅱ」は選択必修科目で、このうちから4単位以上修得することが必要です。

(2) 経営学科専門科目の履修

「経営学科基本科目」を学んだあと、2年次になると経営学科の専門教育科目を履修することになります。ビジネス社会で活躍したい人、将来の起業や家業の引き継ぎをめざす人、流通・金融分野をめざす人、会計や情報に関する資格や技能を身につけたい人、地域社会のために活躍したい人、観光の知識を地域振興に活かしたい人、将来進みたい方向はいろいろ考えられますが、いずれの方向に進むにも必要な「経営学科専門科目」から履修してください。

「経営学科専門科目」には、「組織マネジメント領域」の科目と「会計領域」の科目があります。これらの科目は経営学科の中核となる科目であり、是非とも修得することが望ましい科目ですから、最優先で履修してください。「組織マネジメント領域」から16単位以上、「会計領域」から12単位以上、修得することが必要です。なお、専門教育科目の一部は、1年次にも履修することができます。

(3) 経営学科専門関連科目の履修

さらに経営学科では、自己のめざす進路に合わせて、金融関係、情報処理、観光産業、まちづくり等に関わる科目を、「経営学科専門関連科目」の「地域ビジネス領域」と「情報領域」から履修することができます。

「地域ビジネス領域」と「情報領域」で8単位以上、修得することが必要です。

(4) 法学科目

「法学科目」は、経済経営と密接な関係のある法律を学ぶ科目で、6単位以上修得することが必要です。公務員試験などには大いに役立つ科目ですから、希望進路に合わせて選択履修してください。

(5) 演習の科目

演習の科目は、通常はゼミ（ゼミナール）と呼ばれているもので、担当教員の助言・指導のもとに少人数の学生が集まって研究し、発表・討論などをおこなうものです。学生自らが文献・資料を探したり、調査したり、発表したりするなどの学生自身の主体的・能動的な姿勢が求められます。他方、通常の講義では得られにくい他の学生や教員との交流・親睦を深めることもできます。研究テーマや運営の方法は演習ごとに多彩です。2年次には「基礎演習Ⅰ」、「基礎演習Ⅱ」、3年次には「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、4年次には「演習Ⅲ」、「演習Ⅳ（卒業研

究含む)」があります。

① 「基礎演習Ⅰ」・「基礎演習Ⅱ」

「基礎演習Ⅰ」は2年次前期に開講される科目（2単位）,「基礎演習Ⅱ」は2年次後期に開講される科目（2単位）です。本格的な専門研究に入る前の専門研究のウォーミングアップであり、専門研究への入門的なテーマでおこなわれます。「基礎演習Ⅰ」も「基礎演習Ⅱ」も、3年次からの専門ゼミへの橋渡しをする演習で、履修指定科目ですから、経営学科の学生は全員が2年次に履修しなければなりません。「基礎演習Ⅰ」,「基礎演習Ⅱ」は学科を超えて選択することができます。

② 「演習Ⅰ」・「演習Ⅱ」・「演習Ⅲ」・「演習Ⅳ（卒業研究含む）」

「演習Ⅰ」は3年次前期に,「演習Ⅱ」は3年次後期に開講され,「演習Ⅲ」は4年次前期に,「演習Ⅳ（卒業研究含む）」は4年次後期に開講されます。「演習Ⅰ」から「演習Ⅲ」までは2単位科目ですが,「演習Ⅳ（卒業研究含む）」は卒業研究が含まれていますので4単位科目になっています。同じ教員の下で、原則として2年間かけて本格的な専門研究のテーマでおこなわれ,4年次後期には卒業研究（卒業論文など）を仕上げます。「演習Ⅰ～Ⅳ（卒業研究含む）」は履修指定科目ですから、経営学科の学生は3年次から全員が履修しなければなりません。「演習Ⅰ～Ⅳ（卒業研究含む）」は学科を超えて選択することができます。

(6) その他の専門教育科目

その他、特定の学問系列にとらわれない総合的なテーマや特殊なテーマで開講する「経営特講」、実践的な外国語を修得したり、外国語の文献を読んだりする「外書講読」などが置かれています。

また、経済学科の専門教育科目で構成される「関連科目」や「他学部・他学科開設及び教職・資格課程開設科目」も経営学科専門教育科目の卒業所要単位として認められます。なお,「他学部・他学科開設及び教職・資格課程開設科目」は16単位の範囲内で受講できます。

3 履修上の留意点

(1) 年次配当の意味

「年次配当」は、科目の種類によって、少し意味が異なります。

履修指定科目となっている科目は、その年次において必ず履修しなければなりません。特に「新入生ゼミナール」は、1年次のみ履修することができます。万が一、単位を修得できなかった場合は、再履修できませんので、その不足単位は他の科目の履修で補わなければなりません。

履修指定科目以外の科目は、配当された年次以降に履修することができます。例えば,「2年次配当」というのは,「2年次以降に履修できる」ということを意味します。「3年次配当」であれば「3年次以降…」というようになります。履修できる年次になったら、できるだけ早い年次で履修することが望ましいですが、履修計画によっては高年次で履修してもさしつかえありません。

(2) 再履修について

さてみなさん、ここで肝に銘じておいてほしいことがあります。コミュニケーションスキルズ科目の選択必修科目、専門教育科目の必修科目を落としてしまった場合、翌年度以降に再履修しなければなりません。できるだけ努力して当該年次にこれらの科目の単位を修得してください。

経営学科共通教育科目

科目区分		ナンバリング コード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数	
基礎科目	新入生ゼミナール	B_GEN110027	新入生ゼミナールⅠ	2	1	履修指定 (注)①参照	
		B_GEN110027	新入生ゼミナールⅡ	2	1		
	数理・データサイ エンス・AI	B_GEN100076	データサイエンス・AI 入門	2	1		
		B_GEN100076	情報処理	2	1		
	B_GEN104170	確率と統計	2	1			
	キャリアデザイン	B_GEN116070	コミュニケーション力育成	2	1		
		B_GEN116070	キャリア形成のための一般教養Ⅰ	2	1		
		B_GEN116070	キャリア形成のための一般教養Ⅱ	2	1		
		B_GEN216070	キャリア形成のための一般教養Ⅲ	2	3		
		B_GEN216070	キャリア形成のための一般教養Ⅳ	2	3		
B_GEN206070		論理的思考と数的処理	2	2			
B_GEN216070	キャリア形成のための文章力育成	2	3				
人間教養科目	人文科学	B_GEN109100	日本文学	2	1	6単位以上	共通教育科目合計30単位以上
		B_GEN109300	外国文学	2	1		
		B_GEN107610	音楽文化論	2	1		
		B_GEN102100	日本史	2	1		
		B_GEN102300	西洋史	2	1		
		B_GEN102200	東洋史	2	1		
		B_GEN102090	東西文化の交流	2	1		
		B_GEN101000	哲学	2	1		
		B_GEN101500	倫理学	2	1		
		B_GEN101401	心理学	2	1		
	社会科学	B_GEN103210	法学	2	1		
		B_GEN103231	日本国憲法	2	1		
		B_GEN103110	政治学	2	1		
		B_GEN103310	経済学	2	1		
		B_GEN103610	社会学	2	1		
		B_GEN102901	地理学	2	1		
		B_GEN103000	社会科学概論	2	1		
	自然科学	B_GEN104100	数学Ⅰ	2	1		
		B_GEN104100	数学Ⅱ	2	1		
		B_GEN104600	生命科学	2	1		
		B_GEN104680	環境科学	2	1		
	地域志向	B_GEN102100	Japanology	2	1		
		B_GEN103336	地域から世界へ	2	1		
		B_GEN110000	かごしま教養プログラム	2	1		
		B_GEN110000	かごしまフィールドスクール	2	1		
		B_GEN133697	ボランティア活動	2	1		
		B_GEN100000	教養特講Ⅰ	2	1		
		B_GEN100000	教養特講Ⅱ	2	1		
B_GEN100000		教養特講Ⅲ	2	1			
B_GEN100000		教養特講Ⅳ	2	1			
コミュニケーション スキルズ科目	英語	B_GEN128311	英語オーラル・コミュニケーションⅠ	1	1	2単位以上 (注)②参照	
		B_GEN128311	英語オーラル・コミュニケーションⅡ	1	1		
		B_GEN138300	英語海外研修	2	1		
		B_GEN128377	英語リーディング	1	1		
		B_GEN128360	英語ライティング	1	1		
	関連	B_GEN108375	英文読解の技法	2	1		
		B_GEN108300	TOEIC・TOEFL 対策	2	1		
		B_GEN118350	コミュニケーションのための英文法	2	1		
		B_GEN118378	Global Economy and Business	2	1		

科目区分			ナンバリング コード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数	
	第二外国語	中国語	B_GEN128200	基礎中国語Ⅰ	1	1		
			B_GEN128200	基礎中国語Ⅱ	1	1		
			B_GEN138200	中国語海外研修	2	1		
		フランス語	B_GEN128500	基礎フランス語Ⅰ	1	1		
			B_GEN128500	基礎フランス語Ⅱ	1	1		
		ドイツ語	B_GEN128400	基礎ドイツ語Ⅰ	1	1		
			B_GEN128400	基礎ドイツ語Ⅱ	1	1		
		韓国語	B_GEN128291	基礎韓国語Ⅰ	1	1		
			B_GEN128291	基礎韓国語Ⅱ	1	1		
			B_GEN138291	韓国語海外研修	2	1		
		日本語 (留学生科目)	B_GEN128100	日本語入門Ⅰ	2	1		
			B_GEN128100	日本語入門Ⅱ	2	1		
			B_GEN108100	留学生のための日本事情	2	1		
	スポーツ・健康科目	講義	B_GEN107801	日常生活に生かすスポーツ科学	2	1		
			B_GEN107801	現代社会とスポーツ	2	1		
		実習	B_GEN127800	スポーツ実習Ⅰ（屋内集団球技）	1	1		
			B_GEN127800	スポーツ実習Ⅱ（屋内個人球技）	1	1		
			B_GEN127800	スポーツ実習Ⅲ（個人種目）	1	1		
			B_GEN127800	スポーツ実習Ⅳ（屋外個人球技）	1	1		
			B_GEN127800	スポーツ実習Ⅴ（屋外集団球技）	1	1		

(注)

- ① 新入生ゼミナールⅠ，新入生ゼミナールⅡ，データサイエンス・AI入門及び情報処理は，履修指定とし，配当された年次に全員必ず登録し授業を受けなければならない。なお，新入生ゼミナールⅠ及び新入生ゼミナールⅡの再履修はできない。
- ② コミュニケーションスキルズ科目の英語は，コア科目の英語オーラル・コミュニケーションⅠ及び英語オーラル・コミュニケーションⅡ又は英語海外研修から2単位以上を修得しなければならない。

経営学科専門教育科目

科目区分		ナンバリングコード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数	
基本科目	必修科目	B_BUS103369	簿記原理	4	1	4単位	
	選択必修	B_BUS103351	経営学総論	4	1	4単位以上	
		B_BUS106701	商学総論Ⅰ	2	1		
		B_BUS106701	商学総論Ⅱ	2	1		
専門科目	組織マネジメント領域	B_BUS203360	経営管理論Ⅰ	2	2	16単位以上	合計 94単位以上
		B_BUS203360	経営管理論Ⅱ	2	2		
		B_BUS203361	経営戦略論	2	2		
		B_BUS203352	経営史Ⅰ	2	2		
		B_BUS203352	経営史Ⅱ	2	2		
		B_BUS203353	企業形態論	2	2		
		B_BUS203364	人的資源管理論Ⅰ	2	2		
		B_BUS203364	人的資源管理論Ⅱ	2	2		
		B_BUS203368	財務管理論Ⅰ	2	2		
		B_BUS203368	財務管理論Ⅱ	2	2		
		B_BUS303363	経営組織論	2	3		
		B_BUS203353	中小企業論	2	3		
		B_BUS303354	国際経営論Ⅰ	2	3		
		B_BUS303354	国際経営論Ⅱ	2	3		
		B_BUS103368	経営シミュレーション	2	1		
		B_BUS203361	経営統計	2	2		
		B_BUS303361	経営情報論	2	3		
		B_BUS203361	経営数学	2	2		
		B_BUS303391	保険論	2	2		
		B_BUS203360	リスクマネジメント論	2	2		
		B_BUS303367	マーケティング論Ⅰ	2	3		
		B_BUS303367	マーケティング論Ⅱ	2	3		
	会計領域	B_BUS203369	会計学原理Ⅰ	2	2	12単位以上	
		B_BUS203369	会計学原理Ⅱ	2	2		
		B_BUS203369	中級簿記論	2	1		
		B_BUS303369	国際会計論	2	3		
		B_BUS203368	原価計算論Ⅰ	2	2		
		B_BUS203368	原価計算論Ⅱ	2	2		
		B_BUS303368	管理会計論Ⅰ	2	3		
		B_BUS303368	管理会計論Ⅱ	2	3		
		B_BUS303369	会計監査論Ⅰ	2	3		
		B_BUS303369	会計監査論Ⅱ	2	3		
		B_BUS303368	経営分析論Ⅰ	2	3		
		B_BUS303368	経営分析論Ⅱ	2	3		
		B_BUS303369	税務会計論Ⅰ	2	3		
		B_BUS303369	税務会計論Ⅱ	2	3		
		B_BUS203369	上級簿記論	2	1		
専門関連科目	地域ビジネス領域	B_BUS103617	地域創生Ⅰ	2	1	8単位以上	
		B_BUS103617	地域創生Ⅱ	2	1		
		B_BUS103335	鹿児島論	2	1		
		B_BUS106020	地場産業論	2	1		
		B_BUS103351	起業論	2	1		
		B_BUS203358	NPO 概論	2	2		
		B_BUS203335	まちづくり概論	2	2		
		B_BUS103335	地域社会論	2	1		
		B_BUS203329	地域経済論	2	2		
		B_BUS236070	国内インターンシップ	2	2		
		B_BUS236070	海外インターンシップ	3	2		
		B_BUS330027	地域フィールドワーク	2	3		
		B_BUS206780	貿易論Ⅰ	2	2		
		B_BUS206780	貿易論Ⅱ	2	2		
		B_BUS303380	金融論Ⅰ	2	3		
		B_BUS303380	金融論Ⅱ	2	3		
		B_BUS306710	商業政策Ⅰ	2	3		

科目区分		ナンバリングコード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数	
		B_BUS306710	商業政策Ⅱ	2	3		
		B_BUS106890	観光概論	2	1		
		B_BUS106890	観光事業論	2	1		
		B_BUS306891	観光政策	2	3		
		B_BUS106896	旅行業務論Ⅰ	2	1		
		B_BUS106896	旅行業務論Ⅱ	2	1		
		B_BUS303752	職業指導Ⅰ	2	3		
		B_BUS303752	職業指導Ⅱ	2	3		
情報領域		B_BUS100076	コンピュータ概論	2	1		
		B_BUS200076	情報システム	2	1		
		B_BUS100073	情報社会と情報倫理	2	1		
		B_BUS100076	プログラミング入門	2	1		
		B_BUS200076	情報処理論	2	2		
		B_BUS200076	プログラミングⅠ	2	2		
		B_BUS200076	プログラミングⅡ	2	2		
		B_BUS300079	情報ネットワークⅠ	2	2		
		B_BUS300079	情報ネットワークⅡ	2	2		
		B_BUS300078	アルゴリズムとデータ構造	2	2		
		B_BUS200076	ビジネスデータ処理	2	2		
		B_BUS300076	データベース論	2	3		
		B_BUS300076	マルチメディア表現と技術Ⅰ	2	2		
		B_BUS300076	マルチメディア表現と技術Ⅱ	2	2		
法学科目		B_BUS103240	民法入門	2	1	6単位以上	
		B_BUS103287	消費者法	2	1		
		B_BUS103240	民法総論	2	1		
		B_BUS203230	憲法	4	2		
		B_BUS203250	商法	4	2		
		B_BUS203239	行政法	4	2		
		B_BUS203240	民法各論	4	2		
		B_BUS203330	経済法	2	2		
		B_BUS203252	会社法	4	2		
		B_BUS203286	労働法Ⅰ	2	2		
		B_BUS303286	労働法Ⅱ	2	3		
		B_BUS303451	税法	2	2		
演習科目		B_BUS210027	基礎演習Ⅰ	2	2	履修指定 (注)①②参照	
		B_BUS210027	基礎演習Ⅱ	2	2		
		B_BUS310027	演習Ⅰ	2	3		
		B_BUS310027	演習Ⅱ	2	3		
		B_BUS410027	演習Ⅲ	2	4		
		B_BUS410027	演習Ⅳ（卒業研究含む）	4	4		
経営特講・外書講読科目		B_BUS203350	経営特講Ⅰ	2	2		
		B_BUS203350	経営特講Ⅱ	2	2		
		B_BUS303336	外書講読Ⅰ	2	3		
		B_BUS303336	外書講読Ⅱ	2	3		
関連科目		B_BUS103310	ミクロ経済学入門	2	1		
		B_BUS103310	マクロ経済学入門	2	1		
		B_BUS203310	ミクロ経済学Ⅰ	2	2		
		B_BUS203310	マクロ経済学Ⅰ	2	2		
		B_BUS203312	経済学史Ⅰ	2	2		
		B_BUS203312	経済学史Ⅱ	2	2		
		B_BUS203331	経済政策Ⅰ	2	2		
		B_BUS203331	経済政策Ⅱ	2	2		
		B_BUS103320	西洋経済史Ⅰ	2	1		
		B_BUS203320	西洋経済史Ⅱ	2	2		
		B_BUS103090	社会思想史Ⅰ	2	1		
		B_BUS103090	社会思想史Ⅱ	2	1		
		B_BUS203311	情報経済論	2	2		
		B_BUS103311	統計学Ⅰ	2	1		

科目区分	ナンバリングコード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数
	B_BUS103311	統計学Ⅱ	2	1	
	B_BUS103321	日本経済論Ⅰ	2	1	
	B_BUS103321	日本経済論Ⅱ	2	1	
	B_BUS103321	日本経済史	2	1	
	B_BUS203410	財政学Ⅰ	2	2	
	B_BUS203410	財政学Ⅱ	2	2	
	B_BUS206110	農業経済論	2	2	
	B_BUS206113	食料経済論	2	2	
	B_BUS205190	環境経済論Ⅰ	2	2	
	B_BUS205190	環境経済論Ⅱ	2	2	
	B_BUS203329	経済地理学Ⅰ	2	2	
	B_BUS203329	経済地理学Ⅱ	2	2	
	B_BUS203410	地方財政論	2	2	
	B_BUS302901	人文地理学概論	2	3	
	B_BUS304500	自然地理学概論	2	3	
	B_BUS302901	地誌学概論	2	3	
	B_BUS303210	法律学概論（国際法を含む）	2	3	
	B_BUS303110	政治学概論（国際政治を含む）	2	3	
他学部・他学科開設及び教職・資格課程開設科目					※16単位までを卒業所要単位として認める。 (注)③参照

(注)

- ① 基礎演習Ⅰ及び基礎演習Ⅱは、半期科目とする。また、基礎演習の選択は、学科を超えて履修することができる。なお、基礎演習Ⅰ及び基礎演習Ⅱは、履修指定科目とし、配当された年次に全員必ず登録し授業を受けなければならない。
- ② 演習Ⅰ、演習Ⅱ、演習Ⅲ及び演習Ⅳ（卒業研究含む）は、半期科目とする。また、演習の選択は、学科を超えて履修することができる。なお、演習科目は、履修指定科目とし、配当された年次に全員必ず登録し授業を受けなければならない。
- ③ 「他学部・他学科開設及び教職・資格課程開設科目」は、合計で16単位までを経営学科専門教育科目の卒業所要単位数〔合計94単位以上〕に算入できる。その内容・手続については経済学部履修規程第7条に定める。

[教職課程]

(1) 経営学科で取得できる免許状の種類及び免許教科

教職課程履修規程第2条参照

(2) 免許状を得るための基礎資格及び修得単位数

教職課程履修規程第3条参照

(3) 教職課程履修資格

教職課程履修細則第6条参照

(4) 教職課程履修の手続

- ① 教職課程の履修を希望する場合は、1年次または2年次に実施される「教職課程履修希望者説明会」に出席し、配付される「履修希望願」を提出しなければなりません。

なお、「教職課程履修希望者説明会」は12月頃に実施する予定です。「資格・実習」の掲示板を必ず確認してください。

- ② 提出した者の中から(3)の資格要件による履修資格者をオリエンテーション時に「資格・実習」の掲示板で発表します。

- ③ 履修資格者は、所定の期日までに履修費（教職課程履修細則第12条参照）を納入してください。（2年次または3年次の申し込みになります。）

- ④ 履修費及び実習費等は、どのような理由があっても返金しません。

(5) 教育実習履修資格

教職課程履修細則第7条参照

教育実習の履修資格者は、オリエンテーション時に「資格・実習」の掲示板で発表しますので、確認のうえ履修登録してください。

4年次の4月末に教育実習費（教職課程履修細則第12条参照）の納入方法などについての説明会を実施しますので、必ず出席してください。

(6) 単位修得の方法

単位修得の方法については、「教職課程履修規程」及び「教職課程履修細則」をよく読んで理解してください。

なお、「教育の基礎的理解に関する科目等」の中には、卒業指定科目として登録可能なものがあります。（教職課程履修規程別表第4を参照）

(7) 履修カルテ

【目 的】

教職課程を履修して教育職員免許を取得しようとする学生は、必ず「履修カルテ」を作成しなければなりません。「履修カルテ」は、学生一人一人の学習状況をきめ細かく把握するためのものです。

また、成績公開後、定期的に学生情報システム（LCU）から「履修カルテ」のデータを提出することになりますので大切に管理（入力・更新）してください。

【作 成】

教職課程履修時から教育職員免許取得まで継続して作成します。

※決められた提出時期に「履修カルテ」の提出がない場合、「教育実習」及び「教職実践演習」の履修が認められないことがあります。また、免許状も授与できなくなることがありますので十分注意してください。

【内 容】

【履修カルテ A】①「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修状況

②「大学が独自に設定する科目」の履修状況

③「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修状況

【履修カルテ B】① 必要な資質能力についての自己評価

② 教職に関する体験・実習等の状況

③ 教職を目指す上でさらに身に付けなければならないと考えている事項

【作成の手順】

①学生情報システム（LCU）へアクセスし、メニューの「学修ポートフォリオ」から「履修カルテ」をクリックします。以下の項目について入力してください。

・「履修状況」

修得した科目について入力してください。

・「履修カルテ自己評価」

資質能力に関する自己評価を入力してください。

・「教職に関する体験・実習等の状況」

介護等体験、教育実習、学校関係のボランティア活動について入力してください。

・「教職を目指す事項」

教職を目指す上でさらに身に付けなければならないと考えている事項を入力してください。

②上記の項目について入力後、登録ボタン（更新）をクリックします。

③各学期の成績公開後、提出時期までに該当する項目に随時入力（更新）し、漏れがないか確認してください。

④提出時期に「履修カルテの提出」ボタンをクリックし提出する。（「履修カルテ」は Excel 出力し保存することが可能です。）

【履修カルテ作成・提出スケジュール】

2 年次 開始時	（更新）	「履修カルテ」を計画的に作成するため、入力項目等を理解する。
3 年次 後期開始前	提出①	2 年次までの記録について確認し、9 月中にデータ提出。
4 年次 前期開始前	提出②	3 年次までの記録について確認し、4 月中にデータ提出。
4 年次 後期開始前	提出③	4 年次前期までの記録について確認し、9 月中にデータ提出。
最終提出（4 年次12月頃）	提出④	全ての項目において入力漏れがないかを確認し、12月中にデータ提出。

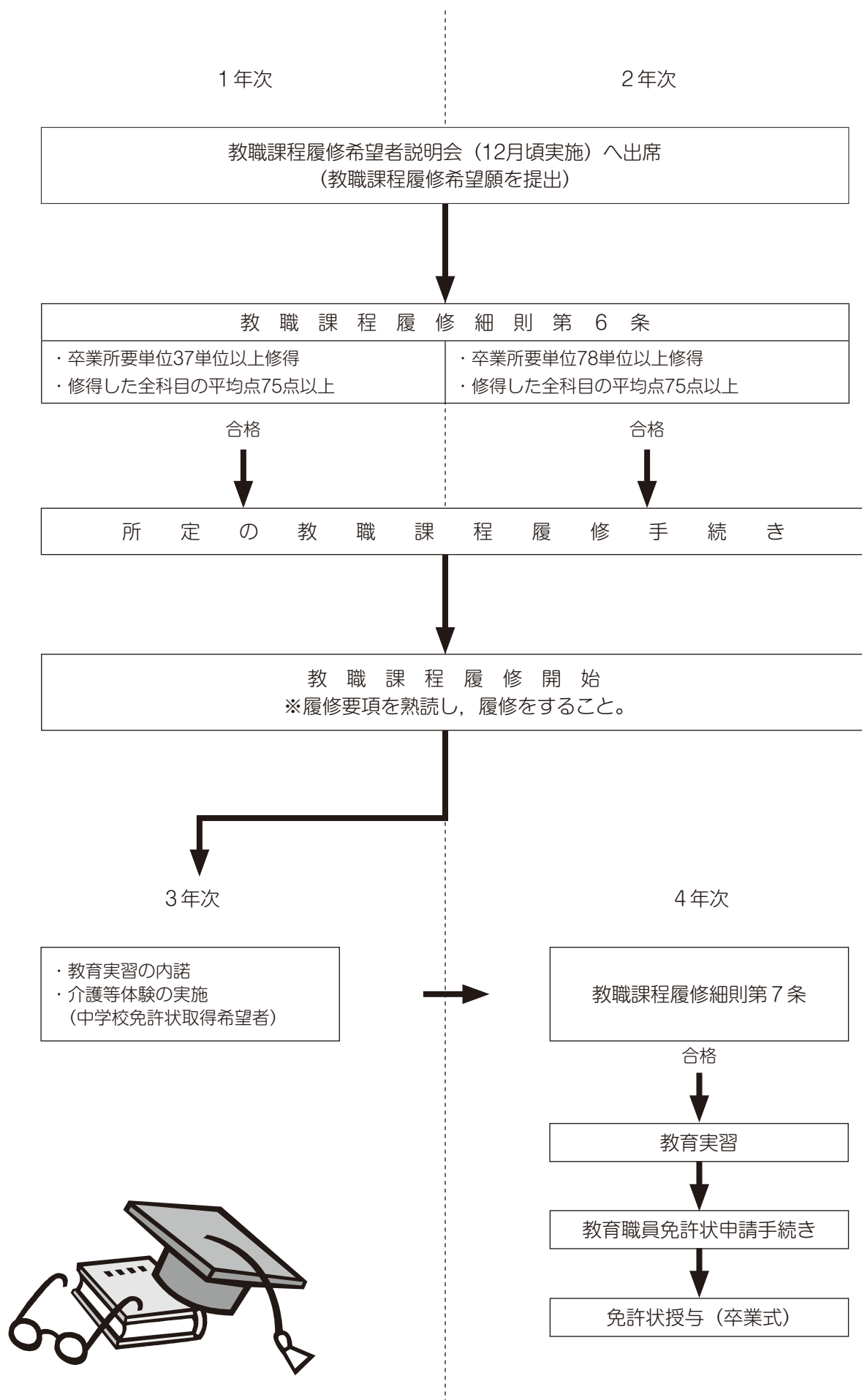
(8) 教職課程スケジュール表

教職課程のスケジュールは次の表のとおりです。ただし、この表は、あくまで予定ですので日程は掲示板にて確認してください。

教 職 課 程 ス ケ ジ ュ ー ル 表

学 年 月	1 年	2 年	3 年	4 年
3月		教 職 課 程 履 修 資 格 者 発 表 (オリエンテーション時) 履 修 カ ル テ 説 明 会 (オリエンテーション時)		教育実習履修資格者発表 (オリエンテーション時)
			介護等体験説明会 (第1回) (オリエンテーション時)	
4月		教 職 課 程 履 修 説 明 会	教 職 課 程 履 修 説 明 会 介護等体験説明会 (第2回)	教 職 課 程 履 修 説 明 会 教 育 実 習 説 明 会 教育実習費納入 (¥12,000-) (但し, 中学校実習は¥18,000-)
5月				取 得 希 望 免 許 教 科 届 提 出
6月			教 育 実 習 内 諾 説 明 会 介 護 等 体 験 説 明 会 (第3・4・5回) ~ 7 月	教 育 実 習 中 学 校 (3 週 間) 高 等 学 校 (2 週 間)
7月			教育実習予定校訪問 (内諾依頼)	
8月			教 育 実 習 報 告 会	教 育 実 習 報 告 会
9月				
10月			教 育 実 習 内 諾 書 提 出	
11月				教育職員免許状申請手続説明会(第1回)
12月	教 職 課 程 履 修 希望者説明会 (教職課程履修希望願提出)			
1月				教育職員免許状申請手続説明会(第2回)
2月				
3月				免 許 状 授 与 (卒 業 式 当 日)

教職課程の履修について



(9) 教職課程履修規程

第1条 教育職員の免許状を得ようとする者は、教育職員免許法、同法施行規則及び鹿児島国際大学学則の定めるところに従い、所定の単位を修得しなければならない。

第2条 本学教職課程の履修によって取得できる免許状は次のとおりである。(経営学科の場合)

学 部	学 科	免 許 状 の 種 類	
		免 許 状	免許教科
経 済 学 部	経 営 学 科	中 学 校教諭一種免許状	社 会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史
		高等学校教諭一種免許状	公 民
		高等学校教諭一種免許状	情 報
		高等学校教諭一種免許状	商 業

第3条 前条の免許状を得ようとする者は、次表に示した基礎資格及び本学における最低修得単位数をみたさなければならない。(経営学科の場合)

学部	学科	免許状の種類	免許教科	基礎資格	本学における最低修得単位数				
					教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	大学が独自に設定する科目	特別支援教育に関する科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
経済学部	経営学科	中学校教諭一種免許状	社会	学士の学位を有すること。	30	29	第3条第3項参照 (中学校4単位) (高等学校12単位)	—	9
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史		34	25			
		高等学校教諭一種免許状	公民		34	25			
		高等学校教諭一種免許状	情報		34	25			
		高等学校教諭一種免許状	商業		34	25			

2 前項に規定する「領域及び保育内容の指導法に関する科目」、「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」、「大学が独自に設定する科目」、「特別支援教育に関する科目」及び教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目については、別表第1から別表第5に掲げるとおりとする。

3 経済学部と福祉社会学部（社会福祉学科）、国際文化学部の「大学が独自に設定する科目」の最低修得単位数（中学校4単位、高等学校12単位）は、「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は教育職員免許法で定めた最低修得単位数（中学校28単位、高等学校24単位）を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」の選択科目も併せて修得することができる。

第4条 小学校教諭一種免許状又は中学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、介護等体験特例法に基づき、介護等体験を行わなければならない。

第5条 教職課程の履修についての細則は別に定める。

第6条 この規程の改廃は、教職課程・教育実習委員会、教授会及び大学評議会の審議を経て、学長の承認を得なければならない。

経済学部（経済学科・経営学科）

免許法施行規則に定める 科目及び単位数		ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目				
科 目 名	単位数		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数
日 本 国 憲 法	2	B_TEA103231	日本国憲法	2	1	共通教育科目	2
体 育	2	B_TEA107801	日常生活に生かすスポーツ科学	2	1	//	2
		B_TEA107801	現代社会とスポーツ	2	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅰ(屋内集団球技)	1	1	//	1
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅱ(屋内個人球技)	1	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅲ(個人種目)	1	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅳ(屋外個人球技)	1	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅴ(屋外集団球技)	1	1	//	
外国語コミュニケーション	2	B_TEA128311	英語オーラルコミュニケーションⅠ	1	1	//	2
		B_TEA128311	英語オーラルコミュニケーションⅡ	1	1	//	
		B_TEA138300	英語海外研修	2	1	//	
数理、データ活用及び 人工知能に関する科目 又は情報機器の操作	2	B_TEA100076	情報処理	2	1	//	2
合 計							9

経済学部（経営学科） 中学校教諭一種免許（社会）

免許法施行規則に定める 科目の区分		ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目					最低修得 単位数	
科目区分	各科目に含め ることが必 な事項		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属			
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	日本史・外国史	B_TEA102100	日本史	2	1	共通教育科目	6	全 体 か ら 更 に 2 単 位
			B_TEA102300	西洋史	2	1	//		
			B_TEA102200	東洋史	2	1	//		
			B_TEA103321	日本経済史	2	1	専門教育科目		
			B_TEA103320	西洋経済史Ⅰ	2	1	//		
			B_TEA203320	西洋経済史Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA203352	経営史Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA203352	経営史Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA103090	社会思想史Ⅰ	2	1	//		
			B_TEA103090	社会思想史Ⅱ	2	1	//		
			B_TEA203312	経済学史Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA203312	経済学史Ⅱ	2	2	//		
		地理学（地誌を含む。）	B_TEA302901	人文地理学概論	2	3	//	6	
			B_TEA304500	自然地理学概論	2	3	//		
			B_TEA302901	地誌学概論	2	3	//		
			B_TEA203329	経済地理学Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA203329	経済地理学Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA205190	環境経済論Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA205190	環境経済論Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA203335	まちづくり概論	2	2	//		
		「法律学，政治学」	B_TEA303210	法律学概論(国際法を含む)	2	3	//	2	
			B_TEA303110	政治学概論(国際政治を含む)	2	3	//		
			B_TEA103287	消費者法	2	1	//		
			B_TEA103240	民法入門	2	1	//		
			B_TEA103240	民法総論	2	1	//		
			B_TEA203230	憲法	4	2	//		
			B_TEA203239	行政法	4	2	//		
			B_TEA203240	民法各論	4	2	//		
			B_TEA203330	経済法	2	2	//		
			B_TEA203410	地方財政論	2	2	//		
		「社会学，経済学」	B_TEA103310	マクロ経済学入門	2	1	//	4	
			B_TEA103310	ミクロ経済学入門	2	1	//		
			B_TEA203310	マクロ経済学Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA203310	ミクロ経済学Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA103311	統計学Ⅰ	2	1	//		
			B_TEA103311	統計学Ⅱ	2	1	//		
			B_TEA203331	経済政策Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA203331	経済政策Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA103321	日本経済論Ⅰ	2	1	//		
			B_TEA103321	日本経済論Ⅱ	2	1	//		
			B_TEA206113	食料経済論	2	2	//		
			B_TEA206110	農業経済論	2	2	//		
			B_TEA103335	地域社会論	2	1	//		

免許法施行規則に定める 科目の区分			ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目					
科目区分		各科目に含め ることが必 な事項		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数	
		「哲学、倫理 学、宗教学」	B_TEA101000	哲学	2	1	共通教育科目	2	
			B_TEA101500	倫理学	2	1	//		
	各教科の指導法（情 報通信技術の活用を 含む。）	B_TEA303750	社会科教育法Ⅰ	2	3	教職課程に関する科目	8		
		B_TEA303750	社会科教育法Ⅱ	2	3	//			
		B_TEA303750	社会科教育法Ⅲ	2	3	//			
		B_TEA303750	社会科教育法Ⅳ	2	3	//			
	合 計								30

経済学部（経営学科） 高等学校教諭一種免許（地理歴史）

免許法施行規則に定める 科目の区分			ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目						
科目区分		各科目に含め ることが必要 な事項		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	日 本 史	B_TEA102100	日本史	2	1	共通教育科目	2	全 体 か ら 更 に 18 単 位	
			B_TEA103321	日本経済史	2	1	専門教育科目	4		
			B_TEA203352	経営史Ⅰ	2	2	//			
			B_TEA203352	経営史Ⅱ	2	2	//			
		外 国 史	B_TEA102300	西洋史	2	1	共通教育科目	4		
			B_TEA102200	東洋史	2	1	//			
			B_TEA103320	西洋経済史Ⅰ	2	1	専門教育科目			
			B_TEA203320	西洋経済史Ⅱ	2	2	//			
			B_TEA103090	社会思想史Ⅰ	2	1	//			
			B_TEA103090	社会思想史Ⅱ	2	1	//			
			B_TEA203312	経済学史Ⅰ	2	2	//			
			B_TEA203312	経済学史Ⅱ	2	2	//			
			人文地理学・ 自然地理学	B_TEA302901	人文地理学概論	2	3	//		4
				B_TEA304500	自然地理学概論	2	3	//		
		B_TEA203329		経済地理学Ⅰ	2	2	//			
		B_TEA203329		経済地理学Ⅱ	2	2	//			
		B_TEA205190		環境経済論Ⅰ	2	2	//			
		B_TEA205190		環境経済論Ⅱ	2	2	//			
		B_TEA206780		貿易論Ⅰ	2	2	//			
		B_TEA206780		貿易論Ⅱ	2	2	//			
		B_TEA203335		まちづくり概論	2	2	//			
		地 誌	B_TEA302901	地誌学概論	2	3	//	2		
	各教科の指導法（情報通 信技術の活用を含む。）	B_TEA303750	地理歴史科教育法Ⅰ	2	3	教職課程に関する科目	4			
		B_TEA303750	地理歴史科教育法Ⅱ	2	3	//				
合 計								34		

経済学部（経営学科） 高等学校教諭一種免許（公民）

免許法施行規則に定める 科目の区分		ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目							
科目区分	各科目に含め ることが必要 な事項		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数			
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	「法律学（国 際法を含む。）、政治学 （国際政治を含む。）」	B_TEA303210	法律学概論(国際法を含む)	2	3	専門教育科目	2	全 体 か ら 更 に 22 単 位	
			B_TEA303110	政治学概論(国際政治を含む)	2	3	//			
			B_TEA103287	消費者法	2	1	//			
			B_TEA103240	民法入門	2	1	//			
			B_TEA103240	民法総論	2	1	//			
			B_TEA203230	憲法	4	2	//			
			B_TEA203239	行政法	4	2	//			
			B_TEA203240	民法各論	4	2	//			
			B_TEA203330	経済法	2	2	//			
			B_TEA203410	地方財政論	2	2	//			
		「社会学，経 済学（国際経 済を含む。）」	B_TEA103310	マクロ経済学入門	2	1	//	4		
			B_TEA103310	ミクロ経済学入門	2	1	//			
			B_TEA203310	マクロ経済学Ⅰ	2	2	//			
			B_TEA203310	ミクロ経済学Ⅰ	2	2	//			
			B_TEA103311	統計学Ⅰ	2	1	//			
			B_TEA103311	統計学Ⅱ	2	1	//			
			B_TEA203331	経済政策Ⅰ	2	2	//			
			B_TEA203331	経済政策Ⅱ	2	2	//			
			B_TEA103321	日本経済論Ⅰ	2	1	//			
			B_TEA103321	日本経済論Ⅱ	2	1	//			
			B_TEA206113	食料経済論	2	2	//			
			B_TEA206110	農業経済論	2	2	//			
			B_TEA103335	地域社会論	2	1	//			
		「哲学，倫理 学，宗教学， 心理学」	B_TEA101000	哲学	2	1	共通教育科目	2		
			B_TEA101500	倫理学	2	1	//			
			B_TEA101401	心理学	2	1	//			
	各教科の指導法（情報通 信技術の活用を含む。）		B_TEA303750	公民科教育法Ⅰ	2	3	教職課程に関する科目	4		
			B_TEA303750	公民科教育法Ⅱ	2	3	//			
合 計								34		

経済学部（経営学科） 高等学校教諭一種免許（情報）

免許法施行規則に定める 科目の区分			ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目					
科目区分		各科目に含めることが必要な事項		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	情報社会（職業に関する内容を含む。）・ 情報倫理	B_TEA100073	情報社会と情報倫理	2	1	専門教育科目	2	全 体 か ら 更 に 2 単 位
		コンピュ ータ・情報処理	B_TEA100076	コンピュータ概論	2	1	//	8	
			B_TEA200076	情報処理論	2	2	//		
			B_TEA100076	プログラミング入門	2	1	//		
			B_TEA300078	アルゴリズムとデータ構造	2	2	//		
			B_TEA200076	プログラミングⅠ	2	2	//		
			B_TEA200076	プログラミングⅡ	2	2	//		
		情報システム	B_TEA200076	情報システム	2	1	//	6	
			B_TEA303361	経営情報論	2	3	//		
			B_TEA300076	データベース論	2	3	//		
			B_TEA200076	ビジネスデータ処理	2	2	//		
		情報通信ネット ワーク	B_TEA300079	情報ネットワークⅠ	2	2	//	4	
			B_TEA300079	情報ネットワークⅡ	2	2	//		
		マルチメディア表現・マル チメディア技術	B_TEA300076	マルチメディア表現と技術Ⅰ	2	2	//	8	
			B_TEA300076	マルチメディア表現と技術Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA103368	経営シミュレーション	2	1	//		
			B_TEA203361	経営統計	2	2	//		
B_TEA203361			経営数学	2	2	//			
各教科の指導法（情報通 信技術の活用を含む。）	B_TEA303750	情報科教育法Ⅰ	2	3	教職課程に関する科目	4			
	B_TEA303750	情報科教育法Ⅱ	2	3	//				
合 計								34	

経済学部（経営学科） 高等学校教諭一種免許（商業）

免許法施行規則に定める 科目の区分		ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目						
科目区分	各科目に含め ることが必要 な事項		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	商業の関係科目	B_TEA103351	経営学総論	4	1	専門教育科目	4	全 体 か ら 更 に 22 単 位
			B_TEA103369	簿記原理	4	1	//		
			B_TEA203360	経営管理論Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA203360	経営管理論Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA203353	企業形態論	2	2	//		
			B_TEA203368	財務管理論Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA203368	財務管理論Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA303363	経営組織論	2	3	//		
			B_TEA203353	中小企業論	2	3	//		
			B_TEA303354	国際経営論Ⅰ	2	3	//		
			B_TEA303354	国際経営論Ⅱ	2	3	//		
			B_TEA203369	会計学原理Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA203369	会計学原理Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA203369	中級簿記論	2	1	//		
			B_TEA203368	原価計算論Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA203368	原価計算論Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA303368	管理会計論Ⅰ	2	3	//		
			B_TEA303368	管理会計論Ⅱ	2	3	//		
			B_TEA303369	会計監査論Ⅰ	2	3	//		
			B_TEA303369	会計監査論Ⅱ	2	3	//		
			B_TEA303368	経営分析論Ⅰ	2	3	//		
			B_TEA303369	税務会計論Ⅰ	2	3	//		
			B_TEA303369	税務会計論Ⅱ	2	3	//		
			B_TEA203369	上級簿記論	2	1	//		
			B_TEA106701	商学総論Ⅰ	2	1	//		
			B_TEA106701	商学総論Ⅱ	2	1	//		
			B_TEA303391	保険論	2	2	//		
			B_TEA203360	リスクマネジメント論	2	2	//		
			B_TEA303367	マーケティング論Ⅰ	2	3	//		
			B_TEA303367	マーケティング論Ⅱ	2	3	//		
			B_TEA303380	金融論Ⅰ	2	3	//		
			B_TEA303380	金融論Ⅱ	2	3	//		
			B_TEA306710	商業政策Ⅰ	2	3	//		
			B_TEA306710	商業政策Ⅱ	2	3	//		
			B_TEA203250	商法	4	2	//		
			B_TEA203252	会社法	4	2	//		
	職業指導		B_TEA303752	職業指導Ⅰ	2	3	//	4	
			B_TEA303752	職業指導Ⅱ	2	3	//		
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		B_TEA303750	商業科教育法Ⅰ	2	3	教職課程に関する科目	4	
			B_TEA303750	商業科教育法Ⅱ	2	3	//		
合 計								34	

別表第3 大学が独自に設定する科目

中学校教諭一種免許・高等学校教諭一種免許

免許法施行規則に定める 科目の区分	ナンバリング コード	左記に対応する開設科目				
		授業科目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数
大学が独自に設定する科目	B_TEA200170	学習指導と学校図書館	2	2	司書教諭課程	教職課程 履修規程 第3条第 3項参照
	B_TEA200170	読書と豊かな人間性	2	2	//	
	B_TEA333761	離島教育の理解と体験的活動	2	3	教職課程に関する科目	
	B_TEA103617	地域創生Ⅰ	2	1	共通教育科目 経営学科専門教育科目	
	B_TEA103617	地域創生Ⅱ	2	1	//	
	B_TEA103336	地域から世界へ	2	1	共通教育科目	

別表第4 教育の基礎的理解に関する科目等

中学校教諭一種免許・高等学校教諭一種免許

免許法施行規則に定める科目区分等				ナンバリング コード	左記に対応する開設科目		最低修得単位数				
区分	科目	各科目に含めることが必要な事項	最低修得 単位数				中学校		高等学校		計
					必修	選択	必修	選択			
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	B_TEA203750	教育原理	2	2		2	2	
		・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		B_TEA203750	教職概論	2	2		2	2	
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		B_TEA203750	学校の制度	2	2		2	2	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		B_TEA203714	教育心理学	2	2		2	2	
		・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		B_TEA303780	特別支援教育論	3	2		2	2	
		・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		B_TEA303750	教育課程論	3	2		2	2	
		第四欄		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳の理論及び指導法	中10 高8	B_TEA203750	道徳教育の指導法	3	2	
・総合的な学習（探究）の時間の指導法	B_TEA303750		特別活動・総合的な学習の時間		3		2		2		
・特別活動の指導法											
・教育の方法及び技術	B_TEA303750		教育の方法及び技術（情報通信技術の活用を含む）		3		2		2		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。
・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法											
・生徒指導の理論及び方法	B_TEA303752		生徒・進路指導論		3		2		2		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を含む。
・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	B_TEA303752		学校教育相談		3		2		2		
・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法											
第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	中5 高3	B_TEA333750	教育実習Ⅰ	4	5			中 5 高 3	
			B_TEA333750	教育実習Ⅱ	4			3			
		教職実践演習	2	B_TEA313750	教職実践演習（中・高）	4	2		2	2	
			中27 高23			合 計		中 29 高 25		中29 高25	

注）「中学校教諭」又は「中学校教諭及び高校教諭」の免許を取得する場合は、「教育実習Ⅰ」の単位を修得しなければなりません。「高校教諭」の免許のみ取得の場合は、「教育実習Ⅱ」の単位を修得してください。

以下の科目については、卒業指定科目として登録できます。なお、卒業所要単位として登録を希望する場合は、指定する期日までに「卒業指定科目等登録願」を必ず提出してください。また、「卒業指定科目等登録願」は提出した年度のみ有効です。

教育原理	教職概論	学校の制度
教育心理学	教育課程論	教育の方法及び技術（情報通信技術の活用を含む）

(10) 教職課程履修細則

第1条 教職課程履修規程第5条により、教職課程の履修に関する細則を次のとおり定める。

第2条 教職課程を履修できる者は、教育職員免許法及び本学学則の定めるところにより、本学学生及び科目等履修生とする。

第3条 本学教職課程の履修によって取得できる教育職員免許状は、次のとおりである。(経営学科の場合)

学 部	学 科	免 許 状 の 種 類	
		免 許 状	免許教科
経 済 学 部	経 営 学 科	中 学 校教諭一種免許状	社 会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史
		高等学校教諭一種免許状	公 民
		高等学校教諭一種免許状	情 報
		高等学校教諭一種免許状	商 業

第4条 教育職員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法、同法施行規則及び学則に従い、所定の単位を修得しなければならない。

2 中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状に係る教育の基礎的理解に関する科目等において開設される「教職概論」「教育原理」「教育心理学」「学校の制度」「教育課程論」及び「教育の方法及び技術（情報通信技術の活用を含む）」の修得単位は、所定の手続きを経て卒業に必要な単位に算入することができる。

第5条 削 除

第6条 教職課程は、第2年次から履修できるが、第4年次からの履修は認めない。

ただし、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状の教職課程を履修できる者は、次の要件をみたした者でなければならない。

- (1) 第2年次から履修する者は、1年次終了までに卒業所要単位を37単位以上修得し、修得した全科目の平均点が75点以上の者。
- (2) 第3年次から履修する者は、2年次終了までに卒業所要単位を78単位以上修得し、修得した全科目の平均点が75点以上の者。
- (3) 編入学生の場合は編入学前に修得した卒業所要単位全科目の平均点が75点以上の者。

第7条 「教育実習（幼・小）」（幼稚園・小学校の免許状を取得する者。）を履修できる者は、原則として次の別表1に掲げる教職課程に関する科目の単位を修得した者でなければならない。「教育実習Ⅰ」（中学校の免許状を取得する者。高等学校の免許状を併せて取得する者を含む。）又は、「教育実習Ⅱ」（高等学校の免許状を取得する者。）を履修できる者は、次の別表2に掲げる教職課程に関する科目を修得し、実習を実施する教科において、本学で定める教科に関する専門的事項の最低修得単位数の半数以上の単位数を修得した者でなければならない。

(別表1) (略)

(別表2) (経営学科の場合)

教 職 課 程 に 関 す る 科 目				
中学社会	地理歴史	公民	情報	商業
教育原理	教育原理	教育原理	教育原理	教育原理
教職概論	教職概論	教職概論	教職概論	教職概論
教育心理学	教育心理学	教育心理学	教育心理学	教育心理学
社会科教育法Ⅰ	地理歴史科教育法Ⅰ	公民科教育法Ⅰ	情報科教育法Ⅰ	商業科教育法Ⅰ
社会科教育法Ⅱ	地理歴史科教育法Ⅱ	公民科教育法Ⅱ	情報科教育法Ⅱ	商業科教育法Ⅱ

2 (略)

3 1, 2 項の条件をみたした者であっても当該年度に卒業の見込みがない者は「教育実習 (幼・小)」, 「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」及び「特別支援教育実習」の履修を認めない。

4 1, 2, 3 項の条件をみたした者であっても「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」, 「特別支援教育実習」履修資格認定時までの教職課程履修期間中に, 学則第41条の規定に基づき懲戒処分を受けた者については, 「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」, 「特別支援教育実習」の履修を認めないことがある。

5 (略)

第8条 第6条及び前条の要件をみたさない者でも教職課程履修者として適当と思われる者については選考のうえ, 履修を認めることがある。

2 交換留学生及び認定留学生については留学制度の主旨を尊重し, 留学終了後の履修認定について特別に配慮することがある。

第9条 第7条及び第8条に基づき, 一旦「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」, 「特別支援教育実習」の履修を認められた者であっても, 以下に示す事由により, 実習校での実習を中止し且つ当該科目の履修を取り消すことがある。

- (1) 当該科目の実習事前指導の講義に, 特別な理由なく, 欠席・遅刻する者。
- (2) 教育実習にかかわる説明会に, 特別な理由なく, 欠席・遅刻する者。
- (3) 教育実習に耐えうる健康状態にないと判断される者。
- (4) 実習校での実習中に, 実習生として著しく相応しくない言動があった者。
- (5) 第7条及び第8条に基づく当該科目履修資格認定後, 学則第41条の規定に基づき, 懲戒処分を受けた者。
- (6) その他, 教育実習の実施に特別な支障がある場合。

第10条 (略)

第11条 「教職実践演習」は, 履修予定年度の前期成績発表時まで「教育実習 (幼・小)」(児童学科), 「教育実習Ⅰ」(児童学科以外の学生), 「教育実習Ⅱ」(児童学科以外の学生) の単位を修得した者, 又は履修予定年度後期に同時に「教育実習 (幼・小)」, 「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」の単位を修得する予定の者のみが履修できる。ただし, 履修年度後期に「教育実習 (幼・小)」, 「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」の単位修得予定者がその単位を修得できなかった場合, 同時期に履修する「教職実践演習」は履修取り消し, 又は評価「無効」とする。

第12条 教職課程履修希望者は, 履修費を納入しなければならない。

また, 「教育実習 (幼・小)」, 「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」及び「特別支援教育実習」を履修する者, 介護等体験を行う者は, 所定の期日までに次の表に掲げる実習費を納入しなければならない。

(別表) 納入金(経営学科以外は略)

区 分	金 額
教 職 課 程 履 修 費	10,000円
教育実習費(教育実習Ⅰ)	18,000円
教育実習費(教育実習Ⅱ)	12,000円
介 護 等 体 験 費	実 費

第13条 履修費・実習費等は、どのような理由があっても返金しない。

[地域人材育成プログラム（経営学科）]

地域人材育成プログラムは、地域に貢献できる人材を育成するために実施している教育プログラムです。詳細は P42を参照してください。

	科目名	ナンバリング コード	授業科目	単位 数	年次 配当	所属	プログラム修 了所要単位数	
(1)	地域志向科目	B_BUS106020	地場産業論	2	1	専門教育科目	2	合計16単位 (③参照)
		B_BUS203358	NPO 概論	2	2	専門教育科目		
		B_BUS103335	地域社会論	2	1	専門教育科目		
		B_BUS203329	地域経済論	2	2	専門教育科目		
(2)	キャリアデザイン科目	B_GEN116070	コミュニケーション力育成	2	1	共通教育科目	2	
		B_GEN206070	論理的思考と数的処理	2	2	共通教育科目		
		B_GEN216070	キャリア形成のための文章力育成	2	3	共通教育科目		
(3)	地域人材育成科目	B_BUS203353	中小企業論	2	3	専門教育科目	8	
		B_BUS106890	観光概論	2	1	専門教育科目		
		B_BUS106890	観光事業論	2	1	専門教育科目		
		B_BUS106896	旅行業務論Ⅰ	2	1	専門教育科目		
		B_BUS106896	旅行業務論Ⅱ	2	1	専門教育科目		
		B_BUS306891	観光政策	2	3	専門教育科目		
		B_BUS103617	地域創生Ⅰ	2	1	専門教育科目		
		B_BUS103617	地域創生Ⅱ	2	1	専門教育科目		
		B_BUS103335	鹿児島論	2	1	専門教育科目		
		B_BUS103351	起業論	2	1	専門教育科目		
		B_BUS203335	まちづくり概論	2	2	専門教育科目		
		B_BUS236070	国内インターンシップ	2	2	専門教育科目		
		B_BUS236070	海外インターンシップ	3	2	専門教育科目		
		B_BUS330027	地域フィールドワーク	2	3	専門教育科目		
(4)	地域フィールド演習 (①参照)	B_BUS210027	基礎演習Ⅰ	2	2	専門教育科目	4	
		B_BUS210027	基礎演習Ⅱ	2	2	専門教育科目		
		B_BUS310027	演習Ⅰ (②参照)	2	3	専門教育科目		
		B_BUS310027	演習Ⅱ	2	3	専門教育科目		

（履修上の注意事項）

- ①地域を研究のフィールドとした基礎演習（Ⅰ・Ⅱ）、演習（Ⅰ・Ⅱ）を「地域フィールド演習」として認定します。
 - ②3年次前期終了までに(1)～(3)（10単位）と地域フィールド演習としての演習Ⅰ（2単位）を修得した学生に対し、「地域人材育成プログラム修了見込証明書」を発行します。
 - ③最低取得単位数（合計16単位）を修得した学生に対し、卒業時に「地域人材育成プログラム修了証」を申請に基づいて授与します。
- 地域志向科目をとおして鹿児島に関心と愛着（地域マインド）を持ち、キャリアデザイン科目をとおして就業力を身につけ、地域人材育成科目で専門的に地域を学び、そして地域フィールド演習でフィールドワークを取り入れた地域研究に取り組む。これらの一連の教育プログラムを修了することで、地域に必要とされる人材を育成します。
 - 地域人材育成プログラム修了証（地域人材育成プログラム修了見込証明書）は、地域人材育成プログラムを修了した（修了見込である）ことを大学が証明するものです。これを県内企業での就職活動（エントリーシート、履歴書、就職面接など）で使うことで、あなたの鹿児島への関心、知識、思いが強く深いことをアピールできます。詳しくは、産学官地域連携センターに相談してください。

福祉社会学部

(1) 福祉社会学部の目的

福祉社会に関する専門的知識を教授し、総合的な人間関係を基に、社会・福祉・教育の分野の理解と分析を身に付けて、時代が求める「福祉社会」実現のために、参画する広い視野を持った人材を養成することを目的とします。

(2) ディプロマ・ポリシー

福祉社会学部は、目的を達成するために、所定の単位を修得したことにより、次のような段階に到達したと評価される学生に学位を授与します。

(知識・技能)

DP1 幅広く深い教養と豊かな人間性を持ち、考える力、コミュニケーション力、チームで働く力を身に付けている。

DP2 所属学科で専攻する社会福祉学、児童学に関する幅広い基礎的専門知識を身に付けている。

(思考・判断・表現)

DP3 修得した知識などを活用して、福祉や教育に関する必要な支援や課題について深く考え、その方策を立案し、考えを明確に表現できる。

(関心・意欲・態度)

DP4 地域社会の問題や社会的な支援を必要とする人々、子どもに関する課題等に関心を持ち、福祉や教育に積極的に関わることができる。

(3) カリキュラム・ポリシー

福祉社会学部は、目的とディプロマ・ポリシーを達成するために、次の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

CP1 各学科では、専門教育科目を体系的に学び、問題の本質把握とその解決方法を修得するために必要な免許・資格科目を効果的に組み合わせてカリキュラムを組み立てます。

CP2 教員と学生あるいは学生同士が交流しながら学べるよう、少人数による演習（ゼミナール）を配置します。

CP3 現場や地域社会での実践を体験しながら学べる実習科目を設けます。

(4) アドミッション・ポリシー

福祉社会学部は、目的、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、本学での学修を目指す次のような人を国内外に広く求めます。

(知識・技能)

AP1 福祉社会学部の教育を受けるのに必要な高等学校の教育課程を修得している人。

(思考・判断・表現)

AP2 身近な問題を多面的・論理的に考え説明できる人。

AP3 自ら心を開き、周囲の人々と豊かな関係をつくっていける人。

(関心・意欲・態度)

AP4 地域社会や生活の課題に関心を持ち、地域社会の未来を切り開いていく夢と情熱を持っている人。

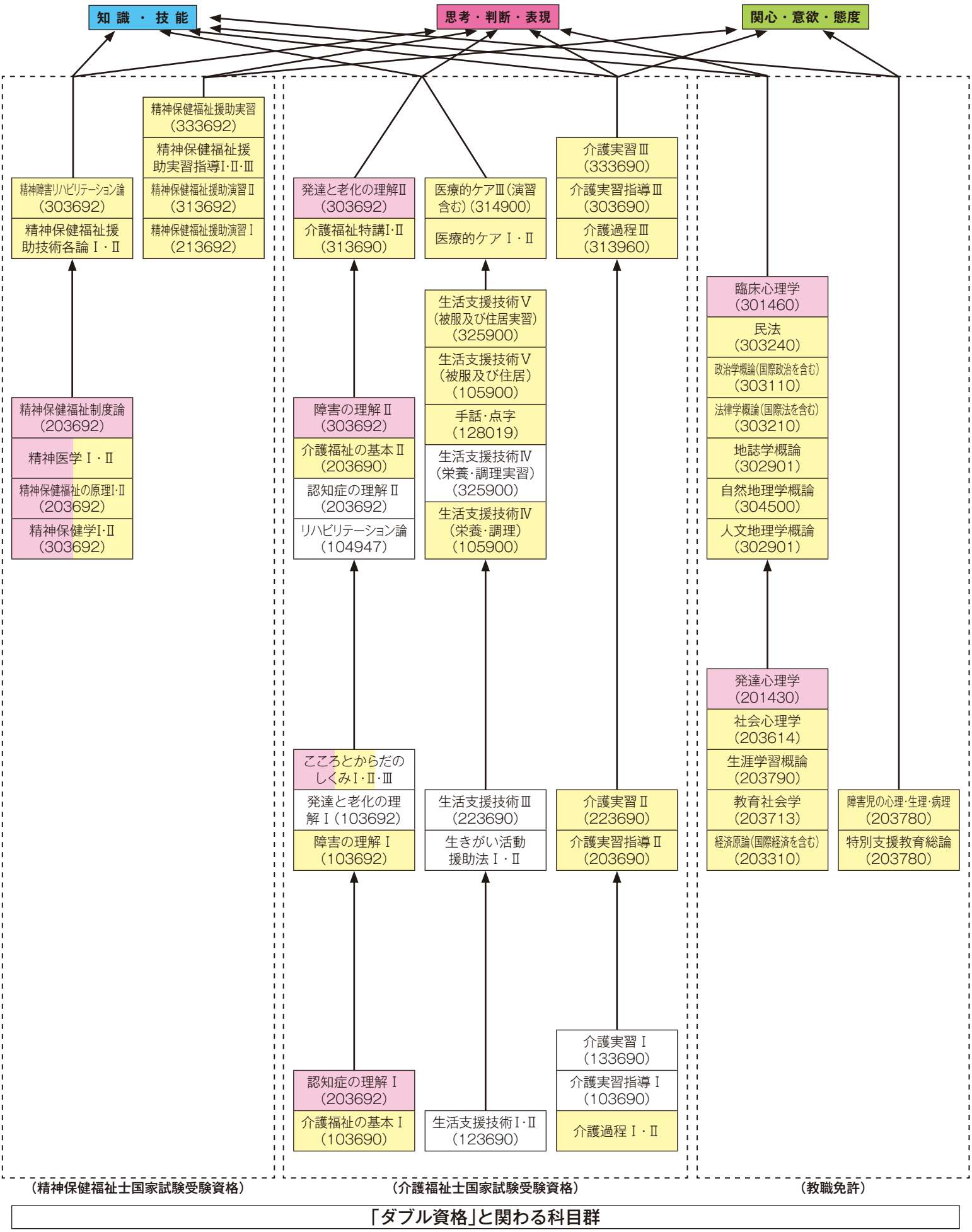
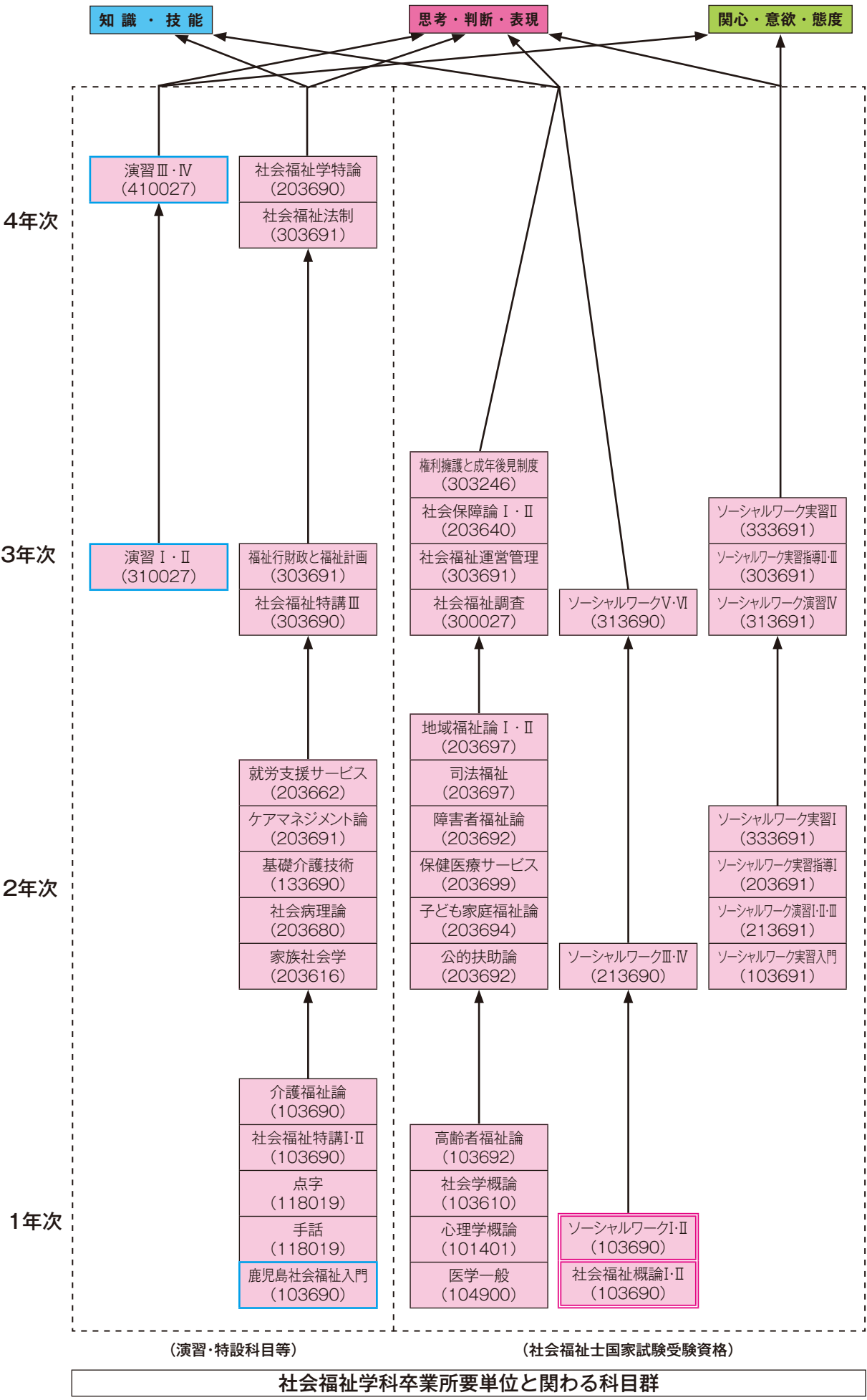
AP5 自ら考え行動し、福祉や教育に関する専門的知識・技術の修得などに積極的に取り組む意欲のある人。

AP6 専門職業人として「ともに生きる社会」の実現に貢献したいと考えている人。

社会福祉学科

(1) 社会福祉学科の目的 社会福祉学科は、福祉に関する専門的知識を教授し、福祉・医療・介護・教育分野の社会福祉全般にわたる幅広い専門知識と技術を学び、福祉社会を実践的に支える人材を養成することを目的とします。
(2) ディプロマ・ポリシー 社会福祉学科は、目的を達成するために、所定の単位を修得したことにより、次のような段階に到達したと評価される学生に学位を授与します。 (知識・技能) DP1 幅広く深い教養と豊かな人間性を持ち、社会福祉の専門的な支援をするために必要な知識と対人支援の技能を修得している。 (思考・判断・表現) DP2 社会的な支援を必要とする人々にとって必要な支援を考え、支援の方策を立案し、適切に説明することができる。 (関心・意欲・態度) DP3 地域社会の問題や社会的な支援を必要とする人々に関心を持ち、改善を目指して個人や社会に働きかける意欲を身に付けている。
(3) カリキュラム・ポリシー 社会福祉学科は、目的とディプロマ・ポリシーを達成するために、次の方針に基づいてカリキュラムを編成します。 CP1 学生全員が社会福祉士国家試験受験資格取得に必要な科目を履修できるようにカリキュラムを編成します。 CP2 社会福祉士国家試験受験資格取得に加えて、精神保健福祉士国家試験受験資格、介護福祉士国家試験受験資格、教職免許のいずれかを取得できるようにカリキュラムを編成します。 CP3 教員と学生あるいは学生同士が交流しながら学べるよう、少人数による演習（ゼミナール）を配置します。
(4) アドミッション・ポリシー 社会福祉学科は、目的、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、本学での学修を目指す次のような人を国内外に広く求めます。 (知識・技能) AP1 社会福祉の専門職を目指すのに必要な基礎的な能力（読む力、書く力、考える力）を備えている人。 (思考・判断・表現) AP2 人の気持ちや意図を理解し、適切に対応できる人。 (関心・意欲・態度) AP3 地域社会や生活の課題に関心を持ち、福祉の専門性を活かして、地域社会や人の役に立ちたいと思っている人。

カリキュラムマップ(社会福祉学科)



福祉社会学部 社会福祉学科

大学で提供されている科目は、共通教育科目と専門教育科目の2つのグループに大きく分かれます。卒業するためには、この2つのグループにそれぞれ配当されている科目を、一定の条件にそって履修し、単位を修得しなければなりません。資格や免許を取得したい人は、これらとは別に設置された、それぞれの資格（免許）課程を履修し、各課程が定める条件にそって科目を履修することになります。所定の年限で卒業（学士の称号を取得）し、必要な資格や免許を取得するためには、この全体のカリキュラム（教育課程）の組み立てをよく頭に入れたうえで、計画的に科目を履修していく必要があります。

1 共通教育科目

(1) 共通教育科目のねらい

大学に入学したみなさんが所属の学部・学科を問わず、まずは重点的に履修しなければならないのが共通教育科目であり、そのねらいは3つあります。それは、(1) 大学で学ぶための基礎的な知識と技能を育成し、(2) 将来の人生設計を構想し（キャリアデザイン）、(3) 各自の専攻分野への関心を深めていくというものです。

(2) 履修科目を決定するために

「科目」の選択にあたっては、「科目表」と「時間割表」とを参照しながら、履修すべき科目を選択する必要があります。最初に、当該年次のうち、必修科目と履修指定科目とが時間割のどの時限にあてられているかをチェックします。その年次において必ず履修しなければならないからです。上記以外の科目については、その選択にあたって、みなさんの主体性が要求されます。

1年次を例にとると、まず、「新生ゼミナール」と「情報処理」が履修指定になっています。また、スポーツ・健康科目も1科目履修指定になっています。さらにコミュニケーションスキルズ科目から所定の単位を修得しなければなりません。指定に注意しながら、優先的に履修しましょう。

次いで、「時間割表」と対照しながら、共通教育科目と低年次配当の専門教育科目とを同時に検討します。この際、カリキュラムマップ、ナンバリングコードを参考にしながら、『授業内容（シラバス）』を熟読してください。自分の学びの方向性を展望しながら、履修の順序もよく考えて、しっかりとした履修計画を立てなければなりません。（ただし、「時間割表」は毎年変わりますので、今年度の「時間割表」で4年間の履修計画を完全に立ててしまうことはできません。）共通教育科目を2・3・4年次で履修することはさしつかえありませんが、できるだけ早い年次で単位を修得するほうが望ましいです。特に、教職課程の履修を希望する学生は周回の履修計画を立て、確実に単位を修得していかなければ後の履修にさしつかえます。

(3) 共通教育科目の履修方法

社会福祉学科は、人間教養科目と基礎科目の一部から6単位以上を修得しなければなりません。また、コミュニケーションスキルズ科目からは、英語のコア科目の「英語オーラル・コミュニケーションⅠ」、「英語オーラル・コミュニケーションⅡ」又は「英語海外研修」から2単位以上を修得する必要があります。さらに基礎科目、人間教養科目、コミュニケーションスキルズ科目、スポーツ・健康科目の全体から単位を修得して合計単位数を卒業所要単位数以上にしなければなりません。なお、「新生ゼミナール」（2単位）、スポーツ・健康科目のコア科目の「日常生活に生かすスポーツ科学」「現代社会とスポーツ」（各2単位）、「スポーツ実習Ⅰ」「スポーツ実習Ⅱ」「スポーツ実習Ⅲ」「スポーツ実習Ⅳ」「スポーツ実習Ⅴ」（各1単位）は履修指定となります。

(4) キャリアデザイン科目

キャリアデザイン科目は、学生のキャリア形成を支援する目的で設置しています。「コミュニケーション力育成」では、社会人基礎力やコミュニケーションに関する理論を学び、実践を通してコミュニケーション力を高めることができます。「論理的思考と数的処理」では、数学の基礎を固め、就職試験の準備をします。

(5) 地域志向科目について

地域志向科目は「地域人材育成プログラム」を構成する科目です。私たちが生活と学びの場としている地域の実情を知り、その課題を発見し、解決策を提案したり、実際に課題解決のための活動に取り組んだりする科目群です。(詳しくは P149を参照)

この地域志向科目の中に設置されている「かごしま教養プログラム」と「かごしまフィールドスクール」は、文部科学省「戦略的大学連携支援事業」の一貫として鹿児島県内の全大学・短大・高専の学生を対象として実施される連携教育プログラム「グローバル教養教育」の一部です。「グローバル教養教育」は、これらの科目と「かごしまカレッジ教育」を合わせて構成されていますが、この「かごしまカレッジ教育」については、本学では「新入生ゼミナール」がこれに対応しています。

2 専門教育科目

社会福祉学科においては、社会福祉専門職の国家資格である「社会福祉士」「精神保健福祉士」「介護福祉士」の国家試験受験資格を得るための指定科目を中心に科目の配置がなされています。さらに、「教育職員免許」に対応する科目も一部配置がなされています。

(1) 専門教育科目の構成

本学科の専門教育科目は、「学科基本科目」「学科発展科目」「自由科目」からなっています。

「学科基本科目」には「必修科目」「履修指定科目」「社会福祉基礎科目」「社会福祉特設科目」があります。「必修科目」は卒業に必要な科目であり、それに加えて社会福祉士国家試験受験資格を得るために必要な科目です。「履修指定科目」は指定された年次に履修が求められる科目です。「社会福祉基礎科目」は社会福祉士国家試験受験資格を得るために必要な科目です。「必修科目」「社会福祉基礎科目」を修得することで社会福祉士国家試験受験資格を得ることができます。なお、「社会福祉特設科目」は学科に特徴的な科目や共通して履修するのが望ましい科目、あるいは国家試験に役立つ科目です。

「学科発展科目」には「精神保健福祉関連科目」「介護福祉関連科目」「教職関連科目」があります。「精神保健福祉関連科目」は「精神保健福祉士」の国家試験受験資格を得るために必要な科目です。「介護福祉関連科目」は「介護福祉士」の国家試験受験資格を得るために必要な科目です。「教職関連科目」は「教育職員免許」を得るために必要な科目が含まれています(学校種・教科によって不要な場合もあります)。

「自由科目」には「介護福祉士課程」の科目があります。これらの科目の単位は卒業に必要な単位には含まれませんが、「介護福祉士」の国家試験受験資格を得るために必要な科目です。

(2) 社会福祉士国家試験受験資格に関する科目

現在、社会福祉を学ぶ多くの学生が目標にしているのが、「社会福祉士」という国家資格を取得して社会福祉の実践現場での仕事に就くことです。そこで、本学科では、いわば学生全体の基礎資格として社会福祉士国家試験受験資格の指定科目を中心とした科目配置を行っています。おおむね、3年次までにほとんどの「社会福祉士」の指定科目が履修できるようにしています。

社会福祉士の資格は、社会福祉専門職の一般的な資格として定着しており、指定科目の学習は、社会福祉学教育の中核をなしています。そこでまず、「必修科目」および「社会福祉基礎科目」に置かれた「社会福祉士」の指定科目を3年次までに履修してほしいと思います。資格取得については、学科カリキュラムの後にある「社会福祉士国家試験受験資格」の説明を参照してください。

(3) 2つ目の資格としての資格課程の科目

本学科では、「社会福祉士」の国家試験受験資格をベースにして2つ目の資格を取得することができます。取得可能な2つ目の資格は「精神保健福祉士」あるいは「介護福祉士」の国家試験受験資格、または「教育職員免許」です。ただし、精神保健福祉士国家試験受験資格と教育職員免許を並行して取得するというように2つ目の資格(免許)を複数取得することはできません。また、3つの資格(免許)を並行して取得することもできません。

精神保健福祉士国家試験受験資格取得を目指す者は、精神保健福祉士養成課程の科目を修得する必要があります。介護福祉士国家試験受験資格取得を目指す者は、介護福祉士養成課程の科目を修得する必要があります。教育職員免許取得を目指す者は、学校種・教科に応じて必要な教職課程の科目を修得する必要があります。

① 精神保健福祉士養成課程

精神保健福祉士養成課程は、社会福祉士国家試験受験資格をベースに、精神保健福祉士国家試験受験資格を取得する課程です。昨今の増大する「こころの健康問題」（ストレス性障害や精神障害など）をもつ人たちに対して、ケースマネジメント、カウンセリング、コミュニティワークなどの福祉臨床の専門的知識・技術を用いて回復支援ができる精神保健福祉士を養成することを目的としています。

当課程の卒業生の多くは精神保健医療機関（精神科病院、精神科・心療内科クリニック、総合病院など）や障害者総合支援法の障害福祉サービス事業所で働いています。最近では、保護観察所（社会復帰調整官）や都道府県の福祉専門職、市町村といった行政機関でも活躍しています。

精神保健福祉士の指定科目は、3年次、4年次を中心に開講されており、実習は4年生で実施されます。なお、精神保健福祉士養成課程では3年次終了時にレポートと面接による選抜があり上限を20名としています。精神保健福祉士養成課程を目指す者は、精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な科目を履修しなければなりません。これらの科目は「社会福祉士」の国家試験受験資格を取得するのに必要な科目群と「社会福祉特設科目」および「精神保健福祉関連科目」に置かれています。資格取得については、学科カリキュラムの後にある「精神保健福祉士国家試験受験資格」の説明を参照してください。

② 介護福祉士課程

介護福祉士課程は、社会福祉士国家試験受験資格と介護福祉士国家試験受験資格を合わせて取得する課程で、1年次から登録します。

介護福祉士課程は、増大する介護ニーズに対応し、専門的知識・技術をもって、身体上又は精神上の障害により日常生活を営むのに支障のある人に対して、介護を行うためのアセスメント能力、その人及びその介護者に対して介護に関する助言・指導を行うことのできる能力、つまりケアワークとソーシャルワークの両方の視点を備えた人材の育成を目的としています。

介護福祉士養成に必要な科目については、介護福祉士課程の学生のみによるクラス分けがなされ、少人数による講義が行われます。（本課程の開講科目は、1年次に履修許可が与えられた学生しか履修できません。）出席等に関する条件が厳しく、講義は3分の2以上の出席がなければ試験を受けることができません。また、実習は5分の4以上の出席がなければ単位を取得することはできません。

なお、定員は20名で、レポート、面接等による選抜があります。

介護福祉士課程を目指す者は、介護福祉士国家試験受験資格に必要な科目を履修する必要があります。これらの科目は「社会福祉特設科目」、「介護福祉関連科目」および「介護福祉士課程科目」に置かれています。資格取得については、学科カリキュラムの後にある「介護福祉士養成課程」の説明を参照してください。

(4) 教職課程

教職課程は、特別支援学校教諭、高等学校教諭（福祉、公民）、中学校教諭（社会）の教育職員養成を目的とする課程です。ただし、教育職員免許の取得のためには、専門の選択科目だけでは不十分であるので、より計画的な履修が必要になります。教育職員免許の取得と社会福祉士国家試験受験資格の取得は可能ですが、履修すべき学年に未履修のものが残った場合には、かなり厳しいものとなることを覚悟しておいた方がいいでしょう。

教職課程を目指す者は、学科カリキュラムの後にある「教職課程」の説明を参照してください。学校種・教科によって、本学科の「社会福祉特設科目」および「教職関連科目」にある科目のほかに、教職課程で定められた科目を履修する必要があります。

3 履修上の留意点

(1) 年次配当の意味

「年次配当」は、科目の種類によって、少し意味が異なります。

履修指定科目となっている科目は、その年次において必ず履修しなければなりません。特に「新入生ゼミナール」は、1年次のみ履修することができます。万が一、単位を修得できなかった場合は、再履修できませんので、その不足単位は他の科目の履修で補わなければなりません。

履修指定科目以外の科目は、配当された年次以降に履修することができます。例えば、「2年次配当」というのは、「2年次以降に履修できる」ということを意味します。「3年次配当」であれば「3年次以降…」というようになります。履修できる年次になったら、できるだけ早い年次で履修することが望ましいですが、履修計画によっては高年次で履修してもさしつかえありません。

(2) 再履修について

さてみなさん、ここで肝に銘じておいてほしいことがあります。コミュニケーションスキルズ科目の選択必修科目、専門教育科目の必修科目を落としてしまった場合、翌年度以降に再履修しなければなりません。できるだけ努力して当該年次にこれらの科目の単位を修得してください。

社会福祉学科共通教育科目

科目区分		ナンバリングコード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数	
基礎科目	新入生ゼミナール	B_GEN110027	新入生ゼミナール	2	1	履修指定 (注)①参照	
	数理・データサイエンス・AI	B_GEN100076	データサイエンス・AI 入門	2	1		
		B_GEN100076	情報処理	2	1	履修指定 (注)①参照	
		B_GEN104170	確率と統計	2	1		
	キャリアデザイン	B_GEN116070	コミュニケーション力育成	2	1		
		B_GEN116070	キャリア形成のための一般教養Ⅰ	2	1		
		B_GEN116070	キャリア形成のための一般教養Ⅱ	2	1		
		B_GEN216070	キャリア形成のための一般教養Ⅲ	2	3		
		B_GEN216070	キャリア形成のための一般教養Ⅳ	2	3		
B_GEN206070		論理的思考と数的処理	2	2			
B_GEN216070		キャリア形成のための文章力育成	2	3			
人間教養科目	人文科学	B_GEN109100	日本文学	2	1	6単位以上	
		B_GEN109300	外国文学	2	1		
		B_GEN107610	音楽文化論	2	1		
		B_GEN102100	日本史	2	1		
		B_GEN102300	西洋史	2	1		
		B_GEN102200	東洋史	2	1		
		B_GEN102090	東西文化の交流	2	1		
		B_GEN101000	哲学	2	1		
		B_GEN101500	倫理学	2	1		
		B_GEN101401	心理学	2	1		
	社会科学	B_GEN103210	法学	2	1		
		B_GEN103231	日本国憲法	2	1		
		B_GEN103110	政治学	2	1		
		B_GEN103310	経済学	2	1		
		B_GEN103610	社会学	2	1		
		B_GEN102901	地理学	2	1		
		B_GEN103000	社会科学概論	2	1		
	自然科学	B_GEN104100	数学Ⅰ	2	1		
		B_GEN104100	数学Ⅱ	2	1		
		B_GEN104600	生命科学	2	1		
		B_GEN104680	環境科学	2	1		
	地域志向	B_GEN103617	地域創生Ⅰ	2	1		
		B_GEN103617	地域創生Ⅱ	2	1		
		B_GEN102100	Japanology	2	1		
		B_GEN103336	地域から世界へ	2	1		
		B_GEN110000	かごしま教養プログラム	2	1		
		B_GEN110000	かごしまフィールドスクール	2	1		
B_GEN133697		ボランティア活動	2	1			
B_GEN236070		国内インターンシップ	2	2			
B_GEN236070		海外インターンシップ	3	2			
B_GEN100000		教養特講Ⅰ	2	1			
B_GEN100000		教養特講Ⅱ	2	1			
B_GEN100000		教養特講Ⅲ	2	1			
B_GEN100000		教養特講Ⅳ	2	1			
コミュニケーションスキルズ科目	英語 コア	B_GEN128311	英語オール・コミュニケーションⅠ	1	1	2単位以上 (注)②参照	
		B_GEN128311	英語オール・コミュニケーションⅡ	1	1		
		B_GEN138300	英語海外研修	2	1		
	英語 関連	B_GEN128377	英語リーディング	1	1		
		B_GEN128360	英語ライティング	1	1		
		B_GEN108375	英文読解の技法	2	1		
		B_GEN108300	TOEIC・TOEFL 対策	2	1		
		B_GEN118350	コミュニケーションのための英文法	2	1		
B_GEN118378	Global Economy and Business	2	1				

共通教育科目合計14単位以上

科目区分			ナンバリング コード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数	
第二外国語	中国語	B_GEN128200	基礎中国語Ⅰ	1	1			
		B_GEN128200	基礎中国語Ⅱ	1	1			
		B_GEN138200	中国語海外研修	2	1			
	フランス語	B_GEN128500	基礎フランス語Ⅰ	1	1			
		B_GEN128500	基礎フランス語Ⅱ	1	1			
	ドイツ語	B_GEN128400	基礎ドイツ語Ⅰ	1	1			
		B_GEN128400	基礎ドイツ語Ⅱ	1	1			
	韓国語	B_GEN128291	基礎韓国語Ⅰ	1	1			
		B_GEN128291	基礎韓国語Ⅱ	1	1			
		B_GEN138291	韓国語海外研修	2	1			
	日本語 (留学生科目)	B_GEN128100	日本語入門Ⅰ	2	1			
		B_GEN128100	日本語入門Ⅱ	2	1			
		B_GEN108100	留学生のための日本事情	2	1			
スポーツ・健康科目	講義	B_GEN107801	日常生活に生かすスポーツ科学	2	1	1科目履修指定 (注)③参照		
		B_GEN107801	現代社会とスポーツ	2	1			
	実習	B_GEN127800	スポーツ実習Ⅰ（屋内集団球技）	1	1			
		B_GEN127800	スポーツ実習Ⅱ（屋内個人球技）	1	1			
		B_GEN127800	スポーツ実習Ⅲ（個人種目）	1	1			
		B_GEN127800	スポーツ実習Ⅳ（屋外個人球技）	1	1			
		B_GEN127800	スポーツ実習Ⅴ（屋外集団球技）	1	1			

(注)

- ① 新入生ゼミナール及び情報処理は、履修指定とし、配当された年次に全員必ず登録し授業を受けなければならない。なお、新入生ゼミナールの再履修はできない。
- ② コミュニケーションスキルズ科目の英語は、コア科目の英語オーラル・コミュニケーションⅠ及び英語オーラル・コミュニケーションⅡ又は英語海外研修から2単位以上を修得しなければならない。
- ③ スポーツ・健康科目は、1科目履修指定とし、配当された年次に全員必ず登録し授業を受けなければならない。

社会福祉学科専門教育科目

科目区分		ナンバリングコード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数	
学科基本科目	必修	B_WEL103690	社会福祉概論Ⅰ	2	1	8単位	
		B_WEL103690	社会福祉概論Ⅱ	2	1		
		B_WEL103690	ソーシャルワークⅠ	2	1		
		B_WEL103690	ソーシャルワークⅡ	2	1		
	履修指定	B_WEL310027	演習Ⅰ	2	3		
		B_WEL310027	演習Ⅱ	2	3		
		B_WEL410027	演習Ⅲ	2	4		
		B_WEL410027	演習Ⅳ（演習論文含む）	4	4		
		B_WEL103690	鹿児島社会福祉入門	2	1		
	社会福祉基礎	B_WEL104900	医学一般	2	1	30単位以上	
		B_WEL101401	心理学概論	2	1		
		B_WEL103610	社会学概論	2	1		
		B_WEL300027	社会福祉調査	2	3		
		B_WEL213690	ソーシャルワークⅢ	2	2		
		B_WEL213690	ソーシャルワークⅣ	2	2		
		B_WEL313690	ソーシャルワークⅤ	2	3		
		B_WEL313690	ソーシャルワークⅥ	2	3		
		B_WEL203692	公的扶助論	2	2		
		B_WEL203697	地域福祉論Ⅰ	2	2		
		B_WEL203697	地域福祉論Ⅱ	2	2		
		B_WEL303691	社会福祉運営管理	2	3		
		B_WEL203699	保健医療サービス	2	2		
		B_WEL103692	高齢者福祉論	2	1		
		B_WEL203692	障害者福祉論	2	2		
		B_WEL203694	子ども家庭福祉論	2	2		
		B_WEL303246	権利擁護と成年後見制度	2	3		
		B_WEL203697	司法福祉	2	2		
		B_WEL103691	ソーシャルワーク実習入門	2	2		
		B_WEL213691	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	2		
		B_WEL213691	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	2		
		B_WEL313691	ソーシャルワーク演習Ⅲ	3	2		
		B_WEL313691	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2	3		
		B_WEL203691	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1	2		
		B_WEL303691	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	1	3		
B_WEL303691		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	1	3			
B_WEL333691	ソーシャルワーク実習Ⅰ	1	2				
B_WEL333691	ソーシャルワーク実習Ⅱ	5	3				
B_WEL203690	社会福祉学特論	4	4				
B_WEL203640	社会保障論Ⅰ	2	3				
B_WEL303640	社会保障論Ⅱ	2	3				
社会福祉特設	B_WEL203616	家族社会学	2	2	8単位以上		
	B_WEL303691	社会福祉法制	2	4			
	B_WEL201430	発達心理学	2	2			
	B_WEL301460	臨床心理学	2	3			
	B_WEL303692	精神保健学Ⅰ	2	3			
	B_WEL304937	精神医学Ⅱ	2	3			
	B_WEL203692	精神保健福祉制度論	2	3			
	B_WEL203692	精神保健福祉の原理Ⅰ	2	3			
	B_WEL203680	社会病理論	2	2			
	B_WEL133690	基礎介護技術	2	2			
	B_WEL118019	手話	2	1			
	B_WEL118019	点字	2	1			
	B_WEL103690	社会福祉特講Ⅰ	2	1			
	B_WEL103690	社会福祉特講Ⅱ	2	1			
	B_WEL303690	社会福祉特講Ⅲ	2	3			
	B_WEL203691	ケアマネジメント論	2	2			
	B_WEL303692	発達と老化の理解Ⅱ	2	4			
	B_WEL204900	こころとからだのしくみⅠ	2	2			
	B_WEL203692	認知症の理解Ⅰ	2	1			

科目区分		ナンバリングコード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数	
学科発展科目		B_WEL303692	障害の理解Ⅱ	2	3		
		B_WEL103690	介護福祉論	2	1		
		B_WEL303691	福祉行財政と福祉計画	2	3		
		B_WEL203662	就労支援サービス	1	2		
	精神保健福祉関連	B_WEL303692	精神保健学Ⅱ	2	3		
		B_WEL104937	精神医学Ⅰ	2	3		
		B_WEL303692	精神障害リハビリテーション論	2	4		
		B_WEL203692	精神保健福祉の原理Ⅱ	2	3		
		B_WEL113692	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	2	4		
		B_WEL213692	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	2	4		
		B_WEL213692	精神保健福祉援助演習Ⅰ	2	4		
		B_WEL313692	精神保健福祉援助演習Ⅱ	4	4		
		B_WEL103692	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2	4		
		B_WEL203692	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	2	4		
		B_WEL303692	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	2	4		
		B_WEL333692	精神保健福祉援助実習	4	4		
	介護福祉関連	B_WEL103690	介護福祉の基本Ⅰ	2	1		
		B_WEL203690	介護福祉の基本Ⅱ	2	3		
		B_WEL203690	介護実習指導Ⅱ	1	2		
		B_WEL223690	介護実習Ⅱ	4	2		
		B_WEL324900	こころとからだのしくみⅢ	2	2		
		B_WEL128019	手話・点字	1	3		
		B_WEL105900	生活支援技術Ⅳ（栄養・調理）	2	3		
		B_WEL105900	生活支援技術Ⅴ（被服及び住居）	2	3		
		B_WEL325900	生活支援技術Ⅴ（被服及び住居実習）	1	3		
		B_WEL103692	障害の理解Ⅰ	2	2		
		B_WEL313690	介護福祉特講Ⅰ	2	4		
		B_WEL313690	介護福祉特講Ⅱ	2	4		
		B_WEL103690	介護過程Ⅰ	1	1		
		B_WEL213690	介護過程Ⅱ	1	1		
		B_WEL313690	介護過程Ⅲ	1	4		
		B_WEL104900	医療的ケアⅠ	2	4		
		B_WEL214900	医療的ケアⅡ	2	4		
		B_WEL314900	医療的ケアⅢ（演習含む）	1	4		
		B_WEL303690	介護実習指導Ⅲ	2	4		
		B_WEL333690	介護実習Ⅲ	5	4		
	教職関連	B_WEL203713	教育社会学	2	2		
		B_WEL203614	社会心理学	2	2		
		B_WEL203790	生涯学習概論	2	2		
		B_WEL203780	障害児の心理・生理・病理	2	2		
		B_WEL203780	特別支援教育総論	2	2		
		B_WEL203310	経済原論（国際経済を含む）	2	2		
		B_WEL302901	人文地理学概論	2	3		
		B_WEL304500	自然地理学概論	2	3		
		B_WEL302901	地誌学概論	2	3		
		B_WEL303210	法律学概論（国際法を含む）	2	3		
		B_WEL303110	政治学概論（国際政治を含む）	2	3		
		B_WEL303240	民法	2	3		

科目区分	ナンバリングコード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数	
自由科目 (卒業所要単位に含まれない)		B_WEL104947	リハビリテーション論	2	3	
		B_WEL103690	生きがい活動援助法Ⅰ	2	2	
		B_WEL213690	生きがい活動援助法Ⅱ	2	2	
		B_WEL123690	生活支援技術Ⅰ	1	1	
		B_WEL123690	生活支援技術Ⅱ	1	1	
		B_WEL223690	生活支援技術Ⅲ	1	2	
		B_WEL325900	生活支援技術Ⅳ（栄養・調理実習）	2	3	
		B_WEL103690	介護実習指導Ⅰ	1	1	
		B_WEL133690	介護実習Ⅰ	2	1	
		B_WEL103692	発達と老化の理解Ⅰ	2	2	
		B_WEL203692	認知症の理解Ⅱ	2	3	
		B_WEL204900	こころとからだのしくみⅡ	2	2	
計					110単位以上	

注)

- ① 「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」を履修できる者は、「ソーシャルワークⅠ」、「ソーシャルワークⅡ」、「ソーシャルワークⅢ」、「ソーシャルワーク演習Ⅰ」、「ソーシャルワーク演習Ⅱ」及び「ソーシャルワーク実習入門」の単位を修得したものでなければならない。
- ② 「ソーシャルワーク実習Ⅰ」を履修する者は、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」を履修しなければならない。
- ③ 「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」を履修できる者は、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」、「ソーシャルワークⅣ」及び「ソーシャルワーク演習Ⅲ」の単位を修得したものでなければならない。
- ④ 「ソーシャルワーク実習Ⅱ」を履修する者は、「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」を履修しなければならない。
- ⑤ 「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」及び「ソーシャルワーク演習Ⅳ」を履修する者は、「ソーシャルワーク実習Ⅱ」に規定されている実施時間数を終えたものでなければならない。
- ⑥ 他学部・他学科専門教育科目及び教職・資格課程の科目の履修により修得した単位並びに単位互換認定科目の単位は、福祉社会学部履修規程第7条により、「専門選択科目から合計102単位以上」の枠で16単位を限度に卒業所要単位として認める。
- ⑦ 特定の養成課程の登録は、介護福祉士課程については1年次開始時に行う。精神保健福祉士養成課程登録は4年次開始時に行う。ただし、3年次編入学生は、精神保健福祉士養成課程への登録はできない。
- ⑧ 学科発展科目群の精神保健福祉関連科目について、「精神保健福祉援助演習Ⅰ」、「精神保健福祉援助演習Ⅱ」、「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ」、「精神保健福祉援助実習指導Ⅱ」、「精神保健福祉援助実習指導Ⅲ」及び「精神保健福祉援助実習」以外の科目については精神保健福祉士養成課程以外の学生も履修することができる。
- ⑨ 学科発展科目群の介護福祉関連科目及び自由科目の介護福祉士課程科目について、介護福祉士課程以外の学生は履修することができない。ただし、高校福祉の教職免許状取得希望者は、「発達と老化の理解Ⅰ」を履修することができる。
- ⑩ 学科発展科目群の教職関連科目について、教職課程以外の学生も履修することができる。
- ⑪ 「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」「演習Ⅳ（演習論文含む）」及び「鹿児島社会福祉入門」は、履修指定とし、配当された年次に全員必ず登録し授業を受けなければならない。

[社会福祉士国家試験受験資格]

「社会福祉士」は社会福祉士及び介護福祉士法（昭和62年法律第30号）の成立により新たに制度化された社会福祉専門職の国家資格です。

この資格がなければ、社会福祉の専門的職業に就けないというものではありません。

また、これは国家試験に合格して得られるものであり、本課程は国家試験の受験資格が取得できるように設けられたものです。

(1) 単位の修得方法

受験資格を取得するためには、次の表で示されている科目の単位を修得する必要があります。（※は基礎科目）

厚生労働省令に定める授業科目	ナンバリングコード	本学における授業科目	実施時間	単位	年次配当	所属	受験資格科目
医学概論※	B_SOW104900	医学一般	30	2	1	社会福祉学科	○
心理学と心理的支援※	B_SOW101401	心理学概論	30	2	1	〃	○
社会学と社会システム※	B_SOW103610	社会学概論	30	2	1	〃	○
社会福祉の原理と政策	B_SOW103690	社会福祉概論Ⅰ	30	2	1	〃	○
	B_SOW103690	社会福祉概論Ⅱ	30	2	1	〃	
社会福祉調査の基礎※	B_SOW300027	社会福祉調査	30	2	3	〃	○
ソーシャルワークの基盤と専門職※	B_SOW103690	ソーシャルワークⅠ	30	2	1	〃	○
ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)※	B_SOW103690	ソーシャルワークⅡ	30	2	1	〃	○
ソーシャルワークの理論と方法	B_SOW213690	ソーシャルワークⅢ	30	2	2	〃	○
	B_SOW213690	ソーシャルワークⅣ	30	2	2	〃	
ソーシャルワークの理論と方法(専門)	B_SOW313690	ソーシャルワークⅤ	30	2	3	〃	○
	B_SOW313690	ソーシャルワークⅥ	30	2	3	〃	
地域福祉と包括的支援体制	B_SOW203697	地域福祉論Ⅰ	30	2	2	〃	○
	B_SOW203697	地域福祉論Ⅱ	30	2	2	〃	
福祉サービスの組織と経営※	B_SOW303691	社会福祉運営管理	30	2	3	〃	○
社会保障※	B_SOW203640	社会保障論Ⅰ	30	2	3	〃	○
	B_SOW303640	社会保障論Ⅱ	30	2	3	〃	
高齢者福祉※	B_SOW103692	高齢者福祉論	30	2	1	〃	○
障害者福祉※	B_SOW203692	障害者福祉論	30	2	2	〃	○
児童・家庭福祉※	B_SOW203694	子ども家庭福祉論	30	2	2	〃	○
貧困に対する支援※	B_SOW203692	公的扶助論	30	2	2	〃	○
保健医療と福祉※	B_SOW203699	保健医療サービス	30	2	2	〃	○
権利擁護を支える法制度※	B_SOW303246	権利擁護と成年後見制度	30	2	3	〃	○
刑事司法と福祉※	B_SOW203697	司法福祉	30	2	2	〃	○
ソーシャルワーク演習※	B_SOW213691	ソーシャルワーク演習Ⅰ	30	2	2	〃	○
ソーシャルワーク演習(専門)	B_SOW213691	ソーシャルワーク演習Ⅱ	30	2	2	〃	○
	B_SOW313691	ソーシャルワーク演習Ⅲ	60	3	2	〃	
	B_SOW313691	ソーシャルワーク演習Ⅳ	30	2	3	〃	
	B_SOW203691	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	30	1	2	〃	
ソーシャルワーク実習指導	B_SOW303691	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	30	1	3	〃	○
	B_SOW303691	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	30	1	3	〃	
	B_SOW333691	ソーシャルワーク実習Ⅰ	40	1	2	〃	○
ソーシャルワーク実習	B_SOW333691	ソーシャルワーク実習Ⅱ	200	5	3	〃	

(注) ○印は国家試験受験資格に必要な科目である。

(2) 履修資格

- ① ソーシャルワーク実習指導Ⅰを履修できる者は、ソーシャルワークⅠ、ソーシャルワークⅡ、ソーシャルワークⅢ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク実習入門の単位を修得したものでなければならない。
- ② ソーシャルワーク実習Ⅰを履修する者は、ソーシャルワーク実習指導Ⅰを履修しなければならない。
- ③ ソーシャルワーク実習指導Ⅱを履修できる者は、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワークⅣ、ソーシャ

ルワーク演習Ⅲの単位を修得したものでなければならない。

- ④ ソーシャルワーク実習Ⅱを履修する者は、ソーシャルワーク実習指導Ⅱを履修しなければならない。
- ⑤ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ及びソーシャルワーク演習Ⅳを履修する者は、ソーシャルワーク実習Ⅱに規定されている実施時間数を終えたものでなければならない。
- ⑥ ソーシャルワーク実習入門，ソーシャルワーク演習Ⅰ，ソーシャルワーク演習Ⅱ，ソーシャルワーク演習Ⅲ，ソーシャルワーク演習Ⅳ，ソーシャルワーク実習指導Ⅰ，ソーシャルワーク実習指導Ⅱ及びソーシャルワーク実習指導Ⅲに関しては試験施行細則４項の出席規程を上回る規程を定めるので注意すること。

ソーシャルワーク実習の実習費に関する規程

第１条 ソーシャルワーク実習を履修する者は、鹿児島国際大学学則第38条により、別表に定める実習費を所定の期日までに納入しなければならない。

第２条 提出した書類及び実習費はどのような理由があっても返還しない。

別表（第１条関係）納入金及び納入方法

区 分		金 額	付 記
ソーシャルワーク実習費	ソーシャルワーク実習Ⅰ	10,000円	所定の手続と同時に納入すること。
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	31,000円	

[精神保健福祉士国家試験受験資格]

(1) 単位の修得方法

受験資格を取得するには、次の表で示されている科目の単位の修得する必要がある。(※は基礎科目)

省令に定める科目	ナンバリングコード	本学における授業科目	実施時間	単位	年次配当	所属	受験資格科目
医 学 概 論 ※	B_PSW104900	医学一般	30	2	1	社会福祉学科	○
心 理 学 と 心 理 的 支 援 ※	B_PSW101401	心理学概論	30	2	1	//	○
社会 学 と 社会 シ ス テ ム ※	B_PSW103610	社会学概論	30	2	1	//	○
社会 福 祉 の 原 理 と 政 策 ※	B_PSW103690	社会福祉概論Ⅰ	30	2	1	//	○
	B_PSW103690	社会福祉概論Ⅱ	30	2	1	//	○
地域福祉と包括的支援体制※	B_PSW203697	地域福祉論Ⅰ	30	2	2	//	○
	B_PSW203697	地域福祉論Ⅱ	30	2	2	//	○
社 会 保 障 ※	B_PSW203640	社会保障論Ⅰ	30	2	3	//	○
	B_PSW303640	社会保障論Ⅱ	30	2	3	//	○
障 害 者 福 祉 ※	B_PSW203692	障害者福祉論	30	2	2	//	○
権利擁護を支える法制度※	B_PSW303246	権利擁護と成年後見制度	30	2	3	//	○
刑 事 司 法 と 福 祉 ※	B_PSW203697	司法福祉	30	2	2	//	○
社会 福 祉 調 査 の 基 礎 ※	B_PSW300027	社会福祉調査	30	2	3	//	○
精 神 医 学 と 精 神 医 療	B_PSW104937	精神医学Ⅰ	30	2	3	//	○
	B_PSW304937	精神医学Ⅱ	30	2	3	//	○
現代の精神保健の課題と支援	B_PSW303692	精神保健学Ⅰ	30	2	3	//	○
	B_PSW303692	精神保健学Ⅱ	30	2	3	//	○
ソーシャルワークの基盤と専門職※	B_PSW103690	ソーシャルワークⅠ	30	2	1	//	○
精 神 保 健 福 祉 の 原 理	B_PSW203692	精神保健福祉の原理Ⅰ	30	2	3	//	○
	B_PSW203692	精神保健福祉の原理Ⅱ	30	2	3	//	○
ソーシャルワークの理論と方法	B_PSW213690	ソーシャルワークⅢ	30	2	2	//	○
	B_PSW213690	ソーシャルワークⅣ	30	2	2	//	○
ソーシャルワークの理論と方法(専門)	B_PSW113692	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	30	2	4	//	○
	B_PSW213692	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	30	2	4	//	○
精神障害リハビリテーション論	B_PSW303692	精神障害リハビリテーション論	30	2	4	//	○
精 神 保 健 福 祉 制 度 論	B_PSW203692	精神保健福祉制度論	30	2	3	//	○
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 演 習 ※	B_PSW213691	ソーシャルワーク演習Ⅰ	30	2	2	//	○
ソーシャルワーク演習(専門)	B_PSW213692	精神保健福祉援助演習Ⅰ	30	2	4	//	○
	B_PSW313692	精神保健福祉援助演習Ⅱ	60	4	4	//	○
ソーシャルワーク実習指導	B_PSW103692	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	30	2	4	//	○
	B_PSW203692	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	30	2	4	//	○
	B_PSW303692	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	30	2	4	//	○
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 実 習	B_PSW333692	精神保健福祉援助実習	210	4	4	//	○

(2) 履修資格

精神保健福祉援助演習Ⅰ，精神保健福祉援助演習Ⅱ，精神保健福祉援助実習指導Ⅰ，精神保健福祉援助実習指導Ⅱ，精神保健福祉援助実習指導Ⅲ，精神保健福祉援助実習の履修を希望する者は，３年次までに以下の三つの条件を満たしていることが必要である。

- ①表Aの全ての科目単位を修得していること。
- ②表Bの基礎科目①～⑮の科目単位について，全て修得していること。
- ③表Cの科目単位を修得していること。

そして，これらの条件を満たした者を対象に３年次末に面接等を実施して上記６科目の履修者を決定する。

※面接等選考時は、条件となる科目について履修中も可とする。ただし、面接実施後の成績発表時、条件となる単位を修得できなかった者については、その履修資格を取り消す。

表A

精神医学Ⅰ，精神医学Ⅱ， 精神保健福祉の原理Ⅰ，精神保健福祉の原理Ⅱ 精神保健福祉制度論
--

表B

基礎科目（令和2年3月文部科学省・厚生労働省令第2号） ※（ ）内は科目省令により国が定めた科目名 ①医学一般（医学概論） ②心理学概論（心理学と心理的支援） ③社会学概論（社会学と社会システム） ④社会福祉概論Ⅰ（社会福祉の原理と政策） ⑤社会福祉概論Ⅱ（社会福祉の原理と政策） ⑥地域福祉論Ⅰ（地域福祉と包括的支援体制） ⑦地域福祉論Ⅱ（地域福祉と包括的支援体制） ⑧社会保障論Ⅰ（社会保障） ⑨社会保障論Ⅱ（社会保障） ⑩障害者福祉論（障害者福祉） ⑪権利擁護と成年後見制度（権利擁護を支える法制度） ⑫司法福祉（刑事司法と福祉） ⑬社会福祉調査（社会福祉調査の基礎） ⑭ソーシャルワークⅠ（ソーシャルワークの基盤と専門職） ⑮ソーシャルワーク演習Ⅰ（ソーシャルワーク演習）
--

表C

ソーシャルワーク実習Ⅰ，ソーシャルワーク実習Ⅱ

精神保健福祉援助実習の実習費に関する規程

第1条 精神保健福祉援助実習を履修する者は、鹿児島国際大学学則第38条により、別表に定める実習費を所定の期日までに納入しなければならない。

第2条 提出した書類及び実習費はどのような理由があっても返還しない。

第3条 （略）

別表（第1条関係）納入金及び納入方法

区 分	金 額	付 記
精神保健福祉援助実習費	33,000円	所定の手続きと同時に納入すること。

[介護福祉士養成課程]

介護福祉士養成に関する履修規程

(介護福祉士養成施設の設置)

第1条 鹿児島国際大学（以下「本学」という。）に、社会福祉士及び介護福祉士法に基づく介護福祉士養成施設を置く。

2 鹿児島国際大学学則（以下「学則」という。）第10条に規程する、介護福祉士養成に関する履修規程を次のとおり定める。

(履修できる学部学科)

第2条 介護福祉士養成に関する科目を履修できる学部学科は、福祉社会学部社会福祉学科介護福祉士課程とする。

(資格取得)

第3条 介護福祉士国家試験受験資格を取得しようとする者は、本学学則、社会福祉士及び介護福祉士法並びに社会福祉士介護福祉士学校指定規則（以下「指定規則」という。）に従い所定の科目（別表第1に示す。）の単位を修得しなければならない。

2 介護実習Ⅰを履修できるものは、別表第2に掲げる科目の単位を修得したものでなければならない。

3 介護実習Ⅱを履修できるものは、別表第3に掲げる科目と介護実習Ⅰの単位を修得したものでなければならない。

4 介護実習Ⅲを履修できるものは、別表第4に掲げる科目と介護実習Ⅱの単位を修得したものでなければならない。

(履修資格及び履修定員)

第4条 介護福祉士国家試験受験資格取得を希望する者は、入学直後に行われる一連の説明会に参加してレポートを提出し、面接試験を受けるものとする。

ただし、履修定員は20名であり、レポートの成績及び面接の結果により、履修許可が与えられる。

第5条 削除

第6条 削除

2 削除

(転入学者等の履修制限)

第7条 転入学者、編入学者、転学部者、転学科及び科目等履修生の介護福祉士課程の履修は認めない。

(出席時間数)

第8条 指定規則に掲げる各科目の出席時間数が指定規則に定める時間数の3分の2（ただし、介護実習Ⅰ、介護実習Ⅱ及び介護実習Ⅲについては5分の4）に満たない者については、当該科目の単位の認定をしない。

(納入金)

第9条 介護福祉士課程の履修を認められた者は、資格判定結果発表後に設ける期間に介護福祉士課程履修費を、介護実習Ⅰ、介護実習Ⅱ及び介護実習Ⅲを履修する場合は実習施設発表後に設ける期間に介護実習費を、それぞれ別表第5に示されたとおり、納入しなければならない。

2 履修費及び実習費等はどのような理由があっても返金しない。

第10条 本規程に関する授業科目について所定の単位数を修得した者は、本人の請求により修得した単位の証明を求めることができる。

(規程の改廃)

第11条 この規程の改廃は、福祉実習委員会、学部教授会及び大学評議会の審議を経て、学長の承認を得なければならない。

別表第1（第3条関係）

指定規則の科目			ナンバリング コード	本学における授業科目				
教育内容	時間数			授業科目名	時間数	単位数	年次配当	備考
人間と社会	人間の尊厳と自立	30	B_CAW303246	権利擁護と成年後見制度	30	2	3	必修
	人間関係とコミュニケーション	30	B_CAW101401	心理学概論	30	2	1	
		30	B_CAW303691	社会福祉運営管理	30	2	3	
	社会の理解	60	B_CAW103690	社会福祉概論Ⅰ	30	2	1	
			B_CAW103692	高齢者福祉論	30	2	1	
			B_CAW203692	障害者福祉論	30	2	2	
	人間と社会に関する選択科目 ※8単位（120時間）以上	120	B_CAW203640	社会保障論Ⅰ	30	2	3	選択 必修
			B_CAW203694	子ども家庭福祉論	30	2	2	
			B_CAW103610	社会学概論	30	2	1	
			B_CAW203692	公的扶助論	30	2	2	
			B_CAW103690	鹿児島社会福祉入門	30	2	1	
			B_CAW103691	ソーシャルワーク実習入門	30	2	2	
介護	介護の基本	180	B_CAW103690	介護福祉論	30	2	1	必修
			B_CAW103690	介護福祉の基本Ⅰ	30	2	1	
			B_CAW203690	介護福祉の基本Ⅱ	30	2	3	
			B_CAW104947	リハビリテーション論	30	2	3	
			B_CAW103690	生きがい活動援助法Ⅰ	30	2	2	
			B_CAW213690	生きがい活動援助法Ⅱ	30	2	2	
	コミュニケーション技術	60	B_CAW313690	ソーシャルワークⅤ	30	2	3	
			B_CAW313690	ソーシャルワークⅥ	30	2	3	
	生活支援技術	300	B_CAW103690	社会福祉概論Ⅱ	30	2	1	
			B_CAW128019	手話・点字	30	1	3	
			B_CAW123690	生活支援技術Ⅰ	30	1	1	
			B_CAW123690	生活支援技術Ⅱ	30	1	1	
			B_CAW223690	生活支援技術Ⅲ	30	1	2	
			B_CAW105900	生活支援技術Ⅳ（栄養・調理）	30	2	3	
			B_CAW325900	生活支援技術Ⅳ（栄養・調理実習）	60	2	3	
			B_CAW105900	生活支援技術Ⅴ（被服及び住居）	30	2	3	
			B_CAW325900	生活支援技術Ⅴ（被服及び住居実習）	30	1	3	
	介護過程	150	B_CAW103690	介護過程Ⅰ	30	1	1	
			B_CAW213690	介護過程Ⅱ	30	1	1	
			B_CAW313690	介護過程Ⅲ	30	1	4	
			B_CAW313690	介護福祉特講Ⅰ	30	2	4	
			B_CAW313690	介護福祉特講Ⅱ	30	2	4	
	介護総合演習	120	B_CAW103690	介護実習指導Ⅰ	30	1	1	
			B_CAW203690	介護実習指導Ⅱ	30	1	2	
			B_CAW303690	介護実習指導Ⅲ	60	2	4	
	介護実習	450	B_CAW133690	介護実習Ⅰ	80	2	1	
			B_CAW223690	介護実習Ⅱ	170	4	2	
			B_CAW333690	介護実習Ⅲ	200	5	4	
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	120	B_CAW104900	医学一般	30	2	1	
			B_CAW204900	こころとからだのしくみⅠ	30	2	2	
			B_CAW204900	こころとからだのしくみⅡ	30	2	2	
			B_CAW324900	こころとからだのしくみⅢ	30	2	2	
	発達と老化の理解	60	B_CAW103692	発達と老化の理解Ⅰ	30	2	2	
			B_CAW303692	発達と老化の理解Ⅱ	30	2	4	
	認知症の理解	60	B_CAW203692	認知症の理解Ⅰ	30	2	1	
			B_CAW203692	認知症の理解Ⅱ	30	2	3	
	障害の理解	60	B_CAW103692	障害の理解Ⅰ	30	2	2	
			B_CAW303692	障害の理解Ⅱ	30	2	3	
医療的ケア	医療的ケア	50 (実時間)	B_CAW104900	医療的ケアⅠ	30	2	4	
			B_CAW214900	医療的ケアⅡ	30	2	4	
			B_CAW314900	医療的ケアⅢ（演習含む）	15	1	4	

別表第2（第3条関係）

介護実習Ⅰに関する科目		
生 活 支 援 技 術 Ⅰ	生 活 支 援 技 術 Ⅱ	認 知 症 の 理 解 Ⅰ

別表第3（第3条関係）

介護実習Ⅱに関する科目		
介 護 過 程 Ⅰ	介 護 過 程 Ⅱ	医 学 一 般

別表第4（第3条関係）

介護実習Ⅲに関する科目		
生 活 支 援 技 術 Ⅲ	障 害 の 理 解 Ⅰ	発 達 と 老 化 の 理 解 Ⅰ
こころとからだのしくみⅠ	こころとからだのしくみⅡ	こころとからだのしくみⅢ

別表第5（第9条関係）

区 分		金 額	付 記
介護福祉士課程履修費		15,000円	所定の手続きと同時に納入すること。
介護実習費	介護実習Ⅰ	13,000円	
	介護実習Ⅱ	28,000円	
	介護実習Ⅲ	32,000円	

[教職課程]

(1) **社会福祉学科で取得できる免許状の種類及び免許教科**

教職課程履修規程第2条参照

(2) **免許状を得るための基礎資格及び修得単位数**

教職課程履修規程第3条参照

(3) **教職課程履修資格**

教職課程履修細則第6条参照

(4) **教職課程履修の手続**

- ① 教職課程の履修を希望する場合は、1年次または2年次に実施される「教職課程履修希望者説明会」に出席し、配付される「履修希望願」を提出しなければなりません。

なお、「教職課程履修希望者説明会」は12月頃に実施する予定です。「資格・実習」の掲示板を必ず確認してください。

- ② 提出した者の中から(3)の資格要件による履修資格者をオリエンテーション時に「資格・実習」の掲示板で発表します。

- ③ 履修資格者は、所定の期日までに履修費（教職課程履修細則第12条参照）を納入してください。（2年次または3年次の申し込みになります。）

- ④ 履修費及び実習費等は、どのような理由があっても返金しません。

(5) **教育実習履修資格**

教職課程履修細則第7条参照

教育実習の履修資格者は、オリエンテーション時に「資格・実習」の掲示板で発表しますので、確認のうえ履修登録してください。

4年次の4月末に教育実習費（教職課程履修細則第12条参照）の納入方法などについての説明会を実施しますので、必ず出席してください。

(6) **単位修得の方法**

単位修得の方法については、「教職課程履修規程」及び「教職課程履修細則」をよく読んで理解してください。

なお、「教育の基礎的理解に関する科目等」の中には、卒業指定科目として登録可能なものがあります。（教職課程履修規程別表第4を参照）

(7) 履修カルテ

【目 的】

教職課程を履修して教育職員免許を取得しようとする学生は、必ず「履修カルテ」を作成しなければなりません。「履修カルテ」は、学生一人一人の学習状況をきめ細かく把握するためのものです。

また、成績公開後、定期的に学生情報システム（LCU）から「履修カルテ」のデータを提出することになりますので大切に管理（入力・更新）してください。

【作 成】

教職課程履修時から教育職員免許取得まで継続して作成します。

※決められた提出時期に「履修カルテ」の提出がない場合、「教育実習」及び「教職実践演習」の履修が認められないことがあります。また、免許状も授与できなくなることがありますので十分注意してください。

【内 容】

【履修カルテ A】①「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修状況

②「大学が独自に設定する科目」の履修状況

③「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修状況

【履修カルテ B】① 必要な資質能力についての自己評価

② 教職に関する体験・実習等の状況

③ 教職を目指す上でさらに身に付けなければならないと考えている事項

【作成の手順】

①学生情報システム（LCU）へアクセスし、メニューの「学修ポートフォリオ」から「履修カルテ」をクリックします。以下の項目について入力してください。

・「履修状況」

修得した科目について入力してください。

・「履修カルテ自己評価」

資質能力に関する自己評価を入力してください。

・「教職に関する体験・実習等の状況」

介護等体験、教育実習、学校関係のボランティア活動について入力してください。

・「教職を目指す事項」

教職を目指す上でさらに身に付けなければならないと考えている事項を入力してください。

②上記の項目について入力後、登録ボタン（更新）をクリックします。

③各学期の成績公開後、提出時期までに該当する項目に随時入力（更新）し、漏れがないか確認してください。

④提出時期に「履修カルテの提出」ボタンをクリックし提出する。（「履修カルテ」は Excel 出力し保存することが可能です。）

【履修カルテ作成・提出スケジュール】

2 年次 開始時	（更新）	「履修カルテ」を計画的に作成するため、入力項目等を理解する。
3 年次 後期開始前	提出①	2 年次までの記録について確認し、9 月中にデータ提出。
4 年次 前期開始前	提出②	3 年次までの記録について確認し、4 月中にデータ提出。
4 年次 後期開始前	提出③	4 年次前期までの記録について確認し、9 月中にデータ提出。
最終提出（4 年次12月頃）	提出④	全ての項目において入力漏れがないかを確認し、12月中にデータ提出。

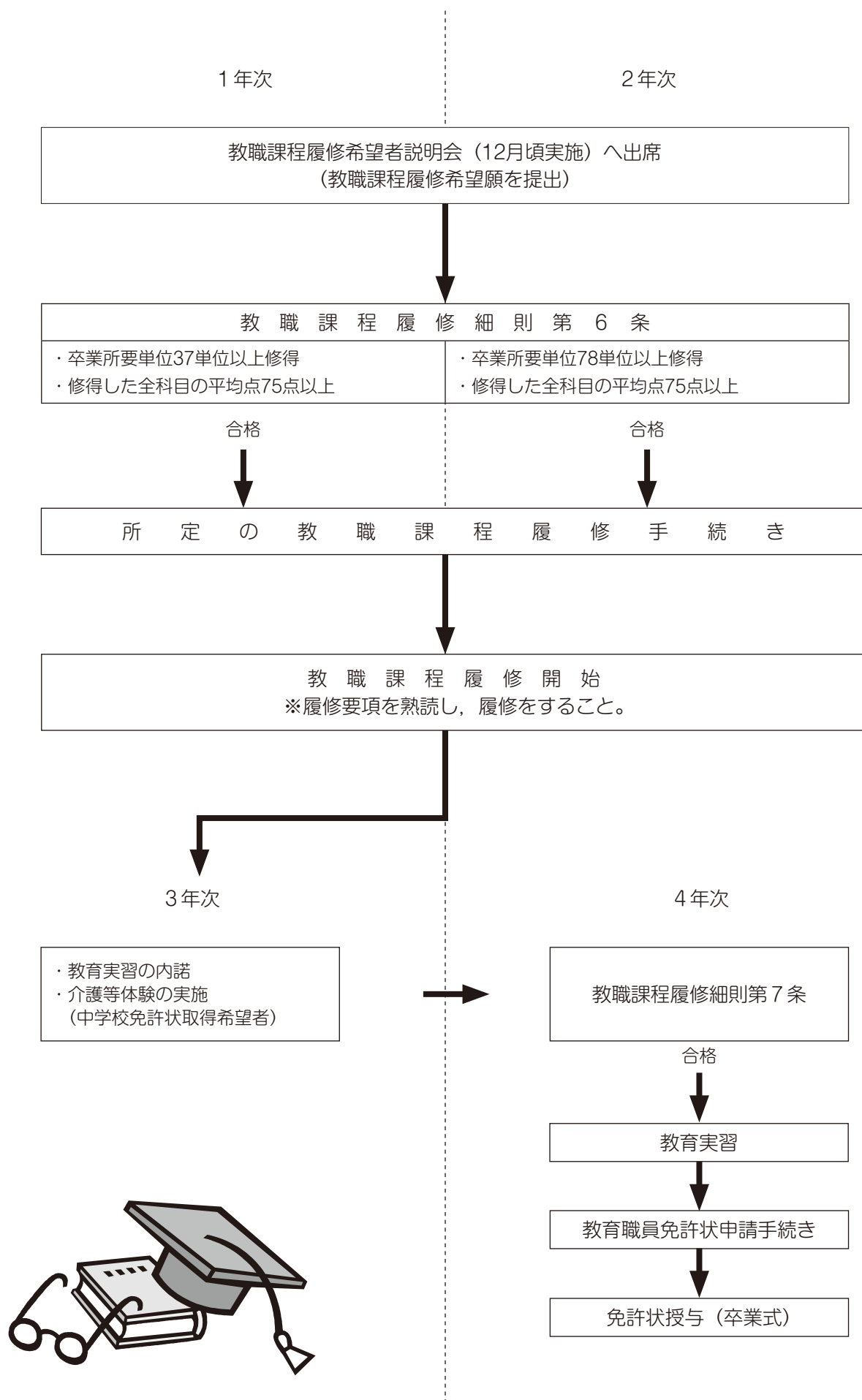
(8) 教職課程スケジュール表

教職課程のスケジュールは次の表のとおりです。ただし、この表は、あくまで予定ですので日程は掲示板にて確認してください。

教 職 課 程 ス ケ ジ ュ ー ル 表

学 年 月	1 年	2 年	3 年	4 年
3月		教 職 課 程 履 修 資 格 者 発 表 (オリエンテーション時) 履 修 カ ル テ 説 明 会 (オリエンテーション時)		教育実習・特別支援教育実習履修資格者発表 (オリエンテーション時)
			介護等体験説明会 (第1回) (オリエンテーション時)	
4月		教 職 課 程 履 修 説 明 会	教 職 課 程 履 修 説 明 会 介護等体験説明会 (第2回)	教 職 課 程 履 修 説 明 会 教 育 実 習 説 明 会 教育実習・特別支援教育実習費納入 (各¥12,000-) (但し、中学校実習は¥18,000-)
5月				取 得 希 望 免 許 教 科 届 提 出
6月			教 育 実 習 内 諾 説 明 会 介 護 等 体 験 説 明 会 (第3・4・5回) ～7月	教育実習校訪問 (事前打合せ)
7月			教育実習予定校訪問 (内諾依頼) 特別支援教育実習内諾説明会 特別支援教育実習予定校訪問(内諾依頼)	教 育 実 習 中 学 校 (3 週 間) 高 等 学 校 (2 週 間)
8月			教 育 実 習 報 告 会	特 別 支 援 教 育 実 習 説 明 会
9月				教 育 実 習 報 告 会 特 別 支 援 教 育 実 習 校 訪 問 (事前打合せ)
10月			教 育 実 習 内 諾 書 提 出	特別支援教育実習 (2週間)
11月				教育職員免許状申請手続説明会(第1回)
12月	教職課程履修 希望者説明会 (教職課程履修希望願提出)		特 別 支 援 教 育 実 習 報 告 会	特 別 支 援 教 育 実 習 報 告 会
1月			特 別 支 援 教 育 実 習 内 諾 書 提 出	教育職員免許状申請手続説明会(第2回)
2月				
3月				免 許 状 授 与 (卒 業 式 当 日)

教職課程の履修について



(9) 教職課程履修規程

第1条 教育職員の免許状を得ようとする者は、教育職員免許法、同法施行規則及び鹿児島国際大学学則の定めるところに従い、所定の単位を修得しなければならない。

第2条 本学教職課程の履修によって取得できる免許状は次のとおりである。(社会福祉学科の場合)

学 部	学 科	免 許 状 の 種 類	
		免 許 状	免許教科
福 祉 社 会 学 部	社 会 福 祉 学 科	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	社 会
		高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	公 民
		高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	福 祉
		特別支援学校教諭一種免許状	—

第3条 前条の免許状を得ようとする者は、次表に示した基礎資格及び本学における最低修得単位数をみたさなければならない。(社会福祉学科の場合)

学部	学科	免許状の種類	免許教科	基礎資格	本学における最低修得単位数				
					教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	大学が独自に設定する科目	特別支援教育に関する科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
福 祉 社 会 学 部	社 会 福 祉 学 科	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	社会	学士の学位を有すること。	30	29	第3条第3項参照 〔中学校4単位〕 〔高等学校12単位〕	—	9
		高等学校教諭一種免許状	公民		34	25			
		高等学校教諭一種免許状	福祉		41	25			
		特別支援学校教諭一種免許状	—	学士の学位を有すること、小学校、中学校、高等学校又は幼稚園の教諭の普通免許状を有すること。	—	—	—	27	

2 前項に規定する「領域及び保育内容の指導法に関する科目」、「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」、「大学が独自に設定する科目」、「特別支援教育に関する科目」及び教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目については、別表第1から別表第5に掲げるとおりとする。

3 経済学部と福祉社会学部（社会福祉学科）、国際文化学部の「大学が独自に設定する科目」の最低修得単位数（中学校4単位、高等学校12単位）は、「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は教育職員免許法で定めた最低修得単位数（中学校28単位、高等学校24単位）を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」の選択科目も併せて修得することができる。

第4条 小学校教諭一種免許状又は中学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、介護等体験特例法に基づき、介護等体験を行わなければならない。

第5条 教職課程の履修についての細則は別に定める。

第6条 この規程の改廃は、教職課程・教育実習委員会、教授会及び大学評議会の審議を経て、学長の承認を得なければならない。

福祉社会学部（社会福祉学科・児童学科）

免許法施行規則に定める 科目及び単位数		ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目				
科 目 名	単位数		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数
日 本 国 憲 法	2	B_TEA103231	日本国憲法	2	1	共通教育科目	2
体 育	2	B_TEA107801	日常生活に生かすスポーツ科学	2	1	//	2
		B_TEA107801	現代社会とスポーツ	2	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅰ(屋内集団球技)	1	1	//	1
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅱ(屋内個人球技)	1	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅲ(個人種目)	1	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅳ(屋外個人球技)	1	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅴ(屋外集団球技)	1	1	//	
外国語コミュニケーション	2	B_TEA128311	英語オーラルコミュニケーションⅠ	1	1	//	2
		B_TEA128311	英語オーラルコミュニケーションⅡ	1	1	//	
		B_TEA138300	英語海外研修	2	1	//	
数理、データ活用及び 人工知能に関する科目 又は情報機器の操作	2	B_TEA100076	情報処理	2	1	//	2
合 計							9

福祉社会学部（社会福祉学科） 中学校教諭一種免許（社会）

免許法施行規則に定める 科目の区分			ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目				
科目区分		各科目に含めることが必要な事項		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	日本史・外国史	B_TEA102100	日本史	2	1	共通教育科目	6
			B_TEA102300	西洋史	2	1	//	
			B_TEA102200	東洋史	2	1	//	
		地理学（地誌を含む。）	B_TEA302901	人文地理学概論	2	3	専門教育科目	6
			B_TEA304500	自然地理学概論	2	3	//	
			B_TEA302901	地誌学概論	2	3	//	
		「法律学，政治学」	B_TEA303210	法律学概論(国際法を含む)	2	3	//	2
			B_TEA303110	政治学概論(国際政治を含む)	2	3	//	
			B_TEA303246	権利擁護と成年後見制度	2	3	//	
			B_TEA203697	司法福祉	2	2	//	
			B_TEA303240	民法	2	3	//	
		「社会学，経済学」	B_TEA103610	社会学概論	2	1	//	6
			B_TEA203640	社会保障論Ⅰ	2	3	//	
			B_TEA303640	社会保障論Ⅱ	2	3	//	
			B_TEA203680	社会病理論	2	2	//	
			B_TEA203697	地域福祉論Ⅰ	2	2	//	
			B_TEA203697	地域福祉論Ⅱ	2	2	//	
			B_TEA300027	社会福祉調査	2	3	//	
			B_TEA203713	教育社会学	2	2	//	
			B_TEA203790	生涯学習概論	2	2	//	
			B_TEA203310	経済原論(国際経済を含む)	2	2	//	
	「哲学，倫理学，宗教学」	B_TEA101000	哲学	2	1	共通教育科目	2	
		B_TEA101500	倫理学	2	1	//		
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	B_TEA303750	社会科教育法Ⅰ	2	3	教職課程に関する科目	8	
		B_TEA303750	社会科教育法Ⅱ	2	3	//		
		B_TEA303750	社会科教育法Ⅲ	2	3	//		
		B_TEA303750	社会科教育法Ⅳ	2	3	//		
合 計								30

福祉社会学部（社会福祉学科） 高等学校教諭一種免許（公民）

免許法施行規則に定める 科目の区分		ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目						
科目区分			授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	B_TEA303210	法律学概論(国際法を含む)	2	3	専門教育科目	2	全 体 か ら 更 に 20 単 位
			B_TEA303110	政治学概論(国際政治を含む)	2	3	//		
			B_TEA303246	権利擁護と成年後見制度	2	3	//	6	
			B_TEA203697	司法福祉	2	2	//		
			B_TEA303240	民法	2	3	//		
		「社会学，経済学（国際経済を含む。）」	B_TEA103610	社会学概論	2	1	//	6	
			B_TEA203640	社会保障論Ⅰ	2	3	//		
			B_TEA303640	社会保障論Ⅱ	2	3	//		
			B_TEA203680	社会病理論	2	2	//	9	
			B_TEA203697	地域福祉論Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA203697	地域福祉論Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA300027	社会福祉調査	2	3	//		
			B_TEA203713	教育社会学	2	2	//		
			B_TEA203790	生涯学習概論	2	2	//		
		B_TEA203310	経済原論(国際経済を含む)	2	2	//			
		「哲学，倫理学，宗教学，心理学」	B_TEA101000	哲学	2	1	共通教育科目	2	
			B_TEA101500	倫理学	2	1	//		
			B_TEA101401	心理学	2	1	//	5	
			B_TEA101401	心理学概論	2	1	専門教育科目		
			B_TEA203614	社会心理学	2	2	//		
			B_TEA201430	発達心理学	2	2	//		
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	B_TEA303750	公民科教育法Ⅰ	2	3	教職課程に関する科目	4		
		B_TEA303750	公民科教育法Ⅱ	2	3	//			
合 計								34	

福祉社会学部（社会福祉学科） 高等学校教諭一種免許（福祉）

免許法施行規則に定める 科目の区分			ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目				
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目		単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	社会福祉学(職業指導を含む。)	B_TEA103690	社会福祉概論Ⅰ	2	1	専門教育科目	4
			B_TEA103690	社会福祉概論Ⅱ	2	1	//	
		高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉	B_TEA203694	子ども家庭福祉論	2	2	//	6
			B_TEA103692	高齢者福祉論	2	1	//	
			B_TEA203692	障害者福祉論	2	2	//	
		社会福祉援助技術	B_TEA103690	ソーシャルワークⅠ	2	1	//	4
			B_TEA103690	ソーシャルワークⅡ	2	1	//	
			B_TEA213690	ソーシャルワークⅢ	2	2	//	4
			B_TEA213690	ソーシャルワークⅣ	2	2	//	
			B_TEA313690	ソーシャルワークⅤ	2	3	//	
			B_TEA313690	ソーシャルワークⅥ	2	3	//	
		介護理論・介護技術	B_TEA103690	介護福祉論	2	1	//	4
			B_TEA133690	基礎介護技術	2	2	//	
		社会福祉総合実習(社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。)	B_TEA303691	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	1	3	//	7
			B_TEA303691	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	1	3	//	
			B_TEA333691	ソーシャルワーク実習Ⅱ	5	3	//	
		人体構造に関する理解・日常生活行動に関する理解	B_TEA204900	こころとからだのしくみⅠ	2	2	//	2
		加齢に関する理解・障害に関する理解	B_TEA103692	発達と老化の理解Ⅰ	2	2	//	6
			B_TEA203692	認知症の理解Ⅰ	2	1	//	
			B_TEA303692	障害の理解Ⅱ	2	3	//	
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	B_TEA303750	福祉科教育法Ⅰ	2	3	教職課程に関する科目	4	
		B_TEA303750	福祉科教育法Ⅱ	2	3	//		
合 計								41

別表第3 大学が独自に設定する科目

中学校教諭一種免許・高等学校教諭一種免許

免許法施行規則に定める 科目の区分	ナンバリング コード	左記に対応する開設科目				
		授業科目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数
大学が独自に設定する科目	B_TEA200170	学習指導と学校図書館	2	2	司書教諭課程	教職課程 履修規程 第3条第 3項参照
	B_TEA200170	読書と豊かな人間性	2	2	//	
	B_TEA333761	離島教育の理解と体験的活動	2	3	教職課程に関する科目	
	B_TEA103617	地域創生Ⅰ	2	1	共通教育科目 経営学科専門教育科目	
	B_TEA103617	地域創生Ⅱ	2	1	//	
	B_TEA103336	地域から世界へ	2	1	共通教育科目	

別表第4 教育の基礎的理解に関する科目等

中学校教諭一種免許・高等学校教諭一種免許

免許法施行規則に定める科目区分等				ナンバリング コード	左記に対応する開設科目		最低修得単位数					
区分	科目	各科目に含めることが必要な事項	最低修得 単位数				中学校		高等学校		計	備 考
					必修	選択	必修	選択				
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	B_TEA203750	教育原理	2	2		2	2		
		・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		B_TEA203750	教職概論	2	2		2	2		
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		B_TEA203750	学校の制度	2	2		2	2		
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		B_TEA203714	教育心理学	2	2		2	2		
		・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		B_TEA303780	特別支援教育論	3	2		2	2		
		・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		B_TEA303750	教育課程論	3	2		2	2		
		第四欄		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳の理論及び指導法	中10 高8	B_TEA203750	道徳教育の指導法	3	2		
・総合的な学習（探究）の時間の指導法	B_TEA303750		特別活動・総合的な学習の時間		3		2		2			
・特別活動の指導法												
・教育の方法及び技術	B_TEA303750		教育の方法及び技術（情報通信技術の活用を含む）		3		2		2		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。	
・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法										進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を含む。		
・生徒指導の理論及び方法	B_TEA303752		生徒・進路指導論		3		2		2			
・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	B_TEA303752		学校教育相談		3		2		2			
・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法												
第五欄	教育実践に関する科目		教育実習		中5 高3		B_TEA333750	教育実習Ⅰ	4	5		
		B_TEA333750	教育実習Ⅱ	4				3				
		教職実践演習	2	B_TEA313750	教職実践演習（中・高）	4	2		2	2	2	
			中27 高23		合 計		中29 高25		中29 高25			

注）「中学校教諭」又は「中学校教諭及び高校教諭」の免許を取得する場合は、「教育実習Ⅰ」の単位を修得しなければなりません。「高校教諭」の免許のみ取得の場合は、「教育実習Ⅱ」の単位を修得してください。

以下の科目については、卒業指定科目として登録できます。なお、卒業所要単位として登録を希望する場合は、指定する期日までに「卒業指定科目等登録願」を必ず提出してください。また、「卒業指定科目等登録願」は提出した年度のみ有効です。

教 育 原 理	教 職 概 論	学 校 の 制 度
教 育 心 理 学	教 育 課 程 論	教育の方法及び技術（情報通信技術の活用を含む）

(10) 教職課程履修細則

第1条 教職課程履修規程第5条により、教職課程の履修に関する細則を次のとおり定める。

第2条 教職課程を履修できる者は、教育職員免許法及び本学学則の定めるところにより、本学学生及び科目等履修生とする。

第3条 本学教職課程の履修によって取得できる教育職員免許状は、次のとおりである。（社会福祉学科の場合）

学 部	学 科	免 許 状 の 種 類	
		免 許 状	免許教科
福 祉 社 会 学 部	社 会 福 祉 学 科	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	社 会
		高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	公 民
		高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	福 祉
		特 別 支 援 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	—

第4条 教育職員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法、同法施行規則及び学則に従い、所定の単位を修得しなければならない。

2 中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状に係る教育の基礎的理解に関する科目等において開設される「教職概論」「教育原理」「教育心理学」「学校の制度」「教育課程論」及び「教育の方法及び技術（情報通信技術の活用を含む）」の修得単位は、所定の手続きを経て卒業に必要な単位に算入することができる。

第5条 削 除

第6条 教職課程は、第2年次から履修できるが、第4年次からの履修は認めない。

ただし、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状の教職課程を履修できる者は、次の要件をみたした者でなければならない。

- (1) 第2年次から履修する者は、1年次終了までに卒業所要単位を37単位以上修得し、修得した全科目の平均点が75点以上の者。
- (2) 第3年次から履修する者は、2年次終了までに卒業所要単位を78単位以上修得し、修得した全科目の平均点が75点以上の者。
- (3) 編入学生の場合は編入学前に修得した卒業所要単位全科目の平均点が75点以上の者。

第7条 「教育実習（幼・小）」（幼稚園・小学校の免許状を取得する者。）を履修できる者は、原則として次の別表1に掲げる教職課程に関する科目の単位を修得した者でなければならない。「教育実習Ⅰ」（中学校の免許状を取得する者。高等学校の免許状を併せて取得する者を含む。）又は「教育実習Ⅱ」（高等学校の免許状を取得する者。）を履修できる者は、次の別表2に掲げる教職課程に関する科目の単位を修得し、実習を実施する教科において、本学で定める教科に関する専門的事項の最低修得単位数の半数以上の単位数を修得した者でなければならない。

（別表1）（略）

（別表2）（社会福祉学科の場合）

教 職 課 程 に 関 す る 科 目		
中学社会	公民	福祉
教育原理	教育原理	教育原理
教職概論	教職概論	教職概論
教育心理学	教育心理学	教育心理学
社会科教育法Ⅰ	公民科教育法Ⅰ	福祉科教育法Ⅰ
社会科教育法Ⅱ	公民科教育法Ⅱ	福祉科教育法Ⅱ

- 2 「特別支援教育実習」を履修できる者は、前項の「教育実習Ⅰ」又は「教育実習Ⅱ」の要件をみたし、更に「特別支援教育総論」、「障害児の心理・生理・病理」の単位を修得したものでなければならない。
- 3 1, 2項の条件をみたした者であっても当該年度に卒業の見込みがない者は「教育実習（幼・小）」、「教育実習Ⅰ」、「教育実習Ⅱ」及び「特別支援教育実習」の履修を認めない。
- 4 1, 2, 3項の条件をみたした者であっても「教育実習Ⅰ」、「教育実習Ⅱ」、「特別支援教育実習」履修資格認定時までの教職課程履修期間中に、学則第41条の規定に基づき懲戒処分を受けた者については、「教育実習Ⅰ」、「教育実習Ⅱ」、「特別支援教育実習」の履修を認めないことがある。
- 5 （略）

第8条 第6条及び前条の要件をみたさない者でも教職課程履修者として適当と思われる者については選考のうえ、履修を認めることがある。

- 2 交換留学生及び認定留学生については留学制度の主旨を尊重し、留学終了後の履修認定について特別に配慮することがある。

第9条 第7条及び第8条に基づき、一旦「教育実習Ⅰ」、「教育実習Ⅱ」、「特別支援教育実習」の履修を認められた者であっても、以下に示す事由により、実習校での実習を中止し且つ当該科目の履修を取り消すことがある。

- (1) 当該科目の実習事前指導の講義に、特別な理由なく、欠席・遅刻する者。
- (2) 教育実習にかかわる説明会に、特別な理由なく、欠席・遅刻する者。
- (3) 教育実習に耐えうる健康状態にないと判断される者。
- (4) 実習校での実習中に、実習生として著しく相応しくない言動があった者。
- (5) 第7条及び第8条に基づく当該科目履修資格認定後、学則第41条の規定に基づき、懲戒処分を受けた者。
- (6) その他、教育実習の実施に特別な支障がある場合。

第10条 （略）

第11条 「教職実践演習」は、履修予定年度の前期成績発表時までに「教育実習（幼・小）」（児童学科）、「教育実習Ⅰ」（児童学科以外の学生）、「教育実習Ⅱ」（児童学科以外の学生）の単位を修得した者、又は履修予定年度後期に同時に「教育実習（幼・小）」、「教育実習Ⅰ」、「教育実習Ⅱ」の単位を修得する予定の者のみが履修できる。ただし、履修年度後期に「教育実習（幼・小）」、「教育実習Ⅰ」、「教育実習Ⅱ」の単位修得予定者がその単位を修得できなかった場合、同時期に履修する「教職実践演習」は履修取り消し、又は評価「無効」とする。

第12条 教職課程履修希望者は、履修費を納入しなければならない。

また、「教育実習（幼・小）」、「教育実習Ⅰ」、「教育実習Ⅱ」及び「特別支援教育実習」を履修する者、介護等体験を行う者は、所定の期日までに次の表に掲げる実習費を納入しなければならない。

（別表）納 入 金（社会福祉学科以外は略）

区 分	金 額
教 職 課 程 履 修 費	10,000円
教育実習費（教育実習Ⅰ）	18,000円
教育実習費（教育実習Ⅱ）	12,000円
特 別 支 援 教 育 実 習 費	12,000円
介 護 等 体 験 費	実 費

第13条 履修費・実習費等は、どのような理由があっても返金しない。

[特別支援学校教員養成課程]

(1) 履修資格

本課程の履修資格は、福祉社会学部社会福祉学科の学生であり、基礎免許状としての下記基礎資格を有すること又は履修中であることとなっています。これは、心身障害児の対策として、福祉と教育との緊密な関係が望まれていること及び特別支援学校教諭一種免許状は、単独では効力がなく、教員採用試験においても基礎免許状の幼稚園・小学校・中学校・高等学校教諭普通免許状のいずれかとペアで取得していることが条件になっているからです。

(2) 免許状を得るための基礎資格および修得単位数

特別支援学校教諭一種免許状を取得するためには、基礎免許状として、小学校、中学校、高等学校又は幼稚園の教諭の普通免許状を取得しなければなりません。それに加えて、特別支援教育に関する科目を履修し、所定の単位を修得する必要があります。

修得単位数は次のとおりです。

免許状の種類	所要資格	基 礎 資 格	本学における最低修得単位数
			特別支援教育に関する科目
特別支援学校教諭一種免許状 (知的障害者)		小学校、中学校、高等学校又は幼稚園の教諭の普通免許状を有すること	27

(3) 単位修得の方法

資格を取得するには、次の表で示されている科目の単位を修得する必要があります。

別表第5 特別支援教育に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			ナンバリング コード	左記に対応する開設科目			最低修得単位数		
区	分	最低修得 単位数		授業科目	年次 配当	所 属	必修	選択	計
第一欄	特別支援教育の基礎理論に関する科目	2	B_SNE203780	特別支援教育総論	2	専門教育科目	2		2
第二欄	特別支援教育領域に関する科目	16	B_SNE303786	知的障害児の心理Ⅰ	3	特別支援学校教員養成課程	2		16
				知的障害児の心理Ⅱ	3	//	2		
				知的障害児の生理と病理	3	//	2		
			B_SNE203786	知的障害児教育論Ⅰ	2	//	2		
				知的障害児教育論Ⅱ	3	//	2		
				知的障害児教育論Ⅲ	3	//	2		
				知的障害児指導法Ⅰ	3	//	2		
				知的障害児指導法Ⅱ	3	//	2		
第三欄	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	5	B_SNE203780	障害児の心理・生理・病理	2	専門教育科目	2		6
			B_SNE303780	重複障害児教育総論	3	特別支援学校教員養成課程	2		
			B_SNE303788	発達障害児教育総論	3	//	2		
第四欄	心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	3	B_SNE433780	特別支援教育実習	4	//	3		3
							合計		27

※ 4年次で特別支援教育実習を履修するためには、3年次までに「特別支援教育総論」、「障害児の心理・生理・病理」の単位を修得していなければなりません。

履修資格者については、オリエンテーション時に「資格・実習」の掲示板で発表しますので確認してください。

以下の科目については、卒業指定科目としても登録できます。

なお、卒業単位として登録を希望する場合は、指定する期日までに「卒業指定科目等登録願」を必ず提出してください。また、「卒業指定科目等登録願」は提出した年度のみ有効です。

知的障害児の心理Ⅰ	知的障害児の心理Ⅱ	知的障害児の生理と病理
知的障害児教育論Ⅰ	知的障害児教育論Ⅱ	知的障害児教育論Ⅲ
知的障害児指導法Ⅰ	知的障害児指導法Ⅱ	重複障害児教育総論
発達障害児教育総論		

(4) 実習費の納入

特別支援学校の教員養成課程を履修する場合には、2年次から特別支援教育に関する科目を履修し、4年次で特別支援教育実習費を指定する期日までに納入しなければなりません。なお、一旦納入した実習費は、どのような理由があっても返還しません。

納 入 金	
区分	金額
特 別 支 援 教 育 実 習 費	12,000円

〔社会福祉主事（任用資格）〕（社会福祉法第18条、第19条第1号）

（1）職務の概略

社会福祉主事とは、社会福祉法において定められた職種で、都道府県または市町村の職員として社会福祉六法等における事務を行うことを職務とするものです。

ア 都道府県社会福祉主事は、都道府県の設置する福祉事務所において、生活保護法、児童福祉法、母子及び父子並びに寡婦福祉法に定める援護又は育成の措置に関する事務を行います。

イ 市（指定都市、特別区を含む）および福祉事務所を設置している町村社会福祉主事は、市町村福祉事務所において、生活保護法、児童福祉法、母子及び父子並びに寡婦福祉法、老人福祉法、身体障害者福祉法及び知的障害者福祉法に定める援護、育成又は更生の措置に関する事務を行います。

ウ イ以外の町村に配置される社会福祉主事は、老人福祉法、身体障害者福祉法及び知的障害者福祉法に定める援護又は更生の措置に関する事務を行います。

（2）資格要件

社会福祉主事の資格は、学士については、厚生労働大臣の指定する社会福祉主事の資格に関する科目を3科目以上修めていることとされています。

（社会福祉主事の資格に関する科目指定＝平成12年3月31日厚生省告示第153号）

社会福祉概論、社会福祉事業史、社会福祉援助技術論、社会福祉調査論、社会福祉施設経営論、社会福祉行政論、社会保障論、公的扶助論、児童福祉論、家庭福祉論、保育理論、身体障害者福祉論、知的障害者福祉論、精神障害者保健福祉論、老人福祉論、医療社会事業論、地域福祉論、法学、民法、行政法、経済学、社会政策、経済政策、心理学、社会学、教育学、倫理学、公衆衛生学、医学一般、リハビリテーション論、看護学、介護概論、栄養学、家政学のうち3科目以上

なお、上記の厚生労働大臣の指定する科目のうち、以下の表に示す科目については、表の「本学開設科目名」欄に示された科目の単位を修得することによって、当該科目を修めたとみなされます。

(社会福祉主事の資格に関する科目)

厚生労働大臣 指 定 科 目	ナンバリング コード	本学開講科目名	単位	年次 配当	履修方法
社 会 福 祉 概 論	B_WEL103690 B_WEL103690	社会福祉概論Ⅰ 社会福祉概論Ⅱ	2 2	1 1	厚生労働大臣指定科目の中から3科目以上単位を修得すること。 ※履修上の注意 厚生労働大臣指定科目の「社会福祉概論」の単位を履修するためには、本学開設科目の「社会福祉概論Ⅰ」および「社会福祉概論Ⅱ」の2科目の単位を修得する必要がある。 例えば、厚生労働大臣指定科目の「社会福祉概論」、「社会福祉援助技術論」、「社会保障論」の3科目の単位を修得するためには、該当する本学開設科目10科目全ての単位を修得する必要がある。
社会福祉援助技術論	B_WEL103690	ソーシャルワークⅠ	2	1	
	B_WEL103690	ソーシャルワークⅡ	2	1	
	B_WEL213690	ソーシャルワークⅢ	2	2	
	B_WEL213690	ソーシャルワークⅣ	2	2	
	B_WEL313690	ソーシャルワークⅤ	2	3	
	B_WEL313690	ソーシャルワークⅥ	2	3	
社 会 福 祉 調 査 論	B_WEL300027	社会福祉調査	2	3	
社 会 福 祉 行 政 論	B_WEL303691	福祉行財政と福祉計画	2	3	
社 会 保 障 論	B_WEL203640	社会保障論Ⅰ	2	3	
	B_WEL303640	社会保障論Ⅱ	2	3	
公 的 扶 助 論	B_WEL203692	公的扶助論	2	2	
児 童 福 祉 論	B_WEL203694	子ども家庭福祉論	2	2	
身体障害者福祉論	B_WEL203692	障害者福祉論	2	2	
老 人 福 祉 論	B_WEL103692	高齢者福祉論	2	1	
医 療 社 会 事 業 論	B_WEL203699	保健医療サービス	2	2	
地 域 福 祉 論	B_WEL203697	地域福祉論Ⅰ	2	2	
	B_WEL203697	地域福祉論Ⅱ	2	2	
心 理 学	B_WEL101401	心理学概論	2	1	
社 会 学	B_WEL103610	社会学概論	2	1	
医 学 一 般	B_WEL104900	医学一般	2	1	
介 護 概 論	B_WEL103690	介護福祉論	2	1	

* 社会福祉主事は、(1)でその職務を説明したとおり、都道府県・市町村の職員ですから、それぞれが定める任用方法に従い職員となって初めて用いられる資格です。ただし、現在、他の職種（例えば老人福祉施設等の生活指導員・生活相談員）の資格の基礎要件としてしばしば用いられていますのでよく理解しておいてください。

[地域人材育成プログラム（社会福祉学科）]

地域人材育成プログラムは、地域に貢献できる人材を育成するために実施している教育プログラムです。詳細は P42を参照してください。

	科目名	ナンバリング コード	授業科目	単位 数	年次 配当	所属	プログラム修 了所要単位数	
(1)	地域志向科目	B_GEN103617	地域創生Ⅰ	2	1	共通教育科目	2	合計16単位 (③参照)
		B_GEN103617	地域創生Ⅱ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN103336	地域から世界へ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN110000	かごしま教養プログラム	2	1	共通教育科目		
		B_GEN110000	かごしまフィールドスクール	2	1	共通教育科目		
		B_GEN102100	Japanology	2	1	共通教育科目		
		B_GEN100000	教養特講Ⅰ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN100000	教養特講Ⅱ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN100000	教養特講Ⅲ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN100000	教養特講Ⅳ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN236070	国内インターンシップ	2	2	共通教育科目		
		B_GEN236070	海外インターンシップ	3	2	共通教育科目		
(2)	キャリアデザイン科目	B_GEN116070	コミュニケーション力育成	2	1	共通教育科目	2	
		B_GEN206070	論理的思考と数的処理	2	2	共通教育科目		
		B_GEN216070	キャリア形成のための文章力育成	2	3	共通教育科目		
(3)	地域人材育成科目	B_WEL103690	鹿児島社会福祉入門	2	1	専門教育科目	8	
		B_WEL103692	高齢者福祉論	2	1	専門教育科目		
		B_WEL103690	介護福祉論	2	1	専門教育科目		
		B_WEL203697	地域福祉論Ⅰ	2	2	専門教育科目		
		B_WEL203697	地域福祉論Ⅱ	2	2	専門教育科目		
		B_WEL203694	子ども家庭福祉論	2	2	専門教育科目		
		B_WEL303691	福祉行政と福祉計画	2	3	専門教育科目		
		B_WEL303690	社会福祉特講Ⅲ	2	3	専門教育科目		
(4)	地域フィールド演習 (①参照)	B_WEL310027	演習Ⅰ (②参照)	2	3	専門教育科目	2	
		B_WEL310027	演習Ⅱ	2	3	専門教育科目	2	

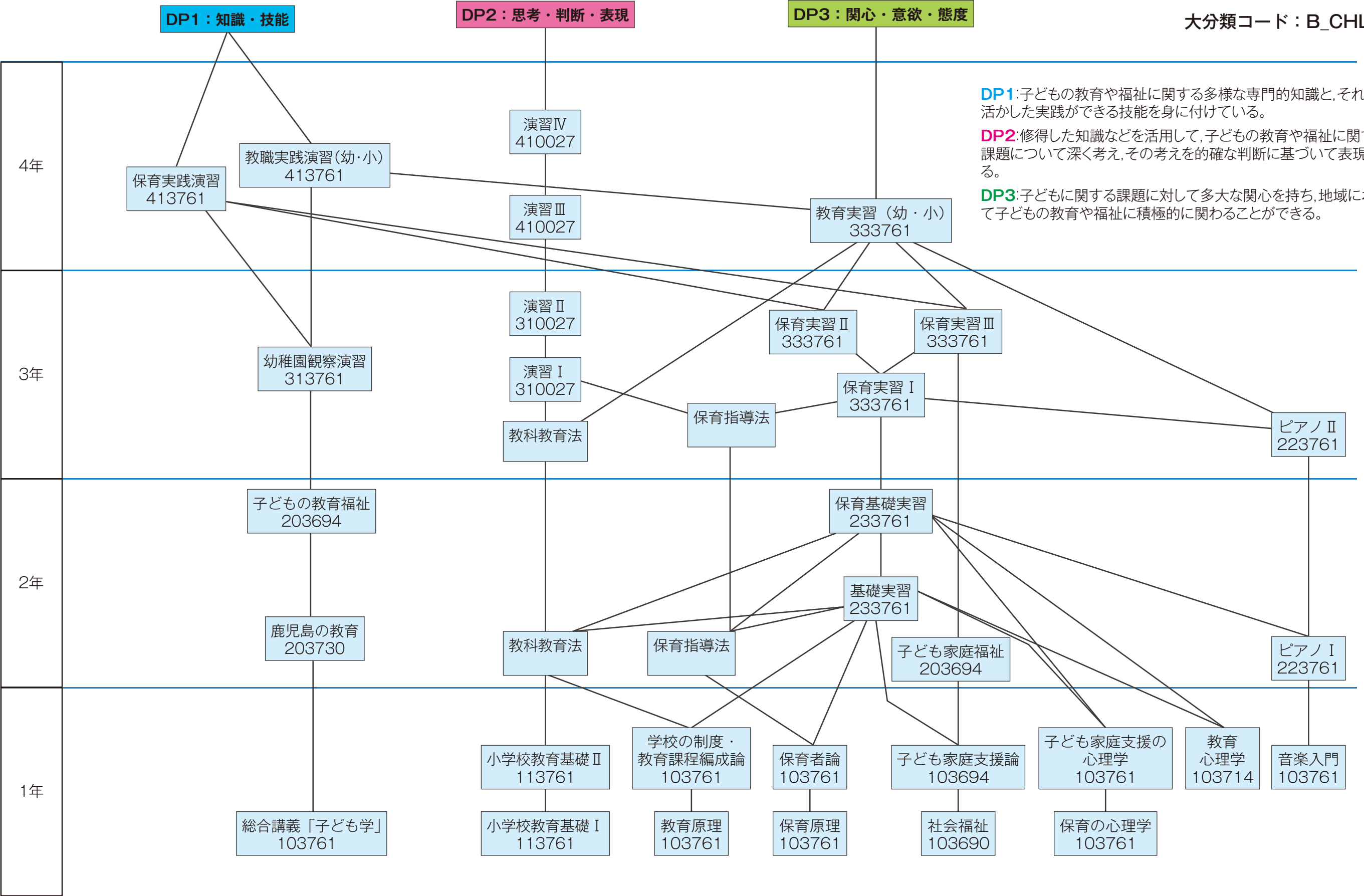
（履修上の注意事項）

- ①地域を研究のフィールドとした演習（Ⅰ・Ⅱ）を「地域フィールド演習」として認定します。
- ②3年次前期終了までに(1)～(3)（10単位）と地域フィールド演習としての演習Ⅰ（2単位）を修得した学生に対し、「地域人材育成プログラム修了見込証明書」を発行します。
- ③最低取得単位数（合計16単位）を修得した学生に対し、卒業時に「地域人材育成プログラム修了証」を申請に基づいて授与します。詳しくは、産学官地域連携センターに相談してください。

児童学科

(1) 児童学科の目的 児童学科は、子どもに関する専門的知識を教授し、子どもたちの未来を創造していける豊かな感性と深い知識をもつ、子どもをめぐる諸問題に積極的に関わる人材を養成することを目的とします。
(2) ディプロマ・ポリシー 児童学科は、目的を達成するために、所定の単位を修得したことにより、次のような段階に到達したと評価される学生に学位を授与します。なお、免許は小学校教諭一種免許及び幼稚園教諭一種免許を、資格は保育士・司書・司書教諭等の資格を取得することができます。 (知識・技能) DP1 子どもの教育や福祉に関する多様な専門的知識と、それらを活かした実践ができる技能を身に付けている。 (思考・判断・表現) DP2 修得した知識などを活用して、子どもの教育や福祉に関する課題について深く考え、その考えを的確な判断に基づいて表現できる。 (関心・意欲・態度) DP3 子どもに関する課題に対して多大な関心を持ち、地域において子どもの教育や福祉に積極的に関わるができる。
(3) カリキュラム・ポリシー 児童学科は、目的とディプロマ・ポリシーを達成するために、次の方針に基づいてカリキュラムを編成します。 CP1 「小学校教諭一種免許」・「幼稚園教諭一種免許」・「保育士資格」の3つの免許・資格の同時取得に必要な多数の科目を、年次配当などに配慮しながら、体系的に配置します。 CP2 学科基本科目として、「総合講義『子ども学』」・「子どもの教育福祉」・「鹿児島の教育」を1年次と2年次に配置します。 CP3 教員と学生あるいは学生同士が交流しながら学べるよう、少人数による演習（ゼミナール）を配置します。
(4) アドミッション・ポリシー 児童学科は、目的、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、本学での学修を目指す次のような人を国内外に広く求めます。 (知識・技能) AP1 子どもの教育や福祉に関する専門的知識・技術などを修得するために必要な基礎的な能力（読む力、書く力、考える力）を備えている人。 (思考・判断・表現) AP2 子どもの教育や福祉に関する課題について考え、その考えを表現できる人。 (関心・意欲・態度) AP3 子どもに関する課題に関心を持ち、子どもの教育や福祉に関する専門的知識・技術の修得などに積極的に取り組む意欲のある人。

児童学科カリキュラムマップ



福祉社会学部 児童学科

大学が開設している科目は、共通教育科目と専門教育科目の2つのグループに大きく分かります。卒業するためには、この2つのグループにそれぞれ配当されている科目を、一定の条件にそって履修し、単位を修得しなければなりません。資格や免許を取得したい人は、これらとは別に設置された、それぞれの資格（免許）課程を履修し、各課程が定める条件にそって科目を履修することになります。所定の年限で卒業（学士の称号を取得）し、必要な資格や免許を取得するためには、カリキュラム（教育課程）の組み立てをよく頭に入れたうえで、計画的に科目を履修していく必要があります。

児童学科では、子どもの心身の発達や健康、子どもをめぐる環境等についてさまざまな角度から学びます。また、家庭・地域・学校などのフィールドに根ざした臨床的アプローチの仕方を修得します。このような学習を通して、多様な人々と共生できる自立した個人であるとともに、教育と福祉を中心とした子どもを取り巻く諸領域で活躍できる人材として、皆さんが成長されることを期待します。

1 共通教育科目

(1) 共通教育科目のねらい

大学に入学した皆さんが所属の学部・学科を問わず、まずは重点的に履修しなければならないのが共通教育科目であり、そのねらいは3つあります。それは、①大学で学ぶための基礎的な知識と技能を育成し、②将来の人生設計を構想し（キャリアデザイン）、③各自の専攻分野への関心を深めていくというものです。

(2) 共通教育科目の履修方法

福祉社会学部は、コミュニケーションスキルズ科目の英語（コア）から2単位以上を修得する必要があります。さらに基礎科目、人間教養科目、コミュニケーションスキルズ科目、スポーツ・健康科目の全体から単位を修得して、合計単位数を卒業所要単位数（15単位）以上にしなければなりません。なお、「新入生ゼミナール」「情報処理」（各2単位）は履修指定となります。

(3) キャリアデザイン科目

キャリアデザイン科目は、学生のキャリア形成を支援する目的で設置しています。「コミュニケーション力育成」では、社会人基礎力やコミュニケーションに関する理論を学び、実践を通してコミュニケーション力を高めることができます。「論理的思考と数的処理」では、数学の基礎を固め、就職試験の準備をします。

(4) 地域志向科目

地域志向科目は「地域人材育成プログラム」を構成する科目です。私たちが生活と学びの場としている地域の実情を知り、その課題を発見し、解決策を提案したり、実際に課題解決のための活動に取り組んだりする科目群です。（詳しくはP178を参照）

この地域志向科目の中に設置されている「かごしま教養プログラム」と「かごしまフィールドスクール」は、文部科学省「戦略的大学連携支援事業」の一貫として鹿児島県内の全大学・短大・高専の学生を対象として実施される連携教育プログラム「グローバル教養教育」の一部です。「グローバル教養教育」は、これらの科目と「かごしまカレッジ教育」を合わせて構成されていますが、この「かごしまカレッジ教育」については、本学では「新入生ゼミナール」がこれに対応しています。

2 専門教育科目

(1) 児童学科専門教育科目の特徴

児童学科専門教育科目は、「学科基本科目」（必修及び履修指定）と、それ以外の科目から構成されています。

「学科基本科目」（必修）は、子どもと子どもをめぐる諸問題を総合的に把握することを目指すもので、児童学科では1年次に学ぶ「総合講義「子ども学」」がこれに該当します。自分自身の問題意識を掘り起こし、これ以降の専門的な学習の基盤を構築していただきたいと思います。

「学科基本科目」（履修指定）は、2・3年次には、免許（幼小教員）・資格（保育士）取得に関わる各種の実習の共通基礎となることについて学ぶとともに、鹿児島の教育の現状や教育と福祉の関係性について理解を深めます。また、3・4年次に開講される「演習」では、担当教員の助言・指導のもと、少人数の学生が集まって主体的に研究し、討論や発表などを行います。ゼミ（ゼミナール）とも呼ばれる科目で、最終的には4年間の学習の総まとめを行うものとして重視しています。

「学科基本科目」以外の科目は、「子どもと福祉に関する科目」「子どもと教育に関する科目」「幼児の教育に関する科目」「子どもと心理に関する科目」「子どもと表現文化に関する科目」から構成されます。これらは、現代人として必要な基礎的能力を身につけるとともに、子どもを中心としつつ、さまざまな領域の学問や文化について学ぶものです。皆さんの興味・関心や取得を希望する免許・資格に応じて、各科目区分から一定単位以上の科目を選択して学習しますが、一部卒業必修の科目も含まれます。

このうち、「子どもと福祉に関する科目」は、社会福祉全般から児童福祉、障がい者福祉まで幅広く学びます。主に、保育士資格関連科目になりますので、その資格を取得する人にとっては欠かせない科目です。「子どもと教育に関する科目」及び「幼児の教育に関する科目」には、小学校の全科目や各教科の教育法、幼稚園の各領域保育指導法や教育課程論（保育の計画と評価を含む）などが開設されています。小学校教諭や幼稚園教諭の免許を取得するために必要な科目です。「子どもと心理に関する科目」は、さまざまな場面や環境にそった心理学関係の科目を学びます。主に、児童教育や児童福祉の分野で必要とされる科目です。「子どもと表現文化に関する科目」は、子どもと子どもに関わる文化や芸術について学びます。一部の科目を除いて、実践的な力を養うためにほとんどが実技科目です。特に「ピアノ」は、少数によるグループ又は個人レッスン形式となっています。

このように、専門教育科目は、免許・資格と深く関連します。各領域にわたりバランスよく学ぶとともに、自己の専門性を高める視点から履修計画を立てることが重要です。

(2) 児童学科専門教育科目の特徴

児童学科では、「小学校教諭一種免許状」「幼稚園教諭一種免許状」「保育士資格」をメインに、司書資格、司書教諭資格が取得可能です。免許・資格を取得するためには、教職・資格課程の履修を申し込むとともに、別に掲げてある免許・資格に関する専門科目に示す必要単位を修得しなければなりません。1年次の7月に開催される「教職課程履修説明会」及び「保育士養成課程履修説明会」を参考に、取得したい免許・資格を決め、1年次の3月に課程履修申し込みの手続きをする必要があります。

免許・資格の取得に必要な科目は、取得したい免許・資格の数に比例して必要となる単位数が増えていきます。免許・資格の取得を希望する学生は、免許・資格に関する専門科目をよく参照して、計画的な学習と単位修得に努めてください。

また、免許・資格の取得のためには各種の実習が必要となります。小学校教諭一種免許状・幼稚園教諭一種免許状・保育士資格のいずれか又は全部を希望する場合は、必要な科目の履修状況や、実習の事前指導における学習態度等から判断して、学科において実習実施の可否を決定しますので（教育実習履修資格判定基準：163頁、保育実習履修資格判定基準：176頁）、その点を十分考慮のうえ学習に励んでください。

なお、免許・資格課程の履修を申し込んだあとで取り止めなければならない場合は、辞退の届け出が必要になります。

3 履修上の留意点

(1) 年次配当の意味

「年次配当」は、科目の種類によって少し意味が異なります。履修指定科目となっている共通教育科目の「新入生ゼミナール」や、専門教育科目の「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」は、原則として当該年次においてしか履修することができません。万が一、単位を修得できなかった場合は、再履修できませんので、その不足単位は他の科目の履修で補わなければなりません。ただし、同じ履修指定科目でも、「子どもの教育福祉」「鹿児島の教育」は履修が可能となっています。

履修指定科目以外の科目は、配当された年次以降に履修することができます。例えば、「2年次配当」というのは、「2年次以降に履修できる」ということを意味します。「3年次配当」であれば「3年次以降…」というようになります。履修できる年次になったら、できるだけ早い年次で履修することが望ましいですが、履修計画によっては高年次で履修してもさしつかえありません。

(2) 履修科目の決定と履修登録

科目の選択にあたっては、「科目表」と「時間割表」を参照しながら、履修すべき科目を選択する必要があります。最初に、当該年次のうち、必修と履修指定の科目が時間割のどの時限にあてられているかをチェックします。その年次において必ず履修しなければならないからです。上記以外の科目については、その選択にあたって、皆さんの主体性が要求されます。

共通教育科目は、1年次を例にとると、「新入生ゼミナール」と「情報処理」が履修指定になっています。更に、コミュニケーションスキーズ科目の英語（コア）から所定の単位を修得しなければなりません。指定に注意しながら、優先的に履修しましょう。スポーツ・健康科目の指定にも注意する必要があります。小学校教諭一種免許状及び幼稚園教諭一種免許状の取得希望者は、「日本国憲法」が必修科目となります。

専門教育科目は、同じく1年次を例にとると、学科基本科目として「総合講義「子ども学」」が必修科目になっています。幼稚園教諭一種免許状の取得希望者は「音楽入門」「教育原理」「学校の制度・教育課程編成論」「幼児教育方法」「教育心理学」が、小学校教諭一種免許状の取得希望者は「音楽入門」「教育原理」「学校の制度・教育課程編成論」「教育におけるICT活用」「教育心理学」が、保育士資格の取得希望者は「社会福祉」「子ども家庭支援論」「保育原理」「保育者論」「保育の心理学」「子ども家庭支援の心理学」「音楽入門」「教育原理」「幼児教育方法」が必修となります。

履修科目の決定にあたっては、「時間割表」と対照しながら、共通教育科目と低年次配当の専門教育科目とを同時に検討します。この際、『授業内容（シラバス）』（学生情報システム（以下「LCU」と表す）または本学ホームページから閲覧可）を熟読してください。自分の学びの方向性を展望しながら、履修の順序もよく考えて、しっかりとした履修計画を立てなければなりません。（ただし、「時間割表」は毎年変わりますので、今年度の「時間割表」で4年間の履修計画を完全に立ててしまうことはできません。）

共通教育科目を2・3・4年次で履修することは差し支えありませんが、できるだけ早い年次で単位を修得することが望ましいと言えます。特に、教職課程の履修を希望する学生は、周到的な履修計画を立て、確実に単位を修得していかなければ後の履修に差し支えます。

(3) 卒業必修科目

共通教育科目及び専門教育科目の一部には、免許・資格取得の有無にかかわらず、卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目があります。これを、卒業必修科目と言います。

まず、既に説明したとおり、共通教育科目のコミュニケーションスキーズ科目英語（コア）及び「学科基本科目」（必修）の「総合講義「子ども学」」が卒業必修となっています。次に児童学科では、2年次の履修登録時に、「保育系コース」と「児童教育系コース」のどちらかのコースを選択することになります（詳しくは156頁）が、このうちどちらのコースを選んだかによって、どの科目が卒業必修科目になるかが変わってきます。より具体的には、「保育系コース」の場合は主に保育・幼児教育関連の科目の一部が、「児童教育系コース」の場合は主に児童教育（小学校教育）関連の科目の一部がそれぞれ卒業必修科目となります。（詳細は、160頁の専門教育科目表で確認してください。）

(4) **再履修**

共通教育科目のコミュニケーションスキルズ科目英語（コア）、専門教育科目の「総合講義「子ども学」」及びコースごとの卒業必修科目の単位を修得できなかった場合は、再履修しなければなりません。

(5) **事前登録**

受講者数に制限のある科目は、事前登録が必要となります。

事前登録が必要な科目を確認し、指定された日時に学内外のLCUから登録してください。登録後に抽選し、抽選結果を教務課掲示又はLCUの「学内共有ファイル」に掲載します。

(6) **クラス指定**

時間割表に指定されたクラスは、原則として守ってください。ただし、必修の科目と重なるなど、変更が必要な場合は履修登録の前に相談してください。

(7) **履修希望科目が重複した場合**

履修したい科目が同じ時限に重なっている場合は、「卒業に必要な科目」「免許・資格に必要な科目」を優先し、かつ「学科基本科目（特にクラス指定科目）」、「学科基本科目以外の科目」の順に選んでください。

特に、4年次に教育実習を行う場合は、3年次までに教職課程履修細則第7条「別表1」（170頁）に示された科目の修得が重要な条件となりますので留意してください。

重複して履修できない科目は、ほかの科目に置き換えられないか、あるいは次年度以降に回せないかを検討してください。

(8) **履修登録後の修正**

履修登録後に修正が必要な場合は、前期及び後期の履修修正期間内に修正が認められます。

(9) **その他**

ピアノ練習室借用申込み方法は、掲示で確認してください。

4 コース選択

(1) **コースの登録**

2年次の履修登録時に、LCUで、「保育系コース」と「児童教育系コース」どちらかのコースを必ず1つ選んで、登録してください。コースを登録しないと、履修登録はできません。

「保育系コース」は、「子どもと福祉に関する科目」を中心として学ぶための履修のモデル（タイプ）です。「児童教育系コース」は、「子どもと教育に関する科目」を中心として学ぶための履修のモデル（タイプ）です。このように、2つのコースは、各自の興味・関心に即して、学びを焦点化することができるように設けられているものです。したがって、免許・資格の取得を制限するものではありません。「保育系コース」と「児童教育系コース」のどちらのコースでも、「小学校教諭一種免許状」「幼稚園教諭一種免許状」「保育士資格」の3つの免許・資格を同時に取得することができます。

ただし、選んだコースによって、4年次の教育実習の校種（幼稚園で実習を行うか、小学校で実習を行うか）が変わってきます。具体的には、4年次に「教育実習（幼・小）」を履修し教員免許を取得しようとする場合、「保育系コース」の学生の実習校種は幼稚園、「児童教育系コース」の学生の実習校種は小学校となります。幼稚園教諭一種免許状と小学校教諭一種免許状の両方を取得しようとする場合も同様ですので、「保育系コース」の学生が小学校実習に行くことはできませんし、「児童教育系コース」の学生が幼稚園実習に行くこともできません。このように、2年次の履修登録時にどちらのコースを選んだかが、4年次の教育実習にまで大きく影響してきます。この点を十分に注意したうえで、慎重にコース登録を行ってください。なお、以上のことは、あくまで実習を行う校種に違いが生じるということです。教員免許自体は、既に述べたとおり、どちらのコースでも幼稚園教諭一種免許状と小学校教諭一種免許状の同時取得が可能です。

また、下記のコース変更手続きを行った場合には、教育実習の校種も変更後のコースのもの（「保育系コース」への変更であれば幼稚園での実習，「児童教育系コース」への変更であれば小学校での実習）に切り替わります。併せて留意ください。

(2) コースの変更手続き

いったん選んだコースは原則として変更できませんが，以下のような手続きを行った場合，1回だけ変更することができます。

まず，コースの変更を希望する者は，3年次の履修登録前（オリエンテーション期間中）に，児童学科の教員に必ず申し出てください。

その際，担当教員が，コースの変更によって生じるデメリットなどについて説明しますので，それらを理解したうえで，コースを変更するかどうかについて最終判断を行い，その結果を担当教員に必ず報告してください。

なお，このような手続きを経て，コースの変更が認められた場合も，LCUにおいて登録してあるコースを自分で変更することはできません。LCUのコースの変更作業は，教務課の職員が行います。該当者は，コースの変更作業が終了したことを確認した後，履修登録を行ってください。

児童学科共通教育科目

科目区分			ナンバリング コード	授業科目	単位	年次 配当	幼	小	保	卒業所要 単位数	
基礎科目	新入生ゼミナール		B_GEN110027	新入生ゼミナール	2	1					履修指定 (注)①参照
	数理・データサイエ ンス・AI		B_GEN100076	データサイエンス・AI 入門	2	1					
			B_GEN100076	情報処理	2	1	◎	◎			履修指定 (注)①参照
			B_GEN104170	確率と統計	2	1					
	キャリアデザイン		B_GEN116070	コミュニケーション力育成	2	1					
			B_GEN116070	キャリア形成のための一般教養Ⅰ	2	1					
			B_GEN116070	キャリア形成のための一般教養Ⅱ	2	1					
			B_GEN216070	キャリア形成のための一般教養Ⅲ	2	3					
			B_GEN216070	キャリア形成のための一般教養Ⅳ	2	3					
			B_GEN206070	論理的思考と数的処理	2	2					
			B_GEN216070	キャリア形成のための文章力育成	2	3					
人間教養科目	人文科学		B_GEN109100	日本文学	2	1				6単位以上	
			B_GEN109300	外国文学	2	1					
			B_GEN107610	音楽文化論	2	1					
			B_GEN102100	日本史	2	1					
			B_GEN102300	西洋史	2	1					
			B_GEN102200	東洋史	2	1					
			B_GEN102090	東西文化の交流	2	1					
			B_GEN101000	哲学	2	1					
			B_GEN101500	倫理学	2	1					
			B_GEN101401	心理学	2	1					
	社会科学		B_GEN103210	法学	2	1					
			B_GEN103231	日本国憲法	2	1	◎	◎			
			B_GEN103110	政治学	2	1					
			B_GEN103310	経済学	2	1					
			B_GEN103610	社会学	2	1					
			B_GEN102901	地理学	2	1					
			B_GEN103000	社会科学概論	2	1					
	自然科学		B_GEN104100	数学Ⅰ	2	1					
			B_GEN104100	数学Ⅱ	2	1					
			B_GEN104600	生命科学	2	1					
			B_GEN104680	環境科学	2	1					
	地域志向		B_GEN103617	地域創生Ⅰ	2	1					
			B_GEN103617	地域創生Ⅱ	2	1					
			B_GEN102100	Japanology	2	1					
			B_GEN103336	地域から世界へ	2	1					
			B_GEN110000	かごしま教養プログラム	2	1					
			B_GEN110000	かごしまフィールドスクール	2	1					
			B_GEN133697	ボランティア活動	2	1					
			B_GEN236070	国内インターンシップ	2	2					
			B_GEN236070	海外インターンシップ	3	2					
			B_GEN100000	教養特講Ⅰ	2	1					
			B_GEN100000	教養特講Ⅱ	2	1					
			B_GEN100000	教養特講Ⅲ	2	1					
			B_GEN100000	教養特講Ⅳ	2	1					
コミュニケーション スキルズ科目	英語	コア	B_GEN128311	英語オーラル・コミュニケーションⅠ	1	1	○	○	2単位以上	2単位 以上 (注)②参照	
			B_GEN128311	英語オーラル・コミュニケーションⅡ	1	1	○	○			
			B_GEN138300	英語海外研修	2	1	○	○			
			B_GEN128377	英語リーディング	1	1					
			B_GEN128360	英語ライティング	1	1					
	関連		B_GEN108375	英文読解の技法	2	1					
			B_GEN108300	TOEIC・TOEFL 対策	2	1					
			B_GEN118350	コミュニケーションのための英文法	2	1					
			B_GEN118378	Global Economy and Business	2	1					

共通教育科目合計15単位以上

共通教育科目合計15単位以上

科目区分			ナンバリング コード	授業科目	単位	年次 配当	幼	小	保	卒業所要 単位数
第二外国語	中国語	B_GEN128200	基礎中国語Ⅰ	1	1					
		B_GEN128200	基礎中国語Ⅱ	1	1					
		B_GEN138200	中国語海外研修	2	1					
	フランス語	B_GEN128500	基礎フランス語Ⅰ	1	1					
		B_GEN128500	基礎フランス語Ⅱ	1	1					
	ドイツ語	B_GEN128400	基礎ドイツ語Ⅰ	1	1					
		B_GEN128400	基礎ドイツ語Ⅱ	1	1					
	韓国語	B_GEN128291	基礎韓国語Ⅰ	1	1					
		B_GEN128291	基礎韓国語Ⅱ	1	1					
		B_GEN138291	韓国語海外研修	2	1					
	日本語 (留学生科目)	B_GEN128100	日本語入門Ⅰ	2	1					
		B_GEN128100	日本語入門Ⅱ	2	1					
		B_GEN108100	留学生のための日本事情	2	1					
スポーツ・健康科目	講義	B_GEN107801	日常生活に生かすスポーツ科学	2	1	○	○	○	○	2
		B_GEN107801	現代社会とスポーツ	2	1	○	○	○	○	2
	実習	B_GEN127800	スポーツ実習Ⅰ（屋内集団球技）	1	1	○	○	○	○	
		B_GEN127800	スポーツ実習Ⅱ（屋内個人球技）	1	1	○	○	○	○	
		B_GEN127800	スポーツ実習Ⅲ（個人種目）	1	1	○	○	○	○	1
		B_GEN127800	スポーツ実習Ⅳ（屋外個人球技）	1	1	○	○	○	○	
		B_GEN127800	スポーツ実習Ⅴ（屋外集団球技）	1	1	○	○	○	○	

要件（◎必修，○選択（数字は最低単位数））
 幼：幼稚園教諭一種免許
 小：小学校教諭一種免許
 保：保育士資格

(注)

- ① 新入生ゼミナール及び情報処理は、履修指定とし、配当された年次に全員必ず登録し授業を受けなければならない。なお、新入生ゼミナールの再履修はできない。
- ② コミュニケーションスキルズ科目の英語は、コア科目の英語オーラル・コミュニケーションⅠ及び英語オーラル・コミュニケーションⅡ又は英語海外研修から2単位以上を修得しなければならない。

児童学科専門教育科目

科目区分		ナンバリング コード	授業科目	単位	年次 配当	免許資格取得要件			卒業要件		卒業 所要 単位数
						幼	小	保	保育系 コース	児童教育系 コース	
学科基本科目	必修	B_CHL103761	総合講義「子ども学」	2	1	◎	◎		2単位	2単位	合計 109 単位以上
	履修指定	B_CHL203694	子どもの教育福祉	2	2				履修 指定	履修 指定	
		B_CHL203730	鹿児島県の教育	2	2						
	選択	B_CHL233761	基礎実習	1	2	◎	◎	◎			
		B_CHL233761	保育基礎実習	1	2			◎			
	履修指定	B_CHL310027	演習Ⅰ	2	3				履修 指定	履修 指定	
		B_CHL310027	演習Ⅱ	2	3						
		B_CHL410027	演習Ⅲ	2	4						
		B_CHL410027	演習Ⅳ（卒業研究含む）	4	4						
	選択	B_CHL113761	小学校教育基礎Ⅰ	2	1						
B_CHL113761		小学校教育基礎Ⅱ	2	1							
子どもと福祉に 関する科目		B_CHL103690	社会福祉	2	1			◎			
		B_CHL103761	保育原理	2	1			◎			
		B_CHL118019	手話	2	1						
		B_CHL118019	点字	2	1						
		B_CHL103761	保育者論	2	1			◎			
		B_CHL303752	幼児理解と教育相談	2	3	◎		◎	2単位		
		B_CHL203694	子ども家庭福祉	2	2			◎			
		B_CHL203694	社会的養護	2	2			◎			
		B_CHL203694	子どもの保健	2	2			◎			
		B_CHL203694	子どもの健康と安全	1	2			◎			
		B_CHL205961	子どもの食と栄養	2	2			◎			
		B_CHL203761	乳児保育Ⅰ	2	2			◎			
		B_CHL303761	乳児保育Ⅱ	1	3			◎			
		B_CHL203692	障がい児保育	2	2			◎			
		B_CHL303692	障がい者福祉	2	3			○			
		B_CHL303694	社会的養護内容	2	3			◎			
		B_CHL103694	子ども家庭支援論	2	1			◎			
		B_CHL333761	保育実習Ⅰ	4	3			◎			
		B_CHL333761	保育実習指導Ⅰ	2	3			◎			
		B_CHL333761	保育実習Ⅱ	2	3			○	3		
		B_CHL333761	保育実習指導Ⅱ	1	3			○			
		B_CHL333761	保育実習Ⅲ	2	3			○			
		B_CHL333761	保育実習指導Ⅲ	1	3			○			
		B_CHL413761	保育実践演習	2	4			◎			
子どもと教育に 関する科目		B_CHL103761	教育原理	2	1	◎	◎	◎	4単位	4単位	
		B_CHL103761	学校の制度・教育課程編成論	2	1	◎	◎	○			
		B_CHL203761	教育史	2	2						
		B_CHL203761	教育臨床	2	2						
		B_CHL203761	教職入門	2	2	◎	◎		4単位	6単位	
		B_CHL303780	特別支援教育論	2	3	◎	◎				
		B_CHL303761	児童理解と教育相談	2	3		◎	6			
		B_CHL333761	教育実習（幼・小）	5	4	◎	◎				
		B_CHL413761	教職実践演習（幼・小）	2	4	◎	◎				
		B_CHL103750	国語	2	1		○				
		B_CHL103750	算数Ⅰ	2	1		○				
		B_CHL203750	算数Ⅱ	2	2		○				
		B_CHL203750	生活	2	2		○				
		B_CHL103750	音楽	2	1		○				
		B_CHL203750	図画工作	2	2		○				
		B_CHL203750	体育	2	2		○	10			
		B_CHL103750	社会Ⅰ	2	1		○				
		B_CHL203750	社会Ⅱ	2	2		○				
		B_CHL103750	理科Ⅰ	2	1		○				
		B_CHL203750	理科Ⅱ	2	2		○				
		B_CHL203750	家庭	2	2		○				
		B_CHL203750	英語	2	2		○				

科目区分	ナンバリング コード	授業科目	単位	年次 配当	免許資格取得要件			卒業要件		卒業 所要 単位数
					幼	小	保	保育系 コース	児童教育系 コース	
	B_CHL333761	離島教育の理解と体験的活動	2	3	○	○				11単位
	B_CHL203752	生徒指導・進路指導	2	2		◎				
	B_CHL303750	道德教育の指導法	2	3		◎				
	B_CHL303750	英語教育の指導法	2	3		◎				
	B_CHL103750	教育における ICT 活用	1	1		◎				
	B_CHL203750	特別活動・総合的な学習の時間	2	2		◎				
	B_CHL203750	初等教育方法	2	2		◎				
	B_CHL303750	国語科教育法	2	3		◎				
	B_CHL303750	社会科教育法	2	3		◎				
	B_CHL303750	算数科教育法	2	3		◎				
	B_CHL303750	理科教育法	2	3		◎				
	B_CHL303750	生活科教育法	2	3		◎				
	B_CHL303750	音楽科教育法	2	3		◎				
	B_CHL303750	図画工作科教育法	2	3		◎				
	B_CHL303750	家庭科教育法	2	3		◎				
	B_CHL303750	体育科教育法	2	3		◎				
幼児の教育に 関する科目	B_CHL203761	教育課程論(保育の計画と評価を含む)	2	2	◎		◎	2単位		8単位
	B_CHL103761	幼児と健康	2	1	○					
	B_CHL103761	幼児と人間関係	2	1	○					
	B_CHL103761	幼児と環境	2	1	○	8	6			
	B_CHL103761	幼児と言葉	2	1	○					
	B_CHL103761	幼児と表現	2	1	○					
	B_CHL103761	幼児教育方法	2	1	◎		◎			
	B_CHL203761	保育指導法（健康）	2	2	◎		◎			
	B_CHL203761	保育指導法（表現Ⅰ）	2	2	◎		◎			
	B_CHL203761	保育指導法（表現Ⅱ）	2	2	◎		◎			
	B_CHL203761	保育指導法（言葉）	2	2	◎		○			
	B_CHL203761	保育指導法（環境）	2	2	◎		○			
	B_CHL203761	保育指導法（人間関係）	2	2	◎		○			
	B_CHL303761	保育指導法特別研究	2	3	◎		◎	2単位		
	B_CHL313761	幼稚園観察演習	2	3						
子どもと心理に 関する科目	B_CHL103761	保育の心理学	2	1			◎			2単位
	B_CHL103761	子ども家庭支援の心理学	2	1			◎			
	B_CHL203761	子どもの理解と援助	1	2			◎			
	B_CHL201460	臨床心理学	2	2			○			
	B_CHL103714	教育心理学	2	1	◎	◎	○	2単位	2単位	
	B_CHL203692	精神保健	2	2			○			
子どもと表現文化 に関する科目	B_CHL223761	ピアノⅠ	1	2	◎	◎	◎			2単位
	B_CHL223761	ピアノⅡ	1	3	◎	◎	○			
	B_CHL103761	音楽入門	2	1	◎	◎	◎	2単位	2単位	
	B_CHL203761	音楽基礎演習	1	2	○					
	B_CHL223761	造形基礎演習	1	2	○	1				
	B_CHL227280	書道	2	2						
	B_CHL109090	児童文学	2	1						

要件（◎必修，○選択（数字は最低単位数））

幼：幼稚園教諭一種免許

小：小学校教諭一種免許

保：保育士資格

注)

- ① コースの選択は2年次開始時に必ず行わなければならない。
- ② 他学部・他学科専門教育科目，教職・資格課程の科目の履修により修得した単位及び単位互換認定科目の単位は，福祉社会学部履修規程第7条により，「合計109単位以上」の枠で16単位を限度に卒業所要単位として認める。

- ③ 「子どもの教育福祉」，「鹿児島県教育」，「演習Ⅰ」，「演習Ⅱ」，「演習Ⅲ」及び「演習Ⅳ（卒業研究含む）」は，履修指定とし，配当された年次に全員必ず登録し，授業を受けなければならない。また，小学校教諭一種免許，幼稚園教諭一種免許，保育士資格のいずれかの免許・資格の取得を希望する学生は，「基礎実習」について，履修指定とし，配当された年次に全員必ず登録し，授業を受けなければならない。さらに，保育士資格の取得を希望する学生は，「保育基礎実習」についても，履修指定とし，配当された年次に全員必ず登録し，授業を受けなければならない。
- ④ 保育実習は，「保育実習指導Ⅰ・保育実習Ⅰ」に加えて「保育実習指導Ⅱ・保育実習Ⅱ」又は「保育実習指導Ⅲ・保育実習Ⅲ」を登録しなければならない。

[教 職 課 程]

(1) 児童学科で取得できる免許状の種類及び免許教科

教職課程履修規程第2条参照

(2) 免許状を得るための基礎資格及び修得単位数

教職課程履修規程第3条参照

(3) 教職課程履修資格

教職課程履修細則第6条参照

(4) 教職課程履修の手続

- ① 履修希望者は、所定の期日までに履修費（教職課程履修細則第12条参照）を納入してください。（2年次または3年次の申し込みになります。）
- ② 履修費及び実習費等は、どのような理由があっても返金しません。

(5) 教育実習履修資格

教職課程履修細則第7条参照

教育実習履修資格判定基準

教育実習を履修できる者は、次の要件をすべて満たすものとする。

- ① 教職課程履修登録が済まされていること。
- ② 教育実習予定の前年度までに、卒業に必要な修得単位数が93単位以上であること。
- ③ 教育実習予定の前年度までに、教職課程履修細則第7条1項別表1に掲げる教職に関する科目の修得単位数が、幼稚園教育実習予定者にあつては24単位以上、小学校教育実習予定者にあつては30単位以上であること。ただし、特別な事情がある場合は考慮する。
- ④ 「基礎実習」の単位が認定されていること。
- ⑤ 教育実習に必要な事前の指導を受け、かつ、事前の手続き等を済ませていること。
- ⑥ 「履修カルテ」が提出されていること。
- ⑦ 教員免許取得及び教育実習に対して、本人の意志が明確でありかつ意欲があること。
- ⑧ 履修態度及び日常の行動が教育実習生として適格と認められること。
- ⑨ 教育実習に耐えうる健康状態であること（細菌検査及びその他健康診断を必要とする場合もある）。
- ⑩ その他、教育実習の実施に特別の支障がないこと。

教育実習の履修資格者は、オリエンテーション時に「資格・実習」の掲示板で発表しますので、確認のうえ履修登録してください。

4年次の4月末に教育実習費（教職課程履修細則第12条参照）の納入方法などについての説明会を実施しますので、必ず出席してください。

(6) 単位修得の方法

単位修得の方法については、「教職課程履修規程」及び「教職課程履修細則」をよく読んで理解してください。（以下略）

(7) 履修カルテ

【目 的】

教職課程を履修して教育職員免許を取得しようとする学生は、必ず「履修カルテ」を作成しなければなりません。「履修カルテ」は、学生一人一人の学習状況をきめ細かく把握するためのものです。

また、成績公開後、定期的に学生情報システム（LCU）から「履修カルテ」のデータを提出することになりますので大切に管理（入力・更新）してください。

【作 成】

教職課程履修時から教育職員免許取得まで継続して作成します。

※決められた提出時期に「履修カルテ」の提出がない場合、「教育実習」及び「教職実践演習」の履修が認められないことがあります。また、免許状も授与できなくなることがありますので十分注意してください。

【内 容】

【履修カルテ A】①「領域及び保育内容の指導法に関する科目」（幼稚園）の履修状況

②「教科及び教科の指導法に関する科目」（小学校）の履修状況

※幼稚園・小学校教員免許状の2免許取得の場合は①②、幼稚園又は小学校教員免許状のいずれか1免許取得の場合は①又は②を入力してください。

③「大学が独自に設定する科目」の履修状況

④「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修状況

【履修カルテ B】① 必要な資質能力についての自己評価

② 教職に関する体験・実習等の状況

③ 教職を目指す上でさらに身に付けなければならないと考えている事項

【作成の手順】

①学生情報システム（LCU）へアクセスし、メニューの「学修ポートフォリオ」から「履修カルテ」をクリックします。以下の項目について入力してください。

・「履修状況」

修得した科目について入力してください。

・「履修カルテ自己評価」

資質能力に関する自己評価を入力してください。

・「教職に関する体験・実習等の状況」

介護等体験、教育実習、学校関係のボランティア活動について入力してください。

・「教職を目指す事項」

教職を目指す上でさらに身に付けなければならないと考えている事項を入力してください。

②上記の項目について入力後、登録ボタン（更新）をクリックします。

③各学期の成績公開後、提出時期までに該当する項目に随時入力（更新）し、漏れがないか確認してください。

④提出時期に「履修カルテの提出」ボタンをクリックし提出する。（「履修カルテ」は Excel 出力し保存することが可能です。）

【履修カルテ作成・提出スケジュール】

2 年次 開始時	（更新）	「履修カルテ」を計画的に作成するため、入力項目等を理解する。
3 年次 後期開始前	提出①	2 年次までの記録について確認し、9 月中にデータ提出。
4 年次 前期開始前	提出②	3 年次までの記録について確認し、4 月中にデータ提出。
4 年次 後期開始前	提出③	4 年次前期までの記録について確認し、9 月中にデータ提出。
最終提出（4 年次12月頃）	提出④	全ての項目において入力漏れがないかを確認し、12 月中にデータ提出。

(8) 教職課程履修規程

第1条 教育職員の免許状を得ようとする者は、教育職員免許法、同法施行規則及び鹿児島国際大学学則の定めるところに従い、所定の単位を修得しなければならない。

第2条 本学教職課程の履修によって取得できる免許状は次のとおりである。(児童学科の場合)

学 部	学 科	免 許 状 の 種 類	
		免 許 状	免許教科
福 祉 社 会 学 部	児 童 学 科	幼稚園教諭一種免許状	—
		小学校教諭一種免許状	—

第3条 前条の免許状を得ようとする者は、次表に示した基礎資格及び本学における最低修得単位数をみたさなければならない。(児童学科の場合)

学部	学科	免許状の種類	免許教科	基礎資格	本学における最低修得単位数					
					領域及び保育内容の指導法に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	大学が独自に設定する科目	特別支援教育に関する科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
福祉社会学部	児童学科	幼稚園教諭一種免許状	—	学士の学位を有すること。	22	—	23	7	—	9
		小学校教諭一種免許状	—		—	30	28	6		

2 前項に規定する「領域及び保育内容の指導法に関する科目」、「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」、「大学が独自に設定する科目」、「特別支援教育に関する科目」及び教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目については、別表第1から別表第5に掲げるとおりとする。

3 経済学部と福祉社会学部（社会福祉学科）、国際文化学部の「大学が独自に設定する科目」の最低修得単位数（中学校4単位、高等学校12単位）は、「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は教育職員免許法で定めた最低修得単位数（中学校28単位、高等学校24単位）を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」の選択科目も併せて修得することができる。

第4条 小学校教諭一種免許状又は中学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、介護等体験特例法に基づき、介護等体験を行わなければならない。

第5条 教職課程の履修についての細則は別に定める。

第6条 この規程の改廃は、教職課程・教育実習委員会、教授会及び大学評議会の審議を経て、学長の承認を得なければならない。

福祉社会学部（社会福祉学科・児童学科）

免許法施行規則に定める 科目及び単位数		ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目				
科 目 名	単位数		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数
日 本 国 憲 法	2	B_TEA103231	日本国憲法	2	1	共通教育科目	2
体 育	2	B_TEA107801	日常生活に生かすスポーツ科学	2	1	//	2
		B_TEA107801	現代社会とスポーツ	2	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅰ(屋内集団球技)	1	1	//	1
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅱ(屋内個人球技)	1	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅲ(個人種目)	1	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅳ(屋外個人球技)	1	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅴ(屋外集団球技)	1	1	//	
外国語コミュニケーション	2	B_TEA128311	英語オーラル・コミュニケーションⅠ	1	1	//	2
		B_TEA128311	英語オーラル・コミュニケーションⅡ	1	1	//	
		B_TEA138300	英語海外研修	2	1	//	
数理、データ活用及び 人工知能に関する科目 又は情報機器の操作	2	B_TEA100076	情報処理	2	1	//	2
合 計							9

別表第2 領域及び保育内容の指導法に関する科目

福祉社会学部（児童学科） 幼稚園教諭一種免許

免許法施行規則に定める 科目の区分			ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目				
科目区分		各科目に含め ることが必要 な事項		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	健康	B_TEA103761	幼児と健康	2	1	専門教育科目	全体から8単位
		人間関係	B_TEA103761	幼児と人間関係	2	1	//	
		環境	B_TEA103761	幼児と環境	2	1	//	
		言葉	B_TEA103761	幼児と言葉	2	1	//	
		表現	B_TEA103761	幼児と表現	2	1	//	
	保育内容の指導法 (情報機器及び教材 の活用を含む。)		B_TEA203761	保育指導法（健康）	2	2	//	14
			B_TEA203761	保育指導法（表現Ⅰ）	2	2	//	
			B_TEA203761	保育指導法（表現Ⅱ）	2	2	//	
			B_TEA203761	保育指導法（言葉）	2	2	//	
			B_TEA203761	保育指導法（環境）	2	2	//	
			B_TEA203761	保育指導法（人間関係）	2	2	//	
			B_TEA303761	保育指導法特別研究	2	3	//	
合 計								22

別表第2 教科及び教科の指導法に関する科目

福祉社会学部（児童学科） 小学校教諭一種免許

免許法施行規則に定める 科目の区分		ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目					
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語(書写を含む。)	B_TEA103750	国語	2	1	専門教育科目	全体から10単位
		社会	B_TEA103750	社会Ⅰ	2	1	//	
			B_TEA203750	社会Ⅱ	2	2	//	
		算数	B_TEA103750	算数Ⅰ	2	1	//	
			B_TEA203750	算数Ⅱ	2	2	//	
		理科	B_TEA103750	理科Ⅰ	2	1	//	
			B_TEA203750	理科Ⅱ	2	2	//	
		生活	B_TEA203750	生活	2	2	//	
		音楽	B_TEA103750	音楽	2	1	//	
		図画工作	B_TEA203750	図画工作	2	2	//	
		家庭	B_TEA203750	家庭	2	2	//	
		体育	B_TEA203750	体育	2	2	//	
	外国語	B_TEA203750	英語	2	2	//		
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	国語(書写を含む。)	B_TEA303750	国語科教育法	2	3	//	20
		社会	B_TEA303750	社会科教育法	2	3	//	
		算数	B_TEA303750	算数科教育法	2	3	//	
		理科	B_TEA303750	理科教育法	2	3	//	
		生活	B_TEA303750	生活科教育法	2	3	//	
		音楽	B_TEA303750	音楽科教育法	2	3	//	
		図画工作	B_TEA303750	図画工作科教育法	2	3	//	
		家庭	B_TEA303750	家庭科教育法	2	3	//	
		体育	B_TEA303750	体育科教育法	2	3	//	
		外国語	B_TEA303750	英語教育の指導法	2	3	//	
合 計							30	

福祉社会学部（児童学科） 幼稚園教諭一種免許

免許法施行規則に定める 科目の区分	ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目				
科 目 区 分		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数
大 学 が 独 自 に 設 定 す る 科 目	B_TEA103761	音楽入門	2	1	専門教育科目	2
	B_TEA223761	ピアノⅠ	1	2	//	1
	B_TEA223761	ピアノⅡ	1	3	//	1
	B_TEA203761	音楽基礎演習	1	2	//	1
	B_TEA223761	造形基礎演習	1	2	//	
	B_TEA103761	総合講義「子ども学」	2	1	//	2
	B_TEA333761	離島教育の理解と体験的活動	2	3	//	
合 計						7

福祉社会学部（児童学科） 小学校教諭一種免許

免許法施行規則に定める 科目の区分	ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目				
科 目 区 分		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数
大 学 が 独 自 に 設 定 す る 科 目	B_TEA103761	音楽入門	2	1	専門教育科目	2
	B_TEA223761	ピアノⅠ	1	2	//	1
	B_TEA223761	ピアノⅡ	1	3	//	1
	B_TEA103761	総合講義「子ども学」	2	1	//	2
	B_TEA333761	離島教育の理解と体験的活動	2	3	//	
合 計						6

別表第4 教育の基礎的理解に関する科目等

幼稚園教諭一種免許・小学校教諭一種免許

免許法施行規則に定める科目区分等				ナンバリング コード	左記に対応する開設科目		最低修得単位数					
区分	科目	各科目に含めることが必要な事項	最低修得 単位数		授業科目	年次 配当	必修	選択	必修	選択	計	備 考
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	B_TEA103761	教育原理	1	2		2		4	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）を含む。
		・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		B_TEA203761	教職入門	2	2		2			
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		B_TEA103761	学校の制度・教育課程編成論	1	2		2		2	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		B_TEA103714	教育心理学	1	2		2		2	
		・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		B_TEA303780	特別支援教育論	3	2		2		2	
		・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）										
				B_TEA203761	教育課程論（保育の計画と評価を含む）	2			2		幼2	
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	幼4	B_TEA103761	幼児教育方法	1			2		幼4	幼児理解の理論及び方法を含む。
		・幼児理解の理論及び方法										
		・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		B_TEA303752	幼児理解と教育相談	3			2			
		・道徳の理論及び指導法	小10	B_TEA303750	道徳教育の指導法	3	2				小11	特別活動の指導法を含む。
		・総合的な学習の時間の指導法		B_TEA203750	特別活動・総合的な学習の時間	2	2					
		・特別活動の指導法										
		・教育の方法及び技術		B_TEA203750	初等教育方法	2	2					
		・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		B_TEA103750	教育におけるICT活用	1	1					
		・生徒指導の理論及び方法		B_TEA203752	生徒指導・進路指導	2	2					進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を含む。
		・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		B_TEA303761	児童理解と教育相談	3	2					
		・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法										
第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	5	B_TEA333761	教育実習（幼・小）	4	5		5		5	
		教職実践演習	2	B_TEA413761	教職実践演習（幼・小）	4	2		2		2	
			小27 幼21		合 計		28		23			小28 幼23

(9) 教職課程履修細則

第1条 教職課程履修規程第5条により、教職課程の履修に関する細則を次のとおり定める。

第2条 教職課程を履修できる者は、教育職員免許法及び本学学則の定めるところにより、本学学生及び科目等履修生とする。

第3条 本学教職課程の履修によって取得できる教育職員免許状は、次のとおりである。(児童学科の場合)

学 部	学 科	免 許 状 の 種 類	
		免 許 状	免許教科
福 祉 社 会 学 部	児 童 学 科	幼稚園教諭一種免許状	—
		小学校教諭一種免許状	—

第4条 教育職員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法、同法施行規則及び学則に従い、所定の単位を修得しなければならない。

2 (略)

第5条 削 除

第6条 教職課程は、第2年次から履修できるが、第4年次からの履修は認めない。(以下略)

第7条 「教育実習（幼・小）」（幼稚園・小学校の免許状を取得する者。）を履修できる者は、原則として次の別表1に掲げる教職課程に関する科目の単位を修得した者でなければならない。「教育実習Ⅰ」（中学校の免許状を取得する者。高等学校の免許状を併せて取得する者を含む。）又は、「教育実習Ⅱ」（高等学校の免許状を取得する者。）を履修できる者は、次の別表2に掲げる教職課程に関する科目を修得し、実習を実施する教科において、本学で定める教科に関する専門的事項の最低修得単位数の半数以上の単位数を修得した者でなければならない。

(別表1)

教 職 課 程 に 関 する 科 目			
幼稚園		小学校	
教育原理	保育指導法（環境）	教育原理	音楽科教育法
教職入門	保育指導法（人間関係）	教職入門	図画工作科教育法
学校の制度・教育課程編成論	保育指導法特別研究	学校の制度・教育課程編成論	家庭科教育法
教育心理学	幼児教育方法	教育心理学	体育科教育法
教育課程論（保育の計画と評価を含む）	—	国語科教育法	英語教育の指導法
保育指導法（健康）	—	社会科教育法	道德教育の指導法
保育指導法（表現Ⅰ）	—	算数科教育法	特別活動・総合的な学習の時間
保育指導法（表現Ⅱ）	—	理科教育法	初等教育方法
保育指導法（言葉）	—	生活科教育法	—

(別表2) (略)

2 (略)

3 1, 2項の条件をみたした者であっても当該年度に卒業の見込みがない者は「教育実習（幼・小）」、「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」及び「特別支援教育実習」の履修を認めない。

4 1, 2, 3項の条件をみたした者であっても「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」, 「特別支援教育実習」履修資格

認定時までの教職課程履修期間中に、学則第41条の規定に基づき懲戒処分を受けた者については、「教育実習Ⅰ」、「教育実習Ⅱ」、「特別支援教育実習」の履修を認めないことがある。

5 「教育実習（幼・小）」の履修については、実習に対する意欲と目的意識、諸講義の履修態度、その他について「福祉社会学部児童学科教育実習に関する内規」に定める基準に基づいて、その可否につき判定する。

第8条 第6条及び前条の要件をみたさない者でも教職課程履修者として適当と思われる者については選考のうえ、履修を認めることがある。

2 交換留学生及び認定留学生については留学制度の主旨を尊重し、留学終了後の履修認定について特別に配慮することがある。

第9条 第7条及び第8条に基づき、一旦「教育実習Ⅰ」、「教育実習Ⅱ」、「特別支援教育実習」の履修を認められた者であっても、以下に示す事由により、実習校での実習を中止し且つ当該科目の履修を取り消すことがある。

- (1) 当該科目の実習事前指導の講義に、特別な理由なく、欠席・遅刻する者。
- (2) 教育実習にかかわる説明会に、特別な理由なく、欠席・遅刻する者。
- (3) 教育実習に耐えうる健康状態にないと判断される者。
- (4) 実習校での実習中に、実習生として著しく相応しくない言動があった者。
- (5) 第7条及び第8条に基づく当該科目履修資格認定後、学則第41条の規定に基づき、懲戒処分を受けた者。
- (6) その他、教育実習の実施に特別な支障がある場合。

第10条 （略）

第11条 「教職実践演習」は、履修予定年度の前期成績発表時までに「教育実習（幼・小）」（児童学科）、「教育実習Ⅰ」（児童学科以外の学生）、「教育実習Ⅱ」（児童学科以外の学生）の単位を修得した者、又は履修予定年度後期に同時に「教育実習（幼・小）」、「教育実習Ⅰ」、「教育実習Ⅱ」の単位を修得する予定の者のみが履修できる。ただし、履修年度後期に「教育実習（幼・小）」、「教育実習Ⅰ」、「教育実習Ⅱ」の単位修得予定者がその単位を修得できなかった場合、同時期に履修する「教職実践演習」は履修取り消し、又は評価「無効」とする。

第12条 教職課程履修希望者は、履修費を納入しなければならない。

また、「教育実習（幼・小）」、「教育実習Ⅰ」、「教育実習Ⅱ」及び「特別支援教育実習」を履修する者、介護等体験を行う者は、所定の期日までに次の表に掲げる実習費を納入しなければならない。

（別表）納 入 金（児童学科以外は略）

区 分	金 額
教 職 課 程 履 修 費	10,000円
教育実習費（教育実習（幼・小））	18,000円
介 護 等 体 験 費	実 費

第13条 履修費・実習費等は、どのような理由があっても返金しない。

(10) 教職課程スケジュール

学年 月	1 年	2 年	3 年	4 年
4 月		教職課程履修登録者確認 教育実習先希望調査	介護等体験説明会 (第 2 回) 幼稚園・小学校事前指導	履修カルテ提出 事前指導 1 (教育実習先・期間の 確認, 実習費納入) 事前指導 2 (教育実習の手引・記 録簿の配布説明) 事前指導 3 (予備研修の説明)
5 月			教育実習内諾訪問説明会	予備研修 (幼稚園又は小学校) 教育実習 (幼・小) (幼稚園又は小学校15日間)
6 月		基礎 実習	介護等体験説明会 (第3・4・5回)～7 月	事前指導
7 月	教職課程履修 説明会 (免許・資格 説明会)		教育実習報告会 (幼稚園・小学校)	介護等体験 (社会福祉施設等 5 日間) (特別支援学校 2 日間)
8 月			教育実習内諾訪問 (幼稚園・小学校)	教育実習記録簿提出 教育実習報告会 (幼稚園・小学校)
9 月		自主実習 (基礎実習)	内諾訪問報告書提出 履修カルテ提出	教育実習 (幼・小) 評価
10 月				履修カルテ提出
11 月				教育職員免許状申請手続き説明会 (第 1 回)
12 月				履修カルテ提出
1 月				教育職員免許状申請手続き説明会 (第 2 回)
2 月				
3 月	教職課程履修 登録及び履修 費納入 コース登録 自主実習希望 先調査	介護等体験説明会 (第 1 回) 履修カルテ説明会	教育実習履修資格合格者発表	免許状授与 (卒業式当日)

〔保育士養成課程〕

保育士養成課程に関する履修規程

（保育士養成施設）

第1条 鹿児島国際大学（以下「本学」という。）福祉社会学部児童学科を、児童福祉法施行令に基づく保育士養成施設（以下「保育士養成」という。）とする。

（履修定員）

第2条 保育士養成の履修定員は、学則第9条のとおりとする。

（履修方法）

第3条 保育士の資格を取得しようとする者は、本学学則第10条第12項の定めにより、本規程（別表第1・2・3・4に示す。）が定める単位を修得しなければならない。

（編入学者等の単位認定）

第4条 学則第17条に定める編入学者等の履修単位については、厚生労働省の通知に基づき認定するものとする。

第5条 削除

（実 習）

第6条 別表第1に掲げる「保育実習Ⅰ」、及び別表第2に掲げる「保育実習Ⅱ」若しくは「保育実習Ⅲ」を履修する者は、指定する期間内に「保育実習願」を提出しなければならない。

2 実習施設等については、第3年次の指定する期間に発表する。

3 保育実習の実施にあたっては、保育実習履修資格判定を学科において行う。

（納入金）

第7条 保育士養成の履修を認められた者は、指定する期間内に別表第5に定める保育士養成課程履修費を納入しなければならない。

2 「保育実習Ⅰ」、及び「保育実習Ⅱ」若しくは「保育実習Ⅲ」を履修する者は、指定する期間内に別表第5に定める保育実習費を納入しなければならない。

3 履修費及び実習費等は、どのような理由があっても返金しない。

（規程の改廃）

第8条 この規程の改廃は、福祉実習委員会、学部教授会及び大学評議会の審議を経て、学長の承認を得なければならない。

別表第1（第3条関係）

告示別表第1による教科目				ナンバリング コード	本学における教科目の開設状況等				
系列	教科目	授業 形態	単位数		左に対応して開設 されている教科目	授業 形態	単位数	資格 要件 必修	年次 配当
関する科目 保育の本質・目的に	保育原理	講義	2	B_CHC103761	保育原理	講義	2	○	1
	教育原理	講義	2	B_CHC103761	教育原理	講義	2	○	1
	子ども家庭福祉	講義	2	B_CHC203694	子ども家庭福祉	講義	2	○	2
	社会福祉	講義	2	B_CHC103690	社会福祉	講義	2	○	1
	子ども家庭支援論	講義	2	B_CHC103694	子ども家庭支援論	講義	2	○	1
	社会的養護Ⅰ	講義	2	B_CHC203694	社会的養護	講義	2	○	2
	保育者論	講義	2	B_CHC103761	保育者論	講義	2	○	1
解に関する科目 保育の対象の理	保育の心理学	講義	2	B_CHC103761	保育の心理学	講義	2	○	1
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	B_CHC103761	子ども家庭支援の心理学	講義	2	○	1
	子どもの理解と援助	演習	1	B_CHC203761	子どもの理解と援助	演習	1	○	2
	子どもの保健	講義	2	B_CHC203694	子どもの保健	講義	2	○	2
	子どもの食と栄養	演習	2	B_CHC205961	子どもの食と栄養	演習	2	○	2
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	B_CHC203761	教育課程論(保育の計画と評価を含む)	講義	2	○	2
	保育内容総論	演習	1	B_CHC303761	保育指導法特別研究	演習	2	○	3
	保育内容演習	演習	5	B_CHC203761	保育指導法（健康）	演習	2	○	2
				B_CHC203761	保育指導法（表現Ⅰ）	演習	2	○	2
				B_CHC203761	保育指導法（表現Ⅱ）	演習	2	○	2
	保育内容の理解と方法	演習	4	B_CHL103761	幼児教育方法	演習	2	○	1
				B_CHC223761	ピアノⅠ	演習	1	○	2
				B_CHC103761	音楽入門	演習	2	○	1
	乳児保育Ⅰ	講義	2	B_CHC203761	乳児保育Ⅰ	講義	2	○	2
	乳児保育Ⅱ	演習	1	B_CHC303761	乳児保育Ⅱ	演習	1	○	3
	子どもの健康と安全	演習	1	B_CHC203694	子どもの健康と安全	演習	1	○	2
	障害児保育	演習	2	B_CHC203692	障がい児保育	演習	2	○	2
	社会的養護Ⅱ	演習	1	B_CHC303694	社会的養護内容	演習	2	○	3
	子育て支援	演習	1	B_CHC303752	幼児理解と教育相談	演習	2	○	3
実習 保育	保育実習Ⅰ	実習	4	B_CHC333761	保育実習Ⅰ	実習	4	○	3
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	B_CHC333761	保育実習指導Ⅰ	演習	2	○	3
演習 総合	保育実践演習	演習	2	B_CHC413761	保育実践演習	演習	2	○	4
51単位					合 計	56単位			

別表第2（第3条関係）

別表第2による教科目				ナンバリング コード	本学における教科目の開設状況等				
系列	教 科 目	授業 形態	単位数		左に対応して開設 されている教科目	授業 形態	単位数	年次 配当	要修得単位数
関する育の 目的に本 解に育の する対象の 理に育の する内容・ 法に育の する内容・ 方			合 計 15 単 位 以 上	B_CHC103761	学校の制度・教育課程編成論	講義	2	1	6 単位以上
				B_CHC303692	障がい者福祉	講義	2	3	
				B_CHC103714	教育心理学	講義	2	1	
				B_CHC201460	臨床心理学	講義	2	2	
				B_CHC203692	精神保健	講義	2	2	
				B_CHC203761	保育指導法（言葉）	演習	2	2	
				B_CHC203761	保育指導法（環境）	演習	2	2	
				B_CHC203761	保育指導法（人間関係）	演習	2	2	
保育 実習			}2 }1	B_CHC223761	ピアノⅡ	演習	1	3	3 単位以上 ※保育実習は、「保育実習Ⅱ」（2 単位）、「保育実習指導Ⅱ」（1 単 位）, 又は「保育実習Ⅲ」（2 単 位）, 「保育実習指導Ⅲ」（1 単位） を修得しなければならない。
	保育実習Ⅱ	実習		B_CHC333761	保育実習Ⅱ	実習	2	3	
	保育実習Ⅲ	実習		B_CHC333761	保育実習Ⅲ	実習	2	3	
	保育実習指導Ⅱ	演習		B_CHC333761	保育実習指導Ⅱ	演習	1	3	
	保育実習指導Ⅲ	演習		B_CHC333761	保育実習指導Ⅲ	演習	1	3	
設置単位数18単位以上 履修単位数 9 単位以上					合 計				9 単位以上

別表第3（第3条関係）

告示による教科目				本学における教科目の開設状況		
系列	教 科 目	授業 形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	要修得単位数
基 礎 科 目	外国語、体育以外の科目		6 単位 以 上	共通教育科目の人間教養科目 「人文科学」「社会科学」「自然科学」		6 単位 以 上
	外国語	演習	2 単位 以 上	共通教育のコミュニケーションスキルズ科目	演習 講義	2 単位 以 上
	体育	講義	1 単位	共通教育科目の スポーツ・健康科目「講義」	講義	2 単位 以 上
	体育	実技	1 単位	共通教育科目の スポーツ・健康科目「実習」	実技	1 単位 以 上
設置単位数 10 単位以上 履修単位数 8 単位以上(体育(講義)と体育(実技)を含む)				合 計		11 単位 以 上

別表第4（第3条関係）

保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目	ナンバリング コード	本学における教科目の開設状況等		
		左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数
	B_CHL233761	基礎実習	演習	1
	B_CHL233761	保育基礎実習	演習	1

別表第5（第7条関係）納入金

区 分		金 額
保育士養成課程履修費		10,000円
保 育 実 習 費	保 育 実 習 Ⅰ	24,000円
	保 育 実 習 Ⅱ	12,000円
	保 育 実 習 Ⅲ	12,000円

保育実習履修資格

保育実習履修資格判定基準

保育実習を履修できる者は、次の要件をすべて満たすものとする。

- ① 保育士養成課程履修登録が済まされていること。
- ② 保育実習予定の前年度までに、卒業に必要な修得単位数が62単位以上であること。
- ③ 保育士養成課程必修科目の単位修得科目数が16科目以上であること。
- ④ 「基礎実習」及び「保育基礎実習」の単位が認定されていること。
- ⑤ 保育実習に必要な事前の指導を受け、かつ、事前の手続き等を済ませていること。
- ⑥ 保育士資格取得及び保育実習に対して、本人の意志が明確でありかつ意欲があること。
- ⑦ 履修態度及び日常の行動が保育実習生として適格と認められること。
- ⑧ 保育実習に耐えうる健康状態であること（原則として、細菌検査及びその他健康診断を必要とする）。
- ⑨ その他、保育実習の実施に特別の支障がないこと。

保育士養成課程スケジュール

	1 年	2 年	3 年	4 年
4 月		保育士養成課程履修登録者確認	保育実習費 (保育実習Ⅰ) 納入	
5 月		保育実習固有指導 (保育実習Ⅱ・Ⅲ選択)	保育実習先オリエンテーション (施設)	
6 月			保育実習Ⅰ (施設11日間)	
7 月	保育士養成課程履修 説明会 (免許・資格説明会)	保育実習固有指導 〔「保育実習Ⅰ」 施設実習先希望調査 内諾訪問 (保育所)〕		
8 月			保育実習先オリエンテーション (保育所)	
9 月		自主実習 (基礎実習)	保育実習Ⅰ (保育所11日間)	
10 月		保育実習体験を聞く会	保育実習Ⅰ反省会 (施設・保育所)	
11 月		保育現場企画実習		保育士登録申請 手続き説明会
12 月				
1 月			保育実習費 (保育実習Ⅱ・Ⅲ) 納入 保育実習先オリエンテーション (施設・保育所)	
2 月			保育実習Ⅱ (保育所11日間) 保育実習Ⅲ (施設11日間) 〔保育実習Ⅱ・Ⅲは、い ずれか選択必修〕	
3 月	保育士養成課程履修 登録及び履修費納入 保育実習先希望調査 自主実習希望先調査	保育実習履修資格合格者発表 保育実習体験を聞く会	保育実習Ⅱ・Ⅲ合同反省会	

保育士証は、卒業後の5月頃に自宅へ郵送されます。

[地域人材育成プログラム（児童学科）]

地域人材育成プログラムは、地域に貢献できる人材を育成するために実施している教育プログラムです。詳細は P42を参照してください。

	科目名	ナンバリング コード	授業科目	単位 数	年次 配当	所属	プログラム修 了所要単位数	
(1)	地域志向科目	B_GEN103617	地域創生Ⅰ	2	1	共通教育科目	2	合計16 単位 (③参照)
		B_GEN103617	地域創生Ⅱ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN103336	地域から世界へ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN110000	かごしま教養プログラム	2	1	共通教育科目		
		B_GEN110000	かごしまフィールドスクール	2	1	共通教育科目		
		B_GEN102100	Japanology	2	1	共通教育科目		
		B_GEN100000	教養特講Ⅰ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN100000	教養特講Ⅱ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN100000	教養特講Ⅲ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN100000	教養特講Ⅳ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN236070	国内インターンシップ	2	2	共通教育科目		
		B_GEN236070	海外インターンシップ	3	2	共通教育科目		
(2)	キャリアデザイン科目	B_GEN116070	コミュニケーション力育成	2	1	共通教育科目	2	
		B_GEN206070	論理的思考と数的処理	2	2	共通教育科目		
		B_GEN216070	キャリア形成のための文章力育成	2	3	共通教育科目		
(3)	地域人材育成科目	B_CHL203730	鹿児島県の教育	2	2	専門教育科目	8	
		B_CHL203694	子ども家庭福祉	2	2	専門教育科目		
		B_CHL203761	乳児保育Ⅰ	2	2	専門教育科目		
		B_CHL303761	乳児保育Ⅱ	1	3	専門教育科目		
		B_CHL203692	障がい児保育	2	2	専門教育科目		
		B_CHL203761	幼児教育方法	2	1	専門教育科目		
		B_CHL103694	子ども家庭支援論	2	1	専門教育科目		
(4)	地域フィールド演習 (①参照)	B_CHL310027	演習Ⅰ (②参照)	2	3	専門教育科目	2	
		B_CHL310027	演習Ⅱ	2	3	専門教育科目	2	

（履修上の注意事項）

- ①地域を研究のフィールドとした演習（Ⅰ・Ⅱ）を「地域フィールド演習」として認定します。
- ②3年次前期終了までに(1)～(3)（10単位）と地域フィールド演習としての演習Ⅰ（2単位）を修得した学生に対し、「地域人材育成プログラム修了見込証明書」を発行します。
- ③最低取得単位数（合計16単位）を修得した学生に対し、卒業時に「地域人材育成プログラム修了証」を申請に基づいて授与します。詳しくは、産学官地域連携センターに相談してください。

国際文化学部

(1) 国際文化学部

国際文化学部は、人間考察に関する専門的知識を教授し、国際交流に必要な豊かなコミュニケーション能力と異文化に対する理解を深め、グローバルな視点にたった相互理解を図る真の国際人を養成することを目的とします。

(2) ディプロマ・ポリシー

国際文化学部は、目的を達成するために、所定の単位を修得したことにより、次のような段階に到達したと評価される学生に学位を授与します。

(知識・技能)

DP1 異文化理解に必要な教養・姿勢を身に付け、芸術・文化の創造と発展に貢献できる。

(思考・判断・表現)

DP2 より平和で豊かな日本・国際社会の実現に向けて、主体的に行動できる。

(関心・意欲・態度)

DP3 高度なコミュニケーション能力と、グローバルな視点を活かすことによって、地域社会の発展に積極的に関わることができる。

DP4 国際社会の動向に弾力的・自律的に対応できる自己教育力を身に付けている。

(3) カリキュラム・ポリシー

国際文化学部は、目的とディプロマ・ポリシーを達成するために、次の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

CP1 国際的な視野に立って情報発信し、世界や地域が培ってきた文化を理解し、現代社会の課題に取り組む力を身に付けるために、言語、文化、芸術に関する科目を組織的に配置します。

CP2 コミュニケーションに必要な能力と、異文化理解のための知識・教養、音楽に関連する専門性を高めるため、共通教育科目、専門教育科目を体系的に配置します。

CP3 共通教育科目では「大学教育への導入」「キャリア形成支援」「専門教育の基礎形成」を中心として科目編成し、幅広い教養と豊かな人間性を育みます。

CP4 国際社会で必要とされる実践的な力と応用力を養成するため、外国留学、国内外のインターンシップ、フィールドワーク、公演活動などの科目・プログラムを提供します。

CP5 個々の学生の個性や目的に合わせ、科目ごとの到達目標を確実に実現するため、徹底した少人数教育を実施します。

CP6 修得した知識・教養や技術を活かし、自らが直面する問題や課題を発見し、その解決法や対案を創造する能力を養成するため、卒業論文や卒業演奏・卒業作品の指導を丁寧に行います。

(4) アドミッション・ポリシー

国際文化学部は、目的、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、本学での学修を目指す次のような人を国内外に広く求めます。

(知識・技能)

AP1 国際文化学部の教育を受けるのに必要な高等学校の教育課程を修得している人。

(思考・判断・表現)

AP2 身近な問題を多面的・論理的に考え説明できる人。

AP3 国際社会でも協調できるバランスのとれた思考力・表現力を有する人。

(関心・意欲・態度)

AP4 国際交流に関心を持ち、異文化との共生を目指す人。

AP5 多様な文化や芸術を理解し、それらの分野で社会に貢献する意欲のある人。

AP6 世界やアジア、日本や地域が培ってきた文化の発展に寄与する意思のある人。

国際文化学科

(1) 国際文化学科の目的 国際文化学科は、異文化理解とコミュニケーション能力を体系的・融合的に身に付け、国際的キャリア形成についての明確なビジョンと人類の福祉に貢献できる資質とを備えた人材を養成することを目的とします。
(2) ディプロマ・ポリシー 国際文化学科は、目的を達成するために、所定の単位を修得したことにより、次のような段階に到達したと評価される学生に学位を授与します。 (知識・技能) DP1 異文化理解に必要な自国と他国についての知識と教養を身に付けている。 (思考・判断・表現) DP2 修得した知識、能力などを活用して自分の考えを論理的、説得的に述べることができると同時に、他者と対話的に関わるができる。 (関心・意欲・態度) DP3 国際的な文化交流、地域と自国の文化に関心を持ち、その活性化に積極的に関わるができる。
(3) カリキュラム・ポリシー 国際文化学科は、目的とディプロマ・ポリシーを達成するために、次の方針に基づいてカリキュラムを編成します。 CP1 共通教育科目では「大学教育への導入」「キャリア形成支援」「専門教育の基礎形成」を中心として科目編成し、幅広い教養と豊かな人間性を育みます。 CP2 1年次から4年次の各学年において、教員と学生あるいは学生同士が交流しながら学べるよう、少人数による演習（ゼミナール）を配置します。 CP3 地域と世界の言語と文化を学ぶ「日本語・日本文化コース」「アジア言語・文化コース」「英語・欧米文化コース」「考古・歴史コース」の4コースを置き、相互に関連させながら学ぶことで、国際的な視野に立って地域の社会について考察しうる能力を養成します。 CP4 コースに分かれてそれぞれの専門領域の学習を深めると同時に、複数のコースを横断的に学習することで、多角的な視点から自国と他国の言語・文化をとらえる視野を養成します。 CP5 地域社会に積極的に関わり、活性化する能力を育成するため、現地体験学習科目やフィールドワーク科目を設けます。これらの科目により、実践的なコミュニケーション能力や企画力、運営力、構想力、発信力を磨きます。
(4) アドミッション・ポリシー 国際文化学科は、目的、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、本学での学修を目指す次のような人を国内外に広く求めます。 (知識・技能) AP1 異文化理解のために必要な基礎的な能力（読む力、書く力、考える力）を備えている人。 (思考・判断・表現) AP2 他者と協調できるバランスのとれた人間性を有する人。 (関心・意欲・態度) AP3 地域と世界の社会、文化の意味と価値を理解して、文化的な交流に意欲のある人。 AP4 国際交流、海外での活動、外国人との外国語・日本語によるコミュニケーションなどに興味のある人。

国際文化学科カリキュラムマップ

大分類 B_GEN

大分類 B_INT

共通教育科目

学部基本科目

学科基本科目

コース科目

他コース科目
インターンシップ

スキルアッププログラム

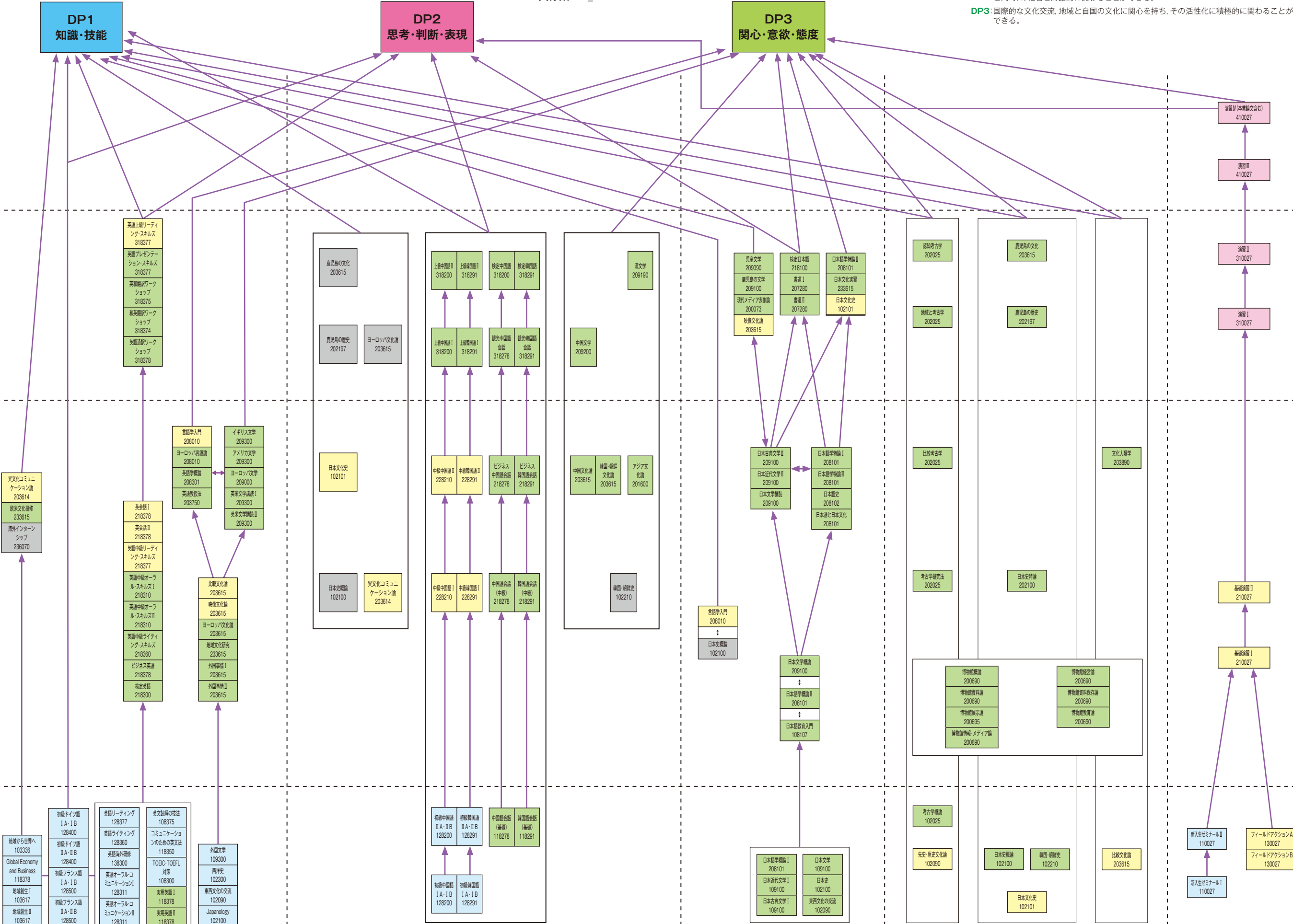
- DP1:異文化理解に必要な自国と他国についての知識と教養を身に付けている。
- DP2:修得した知識、能力などを活用して自分の考えを論理的、説得的に述べることができると同時に、他者と対話的に関わることができる。
- DP3:国際的な文化交流、地域と自国の文化に関心を持ち、その活性化に積極的に関わることができる。

4年次

3年次

2年次

1年次



※中国語選択と韓国語選択は語学の場合、縦の線に沿って選ぶ。

〈英語・欧米文化コース〉

〈アジア言語・文化コース〉

〈日本語・日本文化コース〉

〈考古・歴史コース〉

全コース共通

国際文化学部 国際文化学科

大学で提供されている科目は、共通教育科目と専門教育科目の2つのグループに大きく分かります。卒業するためには、この2つのグループにそれぞれ配当されている科目を、一定の条件にそって履修し、単位を修得しなければなりません。資格や免許を取得したい人は、これらとは別に設置された、それぞれの資格（免許）課程を履修し、各課程が定める条件にそって科目を履修することになります。所定の年限で卒業（学士の称号を取得）し、必要な資格や免許を取得するためには、この全体のカリキュラム（教育課程）の組み立てをよく頭に入れたうえで、計画的に科目を履修していく必要があります。

1 共通教育科目

(1) 共通教育科目のねらい

大学に入学したみなさんが所属の学部・学科を問わず、まずは重点的に履修しなければならないのが共通教育科目であり、そのねらいは3つあります。それは、(1) 大学で学ぶための基礎的な知識と技能を育成し、(2) 将来の人生設計を構想し（キャリアデザイン）、(3) 各自の専攻分野への関心を深めていくというものです。

(2) 履修科目を決定するために

「科目」の選択にあたっては、「科目表」と「時間割表」とを参照しながら、履修すべき科目を選択する必要があります。最初に、当該年次のうち、必修科目と履修指定科目とが時間割のどの時限にあてられているかをチェックします。その年次において必ず履修しなければならないからです。上記以外の科目については、その選択にあたって、みなさんの主体性が要求されます。

1年次を例にとると、まず、所属学部・学科を問わず「新入生ゼミナールⅠ」と「新入生ゼミナールⅡ」が履修指定になっています。さらにコミュニケーションスキルズ科目から所定の単位を修得しなければなりません。指定に注意しながら、優先的に履修しましょう。

次いで、「時間割表」と対照しながら、共通教育科目と低年次配当の専門教育科目とを同時に検討します。この際、カリキュラムマップ、ナンバリングコードを参考にしながら、『授業内容（シラバス）』を熟読してください。自分の学びの方向性を展望しながら、履修の順序もよく考えて、しっかりとした履修計画を立てなければなりません。（ただし、「時間割表」は毎年変わりますので、今年度の「時間割表」で4年間の履修計画を完全に立ててしまうことはできません。）共通教育科目を2・3・4年次で履修することはさしつかえありませんが、できるだけ早い年次で単位を修得するほうが望ましいです。特に、教職課程の履修を希望する学生は周到な履修計画を立て、確実に単位を修得していかなければ後の履修にさしつかえます。

(3) 共通教育科目の履修方法

国際文化学科は、人間教養科目の「人文科学」、「社会科学」、「自然科学」「地域志向」から8単位以上を修得しなければなりません。また、コミュニケーションスキルズ科目からは、英語のコア科目の「英語オーラル・コミュニケーションⅠ」、「英語オーラル・コミュニケーションⅡ」（各1単位）、「英語海外研修」（2単位）から2単位以上を修得する必要があります。さらに基礎科目、人間教養科目、コミュニケーションスキルズ科目、スポーツ・健康科目の全体から単位を修得して合計単位数を卒業所要単位数以上にしなければなりません。なお、「新入生ゼミナールⅠ」、「新入生ゼミナールⅡ」、「データサイエンス・AI入門」、「情報処理」（各2単位）は履修指定となります。

(4) キャリアデザイン科目

キャリアデザイン科目は、学生のキャリア形成を支援する目的で設置しています。「コミュニケーション力育成」では、社会人基礎力やコミュニケーションに関する理論を学び、実践を通してコミュニケーション力を高めることができます。「論理的思考と数的処理」では、数学の基礎を固め、就職試験の準備をします。

(5) 地域志向科目

地域志向科目は「地域人材育成プログラム」を構成する科目です。私たちが生活と学びの場としている地域の実情を知り、その課題を発見し、解決策を提案したり、実際に課題解決のための活動に取り組んだりする科目群です。(詳しくは P212を参照)

この地域志向科目の中に設置されている「かごしま教養プログラム」と「かごしまフィールドスクール」は、文部科学省「戦略的大学連携支援事業」の一貫として鹿児島県内の全大学・短大・高専の学生を対象として実施される連携教育プログラム「グローバル教養教育」の一部です。「グローバル教養教育」は、これらの科目と「かごしまカレッジ教育」を合わせて構成されていますが、この「かごしまカレッジ教育」については、本学では「新入生ゼミナールⅠ」がこれに対応しています。

2 専門教育科目

「専門教育科目」の概要

国際文化学科の専門教育に関する科目は「専門教育科目」と呼ばれますが、その内容は次のように分かれています。

(1) 学科基幹科目

(2) 学科基礎科目

(3) 専門関連科目 (英語・欧米文化コース, アジア言語・文化コース, 日本語・日本文化コース, 考古・歴史コース, インターンシップ)

(4) スキルアッププログラム

(5) 他学部・他学科及び教職・資格課程開設科目

国際文化学科では、卒業単位として、上記の「専門教育科目」の(1)から(5)の開講科目全体から94単位以上を修得する必要があります。それぞれの科目群についての詳細を以下に説明しますので、よく読んで間違いのないように単位を修得してください。

(1) 学科基幹科目

学科基幹科目は「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」「演習Ⅳ(卒業論文含む)」の4科目ですが、この中の「演習Ⅲ」は履修指定科目で、「演習Ⅳ(卒業論文含む)」は4年次の必修科目です。卒業するためには「演習Ⅳ(卒業論文含む)」は必ず単位を修得する必要があります。

「演習Ⅰ」は3年次の前期に、「演習Ⅱ」は3年次の後期に配当されています。これら3年次の演習科目は、4年次必修の「演習Ⅲ」「演習Ⅳ(卒業論文含む)」で求められる知識や技能を得るために不可欠な科目です。カリキュラム表では必修になっていませんが、必ず履修してください。

(2) 学科基礎科目

学科基礎科目は学科の学習の基本になる教養と語学力を身につけるための科目群です。「フィールドアクションA」「フィールドアクションB」「比較文化論」「異文化コミュニケーション論」「言語学入門」「映像文化論」「日本文化史」「先史・原史文化論」の8科目の中から2科目、合計4単位以上、「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」「英語中級リーディング・スキルズ」「英語上級リーディング・スキルズ」「中級中国語Ⅰ」「中級中国語Ⅱ」「中級韓国語Ⅰ」「中級韓国語Ⅱ」の中から、4単位以上を修得しなければなりません。

また、2年次に学ぶ「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」は、3年次と4年次前期の「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」とともに、4年次後期で学ぶ必修科目の「演習Ⅳ(卒業論文含む)」につながる重要な科目ですから、必ず履修してください。

(3) 専門関連科目

専門関連科目は英語・欧米文化コース, アジア言語・文化コース, 日本語・日本文化コース, 考古・歴史コースの4つのコースのコース科目とインターンシップ科目からなります。4つのコースのコース科目は、それぞれの分野の専門的な知識と技術を体系的に修得できるように設けられています。

各コースに開講されているコア科目から4単位以上を修得し、それを含めてコース科目全体から20単位を修得した場合、コース修了が認定されます。もし、この単位に満たなかった場合はコース修了が認定されませんが、修得した単位は卒業単位の中に算入されます。コース修了は卒業の要件ではありませんが、4つのコースは、皆さんが各自の興味、関心に応じていずれかのコースを選択してコースに設けられた科目群を学習することで、それぞれの専門領域の高度な学習を体系的に行うことが出来るように設定されていますので、ぜひ、コースを登録し、修了を目指して所定の科目群を積極的に履修するように努めてください。コース科目は別表にありますので、参照して履修してください。

なお、コースの登録は2年次開始時に行い、1年次の終わりに募集を行います。コースを変える場合は、3年次開始時に変更が出来ます。

インターンシップ科目は、学生各自が自分の適性や専門、将来のキャリア等に関連した就業体験を通して、より実践的な勉学への意欲を高め、適切な職業観や主体的な職業選択能力を身に付けることを支援するための実習科目で、「国内インターンシップ」と「海外インターンシップ」の2科目があります。日程や学習指導についての内容は、それぞれ担当者によって異なりますので、シラバス等をよく読み、各担当者から事前指導を受けてください。

(4) スキルアッププログラム

スキルアッププログラムは学科での学習に幅と広がりを与える目的で設けられた科目群で、情報処理関係の科目が多く含まれています。なお、「プログラム」は「科目群」という意味でご理解ください。

(5) 他学部・他学科及び教職・資格課程開設科目

国際文化学科では、卒業所要単位として認めることのできる他学部・他学科及び教職・資格課程において開設される授業科目のうち専門教育科目について、合計16単位までを「他学部・他学科及び教職・資格課程開設科目」の枠に算入することが出来ます。

ただし、卒業所要単位とする科目は、指定して登録する必要がありますので、注意してください。

3 履修上の留意点

(1) 年次配当の意味

「年次配当」は、科目の種類によって、少し意味が異なります。

履修指定科目となっている科目は、その年次において必ず履修しなければなりません。特に「新入生ゼミナール」は、1年次のみ履修することができます。万が一、単位を修得できなかった場合は、再履修できませんので、その不足単位は他の科目の履修で補わなければなりません。

履修指定科目以外の科目は、配当された年次以降に履修することができます。例えば、「2年次配当」というのは、「2年次以降に履修できる」ということを意味します。「3年次配当」であれば「3年次以降…」というようになります。履修できる年次になったら、できるだけ早い年次で履修することが望ましいですが、履修計画によっては高年次で履修してもさしつかえありません。

(2) 再履修について

さてみなさん、ここで肝に銘じておいてほしいことがあります。コミュニケーションスキルズ科目の選択必修科目、専門教育科目の必修科目を落としてしまった場合、翌年度以降に再履修しなければなりません。できるだけ努力して当該年次にこれらの科目の単位を修得してください。

国際文化学科共通教育科目

科目区分		ナンバリング コード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数		
基礎科目	新入生ゼミナール	B_GEN110027	新入生ゼミナールⅠ	2	1	履修指定 (注)①参照		
		B_GEN110027	新入生ゼミナールⅡ	2	1			
	数理・データサイ エンス・AI	B_GEN100076	データサイエンス・AI 入門	2	1			
		B_GEN100076	情報処理	2	1			
	キャリアデザイン	B_GEN104170	確率と統計	2	1			
		B_GEN116070	コミュニケーション力育成	2	1			
		B_GEN116070	キャリア形成のための一般教養Ⅰ	2	1			
		B_GEN116070	キャリア形成のための一般教養Ⅱ	2	1			
B_GEN216070		キャリア形成のための一般教養Ⅲ	2	3				
B_GEN216070		キャリア形成のための一般教養Ⅳ	2	3				
人間教養科目	人文科学	B_GEN109100	日本文学	2	1	8単位以上	共通教育科目合計30単位以上	
		B_GEN109300	外国文学	2	1			
		B_GEN107610	音楽文化論	2	1			
		B_GEN102100	日本史	2	1			
		B_GEN102300	西洋史	2	1			
		B_GEN102200	東洋史	2	1			
		B_GEN102090	東西文化の交流	2	1			
		B_GEN101000	哲学	2	1			
		B_GEN101500	倫理学	2	1			
		B_GEN101401	心理学	2	1			
	社会科学	B_GEN103210	法学	2	1			
		B_GEN103231	日本国憲法	2	1			
		B_GEN103110	政治学	2	1			
		B_GEN103310	経済学	2	1			
		B_GEN103610	社会学	2	1			
		B_GEN102901	地理学	2	1			
	自然科学	B_GEN103000	社会科学概論	2	1			
		B_GEN104100	数学Ⅰ	2	1			
		B_GEN104100	数学Ⅱ	2	1			
		B_GEN104600	生命科学	2	1			
	地域志向	B_GEN104680	環境科学	2	1			
		B_GEN103617	地域創生Ⅰ	2	1			
		B_GEN103617	地域創生Ⅱ	2	1			
		B_GEN102100	Japanology	2	1			
		B_GEN103336	地域から世界へ	2	1			
		B_GEN110000	かごしま教養プログラム	2	1			
		B_GEN110000	かごしまフィールドスクール	2	1			
		B_GEN133697	ボランティア活動	2	1			
		B_GEN100000	教養特講Ⅰ	2	1			
		B_GEN100000	教養特講Ⅱ	2	1			
コミュニケーション スキルズ科目	英語	B_GEN100000	教養特講Ⅲ	2	1	2単位以上 (注)②参照		
		B_GEN100000	教養特講Ⅳ	2	1			
		コア	B_GEN128311	英語オーラル・コミュニケーションⅠ	1			1
			B_GEN128311	英語オーラル・コミュニケーションⅡ	1			1
	B_GEN138300		英語海外研修	2	1			
	関連	B_GEN128377	英語リーディング	1	1			
		B_GEN128360	英語ライティング	1	1			
		B_GEN108375	英文読解の技法	2	1			
		B_GEN108300	TOEIC・TOEFL 対策	2	1			
		B_GEN118350	コミュニケーションのための英文法	2	1			
B_GEN118378		Global Economy and Business	2	1				

共通教育科目合計30単位以上

科目区分			ナンバリング コード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数	
第二外国語	中国語	中国語	B_GEN128200	初級中国語ⅠA	1	1	4単位以上 ※第二外国語は、同一外国語のⅠA、ⅠB、ⅡA及びⅡBを修得しなければならない。	
			B_GEN128200	初級中国語ⅠB	1	1		
			B_GEN128200	初級中国語ⅡA	1	1		
			B_GEN128200	初級中国語ⅡB	1	1		
			B_GEN138200	中国語海外研修	2	1		
		フランス語	B_GEN128500	初級フランス語ⅠA	1	1		
			B_GEN128500	初級フランス語ⅠB	1	1		
			B_GEN128500	初級フランス語ⅡA	1	1		
			B_GEN128500	初級フランス語ⅡB	1	1		
		ドイツ語	B_GEN128400	初級ドイツ語ⅠA	1	1		
			B_GEN128400	初級ドイツ語ⅠB	1	1		
			B_GEN128400	初級ドイツ語ⅡA	1	1		
			B_GEN128400	初級ドイツ語ⅡB	1	1		
		韓国語	B_GEN128291	初級韓国語ⅠA	1	1		
			B_GEN128291	初級韓国語ⅠB	1	1		
			B_GEN128291	初級韓国語ⅡA	1	1		
			B_GEN128291	初級韓国語ⅡB	1	1		
			B_GEN138291	韓国語海外研修	2	1		
		イタリア語	B_GEN128700	初級イタリア語ⅠA	1	1		
			B_GEN128700	初級イタリア語ⅠB	1	1		
			B_GEN128700	初級イタリア語ⅡA	1	1		
			B_GEN128700	初級イタリア語ⅡB	1	1		
		日本語 (留学生科目)	B_GEN128100	日本語入門Ⅰ	2	1		
			B_GEN128100	日本語入門Ⅱ	2	1		
			B_GEN108100	留学生のための日本事情	2	1		
スポーツ・健康科目	講義		B_GEN107801	日常生活に生かすスポーツ科学	2	1		
			B_GEN107801	現代社会とスポーツ	2	1		
	実習		B_GEN127800	スポーツ実習Ⅰ（屋内集団球技）	1	1		
			B_GEN127800	スポーツ実習Ⅱ（屋内個人球技）	1	1		
			B_GEN127800	スポーツ実習Ⅲ（個人種目）	1	1		
			B_GEN127800	スポーツ実習Ⅳ（屋外個人球技）	1	1		
			B_GEN127800	スポーツ実習Ⅴ（屋外集団球技）	1	1		

(注)

- ① 新入生ゼミナールⅠ，新入生ゼミナールⅡ，データサイエンス・AⅠ入門及び情報処理は，履修指定とし，配当された年次に全員必ず登録し授業を受けなければならない。なお，新入生ゼミナールⅠ及び新入生ゼミナールⅡの再履修はできない。
- ② コミュニケーションスキルズ科目の英語は，コア科目の英語オーラル・コミュニケーションⅠ及び英語オーラル・コミュニケーションⅡ又は英語海外研修から2単位以上を修得しなければならない。

国際文化学科専門教育科目

科目区分		ナンバリングコード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数		
学科基本科目	学科基幹科目	B_INT310027	演習Ⅰ	2	3		合計 94 単位 以上	
		B_INT310027	演習Ⅱ	2	3			
		B_INT410027	演習Ⅲ	2	4	履修指定		
		B_INT410027	演習Ⅳ（卒業論文含む）	4	4	4単位		
	学科基礎科目	B_INT210027	基礎演習Ⅰ	2	2			
		B_INT210027	基礎演習Ⅱ	2	2			
		B_INT130027	フィールドアクション A	2	1	4単位以上		
		B_INT130027	フィールドアクション B	2	1			
		B_INT203615	比較文化論	2	1			
		B_INT203614	異文化コミュニケーション論	2	1			
		B_INT208010	言語学入門	2	1			
		B_INT203615	映像文化論	2	1			
		B_INT102101	日本文化史	2	1			
		B_INT102090	先史・原史文化論	2	1			
		B_INT218378	英会話Ⅰ	2	1	4単位以上		
		B_INT218378	英会話Ⅱ	2	1			
		B_INT218377	英語中級リーディング・スキルズ	2	1			
		B_INT318377	英語上級リーディング・スキルズ	2	2			
		B_INT228210	中級中国語Ⅰ	4	2			
		B_INT228210	中級中国語Ⅱ	4	2			
B_INT228291	中級韓国語Ⅰ	4	2					
B_INT228291	中級韓国語Ⅱ	4	2					
専門関連科目	英語・欧米文化 コース	B_INT218378	ビジネス英語	2	2			
		B_INT203615	ヨーロッパ文化論	2	1			
		B_INT203615	地域文化研究	2	1			
		B_INT203615	外国事情Ⅰ	2	1			
		B_INT203615	外国事情Ⅱ	2	1			
		B_INT208301	英語学概論	2	1			
		B_INT203750	英語教授法	2	1			
		B_INT209300	イギリス文学	2	1			
		B_INT209300	アメリカ文学	2	1			
		B_INT209000	ヨーロッパ文学	2	1			
		B_INT209300	英米文学講読Ⅰ	2	2			
		B_INT209300	英米文学講読Ⅱ	2	2			
		B_INT218310	英語中級オーラル・スキルズⅠ	2	1			
		B_INT218310	英語中級オーラル・スキルズⅡ	2	1			
		B_INT218360	英語中級ライティング・スキルズ	2	1			
		B_INT118378	実用英語Ⅰ	2	1			
		B_INT118378	実用英語Ⅱ	2	1			
		B_INT318377	英語プレゼンテーション・スキルズ	2	2			
		B_INT318375	英和翻訳ワークショップ	2	2			
		B_INT318374	和英翻訳ワークショップ	2	2			
		B_INT318378	英語通訳ワークショップ	2	2			
		B_INT233615	欧米文化研修	1	1			
		B_INT208010	ヨーロッパ言語論	2	2			
		B_INT218300	検定英語	2	1			
	アジア言語・文化 コース	B_INT203615	中国文化論	2	1			
		B_INT203615	韓国・朝鮮文化論	2	1			
		B_INT208010	日中比較言語学	2	1			
		B_INT209190	漢文学	2	2			
		B_INT209200	中国文学	2	2			
		B_INT318200	上級中国語Ⅰ	4	3			
		B_INT318200	上級中国語Ⅱ	4	3			
		B_INT118278	中国語会話（基礎）	2	1			
		B_INT218278	中国語会話（中級）	2	2			
		B_INT318278	観光中国語会話	2	3			
		B_INT218278	ビジネス中国語会話	2	2			
		B_INT318291	上級韓国語Ⅰ	4	3			
		B_INT318291	上級韓国語Ⅱ	4	3			

科目区分	ナンバリングコード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数
日本語・日本文化 コース	B_INT118291	韓国語会話（基礎）	2	1	
	B_INT218291	韓国語会話（中級）	2	2	
	B_INT318291	観光韓国語会話	2	3	
	B_INT218291	ビジネス韓国語会話	2	2	
	B_INT203615	アジア文化論	2	1	
	B_INT318200	検定中国語	2	1	
	B_INT318291	検定韓国語	2	1	
	B_INT209100	日本文学概論	2	1	
	B_INT209100	日本文学講読	2	1	
	B_INT109100	日本古典文学Ⅰ	2	1	
	B_INT209100	日本古典文学Ⅱ	2	1	
	B_INT109100	日本近代文学Ⅰ	2	1	
	B_INT209100	日本近代文学Ⅱ	2	1	
	B_INT209090	児童文学	2	1	
	B_INT209100	鹿児島県の文学	2	1	
	B_INT208101	日本語学概論Ⅰ	2	1	
	B_INT208101	日本語学概論Ⅱ	2	1	
	B_INT208101	日本語学特論Ⅰ	2	2	
	B_INT208101	日本語学特論Ⅱ	2	2	
	B_INT208101	日本語学特論Ⅲ	2	2	
	B_INT208102	日本語史	2	2	
	B_INT208101	日本語と日本文化	2	1	
	B_INT108107	日本語教育入門	2	1	
	B_INT207280	書道Ⅰ	2	2	
	B_INT207280	書道Ⅱ	2	2	
	B_INT200073	現代メディア表象論	2	2	
	B_INT233615	日本文化実習	1	1	
	B_INT218100	検定日本語	2	1	
考古・歴史コース	B_INT102025	考古学概論	2	1	
	B_INT102100	日本史概論	2	1	
	B_INT102100	日本近代史特講	2	1	
	B_INT202025	認知考古学	2	1	
	B_INT202025	考古学研究法	2	1	
	B_INT202025	比較考古学	2	2	
	B_INT202025	地域と考古学	2	1	
	B_INT102210	韓国・朝鮮史	2	1	
	B_INT202100	日本史特論	2	1	
	B_INT202197	鹿児島の歴史	2	1	
	B_INT203890	文化人類学	2	1	
	B_INT203615	鹿児島の文化	2	1	
	B_INT200690	博物館概論	2	2	
	B_INT200690	博物館経営論	2	2	
	B_INT200690	博物館資料論	2	2	
	B_INT200690	博物館資料保存論	2	2	
	B_INT200695	博物館展示論	2	2	
	B_INT200690	博物館教育論	2	2	
	B_INT200690	博物館情報・メディア論	2	2	
インターンシップ	B_INT236070	国内インターンシップ	2	2	
	B_INT236070	海外インターンシップ	3	2	
スキルアッププログラム	B_INT203790	生涯学習概論	2	2	
	B_INT200071	映像編集入門	2	1	
	B_INT100076	コンピュータ概論	2	1	
	B_INT200076	ビジネスデータ処理	2	2	
	B_INT300078	アルゴリズムとデータ構造	2	2	
	B_INT200076	情報処理論	2	2	
	B_INT300079	情報ネットワークⅠ	2	2	
	B_INT300079	情報ネットワークⅡ	2	2	
	B_INT300076	マルチメディア表現と技術Ⅰ	2	2	
	B_INT300076	マルチメディア表現と技術Ⅱ	2	2	

科目区分	ナンバリングコード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数	
他学部・他学科及び教職・資格課程開設科目		注)④参照			※16単位までを卒業所要単位数として認める。	

注)

- ① コース・ゼミ登録は、2年次開始時に行う。
- ② 3年次開始時に、コース・ゼミ登録の変更を認める。
- ③ コース修了所要単位数は別表第4・5・6・7に定める。
- ④ 他学部・他学科及び教職・資格課程の開設科目並びに単位互換認定科目は、国際文化学部履修規程第7条により、合計16単位までを国際文化学科専門教育科目の卒業所要単位数〔合計94単位以上〕に算入する。
- ⑤ 「演習Ⅲ」は、履修指定とし、配当された年次に全員必ず登録し授業を受けなければならない。

別表第4 国際文化学科コース科目（英語・欧米文化コース）

科目区分	ナンバリングコード	授業科目	単位	年次 配当	コース修了 所要単位数	
コア科目	B_INT218378	ビジネス英語	2	2	4 単位以上	20 単 位 以 上
	B_INT203615	ヨーロッパ文化論	2	1		
	B_INT233615	地域文化研究	2	1		
	B_INT203615	外国事情Ⅰ	2	1		
	B_INT203615	外国事情Ⅱ	2	1		
関連科目	B_INT208301	英語学概論	2	1		
	B_INT203750	英語教授法	2	1		
	B_INT209300	イギリス文学	2	1		
	B_INT209300	アメリカ文学	2	1		
	B_INT209000	ヨーロッパ文学	2	1		
	B_INT209300	英米文学講読Ⅰ	2	2		
	B_INT209300	英米文学講読Ⅱ	2	2		
	B_INT218310	英語中級オーラル・スキルズⅠ	2	1		
	B_INT218310	英語中級オーラル・スキルズⅡ	2	1		
	B_INT218360	英語中級ライティング・スキルズ	2	1		
	B_INT118378	実用英語Ⅰ	2	1		
	B_INT118378	実用英語Ⅱ	2	1		
	B_INT318377	英語プレゼンテーション・スキルズ	2	2		
	B_INT318375	英和翻訳ワークショップ	2	2		
	B_INT318374	和英翻訳ワークショップ	2	2		
	B_INT318378	英語通訳ワークショップ	2	2		
	B_INT233615	欧米文化研修	1	1		
	B_INT208010	ヨーロッパ言語論	2	2		
	B_INT218300	検定英語	2	1		

別表第5 国際文化学科コース科目（アジア言語・文化コース）

科目区分	ナンバリングコード	授業科目	単位	年次 配当	コース修了 所要単位数	
コア科目	B_INT203615	中国文化論	2	1	4 単位以上	20 単 位 以 上
	B_INT203615	韓国・朝鮮文化論	2	1		
	B_INT208010	日中比較言語学	2	1		
関連科目	B_INT209190	漢文学	2	2		
	B_INT209200	中国文学	2	2		
	B_INT318200	上級中国語Ⅰ	4	3		
	B_INT318200	上級中国語Ⅱ	4	3		
	B_INT118278	中国語会話（基礎）	2	1		
	B_INT218278	中国語会話（中級）	2	2		
	B_INT318278	観光中国語会話	2	3		
	B_INT218278	ビジネス中国語会話	2	2		
	B_INT318291	上級韓国語Ⅰ	4	3		
	B_INT318291	上級韓国語Ⅱ	4	3		
	B_INT118291	韓国語会話（基礎）	2	1		
	B_INT218291	韓国語会話（中級）	2	2		
	B_INT318291	観光韓国語会話	2	3		
	B_INT218291	ビジネス韓国語会話	2	2		
	B_INT203615	アジア文化論	2	1		
	B_INT318200	検定中国語	2	1		
	B_INT318291	検定韓国語	2	1		

別表第6 国際文化学科コース科目（日本語・日本文化コース）

科目区分	ナンバリングコード	授業科目	単位	年次 配当	コース修了 所要単位数	
コア科目	B_INT209100	日本文学概論	2	1	4 単位以上	20 単位 以上
	B_INT208101	日本語学概論Ⅰ	2	1		
	B_INT102100	日本史概論	2	1		
関連科目	B_INT209100	日本文学講読	2	1		
	B_INT109100	日本古典文学Ⅰ	2	1		
	B_INT209100	日本古典文学Ⅱ	2	1		
	B_INT109100	日本近代文学Ⅰ	2	1		
	B_INT209100	日本近代文学Ⅱ	2	1		
	B_INT209090	児童文学	2	1		
	B_INT209100	鹿児島島の文学	2	1		
	B_INT208101	日本語学概論Ⅱ	2	1		
	B_INT208101	日本語学特論Ⅰ	2	2		
	B_INT208101	日本語学特論Ⅱ	2	2		
	B_INT208101	日本語学特論Ⅲ	2	2		
	B_INT208102	日本語史	2	2		
	B_INT208101	日本語と日本文化	2	1		
	B_INT108107	日本語教育入門	2	1		
	B_INT207280	書道Ⅰ	2	2		
	B_INT207280	書道Ⅱ	2	2		
	B_INT200073	現代メディア表象論	2	2		
	B_INT233615	日本文化実習	1	1		
	B_INT218100	検定日本語	2	1		

別表第7 国際文化学科コース科目（考古・歴史コース）

科目区分	ナンバリングコード	授業科目	単位	年次 配当	コース修了 所要単位数	
コア科目	B_INT102025	考古学概論	2	1	4 単位以上	20 単 位 以 上
	B_INT102100	日本史概論	2	1		
	B_INT202100	日本史特論	2	1		
	B_INT203890	文化人類学	2	1		
関連科目	B_INT102100	日本近代史特講	2	1		
	B_INT202025	認知考古学	2	1		
	B_INT202025	考古学研究法	2	1		
	B_INT202025	比較考古学	2	2		
	B_INT202025	地域と考古学	2	1		
	B_INT102210	韓国・朝鮮史	2	1		
	B_INT202197	鹿児島県の歴史	2	1		
	B_INT203615	鹿児島の文化	2	1		
	B_INT200690	博物館概論	2	2		
	B_INT200690	博物館経営論	2	2		
	B_INT200690	博物館資料論	2	2		
	B_INT200690	博物館資料保存論	2	2		
	B_INT200695	博物館展示論	2	2		
	B_INT200690	博物館教育論	2	2		
	B_INT200690	博物館情報・メディア論	2	2		

[教職課程]

(1) 国際文化学科で取得できる免許状の種類及び免許教科

教職課程履修規程第2条参照

(2) 免許状を得るための基礎資格及び修得単位数

教職課程履修規程第3条参照

(3) 教職課程履修資格

教職課程履修細則第6条参照

(4) 教職課程履修の手続

- ① 教職課程の履修を希望する場合は、1年次または2年次に実施される「教職課程履修希望者説明会」に出席し、配付される「履修希望願」を提出しなければなりません。

なお、「教職課程履修希望者説明会」は12月頃に実施する予定です。「資格・実習」の掲示板を必ず確認してください。

- ② 提出した者の中から(3)の資格要件による履修資格者をオリエンテーション時に「資格・実習」の掲示板で発表します。

- ③ 履修資格者は、所定の期日までに履修費（教職課程履修細則第12条参照）を納入してください。（2年次または3年次の申し込みになります。）

- ④ 履修費及び実習費等は、どのような理由があっても返金しません。

(5) 教育実習履修資格

教職課程履修細則第7条参照

教育実習の履修資格者は、オリエンテーション時に「資格・実習」の掲示板で発表しますので、確認のうえ履修登録してください。

4年次の4月末に教育実習費（教職課程履修細則第12条参照）の納入方法などについての説明会を実施しますので、必ず出席してください。

(6) 単位修得の方法

単位修得の方法については、「教職課程履修規程」及び「教職課程履修細則」をよく読んで理解してください。

なお、「教育の基礎的理解に関する科目等」の中には、卒業指定科目として登録可能なものがあります。（教職課程履修規程別表第4を参照）

(7) 履修カルテ

【目 的】

教職課程を履修して教育職員免許を取得しようとする学生は、必ず「履修カルテ」を作成しなければなりません。「履修カルテ」は、学生一人一人の学習状況をきめ細かく把握するためのものです。

また、成績公開後、定期的に学生情報システム（LCU）から「履修カルテ」のデータを提出することになりますので大切に管理（入力・更新）してください。

【作 成】

教職課程履修時から教育職員免許取得まで継続して作成します。

※決められた提出時期に「履修カルテ」の提出がない場合、「教育実習」及び「教職実践演習」の履修が認められないことがあります。また、免許状も授与できなくなることがありますので十分注意してください。

【内 容】

【履修カルテ A】①「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修状況

②「大学が独自に設定する科目」の履修状況

③「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修状況

【履修カルテ B】① 必要な資質能力についての自己評価

② 教職に関する体験・実習等の状況

③ 教職を目指す上でさらに身に付けなければならないと考えている事項

【作成の手順】

①学生情報システム（LCU）へアクセスし、メニューの「学修ポートフォリオ」から「履修カルテ」をクリックします。以下の項目について入力してください。

・「履修状況」

修得した科目について入力してください。

・「履修カルテ自己評価」

資質能力に関する自己評価を入力してください。

・「教職に関する体験・実習等の状況」

介護等体験、教育実習、学校関係のボランティア活動について入力してください。

・「教職を目指す事項」

教職を目指す上でさらに身に付けなければならないと考えている事項を入力してください。

②上記の項目について入力後、登録ボタン（更新）をクリックします。

③各学期の成績公開後、提出時期までに該当する項目に随時入力（更新）し、漏れがないか確認してください。

④提出時期に「履修カルテの提出」ボタンをクリックし提出する。（「履修カルテ」は Excel 出力し保存することが可能です。）

【履修カルテ作成・提出スケジュール】

2 年次 開始時	（更新）	「履修カルテ」を計画的に作成するため、入力項目等を理解する。
3 年次 後期開始前	提出①	2 年次までの記録について確認し、9 月中にデータ提出。
4 年次 前期開始前	提出②	3 年次までの記録について確認し、4 月中にデータ提出。
4 年次 後期開始前	提出③	4 年次前期までの記録について確認し、9 月中にデータ提出。
最終提出（4 年次12月頃）	提出④	全ての項目において入力漏れがないかを確認し、12月中にデータ提出。

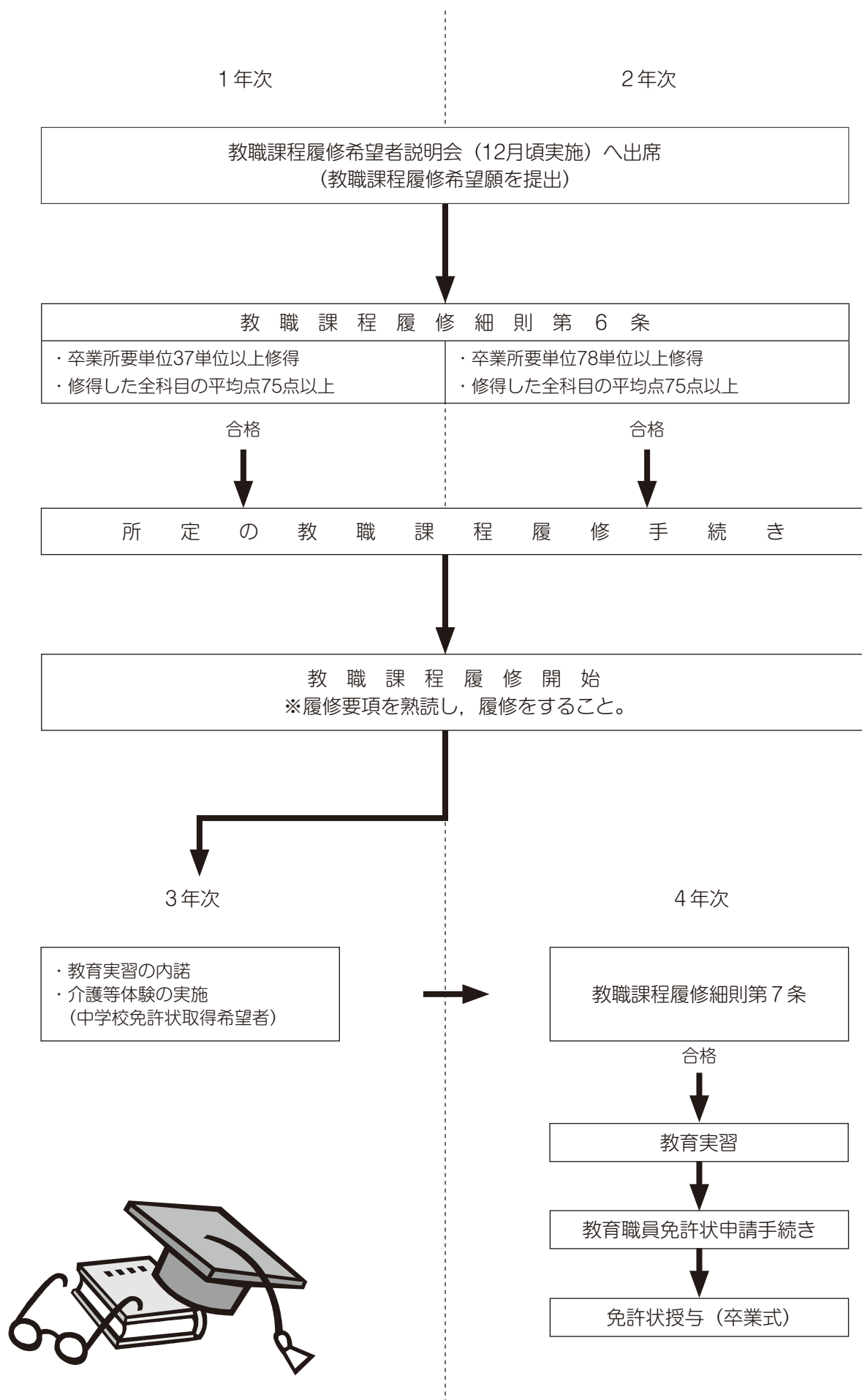
(8) 教職課程スケジュール表

教職課程のスケジュールは次の表のとおりです。ただし、この表は、あくまで予定ですので日程は掲示板にて確認してください。

教 職 課 程 ス ケ ジ ュ ー ル 表

学 年 月	1 年	2 年	3 年	4 年
3月		教 職 課 程 履 修 資 格 者 発 表 (オリエンテーション時) 履 修 カ ル テ 説 明 会 (オリエンテーション時)		教育実習履修資格者発表 (オリエンテーション時)
			介護等体験説明会 (第1回) (オリエンテーション時)	
4月		教 職 課 程 履 修 説 明 会	教 職 課 程 履 修 説 明 会 介護等体験説明会 (第2回)	教 職 課 程 履 修 説 明 会 教 育 実 習 説 明 会 教育実習費納入 (¥12,000-) (但し, 中学校実習は¥18,000-)
5月				取 得 希 望 免 許 教 科 届 提 出
6月			教 育 実 習 内 諾 説 明 会 介 護 等 体 験 説 明 会 (第3・4・5回) ~ 7 月	教 育 実 習 中 学 校 (3 週 間) 高 等 学 校 (2 週 間)
7月			教育実習予定校訪問 (内諾依頼)	
8月			教 育 実 習 報 告 会	教 育 実 習 報 告 会
9月				
10月			教 育 実 習 内 諾 書 提 出	
11月				教育職員免許状申請手続説明会(第1回)
12月	教 職 課 程 履 修 希望者説明会 (教職課程履修希望願提出)			
1月				教育職員免許状申請手続説明会(第2回)
2月				
3月				免 許 状 授 与 (卒 業 式 当 日)

教職課程の履修について



(9) 教職課程履修規程

第1条 教育職員の免許状を得ようとする者は、教育職員免許法、同法施行規則及び鹿児島国際大学学則の定めるところに従い、所定の単位を修得しなければならない。

第2条 本学教職課程の履修によって取得できる免許状は次のとおりである。(国際文化学科の場合)

学 部	学 科	免 許 状 の 種 類	
		免 許 状	免許教科
国 際 文 化 学 部	国 際 文 化 学 科	中 学 校教諭一種免許状	国 語
		中 学 校教諭一種免許状	英 語
		高等学校教諭一種免許状	国 語
		高等学校教諭一種免許状	英 語

第3条 前条の免許状を得ようとする者は、次表に示した基礎資格及び本学における最低修得単位数をみたさなければならない。(国際文化学科の場合)

学部	学科	免許状の種類	免許教科	基礎資格	本学における最低修得単位数				
					教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	大学が独自に設定する科目	特別支援教育に関する科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
国際文化学部	国際文化学科	中学校教諭一種免許状	国語	学士の学位を有すること。	30	29	第3条第3項 参照 〔中学校4単位〕 〔高等学校12単位〕	—	9
		中学校教諭一種免許状	英語		30	29			
		高等学校教諭一種免許状	国語		34	25			
		高等学校教諭一種免許状	英語		34	25			

2 前項に規定する「領域及び保育内容の指導法に関する科目」、「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」、「大学が独自に設定する科目」、「特別支援教育に関する科目」及び教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目については、別表第1から別表第5に掲げるとおりとする。

3 経済学部と福祉社会学部（社会福祉学科）、国際文化学部の「大学が独自に設定する科目」の最低修得単位数（中学校4単位、高等学校12単位）は、「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は教育職員免許法で定めた最低修得単位数（中学校28単位、高等学校24単位）を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」の選択科目も併せて修得することができる。

第4条 小学校教諭一種免許状又は中学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、介護等体験特例法に基づき、介護等体験を行わなければならない。

第5条 教職課程の履修についての細則は別に定める。

第6条 この規程の改廃は、教職課程・教育実習委員会、教授会及び大学評議会の審議を経て、学長の承認を得なければならない。

国際文化学部（国際文化学科）

免許法施行規則に定める 科目及び単位数		ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目				
科 目 名	単位数		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数
日 本 国 憲 法	2	B_TEA103231	日本国憲法	2	1	共通教育科目	2
体 育	2	B_TEA107801	日常生活に生かすスポーツ科学	2	1	//	2
		B_TEA107801	現代社会とスポーツ	2	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅰ(屋内集団球技)	1	1	//	1
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅱ(屋内個人球技)	1	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅲ(個人種目)	1	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅳ(屋外個人球技)	1	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅴ(屋外集団球技)	1	1	//	
外国語コミュニケーション	2	B_TEA128311	英語オーラルコミュニケーションⅠ	1	1	//	2
		B_TEA128311	英語オーラルコミュニケーションⅡ	1	1	//	
		B_TEA138300	英語海外研修	2	1	//	
		B_TEA318278	観光中国語会話	2	3	専門教育科目	
		B_TEA138200	中国語海外研修	2	1	共通教育科目	
		B_TEA318291	観光韓国語会話	2	3	専門教育科目	
		B_TEA138291	韓国語海外研修	2	1	共通教育科目	
数理、データ活用及び 人工知能に関する科目 又は情報機器の操作	2	B_TEA100076	情報処理	2	1	//	2
合 計							9

国際文化学部（国際文化学科） 中学校教諭一種免許（国語）

免許法施行規則に定める 科目の区分			ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目						
科目区分		各科目に含めることが必要な事項		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	B_TEA208101	日本語学概論Ⅰ	2	1	専門教育科目	4	全 体 か ら 更 に 4 単 位	
			B_TEA208101	日本語学概論Ⅱ	2	1	〃			
			B_TEA208101	日本語学特論Ⅰ	2	2	〃	8		
			B_TEA208101	日本語学特論Ⅱ	2	2	〃			
			B_TEA208101	日本語と日本文化	2	1	〃			
			B_TEA208102	日本語史	2	2	〃			
		国文学（国文学史を含む。）	B_TEA109100	日本近代文学Ⅰ	2	1	〃	8		
			B_TEA209100	日本近代文学Ⅱ	2	1	〃			
			B_TEA109100	日本古典文学Ⅰ	2	1	〃			
			B_TEA209100	日本古典文学Ⅱ	2	1	〃			
			B_TEA209100	日本文学概論	2	1	〃	4		
			B_TEA209100	日本文学講読	2	1	〃			
			B_TEA209090	児童文学	2	1	〃			
		漢文学	B_TEA209190	漢文学	2	2	〃	2		
			B_TEA209200	中国文学	2	2	〃			
		書道（書写を中心とする。）	B_TEA207280	書道Ⅰ	2	2	〃	4		
			B_TEA207280	書道Ⅱ	2	2	〃			
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	B_TEA303750	国語科教育法Ⅰ	2	3	教職課程に関する科目	8			
		B_TEA303750	国語科教育法Ⅱ	2	3	〃				
		B_TEA303750	国語科教育法Ⅲ	2	3	〃				
		B_TEA303750	国語科教育法Ⅳ	2	3	〃				
合 計								30		

国際文化学部（国際文化学科） 高等学校教諭一種免許（国語）

免許法施行規則に定める 科目の区分			ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目						
科目区分		各科目に含めることが必要な事項		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	B_TEA208101	日本語学概論Ⅰ	2	1	専門教育科目	4	全 体 か ら 更 に 16 単 位	
			B_TEA208101	日本語学概論Ⅱ	2	1	〃			
			B_TEA208101	日本語学特論Ⅰ	2	2	〃			
			B_TEA208101	日本語学特論Ⅱ	2	2	〃			
			B_TEA208101	日本語と日本文化	2	1	〃			
			B_TEA208102	日本語史	2	2	〃			
		国文学（国文学史を含む。）	B_TEA109100	日本近代文学Ⅰ	2	1	〃	8		
			B_TEA209100	日本近代文学Ⅱ	2	1	〃			
			B_TEA109100	日本古典文学Ⅰ	2	1	〃			
			B_TEA209100	日本古典文学Ⅱ	2	1	〃			
			B_TEA209100	日本文学概論	2	1	〃			
			B_TEA209100	日本文学講読	2	1	〃			
			B_TEA209090	児童文学	2	1	〃			
	漢文学	B_TEA209190	漢文学	2	2	〃	2			
		B_TEA209200	中国文学	2	2	〃				
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	B_TEA303750	国語科教育法Ⅰ	2	3	教職課程に関する科目	4			
		B_TEA303750	国語科教育法Ⅱ	2	3	〃				
		B_TEA303750	国語科教育法Ⅲ	2	3	〃				
		B_TEA303750	国語科教育法Ⅳ	2	3	〃				
合 計								34		

国際文化学部（国際文化学科） 中学校教諭一種免許（英語）

免許法施行規則に定める 科目の区分		ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目						
科目区分	各科目に含め ることが必要 な事項		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学	B_TEA208301	英語学概論	2	1	専門教育科目	2	全 体 か ら 更 に 12 単 位
			B_TEA203750	英語教授法	2	1	//		
		英語文学	B_TEA209300	イギリス文学	2	1	//	4	
			B_TEA209300	アメリカ文学	2	1	//		
			B_TEA209300	英米文学講読Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA209300	英米文学講読Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA218378	英会話Ⅰ	2	1	//		
		B_TEA218378	英会話Ⅱ	2	1	//			
		B_TEA118378	実用英語Ⅰ	2	1	//			
		B_TEA118378	実用英語Ⅱ	2	1	//			
		B_TEA218310	英語中級オーラル・スキルズⅠ	2	1	//			
		B_TEA218310	英語中級オーラル・スキルズⅡ	2	1	//			
		B_TEA218377	英語中級リーディング・スキルズ	2	1	//			
		B_TEA218360	英語中級ライティング・スキルズ	2	1	//			
		B_TEA318377	英語上級リーディング・スキルズ	2	2	//			
		B_TEA318377	英語プレゼンテーション・スキルズ	2	2	//			
		B_TEA218378	ビジネス英語	2	2	//			
		B_TEA318375	英和翻訳ワークショップ	2	2	//			
		B_TEA318374	和英翻訳ワークショップ	2	2	//			
		B_TEA318378	英語通訳ワークショップ	2	2	//			
		異文化理解	B_TEA203614	異文化コミュニケーション論	2	1	//	2	
			B_TEA203615	比較文化論	2	1	//		
			B_TEA203615	地域文化研究	2	1	//		
			B_TEA203615	外国事情Ⅰ	2	1	//		
			B_TEA203615	外国事情Ⅱ	2	1	//		
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	B_TEA303750	英語科教育法Ⅰ	2	3	教職課程に関する科目	8		
		B_TEA303750	英語科教育法Ⅱ	2	3	//			
		B_TEA303750	英語科教育法Ⅲ	2	3	//			
		B_TEA303750	英語科教育法Ⅳ	2	3	//			
合 計								30	

国際文化学部（国際文化学科） 高等学校教諭一種免許（英語）

免許法施行規則に定める 科目の区分			ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目					
科目区分	各科目に含め ることが必要 な事項	授 業 科 目		単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学	B_TEA208301	英語学概論	2	1	専門教育科目	2	全 体 か ら 更 に 20 単 位
			B_TEA203750	英語教授法	2	1	//		
		英語文学	B_TEA209300	イギリス文学	2	1	//	4	
			B_TEA209300	アメリカ文学	2	1	//		
			B_TEA209300	英米文学講読Ⅰ	2	2	//		
			B_TEA209300	英米文学講読Ⅱ	2	2	//		
			B_TEA218378	英会話Ⅰ	2	1	//		
		B_TEA218378	英会話Ⅱ	2	1	//			
		B_TEA118378	実用英語Ⅰ	2	1	//			
		B_TEA118378	実用英語Ⅱ	2	1	//			
		B_TEA218310	英語中級オーラル・スキルズⅠ	2	1	//			
		B_TEA218310	英語中級オーラル・スキルズⅡ	2	1	//			
		B_TEA218377	英語中級リーディング・スキルズ	2	1	//			
		B_TEA218360	英語中級ライティング・スキルズ	2	1	//			
		B_TEA318377	英語上級リーディング・スキルズ	2	2	//			
		B_TEA318377	英語プレゼンテーション・スキルズ	2	2	//			
		B_TEA218378	ビジネス英語	2	2	//			
		B_TEA318375	英和翻訳ワークショップ	2	2	//			
		B_TEA318374	和英翻訳ワークショップ	2	2	//			
		B_TEA318378	英語通訳ワークショップ	2	2	//			
		異文化理解	B_TEA203614	異文化コミュニケーション論	2	1	//	2	
			B_TEA203615	比較文化論	2	1	//		
			B_TEA203615	地域文化研究	2	1	//		
			B_TEA203615	外国事情Ⅰ	2	1	//		
			B_TEA203615	外国事情Ⅱ	2	1	//		
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	B_TEA303750	英語科教育法Ⅰ	2	3	教職課程に関する科目	4		
		B_TEA303750	英語科教育法Ⅱ	2	3	//			
		B_TEA303750	英語科教育法Ⅲ	2	3	//			
		B_TEA303750	英語科教育法Ⅳ	2	3	//			
合 計								34	

別表第3 大学が独自に設定する科目

国際文化学部（国際文化学科） 中学校教諭一種免許・高等学校教諭一種免許

免許法施行規則に定める科目の区分	ナンバリングコード	左記に対応する開設科目				
科目区分		授業科目	単位	年次配当	所 属	最低修得単位数
大学が独自に設定する科目	B_TEA200170	学習指導と学校図書館	2	2	司書教諭課程	教職課程履修規程第3条第3項参照
	B_TEA200170	読書と豊かな人間性	2	2	//	
	B_TEA333761	離島教育の理解と体験的活動	2	3	教職課程に関する科目	
	B_TEA103617	地域創生Ⅰ	2	1	共通教育科目 経営学科専門教育科目	
	B_TEA103617	地域創生Ⅱ	2	1	//	
	B_TEA103336	地域から世界へ	2	1	共通教育科目	

別表第4 教育の基礎的理解に関する科目等

中学校教諭一種免許・高等学校教諭一種免許

免許法施行規則に定める科目区分等				ナンバリング コード	左記に対応する開設科目		最低修得単位数					
区 分	科 目	各科目に含めることが必要な事項	最低修得 単位数		授業科目	年次 配当	必修	選択	必修	選択	計	備 考
第三欄	教育の基礎 的理解に関 する科目	・教育の理念並びに教育に関する 歴史及び思想	10	B_TEA203750	教育原理	2	2		2		2	
		・教職の意義及び教員の役割・職 務内容（チーム学校運営への対 応を含む。）		B_TEA203750	教職概論	2	2		2		2	
		・教育に関する社会的、制度的又 は経営的事項（学校と地域との 連携及び学校安全への対応を含 む。）		B_TEA203750	学校の制度	2	2		2		2	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発 達及び学習の過程		B_TEA203714	教育心理学	2	2		2		2	
		・特別の支援を必要とする幼児、 児童及び生徒に対する理解		B_TEA303780	特別支援教育論	3	2		2		2	
		・教育課程の意義及び編成の方法 （カリキュラム・マネジメントを 含む。）		B_TEA303750	教育課程論	3	2		2		2	
第四欄	道徳、総合 的な学習の 時間等の指 導法及び生 徒指導、教 育相談等に 関する科目	・道徳の理論及び指導法	中10 高8	B_TEA203750	道徳教育の指導法	3	2				特別活動の指導 法を含む。	
		・総合的な学習（探究）の時間の 指導法		B_TEA303750	特別活動・総合的な学習の時 間	3	2		2			
		・特別活動の指導法										
		・教育の方法及び技術		B_TEA303750	教育の方法及び技術（情報通 信技術の活用を含む）	3	2		2		情報通信技術 を活用した教育 の理論及び方法 を含む。	
		・情報通信技術を活用した教育の 理論及び方法								進路指導及び キャリア教育の 理論及び方法を 含む。		
		・生徒指導の理論及び方法		B_TEA303752	生徒・進路指導論	3	2		2			
		・教育相談（カウンセリングに関 する基礎的な知識を含む。）の 理論及び方法		B_TEA303752	学校教育相談	3	2		2			
		・進路指導及びキャリア教育の理 論及び方法										
		第五欄		教育実践に 関する科目	教育実習	中5 高3	B_TEA333750	教育実習Ⅰ	4	5		
	B_TEA333750		教育実習Ⅱ		4			3				
教職実践演習	2		B_TEA313750		教職実践演習（中・高）	4	2		2	2		
			中27 高23		合 計		中 29	高 25	中29 高25			

注）「中学校教諭」又は「中学校教諭及び高校教諭」の免許を取得する場合は、「教育実習Ⅰ」の単位を修得しなければなりません。「高校教諭」の免許のみ取得の場合は、「教育実習Ⅱ」の単位を修得してください。

以下の科目については、卒業指定科目として登録できます。なお、卒業所要単位として登録を希望する場合は、指定する期日までに「卒業指定科目等登録願」を必ず提出してください。また、「卒業指定科目等登録願」は提出した年度のみ有効です。

教 育 原 理	教 職 概 論	学 校 の 制 度
教 育 心 理 学	教 育 課 程 論	教育の方法及び技術（情報通信技術の活用を含む）

(10) 教職課程履修細則

第1条 教職課程履修規程第5条により、教職課程の履修に関する細則を次のとおり定める。

第2条 教職課程を履修できる者は、教育職員免許法及び本学学則の定めるところにより、本学学生及び科目等履修生とする。

第3条 本学教職課程の履修によって取得できる教育職員免許状は、次のとおりである。（国際文化学科の場合）

学 部	学 科	免 許 状 の 種 類	
		免 許 状	免許教科
国 際 文 化 学 部	国 際 文 化 学 科	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	国 語
		中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	英 語
		高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	国 語
		高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	英 語

第4条 教育職員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法、同法施行規則及び学則に従い、所定の単位を修得しなければならない。

2 中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状に係る教職課程に関する科目において開設される「教育原理」「教職概論」「学校の制度」「教育心理学」「教育課程論」及び「教育の方法及び技術（情報通信技術の活用を含む）」の修得単位は、所定の手続きを経て卒業に必要な単位に算入することができる。

第5条 削 除

第6条 教職課程は、第2年次から履修できるが、第4年次からの履修は認めない。

ただし、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状の教職課程を履修できる者は、次の要件をみたした者でなければならない。

- (1) 第2年次から履修する者は、1年次終了までに卒業所要単位を37単位以上修得し、修得した全科目の平均点が75点以上の者。
- (2) 第3年次から履修する者は、2年次終了までに卒業所要単位を78単位以上修得し、修得した全科目の平均点が75点以上の者。
- (3) 編入学生の場合は編入学前に修得した卒業所要単位全科目の平均点が75点以上の者。

第7条 「教育実習（幼・小）」（幼稚園・小学校の免許状を取得する者。）を履修できる者は、原則として次の別表1に掲げる教職課程に関する科目の単位を修得した者でなければならない。「教育実習Ⅰ」（中学校の免許状を取得する者。高等学校の免許状を併せて取得する者を含む。）又は「教育実習Ⅱ」（高等学校の免許状を取得する者。）を履修できる者は、次の別表2に掲げる教職課程に関する科目の単位を修得し、実習を実施する教科において、本学で定める教科に関する専門的事項の最低修得単位数の半数以上の単位数を修得した者でなければならない。

（別表1）（略）

（別表2）（国際文化学科の場合）

教 職 課 程 に 関 す る 科 目			
中学国語	中学英語	高校国語	高校英語
教育原理	教育原理	教育原理	教育原理
教職概論	教職概論	教職概論	教職概論
教育心理学	教育心理学	教育心理学	教育心理学
国語科教育法Ⅰ	英語科教育法Ⅰ	国語科教育法Ⅰ	英語科教育法Ⅰ
国語科教育法Ⅱ	英語科教育法Ⅱ	国語科教育法Ⅱ	英語科教育法Ⅱ

- 2 (略)
- 3 1, 2 項の条件をみたした者であっても当該年度に卒業の見込みがない者は「教育実習 (幼・小)」, 「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」及び「特別支援教育実習」の履修を認めない。
- 4 1, 2, 3 項の条件をみたした者であっても「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」, 「特別支援教育実習」履修資格認定時までの教職課程履修期間中に, 学則第41条の規定に基づき懲戒処分を受けた者については, 「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」, 「特別支援教育実習」の履修を認めないことがある。
- 5 (略)

第8条 第6条及び前条の要件をみたさない者でも教職課程履修者として適当と思われる者については選考のうえ, 履修を認めることがある。

- 2 交換留学生及び認定留学生については留学制度の主旨を尊重し, 留学終了後の履修認定について特別に配慮することがある。

第9条 第7条及び第8条に基づき, 一旦「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」, 「特別支援教育実習」の履修を認められた者であっても, 以下に示す事由により, 実習校での実習を中止し且つ当該科目の履修を取り消すことがある。

- (1) 当該科目の実習事前指導の講義に, 特別な理由なく, 欠席・遅刻する者。
- (2) 教育実習にかかわる説明会に, 特別な理由なく, 欠席・遅刻する者。
- (3) 教育実習に耐えうる健康状態にないと判断される者。
- (4) 実習校での実習中に, 実習生として著しく相応しくない言動があった者。
- (5) 第7条及び第8条に基づく当該科目履修資格認定後, 学則第41条の規定に基づき, 懲戒処分を受けた者。
- (6) その他, 教育実習の実施に特別な支障がある場合。

第10条 国際文化学部 (国際文化学科) において, 中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得しようとする者は, 免許種ごとに, 原則として次の別表1に記載したコースを修了しなければならない。コース科目については次の別表2に掲げる。

(別表1)

免許状の種類	免許教科	コース
中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国 語	日本語・日本文化コース
中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英 語	英語・欧米文化コース

(別表2)

「日本語・日本文化コース」科目

科目区分	ナンバリングコード	授業科目	単位	年次配当	コース修了要件単位数	
コア科目	B_INT209100	日本文学概論	2	1	4単位以上	合計20単位以上
	B_INT208101	日本語学概論Ⅰ	2	1		
	B_INT102100	日本史概論	2	1		
関連科目	B_INT209100	日本文学講読	2	1		
	B_INT109100	日本古典文学Ⅰ	2	1		
	B_INT209100	日本古典文学Ⅱ	2	1		
	B_INT109100	日本近代文学Ⅰ	2	1		
	B_INT209100	日本近代文学Ⅱ	2	1		
	B_INT209090	児童文学	2	1		
	B_INT209100	鹿児島の文学	2	1		
	B_INT208101	日本語学概論Ⅱ	2	1		
	B_INT208101	日本語学特論Ⅰ	2	2		
	B_INT208101	日本語学特論Ⅱ	2	2		
	B_INT208101	日本語学特論Ⅲ	2	2		
	B_INT208102	日本語史	2	2		
	B_INT208101	日本語と日本文化	2	1		
	B_INT108107	日本語教育入門	2	1		
	B_INT207280	書道Ⅰ	2	2		
	B_INT207280	書道Ⅱ	2	2		
	B_INT200073	現代メディア表象論	2	2		
	B_INT233615	日本文化実習	1	1		
	B_INT218100	検定日本語	2	1		

「英語・欧米文化コース」科目

科目区分	ナンバリングコード	授業科目	単位	年次配当	コース修了要件単位数	
コア科目	B_INT218378	ビジネス英語	2	2	4単位以上	合計20単位以上
	B_INT203615	ヨーロッパ文化論	2	1		
	B_INT233615	地域文化研究	2	1		
	B_INT203615	外国事情Ⅰ	2	1		
	B_INT203615	外国事情Ⅱ	2	1		
関連科目	B_INT208301	英語学概論	2	1		
	B_INT203750	英語教授法	2	1		
	B_INT209300	イギリス文学	2	1		
	B_INT209300	アメリカ文学	2	1		
	B_INT209000	ヨーロッパ文学	2	1		
	B_INT209300	英米文学講読Ⅰ	2	2		
	B_INT209300	英米文学講読Ⅱ	2	2		
	B_INT218310	英語中級オーラル・スキルズⅠ	2	1		
	B_INT218310	英語中級オーラル・スキルズⅡ	2	1		
	B_INT218360	英語中級ライティング・スキルズ	2	1		
	B_INT118378	実用英語Ⅰ	2	1		
	B_INT118378	実用英語Ⅱ	2	1		
	B_INT318377	英語プレゼンテーション・スキルズ	2	2		
	B_INT318375	英和翻訳ワークショップ	2	2		
	B_INT318374	和英翻訳ワークショップ	2	2		
	B_INT318378	英語通訳ワークショップ	2	2		
	B_INT233615	欧米文化研修	1	1		
	B_INT208010	ヨーロッパ言語論	2	2		
	B_INT218300	検定英語	2	1		

第11条 「教職実践演習」は、履修予定年度の前期成績発表時まで「教育実習（幼・小）」（児童学科）、「教育実習Ⅰ」（児童学科以外の学生）、「教育実習Ⅱ」（児童学科以外の学生）の単位を修得した者、又は履修予定年度後期に同時に「教育実習（幼・小）」、「教育実習Ⅰ」、「教育実習Ⅱ」の単位を修得する予定の者のみが履修できる。ただし、履修年度後期に「教育実習（幼・小）」、「教育実習Ⅰ」、「教育実習Ⅱ」の単位修得予定者がその単位を修得できなかった場合、同時期に履修する「教職実践演習」は履修取り消し、又は評価「無効」とする。

第12条 教職課程履修希望者は、履修費を納入しなければならない。

また、「教育実習（幼・小）」、「教育実習Ⅰ」、「教育実習Ⅱ」及び「特別支援教育実習」を履修する者、介護等体験を行う者は、所定の期日までに次の表に掲げる実習費を納入しなければならない。

（別表）納入金（国際文化学科以外は略）

区 分	金 額
教 職 課 程 履 修 費	10,000円
教育実習費（教育実習Ⅰ）	18,000円
教育実習費（教育実習Ⅱ）	12,000円
介 護 等 体 験 費	実 費

第13条 履修費・実習費等は、どのような理由があっても返金しない。

[学芸員資格課程]

学芸員とは、博物館資料の収集、保管、展示および調査研究その他これと関連する事業についての、博物館法に基づく専門職員です。

(1) 単位の修得方法

この学芸員となる資格を取得するには、次の単位を修得しなければなりません。

省令に定める科目		ナンバリングコード	本学における授業科目	単位	年次配当	所 属	最低修得単位数
必修科目	生涯学習概論	B_CUR203790	生涯学習概論	2	2	社会福祉学科 国際文化学科	必修
	博物館概論	B_CUR200690	博物館概論	2	2	国際文化学科	
	博物館経営論	B_CUR200690	博物館経営論	2	2	//	
	博物館資料論	B_CUR200690	博物館資料論	2	2	//	
	博物館資料保存論	B_CUR200690	博物館資料保存論	2	2	//	
	博物館展示論	B_CUR200695	博物館展示論	2	2	//	
	博物館教育論	B_CUR200690	博物館教育論	2	2	//	
	博物館情報・メディア論	B_CUR200690	博物館情報・メディア論	2	2	//	
	博物館実習	B_CUR330690	博物館実習 1	2	3	学芸員資格課程	
		B_CUR430690	博物館実習 2	1	4	//	
選択科目	文化史	B_CUR102090	先史・原史文化論	2	1	国際文化学科	2分野以上にわたって 4単位以上修得
		B_CUR102101	日本文化史	2	1	//	
	考古学	B_CUR202025	比較考古学	2	1	//	
		B_CUR102025	考古学概論	2	1	//	
		B_CUR202025	考古学研究法	2	1	//	
		B_CUR202025	認知考古学	2	1	//	
	生物学	B_CUR104600	生命科学	2	1	学部共通教育科目	
合 計							23単位

(2) 履修登録の手続き

学芸員資格課程を履修する場合には、履修費を指定する期間に納入してください。なお、履修費及び実習費等は、どのような理由があっても返金しません。

納 入 金	
区 分	金 額
学芸員資格課程履修費	10,000円

(3) 実習費

博物館実習2を履修し、学外の博物館等での館務実習を希望する場合は、実習先より実習費として定められた金額を納入しなければならないことがあります。

納 入 金	
区 分	金 額
学芸員資格課程実習費	実費(実習館・園の指示による)

【日本語教員養成課程】

(1) 単位の修得方法

法務省が日本語教育機関における日本語教員の要件を定めた「日本語教育機関の告示基準」（平成28年7月22日）に基づき、本学では、次表の科目を履修し26単位以上を修得した者に、「日本語教員養成課程修了書」を授与します。

区分	ナンバリングコード	本学授業科目	単位	年次 配当	所属	最低修得 単位数
言語と教育	B_JLT108107	日本語教育入門	2	1	国 際 文 化 学 科	2単位
	B_JLT118107	日本語演習	2	2	日本語教員養成課程	2単位
	B_JLT338107	日本語教育実習	2	3	//	2単位
	B_JLT308107	日本語教授法Ⅰ	2	3	//	2単位
	B_JLT308107	日本語教授法Ⅱ	2	3	//	2単位
	B_JLT308107	日本語教育教材・教具論	2	3	//	2単位
言語	B_JLT208010	言語学入門	2	1	国 際 文 化 学 科	8単位
	B_JLT208010	日中比較言語学	2	1	//	
	B_JLT208301	英語学概論	2	1	//	
	B_JLT208101	日本語学概論Ⅰ	2	1	//	
	B_JLT208101	日本語学特論Ⅰ	2	2	//	
社会・文化・地域	B_JLT102101	日本文化史	2	1	//	2単位
	B_JLT102100	日本事情	2	2	日本語教員養成課程	
言語と社会	B_JLT208102	日本語史	2	2	国 際 文 化 学 科	2単位
	B_JLT208101	日本語と日本文化	2	1	//	2単位
	B_JLT203614	異文化コミュニケーション論	2	1	//	
	B_JLT200073	現代メディア表象論	2	2	//	
言語と心理	B_JLT101401	心理学	2	1	学部共通教育科目	2単位
	B_JLT201430	発達心理学	2	2	社 会 福 祉 学 科	
合 計						26単位

以下の科目については、卒業指定単位として登録できます。

なお、卒業単位として登録を希望する場合は、指定する期日までに「卒業指定科目等登録願」を必ず提出してください。また、「卒業指定科目等登録願」は提出した年度のみ有効です。

日 本 事 情	日 本 語 演 習
---------	-----------

(2) 履修登録の手続き

日本語教員養成課程を履修する場合には、履修費を指定する期間に納入してください。なお、履修費等は、どのような理由があっても返金しません。

納 入 金	
区 分	金 額
日本語教員養成課程履修費	1 0 , 0 0 0 円

[地域人材育成プログラム（国際文化学科）]

地域人材育成プログラムは、地域に貢献できる人材を育成するために実施している教育プログラムです。詳細は P42を参照してください。

	科目名	ナンバリング コード	授業科目	単位 数	年次 配当	所属	プログラム修 了所要単位数	
(1)	地域志向科目	B_GEN103617	地域創生Ⅰ	2	1	共通教育科目	2	合計16単位 (③参照)
		B_GEN103617	地域創生Ⅱ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN103336	地域から世界へ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN110000	かごしま教養プログラム	2	1	共通教育科目		
		B_GEN110000	かごしまフィールドスクール	2	1	共通教育科目		
		B_GEN102100	Japanology	2	1	共通教育科目		
		B_GEN100000	教養特講Ⅰ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN100000	教養特講Ⅱ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN100000	教養特講Ⅲ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN100000	教養特講Ⅳ	2	1	共通教育科目		
(2)	キャリアデザイン科目	B_GEN116070	コミュニケーション力育成	2	1	共通教育科目	2	
		B_GEN206070	論理的思考と数的処理	2	2	共通教育科目		
		B_GEN216070	キャリア形成のための文章力育成	2	3	共通教育科目		
(3)	地域人材育成科目	B_INT202197	鹿児島島の歴史	2	1	専門教育科目	8	
		B_INT202025	地域と考古学	2	1	専門教育科目		
		B_INT203615	鹿児島島の文化	2	1	専門教育科目		
		B_INT209100	鹿児島島の文学	2	1	専門教育科目		
		B_INT208101	日本語と日本文化	2	1	専門教育科目		
		B_INT102101	日本文化史	2	1	専門教育科目		
		B_INT202100	日本史特論	2	1	専門教育科目		
		B_INT218278	ビジネス中国語会話	2	2	専門教育科目		
		B_INT218291	ビジネス韓国語会話	2	2	専門教育科目		
		B_INT318278	観光中国語会話	2	3	専門教育科目		
		B_INT318291	観光韓国語会話	2	3	専門教育科目		
		B_INT236070	国内インターンシップ	2	2	専門教育科目		
		B_INT236070	海外インターンシップ	3	2	専門教育科目		
(4)	地域フィールド演習 (①参照)	B_INT210027	基礎演習Ⅰ	2	2	専門教育科目	4	
		B_INT210027	基礎演習Ⅱ	2	2	専門教育科目		
		B_INT310027	演習Ⅰ (②参照)	2	3	専門教育科目		
		B_INT310027	演習Ⅱ	2	3	専門教育科目		

(履修上の注意事項)

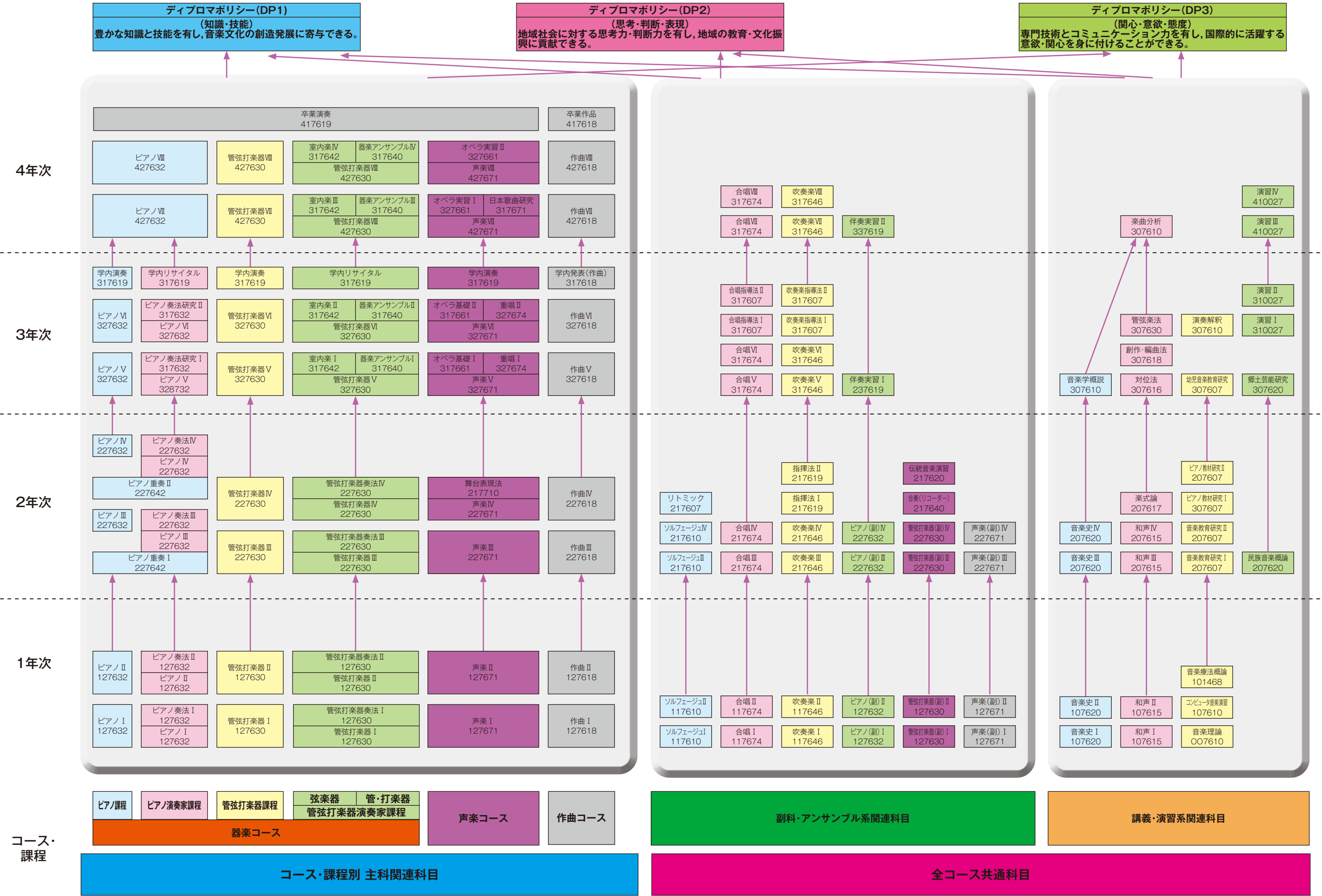
- ①地域を研究のフィールドとした基礎演習（Ⅰ・Ⅱ）、演習（Ⅰ・Ⅱ）を「地域フィールド演習」として認定します。
 - ②3年次前期終了までに(1)～(3)（10単位）と地域フィールド演習としての演習Ⅰ（2単位）を修得した学生に対し、「地域人材育成プログラム修了見込証明書」を発行します。
 - ③最低取得単位数（合計16単位）を修得した学生に対し、卒業時に「地域人材育成プログラム修了証」を申請に基づいて授与します。
- 地域志向科目をとおして鹿児島に関心と愛着（地域マインド）を持ち、キャリアデザイン科目をとおして就業力を身につけ、地域人材育成科目で専門的に地域を学び、そして地域フィールド演習でフィールドワークを取り入れた地域研究に取り組む。これらの一連の教育プログラムを修了することで、地域に必要とされる人材を育成します。
 - 地域人材育成プログラム修了証（地域人材育成プログラム修了見込証明書）は、地域人材育成プログラムを修了した（修了見込である）ことを大学が証明するものです。これを県内企業での就職活動（エントリーシート、履歴書、就職面接など）で使うことで、あなたの鹿児島への関心、知識、思いが強く深いことをアピールできます。詳しくは、産学官地域連携センターに相談してください。

音楽学科

(1) 音楽学科の目的
音楽学科は、音楽に関する専門的知識を教授し、高度な技術と幅広い知識並びに豊かな創造性を有する芸術文化を通して社会に貢献できる人材を養成することを目的とします。
(2) ディプロマ・ポリシー
音楽学科は、目的を達成するために、所定の単位を修得したことにより、次のような段階に到達したと評価される学生に学位を授与します。
(知識・技能)
DP1 豊かな知識と技能を有し、音楽文化の創造発展に寄与できる。
(思考・判断・表現)
DP2 地域社会に対する思考力・判断力を有し、地域の教育・文化振興に貢献できる。
(関心・意欲・態度)
DP3 専門技術とコミュニケーション力を有し、国際的に活躍する意欲・関心を身に付けることができる。
(3) カリキュラム・ポリシー
音楽学科は、目的とディプロマ・ポリシーを達成するために、次の方針に基づいてカリキュラムを編成します。
CP1 共通教育科目では、「大学教育への導入」「キャリア形成支援」「専門教育の基礎形成」を中心として科目編成を行い、幅広い教養と豊かな人間性を育みます。
CP2 音楽学科は、「器楽コース（ピアノ課程・ピアノ演奏家課程・管弦打楽器課程・管弦打楽器演奏家課程）」「声楽コース」「作曲コース」の3コースで構成されています。専門教育科目では、音楽の学習を進めていく上での確固たる土台を築く科目から、それぞれの専門領域により高度な学習を体系的に行うための科目までを設けます。
CP3 地域社会に積極的に関わりながら芸術文化の促進や地域還元を図るため、現地体験やフィールドワークを重視します。これらの活動を通じて、実践的なコミュニケーション能力や表現力、企画力、運営力、構想力、発信力を磨きます。
(4) アドミッション・ポリシー
音楽学科は、目的、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、本学での学修を目指す次のような人を国内外に広く求めます。
(知識・技能)
AP1 音楽の基礎的・実践的な知識と技術を身に付けるために必要な基礎的な能力（読む力、書く力、考える力）・演奏技術を備えている人。
(思考・判断・表現)
AP2 身近な問題を多面的・論理的に考え説明できる人。
(関心・意欲・態度)
AP3 誠実に音楽と向き合い、努力を惜しまずに挑戦する人。
AP4 音楽を通して地域社会の文化発展に貢献したい人。
AP5 国際レベルでの演奏活動を目指す人。

カリキュラムマップ(音楽学科)

大分類 B_MUS



国際文化学部 音楽学科

大学で提供されている科目は、共通教育科目と専門教育科目の2つのグループに大きく分かります。卒業するためには、この2つのグループにそれぞれ配当されている科目を、一定の条件にそって履修し、単位を修得しなければなりません。資格や免許を取得したい人は、これらとは別に設置された、それぞれの資格（免許）課程を履修し、各課程が定める条件にそって科目を履修することになります。所定の年限で卒業（学士の称号を取得）し、必要な資格や免許を取得するためには、この全体のカリキュラム（教育課程）の組み立てをよく頭に入れたうえで、計画的に科目を履修していく必要があります。

1 共通教育科目

(1) 共通教育科目のねらい

大学に入学したみなさんが所属の学部・学科を問わず、まずは重点的に履修しなければならないのが共通教育科目であり、そのねらいは3つあります。それは、(1) 大学で学ぶための基礎的な知識と技能を育成し、(2) 将来の人生設計を構想し（キャリアデザイン）、(3) 各自の専攻分野への関心を深めていくというものです。

(2) 履修科目を決定するために

「科目」の選択にあたっては、「科目表」と「時間割表」とを参照しながら、履修すべき科目を選択する必要があります。最初に、当該年次のうち、必修科目と履修指定科目とが時間割のどの時限にあてられているかをチェックします。その年次において必ず履修しなければならないからです。上記以外の科目については、その選択にあたって、みなさんの主体性が要求されます。

1年次を例にとると、まず、所属学部・学科を問わず「新入生ゼミナールⅠ」と「新入生ゼミナールⅡ」が履修指定になっています。さらにコミュニケーションスキルズ科目から所定の単位を修得しなければなりません。指定に注意しながら、優先的に履修しましょう。

次いで、「時間割表」と対照しながら、共通教育科目と低年次配当の専門教育科目とを同時に検討します。この際、カリキュラムマップ、ナンバリングコードを参考にしながら、『授業内容（シラバス）』を熟読してください。自分の学びの方向性を展望しながら、履修の順序もよく考えて、しっかりとした履修計画を立てなければなりません。（ただし、「時間割表」は毎年変わりますので、今年度の「時間割表」で4年間の履修計画を完全に立ててしまうことはできません。）共通教育科目を2・3・4年次で履修することはさしつかえありませんが、できるだけ早い年次で単位を修得するほうが望ましいです。特に、教職課程の履修を希望する学生は周到な履修計画を立て、確実に単位を修得していかなければ後の履修にさしつかえます。

(3) 共通教育科目の履修方法

音楽学科は、人間教養科目の「人文科学」、「社会科学」、「自然科学」、「地域志向」の4主題から合計6単位以上を修得しなければなりません。また、コミュニケーションスキルズ科目からは、英語のコア科目の「英語オーラル・コミュニケーションⅠ」、「英語オーラル・コミュニケーションⅡ」（各1単位）、「英語海外研修」（2単位）から2単位以上を修得する必要があります。さらに基礎科目、人間教養科目、コミュニケーションスキルズ科目、スポーツ・健康科目の全体から単位を修得して合計単位数を卒業所要単位数以上にしなければなりません。なお、「新入生ゼミナールⅠ」、「新入生ゼミナールⅡ」、「データサイエンス・AI入門」、「情報処理」（各2単位）は履修指定となります。

(4) キャリアデザイン科目

キャリアデザイン科目は、学生のキャリア形成を支援する目的で設置しています。「コミュニケーション力育成」では、社会人基礎力やコミュニケーションに関する理論を学び、実践を通してコミュニケーション力を高めることができます。「論理的思考と数的処理」では、数学の基礎を固め、就職試験の準備をします。

(5) 地域志向科目

地域志向科目は「地域人材育成プログラム」を構成する科目です。私たちが生活と学びの場としている地域の実情を知り、その課題を発見し、解決策を提案したり、実際に課題解決のための活動に取り組んだりする科目群です。(詳しくは P240を参照)

この地域志向科目の中に設置されている「かごしま教養プログラム」と「かごしまフィールドスクール」は、文部科学省「戦略的大学連携支援事業」の一貫として鹿児島県内の全大学・短大・高専の学生を対象として実施される連携教育プログラム「グローバル教養教育」の一部です。「グローバル教養教育」は、これらの科目と「かごしまカレッジ教育」を合わせて構成されていますが、この「かごしまカレッジ教育」については、本学では「新入生ゼミナールⅠ」がこれに対応しています。

2 専門教育科目

「専門教育科目」の概要

国際文化学部専門教育に関する科目は「専門教育科目」と呼ばれますが、音楽学科の内容は以下のように分かれています。音楽学科の学生は、専門教育科目から98単位以上を修得しなければなりません。

- (1) 学部基本科目
- (2) 学科基本科目
- (3) 学科共通科目
- (4) 専門科目(主科、副科、演奏家育成、指導者育成、基礎・応用、外国語)

(1) 学部基本科目

学部基本科目は、「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」「演習Ⅳ(卒業研究含む)」「卒業演奏」「卒業作品」の6科目です。

この中の「卒業演奏」は器楽コースと声楽コース、「卒業作品」は作曲コースの必修科目です。「演習」は選択科目で、「演習Ⅰ」は3年次前期、「演習Ⅱ」は3年次後期、「演習Ⅲ」は4年次前期に配当されており、2単位となります。「演習Ⅳ(卒業研究含む)」は4年次後期の選択科目で、演習指導を受けたうえで卒業論文を作成する科目であり、4単位となります。

(2) 学科基本科目

学科基本科目は音楽の学習を進めていく上での確固たる土台を築く科目であり、「音楽史Ⅰ」「音楽史Ⅱ」「和声Ⅰ(作曲・編曲)」「和声Ⅱ」の4科目が開設されています。これらの科目は必修単位であり、必ず修得しなければなりません。

(3) 学科共通科目

学科共通科目は音楽学科の全学生が共通して修得すべき科目であり、「ソルフェージュⅠ」「ソルフェージュⅡ」「合唱Ⅰ」「合唱Ⅱ」「音楽史Ⅲ」「音楽史Ⅳ」の6科目が開設されています。これらの科目は必修単位であり、必ず修得しなければなりません。

(4) 専門科目

専門科目には、主科、副科、演奏家育成、指導者育成、基礎・応用科目、外国語が開設されており、各コースやそれぞれの目的や興味・関心に応じて学習が段階的に深化していくように配慮されています。外国語の科目は主に国際文化学科で開設されている科目ですが、専門科目として取得することができます。

音楽学科では「器楽コース」「声楽コース」「作曲コース」の3コースが設けられており、「器楽コース」は「ピアノ課程」「ピアノ演奏家課程」「管弦打楽器課程」「管弦打楽器演奏家課程」の4課程に分かれています。それぞれの専門領域でより高度な学習を体系的に行うことができるように、各コース・課程ともに独自のコース科目が設定されており、その中から40単位を修得するようになっています。コース科目は別表にありますので、よく参照して間違えのないように履修してください。

3 履修上の留意点

(1) 年次配当の意味

「年次配当」は、科目の種類によって、少し意味が異なります。

履修指定科目となっている科目は、その年次において必ず履修しなければなりません。特に「新入生ゼミナールⅠ」「新入生ゼミナールⅡ」は、1年次のみ履修することができます。万が一、単位を修得できなかった場合は、再履修できませんので、その不足単位は他の科目の履修で補わなければなりません。

履修指定科目以外の科目は、配当された年次以降に履修することができます。例えば、「2年次配当」というのは、「2年次以降に履修できる」ということを意味します。「3年次配当」であれば「3年次以降…」というようになります。履修できる年次になったら、できるだけ早い年次で履修することが望ましいですが、履修計画によっては高年次で履修してもさしつかえありません。

(2) 再履修について

さてみなさん、ここで肝に銘じておいてほしいことがあります。コミュニケーションスキルズ科目の選択必修科目、専門教育科目の必修科目を落としてしまった場合、翌年度以降に再履修しなければなりません。できるだけ努力して当該年次にこれらの科目の単位を修得してください。

音楽学科共通教育科目

科目区分		ナンバリング コード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数	
基礎科目	新入生ゼミナール	B_GEN110027	新入生ゼミナールⅠ	2	1	履修指定 (注)①参照	
		B_GEN110027	新入生ゼミナールⅡ	2	1		
	数理・データサイ エンス・AI	B_GEN100076	データサイエンス・AI 入門	2	1		
		B_GEN100076	情報処理	2	1		
		B_GEN104170	確率と統計	2	1		
	キャリアデザイン	B_GEN116070	コミュニケーション力育成	2	1		
		B_GEN116070	キャリア形成のための一般教養Ⅰ	2	1		
		B_GEN116070	キャリア形成のための一般教養Ⅱ	2	1		
B_GEN216070		キャリア形成のための一般教養Ⅲ	2	3			
B_GEN216070		キャリア形成のための一般教養Ⅳ	2	3			
B_GEN206070		論理的思考と数的処理	2	2			
B_GEN216070		キャリア形成のための文章力育成	2	3			
人間教養科目	人文科学	B_GEN109100	日本文学	2	1	6単位以上	共通教育科目合計26単位以上
		B_GEN109300	外国文学	2	1		
		B_GEN107610	音楽文化論	2	1		
		B_GEN102100	日本史	2	1		
		B_GEN102300	西洋史	2	1		
		B_GEN102200	東洋史	2	1		
		B_GEN102090	東西文化の交流	2	1		
		B_GEN101000	哲学	2	1		
		B_GEN101500	倫理学	2	1		
		B_GEN101401	心理学	2	1		
	社会科学	B_GEN103210	法学	2	1		
		B_GEN103231	日本国憲法	2	1		
		B_GEN103110	政治学	2	1		
		B_GEN103310	経済学	2	1		
		B_GEN103610	社会学	2	1		
		B_GEN102901	地理学	2	1		
		B_GEN103000	社会科学概論	2	1		
	自然科学	B_GEN104100	数学Ⅰ	2	1		
		B_GEN104100	数学Ⅱ	2	1		
		B_GEN104600	生命科学	2	1		
		B_GEN104680	環境科学	2	1		
	地域志向	B_GEN103617	地域創生Ⅰ	2	1		
		B_GEN103617	地域創生Ⅱ	2	1		
		B_GEN102100	Japanology	2	1		
		B_GEN103336	地域から世界へ	2	1		
		B_GEN110000	かごしま教養プログラム	2	1		
		B_GEN110000	かごしまフィールドスクール	2	1		
		B_GEN133697	ボランティア活動	2	1		
B_GEN236070		国内インターンシップ	2	2			
B_GEN236070		海外インターンシップ	3	2			
B_GEN100000		教養特講Ⅰ	2	1			
B_GEN100000		教養特講Ⅱ	2	1			
B_GEN100000		教養特講Ⅲ	2	1			
B_GEN100000		教養特講Ⅳ	2	1			
コミュニケーション スキルズ科目	英語 コア	B_GEN128311	英語オーラル・コミュニケーションⅠ	1	1	2単位以上 (注)②参照	
		B_GEN128311	英語オーラル・コミュニケーションⅡ	1	1		
		B_GEN138300	英語海外研修	2	1		
		B_GEN128377	英語リーディング	1	1		
	B_GEN128360	英語ライティング	1	1			
	英語 関連	B_GEN108375	英文読解の技法	2	1		
		B_GEN108300	TOEIC・TOEFL 対策	2	1		
		B_GEN118350	コミュニケーションのための英文法	2	1		
B_GEN118378		Global Economy and Business	2	1			

科目区分		ナンバリング コード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数	
第二外国語	中国語	B_GEN128200	初級中国語ⅠA	1	1	4単位以上 ※第二外国語は、同一外国語のⅠA、ⅠB、ⅡA及びⅡBを修得しなければならない。	
		B_GEN128200	初級中国語ⅠB	1	1		
		B_GEN128200	初級中国語ⅡA	1	1		
		B_GEN128200	初級中国語ⅡB	1	1		
		B_GEN138200	中国語海外研修	2	1		
		B_GEN128500	初級フランス語ⅠA	1	1		
		B_GEN128500	初級フランス語ⅠB	1	1		
		B_GEN128500	初級フランス語ⅡA	1	1		
		B_GEN128500	初級フランス語ⅡB	1	1		
		B_GEN128400	初級ドイツ語ⅠA	1	1		
		B_GEN128400	初級ドイツ語ⅠB	1	1		
		B_GEN128400	初級ドイツ語ⅡA	1	1		
		B_GEN128400	初級ドイツ語ⅡB	1	1		
		B_GEN128291	初級韓国語ⅠA	1	1		
		B_GEN128291	初級韓国語ⅠB	1	1		
		B_GEN128291	初級韓国語ⅡA	1	1		
		B_GEN128291	初級韓国語ⅡB	1	1		
		B_GEN138291	韓国語海外研修	2	1		
		B_GEN128700	初級イタリア語ⅠA	1	1		
		B_GEN128700	初級イタリア語ⅠB	1	1		
		B_GEN128700	初級イタリア語ⅡA	1	1		
		B_GEN128700	初級イタリア語ⅡB	1	1		
	日本語 (留学生科目)	B_GEN128100	日本語入門Ⅰ	2	1		
		B_GEN128100	日本語入門Ⅱ	2	1		
		B_GEN108100	留学生のための日本事情	2	1		
スポーツ・健康科目	講義	B_GEN107801	日常生活に生かすスポーツ科学	2	1		
		B_GEN107801	現代社会とスポーツ	2	1		
	実習	B_GEN127800	スポーツ実習Ⅰ（屋内集団球技）	1	1		
		B_GEN127800	スポーツ実習Ⅱ（屋内個人球技）	1	1		
		B_GEN127800	スポーツ実習Ⅲ（個人種目）	1	1		
		B_GEN127800	スポーツ実習Ⅳ（屋外個人球技）	1	1		
		B_GEN127800	スポーツ実習Ⅴ（屋外集団球技）	1	1		

(注)

- ① 新入生ゼミナールⅠ，新入生ゼミナールⅡ，データサイエンス・AⅠ入門及び情報処理は，履修指定とし，配当された年次に全員必ず登録し授業を受けなければならない。なお，新入生ゼミナールⅠ及び新入生ゼミナールⅡの再履修はできない。
- ② コミュニケーションスキルズ科目の英語は，コア科目の英語オーラル・コミュニケーションⅠ及び英語オーラル・コミュニケーションⅡ又は英語海外研修から2単位以上を修得しなければならない。

音楽学科専門教育科目

科目区分		ナンバリングコード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数	
学部基本科目		B_MUS310027	演習Ⅰ	2	3		
		B_MUS310027	演習Ⅱ	2	3		
		B_MUS410027	演習Ⅲ	2	4		
		B_MUS410027	演習Ⅳ（卒業研究含む）	4	4		
		B_MUS417619	卒業演奏	4	4	4単位いずれか選択必修	
		B_MUS417618	卒業作品	4	4		
学科基本科目		B_MUS107620	音楽史Ⅰ	2	1	8単位必修	
		B_MUS107620	音楽史Ⅱ	2	1		
		B_MUS107615	和声Ⅰ（作曲・編曲）	2	1		
		B_MUS107615	和声Ⅱ	2	1		
学科共通科目		B_MUS117610	ソルフェージュⅠ	1	1	8単位必修	
		B_MUS117610	ソルフェージュⅡ	1	1		
		B_MUS117674	合唱Ⅰ	1	1		
		B_MUS117674	合唱Ⅱ	1	1		
		B_MUS207620	音楽史Ⅲ	2	2		
		B_MUS207620	音楽史Ⅳ	2	2		
専門科目	主科	B_MUS127632	ピアノⅠ	3	1	24単位選択必修	
		B_MUS127632	ピアノⅡ	3	1		
		B_MUS227632	ピアノⅢ	3	2		
		B_MUS227632	ピアノⅣ	3	2		
		B_MUS327632	ピアノⅤ	3	3		
		B_MUS327632	ピアノⅥ	3	3		
		B_MUS427632	ピアノⅦ	3	4		
		B_MUS427632	ピアノⅧ	3	4		
		B_MUS127630	管弦打楽器Ⅰ	3	1		
		B_MUS127630	管弦打楽器Ⅱ	3	1		
		B_MUS227630	管弦打楽器Ⅲ	3	2		
		B_MUS227630	管弦打楽器Ⅳ	3	2		
		B_MUS327630	管弦打楽器Ⅴ	3	3		
		B_MUS327630	管弦打楽器Ⅵ	3	3		
		B_MUS427630	管弦打楽器Ⅶ	3	4		
		B_MUS427630	管弦打楽器Ⅷ	3	4		
		B_MUS127671	声楽Ⅰ	3	1		
		B_MUS127671	声楽Ⅱ	3	1		
		B_MUS227671	声楽Ⅲ	3	2		
		B_MUS227671	声楽Ⅳ	3	2		
		B_MUS327671	声楽Ⅴ	3	3		
		B_MUS327671	声楽Ⅵ	3	3		
		B_MUS427671	声楽Ⅶ	3	4		
		B_MUS427671	声楽Ⅷ	3	4		
		B_MUS127618	作曲Ⅰ	3	1		
		B_MUS127618	作曲Ⅱ	3	1		
		B_MUS227618	作曲Ⅲ	3	2		
		B_MUS227618	作曲Ⅳ	3	2		
		B_MUS327618	作曲Ⅴ	3	3		
		B_MUS327618	作曲Ⅵ	3	3		
		B_MUS427618	作曲Ⅶ	3	4		
		B_MUS427618	作曲Ⅷ	3	4		
	副科	B_MUS127632	ピアノ（副）Ⅰ	1	1		
		B_MUS127632	ピアノ（副）Ⅱ	1	1		
		B_MUS227632	ピアノ（副）Ⅲ	1	2		
		B_MUS227632	ピアノ（副）Ⅳ	1	2		
		B_MUS127630	管弦打楽器（副）Ⅰ	1	1		
		B_MUS127630	管弦打楽器（副）Ⅱ	1	1		
		B_MUS227630	管弦打楽器（副）Ⅲ	1	2		
		B_MUS227630	管弦打楽器（副）Ⅳ	1	2		
		B_MUS127671	声楽（副）Ⅰ	1	1		
		B_MUS127671	声楽（副）Ⅱ	1	1		
		B_MUS227671	声楽（副）Ⅲ	1	2		

合計98単位以上

科目区分	ナンバリングコード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数
演奏家育成	B_MUS227671	声楽（副）Ⅳ	1	2	
	B_MUS127632	ピアノ奏法Ⅰ	2	1	
	B_MUS127632	ピアノ奏法Ⅱ	2	1	
	B_MUS227632	ピアノ奏法Ⅲ	2	2	
	B_MUS227632	ピアノ奏法Ⅳ	2	2	
	B_MUS317632	ピアノ奏法研究Ⅰ	2	3	
	B_MUS317632	ピアノ奏法研究Ⅱ	2	3	
	B_MUS227642	ピアノ重奏Ⅰ	1	1	
	B_MUS227642	ピアノ重奏Ⅱ	1	1	
	B_MUS127630	管弦打楽器奏法Ⅰ	2	1	
	B_MUS127630	管弦打楽器奏法Ⅱ	2	1	
	B_MUS227630	管弦打楽器奏法Ⅲ	2	2	
	B_MUS227630	管弦打楽器奏法Ⅳ	2	2	
	B_MUS317642	室内楽Ⅰ	1	3	
	B_MUS317642	室内楽Ⅱ	1	3	
	B_MUS317642	室内楽Ⅲ	1	4	
	B_MUS317642	室内楽Ⅳ	1	4	
	B_MUS317640	器楽アンサンブルⅠ	1	3	
	B_MUS317640	器楽アンサンブルⅡ	1	3	
	B_MUS317640	器楽アンサンブルⅢ	1	4	
	B_MUS317640	器楽アンサンブルⅣ	1	4	
	B_MUS317661	オペラ基礎Ⅰ	1	3	
	B_MUS317661	オペラ基礎Ⅱ	1	3	
	B_MUS327661	オペラ実習Ⅰ	1	4	
	B_MUS327661	オペラ実習Ⅱ	1	4	
	B_MUS217710	舞台表現法	1	2	
	B_MUS327674	重唱Ⅰ	1	3	
	B_MUS327674	重唱Ⅱ	1	3	
	B_MUS317671	日本歌曲研究	1	4	
指導者育成	B_MUS317607	吹奏楽指導法Ⅰ	1	3	
	B_MUS317607	吹奏楽指導法Ⅱ	1	3	
	B_MUS317607	合唱指導法Ⅰ	1	3	
	B_MUS317607	合唱指導法Ⅱ	1	3	
	B_MUS237619	伴奏実習Ⅰ	1	3	
	B_MUS337619	伴奏実習Ⅱ	1	4	
	B_MUS217640	合奏（リコーダー）	1	2	
	B_MUS217619	指揮法Ⅰ	1	2	
	B_MUS217619	指揮法Ⅱ	1	2	
	B_MUS217620	伝統音楽演習	1	3	
	B_MUS207607	ピアノ教材研究Ⅰ	2	2	
	B_MUS307607	ピアノ教材研究Ⅱ	2	2	
	B_MUS207607	音楽教育研究Ⅰ	2	2	
	B_MUS207607	音楽教育研究Ⅱ	2	2	
	B_MUS307607	幼児音楽教育研究	2	3	
基礎・応用	B_MUS217607	リトミック	1	2	
	B_MUS307620	郷土芸能研究	2	3	
	B_MUS217610	ソルフェージュⅢ	1	2	
	B_MUS217610	ソルフェージュⅣ	1	2	
	B_MUS217674	合唱Ⅲ	1	2	
	B_MUS217674	合唱Ⅳ	1	2	
	B_MUS317674	合唱Ⅴ	1	3	
	B_MUS317674	合唱Ⅵ	1	3	
	B_MUS317674	合唱Ⅶ	1	4	
	B_MUS317674	合唱Ⅷ	1	4	
	B_MUS117646	吹奏楽Ⅰ	1	1	
	B_MUS117646	吹奏楽Ⅱ	1	1	
	B_MUS217646	吹奏楽Ⅲ	1	2	
	B_MUS217646	吹奏楽Ⅳ	1	2	

科目区分	ナンバリングコード	授業科目	単位	年次配当	卒業所要単位数	
	B_MUS317646	吹奏楽Ⅴ	1	3		
	B_MUS317646	吹奏楽Ⅵ	1	3		
	B_MUS317646	吹奏楽Ⅶ	1	4		
	B_MUS317646	吹奏楽Ⅷ	1	4		
	B_MUS107610	コンピュータ音楽演習	2	1		
	B_MUS007610	音楽理論	2	1		
	B_MUS101468	音楽療法概論	2	1		
	B_MUS207615	和声Ⅲ	2	2		
	B_MUS207615	和声Ⅳ	2	2		
	B_MUS207617	楽式論	2	2		
	B_MUS207620	民族音楽概論（日本音楽史を含む）	2	2		
	B_MUS307618	創作・編曲法	2	3		
	B_MUS307616	対位法	2	3		
	B_MUS307630	管弦楽法	2	3		
	B_MUS307610	楽曲分析	2	4		
	B_MUS307610	音楽学概説	2	3		
	B_MUS307610	演奏解釈	2	3		
	B_MUS317619	学内演奏	4	3		
	B_MUS317618	学内発表（作曲）	4	3		
	B_MUS317619	学内リサイタル	4	3		
外国語	B_MUS218310	英語中級オーラル・スキルズⅠ	2	1		
	B_MUS218310	英語中級オーラル・スキルズⅡ	2	1		
	B_MUS218377	英語中級リーディング・スキルズ	2	1		
	B_MUS218360	英語中級ライティング・スキルズ	2	1		

注)

- ① コース登録は、1年次開始時に行う。
- ② 別表第9, 10, 11, 12, 13, 14に掲げるコースの中から一つのコースを選択し、選択したコースから40単位以上を修得し、「コース修了」の認定を受けることが卒業要件。
- ③ 他学部・他学科及び教職・資格課程の開設科目並びに単位互換認定科目は、国際文化学部履修規程第7条により、音楽学科専門教育科目「合計98単位以上」の枠で16単位までを限度に、卒業所要単位として認める。

別表第9 音楽学科コース科目（器楽コース・ピアノ課程）

科目区分		ナンバリング コード	授業科目	単位	年次 配当	コース修了所要単位数		
器楽コース（ピアノ課程）	主科	B_MUS127632	ピアノⅠ	3	1	必修	24単位	コース修了40単位
		B_MUS127632	ピアノⅡ	3	1	必修		
		B_MUS227632	ピアノⅢ	3	2	必修		
		B_MUS227632	ピアノⅣ	3	2	必修		
		B_MUS327632	ピアノⅤ	3	3	必修		
		B_MUS327632	ピアノⅥ	3	3	必修		
		B_MUS427632	ピアノⅦ	3	4	必修		
		B_MUS427632	ピアノⅧ	3	4	必修		
	指導者育成科目	B_MUS317607	吹奏楽指導法Ⅰ	1	3	選択	10単位以上	
		B_MUS317607	吹奏楽指導法Ⅱ	1	3	選択		
		B_MUS317607	合唱指導法Ⅰ	1	3	選択		
		B_MUS317607	合唱指導法Ⅱ	1	3	選択		
		B_MUS237619	伴奏実習Ⅰ	1	3	選択		
		B_MUS337619	伴奏実習Ⅱ	1	4	選択		
		B_MUS217640	合奏（リコーダー）	1	2	選択		
		B_MUS217619	指揮法Ⅰ	1	2	選択		
		B_MUS217619	指揮法Ⅱ	1	2	選択		
		B_MUS217620	伝統音楽演習	1	3	選択		
		B_MUS207607	ピアノ教材研究Ⅰ	2	2	選択		
		B_MUS307607	ピアノ教材研究Ⅱ	2	2	選択		
		B_MUS207607	音楽教育研究Ⅰ	2	2	選択		
		B_MUS207607	音楽教育研究Ⅱ	2	2	選択		
		B_MUS307607	幼児音楽教育研究	2	3	選択		
		B_MUS217607	リトミック	1	2	選択		
		B_MUS307620	郷土芸能研究	2	3	選択		
	基礎・応用科目	B_MUS217610	ソルフェージュⅢ	1	2	必修	6単位	
		B_MUS217610	ソルフェージュⅣ	1	2	必修		
		B_MUS317619	学内演奏	4	3	必修		

別表第10 音楽学科コース科目（器楽コース・ピアノ演奏家課程）

科目区分		ナンバリング コード	授業科目	単位	年次 配当	コース修了所要単位数		
器楽コース（ピアノ演奏家課程）	主科	B_MUS127632	ピアノⅠ	3	1	必修	24単位	コース修了40単位
		B_MUS127632	ピアノⅡ	3	1	必修		
		B_MUS227632	ピアノⅢ	3	2	必修		
		B_MUS227632	ピアノⅣ	3	2	必修		
		B_MUS327632	ピアノⅤ	3	3	必修		
		B_MUS327632	ピアノⅥ	3	3	必修		
		B_MUS427632	ピアノⅦ	3	4	必修		
		B_MUS427632	ピアノⅧ	3	4	必修		
	演奏家育成科目	B_MUS127632	ピアノ奏法Ⅰ	2	1	必修	12単位	
		B_MUS127632	ピアノ奏法Ⅱ	2	1	必修		
		B_MUS227632	ピアノ奏法Ⅲ	2	2	必修		
		B_MUS227632	ピアノ奏法Ⅳ	2	2	必修		
		B_MUS317632	ピアノ奏法研究Ⅰ	2	3	必修		
		B_MUS317632	ピアノ奏法研究Ⅱ	2	3	必修		
	基礎・応用科目	B_MUS317619	学内リサイタル	4	3	必修	4単位	

別表第11 音楽学科コース科目（器楽コース・管弦打楽器課程）

科目区分		ナンバリング コード	授業科目	単位	年次 配当	コース修了所要単位数		
器楽コース (管弦打楽器課程)	主科	B_MUS127630	管弦打楽器Ⅰ	3	1	必修	24単位	コース修了40単位
		B_MUS127630	管弦打楽器Ⅱ	3	1	必修		
		B_MUS227630	管弦打楽器Ⅲ	3	2	必修		
		B_MUS227630	管弦打楽器Ⅳ	3	2	必修		
		B_MUS327630	管弦打楽器Ⅴ	3	3	必修		
		B_MUS327630	管弦打楽器Ⅵ	3	3	必修		
		B_MUS427630	管弦打楽器Ⅶ	3	4	必修		
		B_MUS427630	管弦打楽器Ⅷ	3	4	必修		
	指導者育成科目	B_MUS317607	吹奏楽指導法Ⅰ	1	3	選択	10単位 以上	
		B_MUS317607	吹奏楽指導法Ⅱ	1	3	選択		
		B_MUS317607	合唱指導法Ⅰ	1	3	選択		
		B_MUS317607	合唱指導法Ⅱ	1	3	選択		
		B_MUS237619	伴奏実習Ⅰ	1	3	選択		
		B_MUS337619	伴奏実習Ⅱ	1	4	選択		
		B_MUS217640	合奏（リコーダー）	1	2	選択		
		B_MUS217619	指揮法Ⅰ	1	2	選択		
		B_MUS217619	指揮法Ⅱ	1	2	選択		
		B_MUS217620	伝統音楽演習	1	3	選択		
		B_MUS207607	ピアノ教材研究Ⅰ	2	2	選択		
		B_MUS307607	ピアノ教材研究Ⅱ	2	2	選択		
		B_MUS207607	音楽教育研究Ⅰ	2	2	選択		
		B_MUS207607	音楽教育研究Ⅱ	2	2	選択		
		B_MUS307607	幼児音楽教育研究	2	3	選択		
		B_MUS217607	リトミック	1	2	選択		
		B_MUS307620	郷土芸能研究	2	3	選択		
	基礎・応用科目	B_MUS217610	ソルフェージュⅢ	1	2	必修	6単位	
		B_MUS217610	ソルフェージュⅣ	1	2	必修		
		B_MUS317619	学内演奏	4	3	必修		

別表第12 音楽学科コース科目（器楽コース・管弦打楽器演奏家課程）

科目区分		ナンバリング コード	授業科目	単位	年次 配当	コース修了所要単位数		
器楽コース (管弦打楽器演奏家課程)	主科	B_MUS127630	管弦打楽器Ⅰ	3	1	必修	24単位	コース修了40単位
		B_MUS127630	管弦打楽器Ⅱ	3	1	必修		
		B_MUS227630	管弦打楽器Ⅲ	3	2	必修		
		B_MUS227630	管弦打楽器Ⅳ	3	2	必修		
		B_MUS327630	管弦打楽器Ⅴ	3	3	必修		
		B_MUS327630	管弦打楽器Ⅵ	3	3	必修		
		B_MUS427630	管弦打楽器Ⅶ	3	4	必修		
		B_MUS427630	管弦打楽器Ⅷ	3	4	必修		
	演奏家育成科目	B_MUS127630	管弦打楽器奏法Ⅰ	2	1	必修	8単位	
		B_MUS127630	管弦打楽器奏法Ⅱ	2	1	必修		
		B_MUS227630	管弦打楽器奏法Ⅲ	2	2	必修		
		B_MUS227630	管弦打楽器奏法Ⅳ	2	2	必修		
		B_MUS317642	室内楽Ⅰ	1	3	選択	4単位以上 「室内楽Ⅰ～Ⅳ」 又は 「器楽アンサンブルⅠ～Ⅳ」 のいずれか必修	
		B_MUS317642	室内楽Ⅱ	1	3	選択		
		B_MUS317642	室内楽Ⅲ	1	4	選択		
		B_MUS317642	室内楽Ⅳ	1	4	選択		
		B_MUS317640	器楽アンサンブルⅠ	1	3	選択		
		B_MUS317640	器楽アンサンブルⅡ	1	3	選択		
		B_MUS317640	器楽アンサンブルⅢ	1	4	選択		
		B_MUS317640	器楽アンサンブルⅣ	1	4	選択		
	基礎・応用科目	B_MUS317619	学内リサイタル	4	3	必修	4単位	

別表第13 音楽学科コース科目（声楽コース）

科目区分		ナンバリング コード	授業科目	単位	年次 配当	コース修了所要単位数		
声楽コース	学部基本	B_MUS310027	演習Ⅰ	2	3	必修	4単位	コース修了40単位
		B_MUS310027	演習Ⅱ	2	3	必修		
	主科	B_MUS127671	声楽Ⅰ	3	1	必修	24単位	
		B_MUS127671	声楽Ⅱ	3	1	必修		
		B_MUS227671	声楽Ⅲ	3	2	必修		
		B_MUS227671	声楽Ⅳ	3	2	必修		
		B_MUS327671	声楽Ⅴ	3	3	必修		
		B_MUS327671	声楽Ⅵ	3	3	必修		
		B_MUS427671	声楽Ⅶ	3	4	必修		
		B_MUS427671	声楽Ⅷ	3	4	必修		
	演奏家育成科目	B_MUS317661	オペラ基礎Ⅰ	1	3	必修	8単位	
		B_MUS317661	オペラ基礎Ⅱ	1	3	必修		
		B_MUS327661	オペラ実習Ⅰ	1	4	必修		
		B_MUS327661	オペラ実習Ⅱ	1	4	必修		
		B_MUS217710	舞台表現法	1	2	必修		
		B_MUS327674	重唱Ⅰ	1	3	必修		
		B_MUS327674	重唱Ⅱ	1	3	必修		
		B_MUS317671	日本歌曲研究	1	4	必修		
	基礎・応用科目	B_MUS317619	学内演奏	4	3	必修	4単位	

別表第14 音楽学科コース科目（作曲コース）

科目区分		ナンバリング コード	授業科目	単位	年次 配当	コース修了所要単位数		
作曲 コース	主科	B_MUS127618	作曲Ⅰ	3	1	必修	24単位	コース修了 40単位
		B_MUS127618	作曲Ⅱ	3	1	必修		
		B_MUS227618	作曲Ⅲ	3	2	必修		
		B_MUS227618	作曲Ⅳ	3	2	必修		
		B_MUS327618	作曲Ⅴ	3	3	必修		
		B_MUS327618	作曲Ⅵ	3	3	必修		
		B_MUS427618	作曲Ⅶ	3	4	必修		
		B_MUS427618	作曲Ⅷ	3	4	必修		
	基礎・応用科目	B_MUS217610	ソルフェージュⅢ	1	2	必修	16単位	
		B_MUS217610	ソルフェージュⅣ	1	2	必修		
		B_MUS207615	和声Ⅲ	2	2	必修		
		B_MUS207617	楽式論	2	2	必修		
		B_MUS307616	対位法	2	3	必修		
		B_MUS307630	管弦楽法	2	3	必修		
		B_MUS307610	楽曲分析	2	4	必修		
		B_MUS317618	学内発表（作曲）	4	3	必修		

[教職課程]

(1) 音楽学科で取得できる免許状の種類及び免許教科

教職課程履修規程第2条参照

(2) 免許状を得るための基礎資格及び修得単位数

教職課程履修規程第3条参照

(3) 教職課程履修資格

教職課程履修細則第6条参照

(4) 教職課程履修の手続

- ① 教職課程の履修を希望する場合は、1年次または2年次に実施される「教職課程履修希望者説明会」に出席し、配付される「履修希望願」を提出しなければなりません。

なお、「教職課程履修希望者説明会」は12月頃に実施する予定です。「資格・実習」の掲示板を必ず確認してください。

- ② 提出した者の中から(3)の資格要件による履修資格者をオリエンテーション時に「資格・実習」の掲示板で発表します。

- ③ 履修資格者は、所定の期日までに履修費（教職課程履修細則第12条参照）を納入してください。（2年次または3年次の申し込みになります。）

- ④ 履修費及び実習費等は、どのような理由があっても返金しません。

(5) 教育実習履修資格

教職課程履修細則第7条参照

教育実習の履修資格者は、オリエンテーション時に「資格・実習」の掲示板で発表しますので、確認のうえ履修登録してください。

4年次の4月末に教育実習費（教職課程履修細則第12条参照）の納入方法などについての説明会を実施しますので、必ず出席してください。

(6) 単位修得の方法

単位修得の方法については、「教職課程履修規程」及び「教職課程履修細則」をよく読んで理解してください。

なお、「教育の基礎的理解に関する科目等」の中には、卒業指定科目として登録可能なものがあります。（教職課程履修規程別表第4を参照）

(7) 履修カルテ

【目 的】

教職課程を履修して教育職員免許を取得しようとする学生は、必ず「履修カルテ」を作成しなければなりません。「履修カルテ」は、学生一人一人の学習状況をきめ細かく把握するためのものです。

また、成績公開後、定期的に学生情報システム（LCU）から「履修カルテ」のデータを提出することになりますので大切に管理（入力・更新）してください。

【作 成】

教職課程履修時から教育職員免許取得まで継続して作成します。

※決められた提出時期に「履修カルテ」の提出がない場合、「教育実習」及び「教職実践演習」の履修が認められないことがあります。また、免許状も授与できなくなることがありますので十分注意してください。

【内 容】

【履修カルテ A】①「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修状況

②「大学が独自に設定する科目」の履修状況

③「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修状況

【履修カルテ B】① 必要な資質能力についての自己評価

② 教職に関する体験・実習等の状況

③ 教職を目指す上でさらに身に付けなければならないと考えている事項

【作成の手順】

①学生情報システム（LCU）へアクセスし、メニューの「学修ポートフォリオ」から「履修カルテ」をクリックします。以下の項目について入力してください。

・「履修状況」

修得した科目について入力してください。

・「履修カルテ自己評価」

資質能力に関する自己評価を入力してください。

・「教職に関する体験・実習等の状況」

介護等体験、教育実習、学校関係のボランティア活動について入力してください。

・「教職を目指す事項」

教職を目指す上でさらに身に付けなければならないと考えている事項を入力してください。

②上記の項目について入力後、登録ボタン（更新）をクリックします。

③各学期の成績公開後、提出時期までに該当する項目に随時入力（更新）し、漏れがないか確認してください。

④提出時期に「履修カルテの提出」ボタンをクリックし提出する。（「履修カルテ」は Excel 出力し保存することが可能です。）

【履修カルテ作成・提出スケジュール】

2 年次 開始時	（更新）	「履修カルテ」を計画的に作成するため、入力項目等を理解する。
3 年次 後期開始前	提出①	2 年次までの記録について確認し、9 月中にデータ提出。
4 年次 前期開始前	提出②	3 年次までの記録について確認し、4 月中にデータ提出。
4 年次 後期開始前	提出③	4 年次前期までの記録について確認し、9 月中にデータ提出。
最終提出（4 年次12月頃）	提出④	全ての項目において入力漏れがないかを確認し、12 月中にデータ提出。

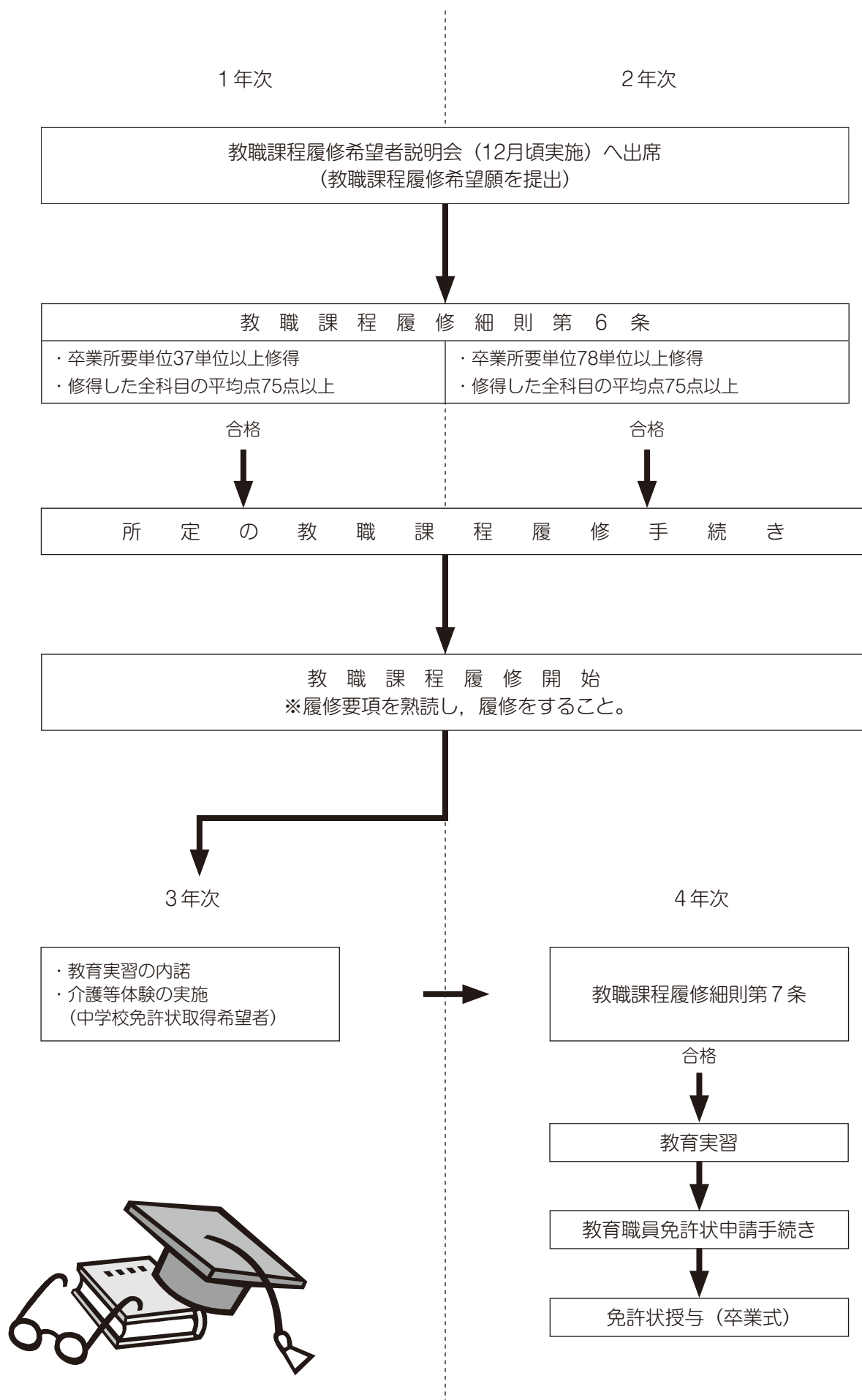
(8) 教職課程スケジュール表

教職課程のスケジュールは次の表のとおりです。ただし、この表は、あくまで予定ですので日程は掲示板にて確認してください。

教 職 課 程 ス ケ ジ ュ ー ル 表

学 年 月	1 年	2 年	3 年	4 年
3月		教 職 課 程 履 修 資 格 者 発 表 (オリエンテーション時) 履 修 カ ル テ 説 明 会 (オリエンテーション時)		教育実習履修資格者発表 (オリエンテーション時)
			介護等体験説明会 (第1回) (オリエンテーション時)	
4月		教 職 課 程 履 修 説 明 会	教 職 課 程 履 修 説 明 会 介護等体験説明会 (第2回)	教 職 課 程 履 修 説 明 会 教 育 実 習 説 明 会 教育実習費納入 (¥12,000-) (但し, 中学校実習は¥18,000-)
5月				取 得 希 望 免 許 教 科 届 提 出
6月			教 育 実 習 内 諾 説 明 会 介 護 等 体 験 説 明 会 (第3・4・5回) ~ 7 月	教 育 実 習 中 学 校 (3 週 間) 高 等 学 校 (2 週 間)
7月			教育実習予定校訪問 (内諾依頼)	
8月			教 育 実 習 報 告 会	教 育 実 習 報 告 会
9月				
10月			教 育 実 習 内 諾 書 提 出	
11月				教育職員免許状申請手続説明会(第1回)
12月	教 職 課 程 履 修 希望者説明会 (教職課程履修希望願提出)			
1月				教育職員免許状申請手続説明会(第2回)
2月				
3月				免 許 状 授 与 (卒 業 式 当 日)

教職課程の履修について



(9) 教職課程履修規程

第1条 教育職員の免許状を得ようとする者は、教育職員免許法、同法施行規則及び鹿児島国際大学学則の定めるところに従い、所定の単位を修得しなければならない。

第2条 本学教職課程の履修によって取得できる免許状は次のとおりである。（音楽学科の場合）

学 部	学 科	免 許 状 の 種 類	
		免 許 状	免許教科
国 際 文 化 学 部	音 楽 学 科	中 学 校教諭一種免許状	音 楽
		高等学校教諭一種免許状	音 楽

第3条 前条の免許状を得ようとする者は、次表に示した基礎資格及び本学における最低修得単位数をみたさなければならない。（音楽学科の場合）

学部	学科	免許状の種類	免許教科	基礎資格	本学における最低修得単位数				
					教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	大学が独自に設定する科目	特別支援教育に関する科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
国際文化学部	音楽学科	中学校教諭一種免許状	音楽	学士の学位を有すること。	34～38	29	第3条第3項参照 〔中学校4単位〕 〔高等学校12単位〕	—	9
		高等学校教諭一種免許状	音楽		34～38	25			

2 前項に規定する「領域及び保育内容の指導法に関する科目」、「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」、「大学が独自に設定する科目」、「特別支援教育に関する科目」及び教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目については、別表第1から別表第5に掲げるとおりとする。

3 経済学部と福祉社会学部（社会福祉学科）、国際文化学部の「大学が独自に設定する科目」の最低修得単位数（中学校4単位、高等学校12単位）は、「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は教育職員免許法で定めた最低修得単位数（中学校28単位、高等学校24単位）を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」の選択科目も併せて修得することができる。

第4条 小学校教諭一種免許状又は中学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、介護等体験特例法に基づき、介護等体験を行わなければならない。

第5条 教職課程の履修についての細則は別に定める。

第6条 この規程の改廃は、教職課程・教育実習委員会、教授会及び大学評議会の審議を経て、学長の承認を得なければならない。

国際文化学部（音楽学科）

免許法施行規則に定める 科目及び単位数		ナンバリング コード	左記に対応する開設科目				
科目名	単位数		授業科目	単位	年次 配当	所属	最低修得 単位数
日本国憲法	2	B_TEA103231	日本国憲法	2	1	共通教育科目	2
体育	2	B_TEA107801	日常生活に生かすスポーツ科学	2	1	//	2
		B_TEA107801	現代社会とスポーツ	2	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅰ(屋内集団球技)	1	1	//	1
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅱ(屋内個人球技)	1	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅲ(個人種目)	1	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅳ(屋外個人球技)	1	1	//	
		B_TEA127800	スポーツ実習Ⅴ(屋外集団球技)	1	1	//	
外国語コミュニケーション	2	B_TEA128311	英語オーラルコミュニケーションⅠ	1	1	//	2
		B_TEA128311	英語オーラルコミュニケーションⅡ	1	1	//	
		B_TEA138300	英語海外研修	2	1	//	
数理、データ活用及び 人工知能に関する科目 又は情報機器の操作	2	B_TEA100076	情報処理	2	1	//	2
合 計							9

国際文化学部（音楽学科） 中学校教諭一種免許（音楽）

免許法施行規則に定める 科目の区分			ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目				
科目区分		各科目に含めることが必要な事項		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	B_TEA117610	ソルフェージュⅠ	1	1	専門教育科目	2
			B_TEA117610	ソルフェージュⅡ	1	1	〃	
		声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	B_TEA127671	声楽Ⅰ	3	1	〃	2又は6
			B_TEA127671	声楽Ⅱ	3	1	〃	
			B_TEA127671	声楽（副）Ⅰ	1	1	〃	
			B_TEA127671	声楽（副）Ⅱ	1	1	〃	
			B_TEA117674	合唱Ⅰ	1	1	〃	2
			B_TEA117674	合唱Ⅱ	1	1	〃	
		器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	B_TEA127632	ピアノⅠ	3	1	〃	2又は6
			B_TEA127632	ピアノⅡ	3	1	〃	
			B_TEA127632	ピアノ（副）Ⅰ	1	1	〃	
			B_TEA127632	ピアノ（副）Ⅱ	1	1	〃	
			B_TEA217640	合奏（リコーダー）	1	2	〃	4
			B_TEA237619	伴奏実習Ⅰ	1	3	〃	
			B_TEA337619	伴奏実習Ⅱ	1	4	〃	
			B_TEA217620	伝統音楽演習	1	3	〃	
		指揮法	B_TEA217619	指揮法Ⅰ	1	2	〃	2
			B_TEA217619	指揮法Ⅱ	1	2	〃	
		音楽理論・作曲法（編曲を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	B_TEA107615	和声Ⅰ（作曲・編曲）	2	1	〃	12
			B_TEA107615	和声Ⅱ	2	1	〃	
			B_TEA107620	音楽史Ⅰ	2	1	〃	
			B_TEA107620	音楽史Ⅱ	2	1	〃	
			B_TEA207620	音楽史Ⅲ	2	2	〃	
			B_TEA207620	音楽史Ⅳ	2	2	〃	
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	B_TEA303750	音楽科教育法Ⅰ	2	3	教職課程に関する科目	8	
		B_TEA303750	音楽科教育法Ⅱ	2	3	〃		
		B_TEA303750	音楽科教育法Ⅲ	2	3	〃		
		B_TEA303750	音楽科教育法Ⅳ	2	3	〃		
合 計								34～38

国際文化学部（音楽学科） 高等学校教諭一種免許（音楽）

免許法施行規則に定める 科目の区分		ナンバリング コード	左 記 に 対 応 す る 開 設 科 目					
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		授 業 科 目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	B_TEA117610 ソルフェージュⅠ	1	1	専門教育科目	2	全 体 か ら 更 に 4 単 位
			B_TEA117610 ソルフェージュⅡ	1	1	//		
		声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	B_TEA127671 声楽Ⅰ	3	1	//	2 又は 6	
			B_TEA127671 声楽Ⅱ	3	1	//		
			B_TEA127671 声楽（副）Ⅰ	1	1	//		
			B_TEA127671 声楽（副）Ⅱ	1	1	//		
			B_TEA117674 合唱Ⅰ	1	1	//	2	
			B_TEA117674 合唱Ⅱ	1	1	//		
		器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	B_TEA127632 ピアノⅠ	3	1	//	2 又は 6	
			B_TEA127632 ピアノⅡ	3	1	//		
			B_TEA127632 ピアノ（副）Ⅰ	1	1	//		
			B_TEA127632 ピアノ（副）Ⅱ	1	1	//	4	
			B_TEA217640 合奏（リコーダー）	1	2	//		
			B_TEA237619 伴奏実習Ⅰ	1	3	//		
			B_TEA337619 伴奏実習Ⅱ	1	4	//		
			B_TEA217620 伝統音楽演習	1	3	//		
		指揮法	B_TEA217619 指揮法Ⅰ	1	2	//	2	
			B_TEA217619 指揮法Ⅱ	1	2	//		
		音楽理論・作曲法（編曲を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	B_TEA107615 和声Ⅰ（作曲・編曲）	2	1	//	12	
			B_TEA107615 和声Ⅱ	2	1	//		
			B_TEA107620 音楽史Ⅰ	2	1	//		
			B_TEA107620 音楽史Ⅱ	2	1	//		
			B_TEA207620 音楽史Ⅲ	2	2	//		
			B_TEA207620 音楽史Ⅳ	2	2	//		
			B_TEA127618 作曲Ⅰ	3	1	//		
			B_TEA127618 作曲Ⅱ	3	1	//		
			B_TEA307618 創作・編曲法	2	3	//		
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	B_TEA303750 音楽科教育法Ⅰ	2	3	教職課程に関する科目	4	
			B_TEA303750 音楽科教育法Ⅱ	2	3	//		
			B_TEA303750 音楽科教育法Ⅲ	2	3	//		
	B_TEA303750 音楽科教育法Ⅳ		2	3	//			
合 計							34～38	

別表第3 大学が独自に設定する科目

中学校教諭一種免許・高等学校教諭一種免許

免許法施行規則に定める 科目の区分	ナンバリング コード	左記に対応する開設科目				
		授業科目	単位	年次 配当	所 属	最低修得 単位数
大学が独自に設定する科目	B_TEA200170	学習指導と学校図書館	2	2	司書教諭課程	教職課程 履修規程 第3条第 3項参照
	B_TEA200170	読書と豊かな人間性	2	2	//	
	B_TEA333761	離島教育の理解と体験的活動	2	3	教職課程に関する科目	
	B_TEA103617	地域創生Ⅰ	2	1	共通教育科目 経営学科専門教育科目	
	B_TEA103617	地域創生Ⅱ	2	1	//	
	B_TEA103336	地域から世界へ	2	1	共通教育科目	

別表第4 教育の基礎的理解に関する科目等

中学校教諭一種免許・高等学校教諭一種免許

免許法施行規則に定める科目区分等				ナンバリング コード	左記に対応する開設科目		最低修得単位数				
区分	科目	各科目に含めることが必要な事項	最低修得 単位数				中学校		高等学校		計
					必修	選択	必修	選択			
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	B_TEA203750	教育原理	2	2		2	2	
		・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		B_TEA203750	教職概論	2	2		2	2	
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		B_TEA203750	学校の制度	2	2		2	2	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		B_TEA203714	教育心理学	2	2		2	2	
		・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		B_TEA303780	特別支援教育論	3	2		2	2	
		・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		B_TEA303750	教育課程論	3	2		2	2	
		第四欄		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳の理論及び指導法	中10 高8	B_TEA203750	道徳教育の指導法	3	2	
・総合的な学習（探究）の時間の指導法	B_TEA303750		特別活動・総合的な学習の時間		3		2		2		
・特別活動の指導法											
・教育の方法及び技術	B_TEA303750		教育の方法及び技術（情報通信技術の活用を含む）		3		2		2		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。
・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法											
・生徒指導の理論及び方法	B_TEA303752		生徒・進路指導論		3		2		2		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を含む。
・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	B_TEA303752		学校教育相談		3		2		2		
・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法											
第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	中5 高3	B_TEA333750	教育実習Ⅰ	4	5			中 5 高 3	
			B_TEA333750	教育実習Ⅱ	4			3			
		教職実践演習	2	B_TEA313750	教職実践演習（中・高）	4	2		2	2	
			中27 高23			合 計		中 29 高 25		中29 高25	

注）「中学校教諭」又は「中学校教諭及び高校教諭」の免許を取得する場合は、「教育実習Ⅰ」の単位を修得しなければなりません。「高校教諭」の免許のみ取得の場合は、「教育実習Ⅱ」の単位を修得してください。

以下の科目については、卒業指定科目として登録できます。なお、卒業所要単位として登録を希望する場合は、指定する期日までに「卒業指定科目等登録願」を必ず提出してください。また、「卒業指定科目等登録願」は提出した年度のみ有効です。

教育原理	教職概論	学校の制度
教育心理学	教育課程論	教育の方法及び技術（情報通信技術の活用を含む）

(10) 教職課程履修細則

第1条 教職課程履修規程第5条により、教職課程の履修に関する細則を次のとおり定める。

第2条 教職課程を履修できる者は、教育職員免許法及び本学学則の定めるところにより、本学学生及び科目等履修生とする。

第3条 本学教職課程の履修によって取得できる教育職員免許状は、次のとおりである。（音楽学科の場合）

学 部	学 科	免 許 状 の 種 類	
		免 許 状	免許教科
国 際 文 化 学 部	音 楽 学 科	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	音 楽
		高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	音 楽

第4条 教育職員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法、同法施行規則及び学則に従い、所定の単位を修得しなければならない。

2 中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状に係る教職課程に関する科目において開設される「教育原理」「教職概論」「学校の制度」「教育心理学」「教育課程論」及び「教育の方法及び技術（情報通信技術の活用を含む）」の修得単位は、所定の手続きを経て卒業に必要な単位に算入することができる。

第5条 削 除

第6条 教職課程は、第2年次から履修できるが、第4年次からの履修は認めない。

ただし、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状の教職課程を履修できる者は、次の要件をみたした者でなければならない。

- (1) 第2年次から履修する者は、1年次終了までに卒業所要単位を37単位以上修得し、修得した全科目の平均点が75点以上の者。
- (2) 第3年次から履修する者は、2年次終了までに卒業所要単位を78単位以上修得し、修得した全科目の平均点が75点以上の者。
- (3) 編入学生の場合は編入学前に修得した卒業所要単位全科目の平均点が75点以上の者。

第7条 「教育実習（幼・小）」（幼稚園・小学校の免許状を取得する者。）を履修できる者は、原則として次の別表1に掲げる教職課程に関する科目の単位を修得した者でなければならない。「教育実習Ⅰ」（中学校の免許状を取得する者。高等学校の免許状を併せて取得する者を含む。）又は、「教育実習Ⅱ」（高等学校の免許状を取得する者。）を履修できる者は、次の別表2に掲げる教職課程に関する科目の単位を修得し、実習を実施する教科において、本学で定める教科に関する専門的事項の最低修得単位数の半数以上の単位数を修得した者でなければならない。

（別表1）（略）

（別表2）（音楽学科の場合）

教 職 課 程 に 関 す る 科 目	
中学音楽	高校音楽
教育原理	教育原理
教職概論	教職概論
教育心理学	教育心理学
音楽科教育法Ⅰ	音楽科教育法Ⅰ
音楽科教育法Ⅱ	音楽科教育法Ⅱ

2 （略）

- 3 1, 2 項の条件をみたした者であっても当該年度に卒業の見込みがない者は「教育実習（幼・小）」、「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」及び「特別支援教育実習」の履修を認めない。
- 4 1, 2, 3 項の条件をみたした者であっても「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」, 「特別支援教育実習」履修資格認定時までの教職課程履修期間中に、学則第41条の規定に基づき懲戒処分を受けた者については、「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」, 「特別支援教育実習」の履修を認めないことがある。
- 5 （略）

第8条 第6条及び前条の要件をみたさない者でも教職課程履修者として適当と思われる者については選考のうえ、履修を認めることがある。

- 2 交換留学生及び認定留学生については留学制度の主旨を尊重し、留学終了後の履修認定について特別に配慮することがある。

第9条 第7条及び第8条に基づき、一旦「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」, 「特別支援教育実習」の履修を認められた者であっても、以下に示す事由により、実習校での実習を中止し且つ当該科目の履修を取り消すことがある。

- (1) 当該科目の実習事前指導の講義に、特別な理由なく、欠席・遅刻する者。
- (2) 教育実習にかかわる説明会に、特別な理由なく、欠席・遅刻する者。
- (3) 教育実習に耐えうる健康状態にないと判断される者。
- (4) 実習校での実習中に、実習生として著しく相応しくない言動があった者。
- (5) 第7条及び第8条に基づく当該科目履修資格認定後、学則第41条の規定に基づき、懲戒処分を受けた者。
- (6) その他、教育実習の実施に特別な支障がある場合。

第10条 （略）

第11条 「教職実践演習」は、履修予定年度の前期成績発表時までに「教育実習（幼・小）」（児童学科）, 「教育実習Ⅰ」（児童学科以外の学生）, 「教育実習Ⅱ」（児童学科以外の学生）の単位を修得した者、又は履修予定年度後期に同時に「教育実習（幼・小）」, 「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」の単位を修得する予定の者のみが履修できる。ただし、履修年度後期に「教育実習（幼・小）」, 「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」の単位修得予定者がその単位を修得できなかった場合、同時期に履修する「教職実践演習」は履修取り消し、又は評価「無効」とする。

第12条 教職課程履修希望者は、履修費を納入しなければならない。

また、「教育実習（幼・小）」, 「教育実習Ⅰ」, 「教育実習Ⅱ」及び「特別支援教育実習」を履修する者、介護等体験を行う者は、所定の期日までに次の表に掲げる実習費を納入しなければならない。

（別表）納 入 金（音楽学科以外は略）

区 分	金 額
教 職 課 程 履 修 費	10,000円
教育実習費（教育実習Ⅰ）	18,000円
教育実習費（教育実習Ⅱ）	12,000円
介 護 等 体 験 費	実 費

第13条 履修費・実習費等は、どのような理由があっても返金しない。

[地域人材育成プログラム（音楽学科）]

地域人材育成プログラムは、地域に貢献できる人材を育成するために実施している教育プログラムです。詳細は P42を参照してください。

	科目名	ナンバリング コード	授業科目	単位 数	年次 配当	所属	プログラム修 了所要単位数	
(1)	地域志向科目	B_GEN103617	地域創生Ⅰ	2	1	共通教育科目	2	合計16単位 (③参照)
		B_GEN103617	地域創生Ⅱ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN103336	地域から世界へ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN110000	かごしま教養プログラム	2	1	共通教育科目		
		B_GEN110000	かごしまフィールドスクール	2	1	共通教育科目		
		B_GEN102100	Japanology	2	1	共通教育科目		
		B_GEN100000	教養特講Ⅰ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN100000	教養特講Ⅱ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN100000	教養特講Ⅲ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN100000	教養特講Ⅳ	2	1	共通教育科目		
		B_GEN236070	国内インターンシップ	2	2	共通教育科目		
(2)	キャリアデザイン科目	B_GEN236070	海外インターンシップ	3	2	共通教育科目	2	
		B_GEN116070	コミュニケーション力育成	2	1	共通教育科目		
		B_GEN206070	論理的思考と数的処理	2	2	共通教育科目		
(3)	地域人材育成科目	B_GEN216070	キャリア形成のための文章力育成	2	3	共通教育科目	4	
		B_MUS207607	音楽教育研究Ⅰ	2	2	専門教育科目		
		B_MUS207607	音楽教育研究Ⅱ	2	2	専門教育科目		
		B_MUS217620	伝統音楽演習	1	3	専門教育科目		
		B_MUS317607	合唱指導法Ⅰ	1	3	専門教育科目		
		B_MUS317607	合唱指導法Ⅱ	1	3	専門教育科目		
		B_MUS317607	吹奏楽指導法Ⅰ	1	3	専門教育科目		
(4)	地域フィールド演習 (①参照)	B_MUS317607	吹奏楽指導法Ⅱ	1	3	専門教育科目	8	
		B_MUS310027	演習Ⅰ	2	3	専門教育科目		
		B_MUS310027	演習Ⅱ	2	3	専門教育科目		
		B_MUS327632	ピアノⅢ	3	2	専門教育科目		
		B_MUS327632	ピアノⅣ	3	2	専門教育科目		
		B_MUS427632	ピアノⅤ	3	3	専門教育科目		
		B_MUS427632	ピアノⅥ	3	3	専門教育科目		
		B_MUS327630	管弦打楽器Ⅲ	3	2	専門教育科目		
		B_MUS327630	管弦打楽器Ⅳ	3	2	専門教育科目		
		B_MUS427630	管弦打楽器Ⅴ	3	3	専門教育科目		
		B_MUS427630	管弦打楽器Ⅵ	3	3	専門教育科目		
		B_MUS327671	声楽Ⅲ	3	2	専門教育科目		
		B_MUS327671	声楽Ⅳ	3	2	専門教育科目		
		B_MUS427671	声楽Ⅴ	3	3	専門教育科目		
		B_MUS427671	声楽Ⅵ	3	3	専門教育科目		
		B_MUS327618	作曲Ⅲ	3	2	専門教育科目		
		B_MUS327618	作曲Ⅳ	3	2	専門教育科目		
		B_MUS427618	作曲Ⅴ	3	3	専門教育科目		
		B_MUS427618	作曲Ⅵ	3	3	専門教育科目		

(履修上の注意事項)

- ①音楽学科は「地域フィールド演習」の中から、地域へ還元する演奏会の企画・運営等のフィールドワークを行った科目を認定します。
- ②3年次前期終了までに(1)～(3)（8単位）と地域フィールド演習としての授業科目（4単位）を修得した学生に対し、「地域人材育成プログラム修了見込証明書」を発行します。
- ③最低取得単位数（合計16単位）を修得した学生に対し、卒業時に「地域人材育成プログラム修了証」を申請に基づいて授与します。詳しくは、産学官地域連携センターに相談してください。

看護学部

(1) 看護学部

看護学部は、看護学を発展させるための専門的な教育研究を行い、あらゆるいのちに思いやりと関心を持ち、その尊厳を護りつつ、倫理的・科学的態度を基に、人々の健康的な暮らしの実現に向けて、看護できる人材を養成することを目的とする。

(2) ディプロマ・ポリシー

(知識・技能)

DP1 いのちについて多角的にとらえ検討して説明できる。

DP2 対象を地域で暮らす人として全人的にとらえて説明できる。

(思考・判断・表現)

DP3 様々な健康レベルにある対象の生活・健康状態を根拠に基づいて判断する能力が身についている。

DP4 対象から信頼される関係を築くことができる。

DP5 対象の健康課題を解決する能力が身についている。

(関心・意欲・態度)

DP6 対象の尊厳を護る態度が身についている。

DP7 地域包括ケアチームにおいて保健師と看護師の役割を統合した看護の専門性を発揮し、協働できる能力が身についている。

DP8 よりよい看護実践に意欲と関心をもち、グローバルな視点を基に探究し続ける姿勢が身についている。

(総合的な看護実践能力)

DP9 その人らしい地域での暮らしを支えることができる。

DP10 生活に密着した予防活動を行うことができる。

DP11 健康課題の解決を手助け、支援することができる。

DP12 生活機能の回復・維持を手助け、支援することができる。

DP13 健康的な生活をチームで支えることができる。

DP14 国際・地域社会のニーズの変化に対応し、生涯を通して自己を高めることができる。

(3) カリキュラム・ポリシー

CP1 人材養成を基に、保健師と看護師の役割を統合して果たせる看護職を養成するためのカリキュラムの主要概念を「いのち」「人間」「暮らし」「健康」「看護」とし、教育科目を設定する。

CP2 全開設科目を、看護構想、看護実践コア、看護実践能力育成、看護探究の科目群に分類し、体系的に編成する。

CP3 1～2年次には、キャリア教育を含む幅広い総合的な内容からなる共通教育科目とともに、主要概念に基づく看護構想科目群を主体的に学び、豊かな人間性を有する自律した医療人としての基礎を育む構成とする。

CP4 学生が看護職としての専門性を築きつつ、着実に看護実践能力を修得できるように、学生の意欲・関心を起点とし、それらを拡大発展できるように授業科目を配置する。

CP5 初年次から、「生活機能援助論」を開講し、看護への関心を専門職としての知識・スキル・態度の修得に方向づけ、主体的な学習態度を修得できるように配置する。

CP6 「生活機能援助論」は、基礎看護技術と専門領域の技術を統合して教授する。そして、対象の健康状態や出現症状を適切にアセスメントし、援助技術を考案・実施・評価することにより、どのような場においても対象に必要な援助を自ら判断し提供できる看護実践能力を育む構成とする。

CP7 看護実践能力育成科目群は、保健師と看護師の役割を統合して果たせる実践能力を育成するために、対象の健康レベルを枠組みとして、健康な人を対象とする健康増進看護、健康障害を有する人を対象とする健康回復看護、さらに長期療養を必要とする人を対象とする長期療養生活看護として編成する。また、多職種とのチームケア能力を育むために他学部学生と学ぶ時間を設けた地域包括チームケア論や災害支援論などの発展科目も配置する。

CP8 実習では、最初に「既修得理論・技術」の学習の時間を設ける。また、実習後には、実習内容を整理・統合する「実践と理論の統合」の時間を設け、看護の役割の明確化と自覚を高めるとともに、自身の看護実践を説明可能なものとしてできるように構成する。

CP9 初年次から、多文化について学び国際的視野を養うとともに、「暮らし探索フィールドワーク」等により人々の地域での暮らしに関心をもてるようにし、社会に貢献する看護を様々な視点から探究する「卒業研究」に発展できるように編成する。

(4) アドミッション・ポリシー

(知識・技能)

AP1 看護学を学ぶ上で必要な基礎学力及び対人関係能力を有する人。

(思考力・判断力・表現力)

AP2 身近な問題を多角的・論理的に考え、説明できる人。

AP3 自身の体験したことを振り返り、他者が理解できるように説明できる人。

(関心・意欲・態度)

AP4 いのちをとうとび、はぐくみ、つなぐことに関心をもち、これを専門的に学ぶことに意欲のある人。

AP5 看護に必要な知識、スキル、態度を身につけることに熱心で、それらを発展させる意欲のある人。

AP6 地域に愛着をもち、地域のよりよい医療看護の発展に貢献したい意欲のある人。

看護学科

- (1) 看護学科の目的

看護学科は、いのちをとうとび、はぐくみ、つなぐことを基本姿勢とし、人々が地域において健康的な暮らしを営めるように、よりよい健康課題の解決法を探究しつつ取り組むことができる看護職を養成することを目的とする。
- (2) ディプロマ・ポリシー

(知識・技能)
DP1 いのちについて多角的にとらえ検討して説明できる。
DP2 対象を地域で暮らす人として全人的にとらえて説明できる。
(思考・判断・表現)
DP3 様々な健康レベルにある対象の生活・健康状態を根拠に基づいて判断する能力が身についている。
DP4 対象から信頼される関係を築くことができる。
DP5 対象の健康課題を解決する能力が身についている。
(関心・意欲・態度)
DP6 対象の尊厳を護る態度が身についている。
DP7 地域包括ケアチームにおいて保健師と看護師の役割を統合した看護の専門性を発揮し、協働できる能力が身についている。
DP8 よりよい看護実践に意欲と関心をもち、グローバルな視点を基に探究し続ける姿勢が身についている。
(総合的な看護実践能力)
DP9 その人らしい地域での暮らしを支えることができる。
DP10 生活に密着した予防活動を行うことができる。
DP11 健康課題の解決を手助け、支援することができる。
DP12 生活機能の回復・維持を手助け、支援することができる。
DP13 健康的な生活をチームで支えることができる。
DP14 国際・地域社会のニーズの変化に対応し、生涯を通して自己を高めることができる。
- (3) カリキュラム・ポリシー

CP1 人材養成像を基に、保健師と看護師の役割を統合して果たせる看護職を養成するためのカリキュラムの主要概念を「いのち」「人間」「暮らし」「健康」「看護」とし、教育科目を設定する。
CP2 全開設科目を、看護構想、看護実践コア、看護実践能力育成、看護探究の科目群に分類し、体系的に編成する。
CP3 1～2年次には、キャリア教育を含む幅広い総合的な内容からなる共通教育科目とともに、主要概念に基づく看護構想科目群を主体的に学び、豊かな人間性を有する自律した医療人としての基礎を育む構成とする。
CP4 学生が看護職としての専門性を築きつつ、着実に看護実践能力を修得できるように、学生の意欲・関心を起点とし、それらを拡大発展できるように授業科目を配置する。
CP5 初年次から、「生活機能援助論」を開講し、看護への関心を専門職としての知識・スキル・態度の修得に方向づけ、主体的な学習態度を修得できるように配置する。
CP6 「生活機能援助論」は、基礎看護技術と専門領域の技術を統合して教授する。そして、対象の健康状態や出現症状を適切にアセスメントし、援助技術を考案・実施・評価することにより、どのような場においても対象に必要な援助を自ら判断し提供できる看護実践能力を育む構成とする。
CP7 看護実践能力育成科目群は、保健師と看護師の役割を統合して果たせる実践能力を育成するために、対象の健康レベルを枠組みとして、健康な人を対象とする健康増進看護、健康障害を有する人を対象とする健康回復看護、さらに長期療養を必要とする人を対象とする長期療養生活看護として編成する。また、多職種とのチームケア能力を育むために他学部学生と学ぶ時間を設けた地域包括チームケア論や災害支援論などの発展科目も配置する。
CP8 実習では、最初に「既修得理論・技術」の学習の時間を設ける。また、実習後には、実習内容を整理・統合する「実践と理論の統合」の時間を設け、看護の役割の明確化と自覚を高めるとともに、自身の看護実践を説明可能なものとするように構成する。
CP9 初年次から、多文化について学び国際的視野を養うとともに、「暮らし探索フィールドワーク」等により人々の地域での暮らしに関心をもてるようにし、社会に貢献する看護を様々な視点から探究する「卒業研究」に発展できるように編成する。
- (4) アドミッション・ポリシー

(知識・技能)
AP1 看護学を学ぶ上で必要な基礎学力及び対人関係能力を有する人。
(思考力・判断力・表現力)
AP2 身近な問題を多角的・論理的に考え、説明できる人。
AP3 自身の体験したことを振り返り、他者が理解できるように説明できる人。
(関心・意欲・態度)
AP4 いのちをとうとび、はぐくみ、つなぐことに関心をもち、これを専門的に学ぶことに意欲のある人。
AP5 看護に必要な知識、スキル、態度を身につけることに熱心で、それらを発展させる意欲のある人。
AP6 地域に愛着をもち、地域のよりよい医療看護の発展に貢献したい意欲のある人。

カリキュラムマップ(看護学科)

学部横断科目

学修成果評価の重要科目

総合実践能力評価の重要科目

* () は国際看護・保健に関するコマ数を示す

【人材養成像】いのちをとうとび、はぐくみ、つなぐことを基本姿勢とし、人々が地域において健康的な暮らしを営めるように、よりよい健康課題の解決法を探究しつつ取り組むことができる看護職

カリキュラム・ポリシー		主要概念	科目群	1年次		2年次		3年次		4年次		ディプロマ・ポリシー						
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
CP9 初年次から、多文化について学び国際的視野を養うとともに、「暮らし探索フィールドワーク」等により人々の地域での暮らしに関心をもてるようにし、社会に貢献する看護を様々な視点から探究する「卒業研究」に発展できるように編成します。		看護	看護探究科目	共通教育科目 新入生ゼミナール		暮らし探索 フィールドワーク						DP8(関心・意欲・態度) よりよい看護実践に意欲と関心をもち、グローバルな視点を基に探究し続ける姿勢が身についている。						
共通教育科目(再編) 【人間教養科目】 日本文学 外国文学 音楽文化論 日本史 西洋史 東洋史 東西文化の交流 地域創生Ⅰ・Ⅱ Japanology 地域から世界へ かごしま教養プログラム かごしまフィールドスクール 海外インターンシップ 【コミュニケーションスキルズ科目】 英語オール・コミュニケーションⅠ・Ⅱ 英語海外研修 英語リーディング 英語ライティング 英文読解の技法 Global Economy and Business 基礎中国語Ⅰ・Ⅱ 基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ 基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ 基礎韓国語Ⅰ・Ⅱ 韓国語海外研修				専門基礎科目(再編) 地域社会論(前) まちづくり概論(前) 地域経済論 環境経済論Ⅰ(前) 環境経済論Ⅱ 文化人類学(前) 日本史特論 鹿児島県の歴史(前)		看護研究		卒業研究Ⅰ		卒業研究Ⅱ								
				健康増進看護総論Ⅰ(再編) * (2)		健康増進ケア論Ⅰ(再編) * (1)		健康増進ケア論Ⅲ(再編) * (2) 健康増進ケア論Ⅳ(再編) * (2)		卒業研究Ⅱ				看護キャリア発達論 * (4)				
CP8 実習では、最初に「既得理論・技術」の学習の時間を設けます。また、実習後には、実習内容を整理・統合する「実践と理論の統合」の時間を設け、看護の役割の明確化と自覚を高めるとともに、自身の看護実践を説明可能なものとするように構成します。										地域包括チームケア論 災害支援論				看護管理論	看護統合演習			
CP7 看護実践能力育成科目群は、保健師と看護師の役割を統合して果たせる実践能力を育成するために、対象の健康レベルを枠組みとして、健康な人を対象とする健康増進看護、健康障害を有する人を対象とする健康回復看護、さらに長期療養を必要とする人を対象とする長期療養生活看護として編成します。また、多職種とのチームケア能力を育むために他学部学生と学ぶ時間を設けた地域包括チームケア論や災害支援論などの発展科目も配置します。						成人健康回復ケア論Ⅰ 成人健康回復ケア総論 成人老年健康回復ケア総論 精神・在宅健康回復ケア総論		成人健康回復ケア論Ⅱ 成人健康回復ケア論 老年健康回復ケア論 精神健康回復ケア論 在宅健康回復ケア論		長期療養生活看護総論				長期療養生活ケア論				
CP6 「生活機能援助論」は、基礎看護技術と専門領域の技術を統合して教授します。そして、対象の健康状態や出現症状を適切にアセスメントし、援助技術を考案・実施・評価することにより、どのような場においても対象に必要な援助を自ら判断し提供できる看護実践能力を育む構成とします。						健康回復過程論 Ⅰ急性・回復期・治療過程における看護 Ⅱ人生最期のとき・外来通院 Ⅲリハビリ期・慢性期の看護 Ⅳ療養の看護		健康回復看護総論		健康増進ケア論 成人健康回復ケア論Ⅲ 成人老年健康回復ケア論Ⅲ 精神健康回復ケア論Ⅲ				健康増進ケア論Ⅴ 成人健康回復ケア論Ⅳ 成人老年健康回復ケア論Ⅳ 精神健康回復ケア論Ⅳ		健康増進ケア論Ⅵ 成人健康回復ケア論Ⅴ 成人老年健康回復ケア論Ⅴ 精神健康回復ケア論Ⅴ		
CP5 初年次から、「生活機能援助論」を開講し、看護への関心を専門職としての知識・スキル・態度の修得に方向づけ、主体的な学習態度を修得できるように配置します。						健康増進看護総論 Ⅰ地域保健 Ⅱ成人保健 Ⅲ成人老年保健 Ⅳ精神保健		健康増進ケア論 Ⅰ地域保健看護活動の基礎 Ⅱ対象の発達段階に応じた地域看護活動 Ⅲ健康課題の特性に応じた地域看護活動 Ⅳ学校・産業保健活動		健康増進ケア論Ⅶ 成人健康回復ケア論Ⅵ 成人老年健康回復ケア論Ⅵ 精神健康回復ケア論Ⅵ				健康増進ケア論Ⅷ 成人健康回復ケア論Ⅶ 成人老年健康回復ケア論Ⅶ 精神健康回復ケア論Ⅶ		健康増進ケア論Ⅷ 成人健康回復ケア論Ⅷ 成人老年健康回復ケア論Ⅷ 精神健康回復ケア論Ⅷ		
CP4 学生が看護職としての専門性を築きつつ、着実に看護実践能力を修得できるように、学生の意欲・関心を起点とし、それらを拡大発展できるように授業科目を配置します。						生活機能援助論 Ⅰ：安全をまもる機能 Ⅱ：生きるを支える機能 Ⅲ：食物・水分摂取を支える機能 Ⅳ：排便・排泄を支える機能 Ⅴ：動くを支える機能 Ⅵ：休むと情報交換を支える機能 Ⅶ：子どもを産み育てることを支える機能 Ⅷ：救命救急・診療の補助 Ⅷ：在宅展開・事例展開		看護展開 基礎実習 看護展開基礎論		健康増進ケア論Ⅷ 成人健康回復ケア論Ⅷ 成人老年健康回復ケア論Ⅷ 精神健康回復ケア論Ⅷ				健康増進ケア論Ⅷ 成人健康回復ケア論Ⅷ 成人老年健康回復ケア論Ⅷ 精神健康回復ケア論Ⅷ		健康増進ケア論Ⅷ 成人健康回復ケア論Ⅷ 成人老年健康回復ケア論Ⅷ 精神健康回復ケア論Ⅷ		
CP3 1～2年次には、キャリア教育を含む幅広い総合的な内容からなる共通教育科目とともに、主要概念に基づく看護構想科目群を主体的に学び、豊かな人間性を有する自律した医療人としての基礎を育む構成とします。						看護学概論 援助関係論		家族看護論 看護倫理		健康増進ケア論Ⅷ 成人健康回復ケア論Ⅷ 成人老年健康回復ケア論Ⅷ 精神健康回復ケア論Ⅷ				健康増進ケア論Ⅷ 成人健康回復ケア論Ⅷ 成人老年健康回復ケア論Ⅷ 精神健康回復ケア論Ⅷ		健康増進ケア論Ⅷ 成人健康回復ケア論Ⅷ 成人老年健康回復ケア論Ⅷ 精神健康回復ケア論Ⅷ		
CP2 全開設科目を、看護構想、看護実践コア、看護実践能力育成、看護探究の科目群に分類し、体系的に編成します。						看護への招待 いのちと看護		人間と看護		暮らしと看護				健康と看護		健康増進ケア論Ⅷ 成人健康回復ケア論Ⅷ 成人老年健康回復ケア論Ⅷ 精神健康回復ケア論Ⅷ		
CP1 人材養成像を基に、保健師と看護師の役割を統合して果たせる看護職を養成するためのカリキュラムの主要概念を「いのち」「人間」「暮らし」「健康」「看護」とし、教育科目を設定します。						看護への招待 いのちと看護		人間と看護		暮らしと看護				健康と看護		健康増進ケア論Ⅷ 成人健康回復ケア論Ⅷ 成人老年健康回復ケア論Ⅷ 精神健康回復ケア論Ⅷ		
アドミッション・ポリシー					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目		
					看護実践能力育成科目	看護実践コア科目		看護実践能力育成科目		看護実践能力育成科目				看護実践				

看護学部 看護学科

大学で提供される科目は、大きくは共通教育科目と専門教育科目によって構成されています。それぞれに配当されている科目を指定条件をもとに履修し、卒業所要単位を修得することで卒業することができます。

看護学科の卒業要件は、看護師国家試験受験資格と保健師国家試験受験資格の取得要件にもなっています。所定の年限で2つの国家試験受験資格を取得し、卒業（看護学士の称号取得）するためには、看護学科の全体のカリキュラム（教育課程）の組み立てをよく理解して、計画的に科目を履修していく必要があります。

1 看護学科のカリキュラムの組み立て

看護学科の人材養成像は、『いのちをとうとび、はぐくみ、つなぐことを基本姿勢とし、人々が地域において健康的な暮らしを営めるように、よりよい健康課題の解決法を探究しつつ取り組むことができる看護職』です。この人材養成像は、養成する看護職の基本姿勢と看護実践能力に焦点を当てて表しています。それは、これからの時代に必要とされる看護人材は、「保健師だから」あるいは「看護師だから」ということにとらわれることなく、人々が住み慣れた地域で健康的な暮らしを営めるようにするための健康課題を的確に判断し、よりよい解決法を探究、考案し、その解決に取り組んでいける、保健師と看護師の役割を統合して果たせる看護職が必要になると考えるからです。

そこで、保健師と看護師の役割を統合して果たせる看護職を養成するためのカリキュラムの主要概念を、人材養成像を基に「いのち」「人間」「暮らし」「健康」「看護」とし、それらに関する専門的知識・スキル・態度を修得できるように看護学科の教育科目を設定しています。そして、それらの全開設科目を、4年間かけて、体系的に学べるように、「看護構想科目群」「看護実践コア科目群」「看護実践能力育成科目群」「看護探究科目群」に分類し、全体のカリキュラムを組み立てています。

各科目群の定義は、表1に示しています。

表1 看護学科開設科目の体系化のための科目群の定義

名称	定義
看護構想科目群	豊かな人間性を養う幅広く多角的な教養教育内容から成る共通教育科目の学びを通して、いのち・人間・暮らしにかかわる洞察力・理解力を養う。また、地域で生活する個人・家族・集団・組織など、人々の暮らしと健康を支える社会的仕組み、いのちの営み、様々な健康現象を理解するための専門基礎科目の学びを通して、看護の対象を地域で暮らす人として全人的にとらえ、看護するための基礎的能力を養う。そして、それらの学びを基に看護とはどのような行為であるかを探究、洞察し、自身の看護をとらえる視点と看護観を生み出す源となる看護職としての根底となる考え方を身に付け、看護学部の教育課程を構成する各科目の意味を理解し、主体的な学びを展開する能力を養う専門科目である看護導入科目によって構成される。
看護実践コア科目群	様々な、健康レベル・ライフステージ・生活地域・状況にある看護の対象の尊厳をまもり、対象から信頼される関係を基盤にして、生活・健康状態について、根拠をもって判断し、対象の望むよりよい健康状態とQOLの向上を実現するという普遍的看護を実践するためのコアとして機能する知識、技術、態度とともに、それらを実践する基礎的能力を養う科目から構成される。
看護実践能力育成科目群	保健師と看護師の役割を統合して果たせる実践能力を育成する科目を、対象の健康レベルを基に、健康増進看護、健康回復看護、長期療養生活看護に編成している。これらの学修により、様々なライフステージ（全世代）、生活地域（離島、へき地、都市部など）、状況（日常、災害時など）にある対象（個人、集団）の特性を的確に把握・判断し、普遍的看護を、それらの特性を踏まえて具体的・個別的に展開する実践力を育成する科目によって構成される。

看護探究科目群	実践科学である看護を常により良いものへと発展させ、人々の健康と福祉に貢献できるものにするために、看護の対象理解、看護実践、看護キャリア開発などについて、自ら探究的に取組み、生涯を通して看護を発展させていくための課題探究力と探究姿勢を育成する科目から構成される。
---------	--

また、それらを4年間で段階的に学べるように、初年次には〈看護構想科目群〉を主として学び、社会人、看護職としての豊かな人間性の基盤を築けるようにしています。それと並行して、初年次から看護の専門科目である〈看護実践コア科目群〉を履修し、どのような対象にも、看護を提供する際に一貫して果たすべきコアとなる普遍的看護について学びます。そして、〈看護実践能力育成科目群〉では、普遍的看護を、対象（個人、集団）の有する様々な、健康レベル（健康増進⇔健康回復⇔長期療養）・ライフステージ（全世代）・生活地域（離島、へき地、都市部など）・状況（日常、災害時など）の特性に応じて看護展開するための諸理論を学修し、その後の実習において対象と援助関係を築きながら、理論を実際に活用し個別・具体化を図りながら看護展開する方法を学びます。一方、〈看護探究科目群〉では、1～4年次の全教育課程を通して、国際的視野でものを考え、地域に根差した活動をめざすグローバルな視点と行動力を獲得し、健康課題の解決のためのよりよい看護を探究しつつ取り組む課題探究力と探究姿勢を育むための科目を学びます。

以上のように看護学科の教育カリキュラムは、開設科目を履修することによって、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に示すDP1～DP8と【総合的な看護実践能力】のDP9～DP14に示す保健師と看護師の役割を統合して果たせる看護実践能力を有する看護職に成長できるように体系的、そして段階的に編成されています。

看護学科の全体のカリキュラムの組み立てを、図1に示しています。あなたが履修する1つ1つの科目のすべては、人材養成像に示す看護職に成長していくための課題を達成する重要な科目になっています。シラバスに示された授業の到達目標とディプロマ・ポリシーとの関連を十分に理解して、主体的に学修に取り組みましょう。

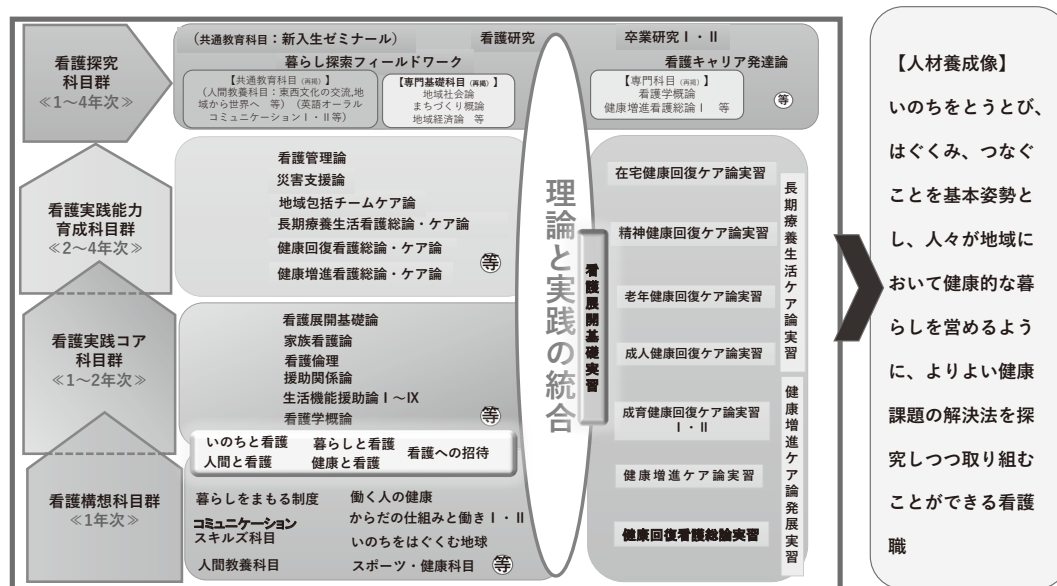


図1 看護学科のカリキュラムの組み立て

それでは、各科目群の教育内容を確認し、的確な履修計画を立てましょう。

2 看護構想科目群

(1) 共通教育科目

大学に入学した皆さんが所属する学部・学科を問わず、まず重点的に履修しなければならないのが共通教育科目です。その全学的なねらいは、①大学で学ぶための基礎的な知識と技能を育成し、②将来の人生設計を構想し(キャリアデザイン)、③各自の専攻分野への関心を深めていくことの3つです。

以上を基に、鹿児島国際大学では、多彩で幅広い共通教育科目が多数開講されています。看護学科の学生もこれらの履修により、自身を取り巻く様々な環境や社会現象、人々の暮らしを多角的に捉える視点と深く洞察する力を養い、教養を備えた豊かな人間性、そして看護職の基盤となる生命尊重と人々の健康で幸福な生活に貢献しようとする姿勢を育めるようにしています。

〈共通教育科目の履修科目を決定するために〉

看護学科の共通教育科目のほとんどは、1年次に坂之上キャンパスで開講されます。そのため、2年次以降、伊敷キャンパスを拠点として学ぶ看護学科の学生は、共通教育科目については、1年次に所定の単位を修得できるように履修計画を立てて下さい。

共通教育科目のうち伊敷キャンパスで開講されるのは、基礎科目の「新入生ゼミナール」の1科目だけです。

看護学科の必修科目となっていますので必ず履修登録をし、履修して下さい。

坂之上キャンパスで開講される基礎科目の「情報処理」は必修科目、「データサイエンス・AI入門」は履修指定科目となっています。また、人間教養科目では「日本国憲法」、コミュニケーションスキルズ科目では「英語オーラル・コミュニケーションⅠ」「英語オーラル・コミュニケーションⅡ」、さらにスポーツ・健康科目では「現代社会とスポーツ」が、必修科目になっています。これらの必修科目と履修指定科目の『授業内容(シラバス)』を十分に読んで、どのようなことを学ぶのかを理解し、時間割表の開講曜日と時限を確認して、優先的に履修登録をして下さい。

看護学科の共通教育科目の卒業所要単位数は18単位以上となっています。上記以外の科目については、関心のある科目の『授業内容(シラバス)』を熟読して、卒業所要単位数の条件を満たすように履修計画を立ててください。

なお、共通教育科目の中には、受講者数に制限があり事前登録をしないと履修できないものがあります。「事前登録科目表」を確認し、履修希望の科目が該当していれば指定日に登録を行い、履修できることを確認してから、履修登録を行って下さい。

(2) 専門教育科目の専門基礎科目

看護学科の専門教育科目は、専門基礎科目と専門科目から構成されています。そのうち専門基礎科目は、看護構想科目群に位置付けられています。専門基礎科目は、看護の専門科目を理解するために必要不可欠となる人々の暮らしと健康を支えるいのちの営み、社会的仕組み、様々な健康現象を理解するための重要な科目によって編成されています。

専門基礎科目のうち、**坂之上キャンパスで開講されるものは、開設科目一覧に○印がついています。それらについても、2年次以降**、伊敷キャンパスで学ぶ看護学科学生は履修が困難となりますので、1年次に卒業所要単位数の条件を満たすように優先的に履修計画を立ててください。

また、主要概念の【人間】【暮らし】について学ぶ科目の多くは、他学部の専門教育科目なのですが、看護職としての基盤づくりに非常に価値ある科目であることをご理解いただき看護学科の学生も受講できるようにしていただいています。そのため、「社会心理学(30人)」「地域社会論(20人)」「まちづくり概論(20人)」については、()に示す人数のみが受講可能です。**必ず「事前登録科目表」を参照し、指定日に事前登録をして、履修できることを確認してから、履修登録をして下さい。**

一方、専門基礎科目のうち、**開設科目一覧で○印のついていない科目は、すべて伊敷キャンパスで開講されます。**そのほとんどは、看護師国家試験と保健師国家試験の受験資格を取得するために修得しておかなければならない学修内容を含みます。各科目のシラバスに示されている授業の到達目標が、ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)とどのように関連するかをシラバスで確認し、それらの科目を履修する意味を十分に理解して、確実に修得できるようにしてください。

(3) 専門教育科目の専門科目（看護導入科目）

専門科目のうち看護導入科目の5科目は、看護構想科目群に位置付けられています。それらは、「いのちと看護」「人間と看護」「暮らしと看護」「健康と看護」「看護への招待」で、共通教育科目と専門基礎科目で学んできた「いのち」「人間」「暮らし」「健康」についての学修成果を基にして、看護とはどのような行為であるかを探究、洞察し、自身の看護をとらえる視点と看護観を生み出す源となる考え方を築けるようにしています。そして自身の看護観を基に、看護学科で学ぶ各科目を何故学ぶ必要があるのかを十分に検討、理解し、それらの学修に自律的な姿勢で取り組めるようになることを期待しています。この姿勢は、看護の専門職として成長していくために必要不可欠なものですので、全専門科目を学ぶ過程においてしっかりと身につけられるようにしていきます。

看護構想科目群の構造を表2に示しました。

表2 看護構想科目群の構造

< 看護構想科目群 >			
看護学科共通教育科目			
基礎科目	新入生ゼミナール (1)	人間教養科目	人文科学 (10)
	数理・データサイエンス・AI (3)		社会科学 (6)
			自然科学 (4)
	キャリアデザイン (7)		地域志向 (11)
コミュニケーション スキルズ科目	英語 (9)	スポーツ・健康科目	講義 (2)
	第二外国語 (9)		演習 (5)
看護学科専門教育科目			
専門基礎科目		専門科目：看護導入科目名	
いのち (2)		看護への招待	
人 間 (6)		いのちと看護	
暮らし (7)		人間と看護	
		暮らしと看護	
健 康 (16)		健康と看護	

3 看護実践コア科目群

看護実践コア科目群は、看護の専門科目のうち、どのような状態にある対象であっても、看護職として一貫して示すべき普遍的な姿勢、そして果たすべき普遍的看護実践について学修する科目によって構成されています。それらは、対象がどのような健康状態、発達段階、生活地域、状況にあるとしても、看護を展開する際には必ず貫かれるべき普遍的看護、つまり『対象の尊厳をまもり、対象から信頼される関係を築き、対象の健康課題を根拠をもって判断し、対象の望むよりよい健康状態と QOL 向上の実現に向けて取り組む』際に、コアとして機能する知識、技術、態度を獲得できるようにするための科目から構成されています。また、それらを実践する基本的な看護展開の仕方を実習により学びます。

看護実践コア科目群において学ぶ普遍的看護は、その後の看護実践能力育成科目群の学修を行う際の根幹となる学修内容となっていますので、確実に身につけられるように努めてください。

看護実践コア科目群は、すべて伊敷キャンパスで開講されます。そして、全科目が看護師国家試験と保健師国家試験の受験資格を取得するために修得しなければならない重要な科目です。各科目のシラバスに示されている授業の到達目標を把握し、それらがディプロマ・ポリシー（学位授与方針）とどのように関連するのかをシラバスで確認し、履修意義を十分に理解して、確実に修得できるようにしてください。

看護実践コア科目群として編成されている科目は、表3の通りです。

表3 看護実践コア科目群の科目

＜看護実践コア科目群＞		
専門科目		
看護学概論	援助関係論	看護倫理
生活機能援助論		
I.安全をまもる機能	II.生きるを支える機能	III.食物・水分摂取を支える機能
IV.排便・排尿を支える機能	V.動くを支える機能	VI. 休むと情報交換を支える機能
VII.子どもを産み育てることを支える機能		VIII. 救命救急・診療の補助
IX.在宅展開・事例展開		
家族看護論	看護展開基礎論	看護展開基礎実習

4 看護実践能力育成科目群

看護実践能力育成科目群では、看護の専門科目のうち、対象の有する様々な特性を把握・判断し、それらに応じた普遍的看護を個別、具体化して実践するための、専門的知識、技術、態度を修得する科目によって構成されています。また、それらを実際に活用し看護展開する能力を獲得できるように実習を行います。

これらの学修に当たっては、本看護学科が保健師と看護師の役割を統合して果たせる看護職の養成を教育目的としていることから、健康から不健康に至るあらゆる健康レベルの人を看護できるように体系化しています。つまり、健康レベルを枠組みとして、健康な人を対象とする〈健康増進看護〉、健康障害を有する人を対象とする〈健康回復看護〉、長期療養生活を必要とする人を対象とする〈長期療養生活看護〉として編成しています。

そして、普遍的看護を、健康な対象、健康障害を有する対象、長期療養の必要な対象に展開する基本的な看護の考え方と方法論は、『総論』の科目で学びます。次いで、対象の健康レベルに応じた看護を、ライフステージや生活地域、状況等の特性を把握・判断して、個別、具体的に展開する方法について、『ケア論』で学びます。

これらに加えて、〈健康回復看護〉では、健康障害の回復過程に伴う看護を『健康回復過程論』で、また成育・成人・老年・精神・在宅における〈健康回復看護〉の展開において必要となる特徴的な理論や考え方を『概論』で学びます。そして、理論的学修内容を各『ケア論』に活用して、具体的に看護展開する方法を『ケア論実習』を通して学び、看護実践能力を獲得できるように編成しています。

以上により、看護実践の基本構造は、普遍的看護を、対象の健康レベル、ライフステージ、生活地域、状況等に伴う特性を的確に把握・判断し、それらを基に個別・具体化して、提供するということを、理論と実践の統合を図りつつ学びます。

さらに、看護実践能力育成科目群には、看護実践能力を獲得するためにそれまで修得してきた知識・スキル・態度の全学修成果を結集して取り組む【統合科目】が含まれます。〈長期療養生活看護〉は、健康障害や事故などにより長期の療養生活を必要とする人を対象とすることから、スピリチュアルな側面の洞察及びそれまでの学びを総結集した看護実践が求められることから、【統合科目】に位置付けています。同様に、「健康増進看護ケア論発展実習」も、それまでの全ての学びを統合、発展させて、集団や組織に対して働きかける実習であることから【統合科目】としています。また、地域における健康課題を他学部の学生とともに学び、その解決法をチームで検討し、創出することをねらいとする「地域包括チームケア論」と「災害支援論」も、【統合科目】として編成されています。

看護実践能力育成科目群は、すべて伊敷キャンパスで開講されます。そして、全科目が看護師国家試験と保健師国家試験の受験資格を取得するために修得しなければならない非常に重要な科目となっています。各科目のシラバスに示された授業の到達目標とディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連を必ず確認、検討して、到達目標の達成に努めてください。

看護実践コア科目群として編成されている科目は、表4の通りです。

表4 看護実践能力育成科目群

＜看護実践能力育成科目群＞			
専門科目			
健康 健康レベル 不健康			
『健康増進看護』	『健康回復看護』	『長期療養生活看護』	
健康増進看護総論Ⅰ：地域保健	健康回復看護総論	長期療養生活看護総論	
健康増進看護総論Ⅱ：成育保健	健康回復過程論Ⅰ ：急性・回復期・治療過程における看護		
健康増進看護総論Ⅲ：成人老年保健	健康回復過程論Ⅱ ：リハビリ期・慢性期の看護		
健康増進看護総論Ⅳ：精神保健	健康回復過程論Ⅲ ：人生の最期のとき・外来通院期の看護		
健康増進ケア論Ⅰ ：地域保健看護活動の基礎	成育健康回復ケア概論 成人老年健康回復ケア概論 精神・在宅健康回復ケア概論	長期療養生活ケア論	
健康増進ケア論Ⅱ ：対象の発達段階に応じた地域看護活動	成育健康回復ケア論Ⅰ・Ⅱ		
健康増進ケア論Ⅲ ：健康課題の特性に応じた地域看護活動	成人健康回復ケア論 老年健康回復ケア論		
健康増進ケア論Ⅳ ：学校・産業保健活動	精神健康回復ケア論 在宅健康回復ケア論		
健康増進ケア論実習 (健康増進ケア論発展実習)	健康回復看護総論実習 成人健康回復ケア論実習 精神健康回復ケア論実習	成育健康回復ケア論実習Ⅰ・Ⅱ 老年健康回復ケア論実習 在宅健康回復ケア論実習	長期療養生活ケア論実習
『統合科目』			
『長期療養生活看護』（再掲）		発展	
長期療養生活看護総論 長期療養生活ケア論 長期療養生活ケア論実習		健康増進ケア論発展実習	
		看護管理論 看護統合演習	
		学部横断科目	地域包括チームケア論 災害支援論

5 看護探究科目群

看護探究科目群では、実践科学である看護を常により良いものへと発展させ、人々の健康と福祉に貢献できるものにするために、看護の対象理解、看護実践、看護キャリア開発などに、自ら探究的に取り組み、生涯にわたり看護を発展させていく姿勢と実践力を育成する科目を学びます。

常によりよい看護を探究し続ける課題探究力と探究姿勢の基盤には、国際的視野でものを考え、地域に根差した活動をめざすグローバルな視点と行動力の獲得が求められます。そこで、グローバルな視点と行動力の育成に関連する「共通教育科目」と他学部の専門教育科目のうち看護学部学生が受講可能な「専門基礎科目」の一部を看護探究科目群の科目として再掲し編成しています。これらは、すべて1年次に坂之上キャンパスで学びます。

看護の専門科目では、地域におけるフィールドワークや国際看護や国際保健についての学修を通して、グローバルな視点から対象の地域での暮らしを検討し、支援できるように編成しています。そして、対象のより健康的な暮らしをケアする看護の質を高める研究方法について学び、4年次の卒業研究において一連の研究活動を実践し、課題探究力と探究姿勢を獲得できるようにしています。さらに、常によりよい看護を探究し続けるためには、生涯にわたって学び続ける姿勢が必要であることから、自身の生涯にわたるキャリア発達を検討し、展望できるようにする「看護キャリア発達論」についても学びます。これらは、すべて伊敷キャンパスで学び、看護師、保健師国家試験受験資格の取得に関わる重要な科目となっています。

看護探究科目群として編成されている科目は、表5の通りです。

表5 看護探究科目群

＜看護探究科目群＞			
共通教育科目（再掲）			
〔人間教養科目〕 日本文学 外国文学 音楽文化論 日本史 西洋史 東洋史 東西文化の交流 地域創生Ⅰ・Ⅱ Japanology 地域から世界へ かがしま教養プログラム かがしまフィールドスクール 海外インターンシップ			
〔コミュニケーションスキルズ科目〕 英語オーラル・コミュニケーションⅠ・Ⅱ 英語海外研修 英語リーディング 英語ライティング 英文読解の技法 Global Economy and Business 基礎中国語Ⅰ・Ⅱ 基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ 基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ 基礎韓国語Ⅰ・Ⅱ 韓国語海外研修			
専門基礎科目（再掲）			
地域社会論 文化人類学	まちづくり概論 日本史特論	地域経済論 鹿児島県の歴史	環境経済論Ⅰ・Ⅱ
専門科目			
（共通教育科目：新生ゼミナール）	暮らし探索フィールドワーク	看護学概論（再掲）＊（2）	
健康増進看護総論Ⅰ（再掲）＊（2）	健康増進ケア論Ⅰ（再掲）＊（1）	健康増進ケア論Ⅲ（再掲）＊（2）	
健康増進ケア論Ⅳ（再掲）＊（2）	看護研究	卒業研究Ⅰ	
卒業研究Ⅱ	看護キャリア発達論＊（4）		

6 実習について

(1) 実習の組み立て

看護学科の実習は、学内で学んだ知識・技術・態度を基に、看護の対象と自宅、地域、保健・医療施設、各種機関等において、対象を尊重した関わりを行うことによって援助関係を構築し、健康の保持・増進・健康障害予防、健康障害の種類と回復過程に応じた看護を展開できる実践能力を育成することを目的として実施します。

看護学科の実習の編成にあたっては、その前段階として、フィールドワークによって、人々の地域における暮らしや健康な生活について学修できるようにしています。そして、それらを基盤にして、4段階の実習が設定されています（図2参照）。

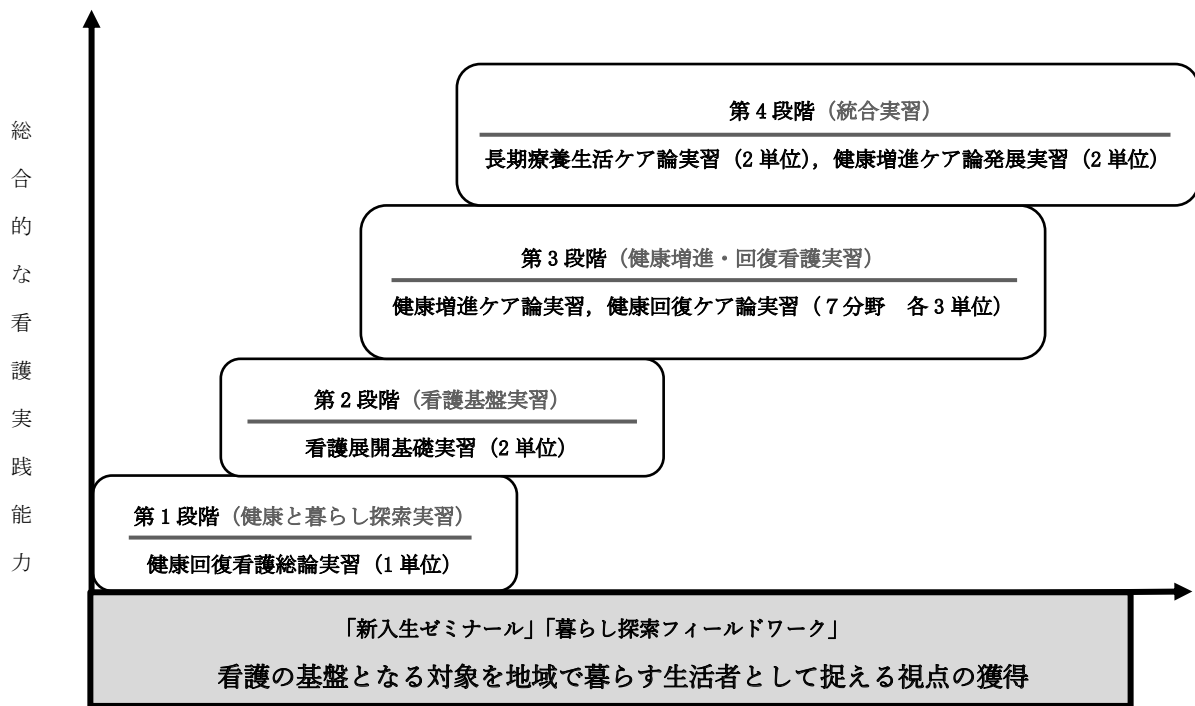


図2 実習の段階的設定

第1段階では、健康障害によって地域における人々の暮らしがどのように脅かされるのかを、外来受診や入院している対象と関わり学びます。第2段階では、対象がどのような状態であっても一貫して実践すべき普遍的看護展開の仕方を学修します。第3段階では、普遍的看護を対象の健康レベル、ライフステージ、生活地域、状況などの特性を把握・判断し、それらを基に個別・具体的に看護を展開する方法を学びます。第4段階では、既修得の全学修成果を統合して取り組む看護展開の仕方を学べるように編成しています。4段階の実習内容は表6の通りです。

表6 段階別実習内容

段階	実習の内容	実習科目
第1段階 (健康と暮らし探索実習)	健康障害によって地域における暮らしが脅かされている状況にある人たちと関わり、健康障害の発症が人々に及ぼす影響を深く、多角的に検討、理解し、看護職が果たすべき役割を自覚できるようになることを目指す。	〈看護実践能力育成科目群〉 【健康回復看護】 健康回復看護総論実習（1単位）
第2段階 (看護基盤実習)	普遍的看護実践を構成する知識・技術・態度に関する学修成果を統合し、臨地において療養生活を送る対象を受け持ち、そのケアニーズに「気づく」「解釈する」「反応する」「省察する」の4つのフェーズを通して実際にケアを実施し、それにより援助関係もまた進展することを理解し、看護実践の基本的展開法を学習する。	〈看護実践コア科目群〉 看護展開基礎実習（2単位）

第3段階 (健康増進・回復看護実習)	様々な健康レベルの対象と関わり、そのライフステージ、生活地域、状況の特性をアセスメントし、個別・具体的な看護を展開する仕方を7分野の実習を通して学習する。そして普遍的看護を対象の特性に応じて個別・具体化する看護実践法を身に付ける。また、その時その場で対象に必要な看護を提供することによって信頼関係を深め螺旋的に援助関係を発展させながら看護を発展させる看護の基本構造を理解する。さらに、よりよい看護提供を目指した課題探究姿勢の獲得、チーム支援の実践について学ぶ。	〈看護実践能力育成科目群〉 【健康増進看護】 健康増進ケア論実習（3単位） 【健康回復看護】 成育健康回復ケア論実習Ⅰ（3単位） 成育健康回復ケア論実習Ⅱ（3単位） 成人健康回復ケア論実習（3単位） 老年健康回復ケア論実習（3単位） 精神健康回復ケア論実習（3単位） 在宅健康回復ケア論実習（3単位）
第4段階 (統合実習)	既修得の全学修成果を活用、統合して取り組むことが必要とされる長期療養生活を送る対象を支援する看護の実践とそれらを組織として提供する看護管理の在り方について学ぶ。また、産業保健や学校保健など、組織における健康維持増進のための看護活動の実践について学ぶ。	(統合科目) 【長期療養生活看護】 長期療養生活ケア論実習（2単位） (統合科目) 【健康回復看護】 健康増進ケア論発展実習（2単位）

以上の4段階の実習を履修することによって、ディプロマ・ポリシーに示す総合的な看護実践能力を獲得できるように設定しています。

【総合的な看護実践能力】

DP9 その人らしい地域での暮らしを支えることができる。

DP10 生活に密着した予防活動を行うことができる。

DP11 健康課題の解決を手助け、支援することができる。

DP12 生活機能の回復・維持を手助け、支援することができる。

DP13 健康的な生活をチームで支えることができる。

DP14 国際・地域社会のニーズの変化に対応し、生涯を通して自己を高めることができる。

(2) 実習の履修要件

各段階の実習は、実習以外の講義・演習等の学修進度も踏まえて、順序性に従って実施されるため、各学年による進級条件を満たし、かつ以下の要件を満たさなければ、履修することはできません。

(1) 各実習の既修内容となる必修科目を履修し、単位を修得していること

(2) 実習計画における前段階の必修の実習科目を履修し、単位を修得していること

◆第1段階（健康と暮らし探索実習）（2年次6月開講）

科目名	区分	単位修得科目
健康回復看護総論実習	看護構想科目	いのちをはぐくむ地球、地球で生きるいのち、からだの仕組みと働きⅠ、からだの仕組みと働きⅡ、代謝と栄養、からだの異常と発生メカニズム、感染と防御、からだの異常の診断技術、働く人の健康 いのちと看護、看護への招待
	看護実践コア科目	看護学概論 援助関係論
	看護実践能力育成科目	健康増進看護総論Ⅰ：地域保健 健康増進看護総論Ⅱ：成育保健 健康増進看護総論Ⅲ：成人老年保健 健康増進看護総論Ⅳ：精神保健
	看護探究科目	暮らし探索フィールドワーク

◆第2段階（看護基盤実習）（2年次9月開講）

科目名	区分	単位修得科目
看護展開基礎実習	看護構想科目	薬理学、健康障害とその治療Ⅰ、健康障害とその治療Ⅱ、健康障害とその治療Ⅲ、保健統計学、疫学、健康をまもる法律、保健医療福祉行政論、人間と看護
	看護実践コア科目	看護展開基礎論 生活機能援助論Ⅰ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅲ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅳ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅴ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ：休むと情報交換を支える機能
	看護実践能力育成科目	健康回復看護総論 健康回復看護総論実習 健康増進ケア論Ⅰ：地域保健看護活動の基礎

◆第3段階（健康増進・回復看護実習）（3年次4月～12月開講）

◇各分野実習に共通する科目

科目名	区分	単位修得科目
健康増進ケア論実習 成育健康回復ケア論実習Ⅰ 成育健康回復ケア論実習Ⅱ 成人健康回復ケア論実習 老年健康回復ケア論実習 精神健康回復ケア論実習 在宅健康回復ケア論実習	看護構想科目	生涯発達論、医療情報活用論、暮らしをまもる制度、健康障害とその治療Ⅳ、暮らしと看護、健康と看護
	看護実践コア科目	看護倫理、家族看護論、 生活機能援助論Ⅶ：子どもを産み育てることを支える機能 生活機能援助論Ⅷ：救命救急・診療の補助 生活機能援助論Ⅸ：在宅展開・事例展開、看護展開基礎実習
	看護実践能力育成科目	健康回復過程論Ⅰ：急性一回復期・治療過程における看護 健康回復過程論Ⅱ：リハビリ期・慢性期の看護 健康回復過程論Ⅲ：人生の最期のとき・外来通院期の看護 健康回復看護総論実習
	看護探究科目	看護研究

◇各分野実習に関連する科目

科目名	区分	単位修得科目
健康増進ケア論実習	看護実践能力育成科目	健康増進ケア論Ⅱ：対象の発達段階に応じた地域看護活動 健康増進ケア論Ⅲ：健康課題の特性に応じた地域看護活動 健康増進ケア論Ⅳ：学校・産業保健活動
成育健康回復ケア論実習Ⅰ		成育健康回復ケア概論、成育健康回復ケア論Ⅰ
成育健康回復ケア論実習Ⅱ		成育健康回復ケア論Ⅱ
成人健康回復ケア論実習		成人老年健康回復ケア概論、成人健康回復ケア論
老年健康回復ケア論実習		成人老年健康回復ケア概論、老年健康回復ケア論
精神健康回復ケア論実習		精神・在宅健康回復ケア概論、精神健康回復ケア論
在宅健康回復ケア論実習		精神・在宅健康回復ケア概論、在宅健康回復ケア論

◆第4段階（統合実習）（4年次前期開講）

科目名	区分	単位修得科目
長期療養生活ケア論実習	看護実践能力育成科目	長期療養生活看護総論、地域包括チームケア論、災害支援論、看護管理論、長期療養生活ケア論 3年次の実習全科目（健康増進ケア論実習、成育健康回復ケア論実習Ⅰ、成育健康回復ケア論実習Ⅱ、成人健康回復ケア論実習、老年健康回復ケア論実習、精神健康回復ケア論実習、在宅健康回復ケア論実習）
健康増進ケア論発展実習		

(3) 実習を履修する上での留意点

看護職として成長するためには、実習はなくてはならない学修様式です。皆さんが目指す看護師国家試験、及び保健師国家試験では、知識と判断力の双方が求められます。また、広範囲な問題が出題されます。そのため、国家試験前の集中的な学習だけではとても対応することはできません。

学内で学んだ知識や技術を、実習の場において、実際に確認したり、活用することを通して、実感する学び、あるいは身につける学びとなるように努め、確実に専門的知識と判断力を獲得することが必要不可欠です。そのために、各実習の開始時と、終了時には、既修得の学びの振り返りの時間と実習において学んだことを統合する時間を設定しています。

実習でなければ修得できない学びの機会を有効活用し、4段階で設定された実習を着実に履修し、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示された保健師と看護師の役割を統合して果たすことができる看護職ならではの看護実践能力の獲得に取り組んでください。それが、看護師国家試験、保健師国家試験の合格に繋がります。

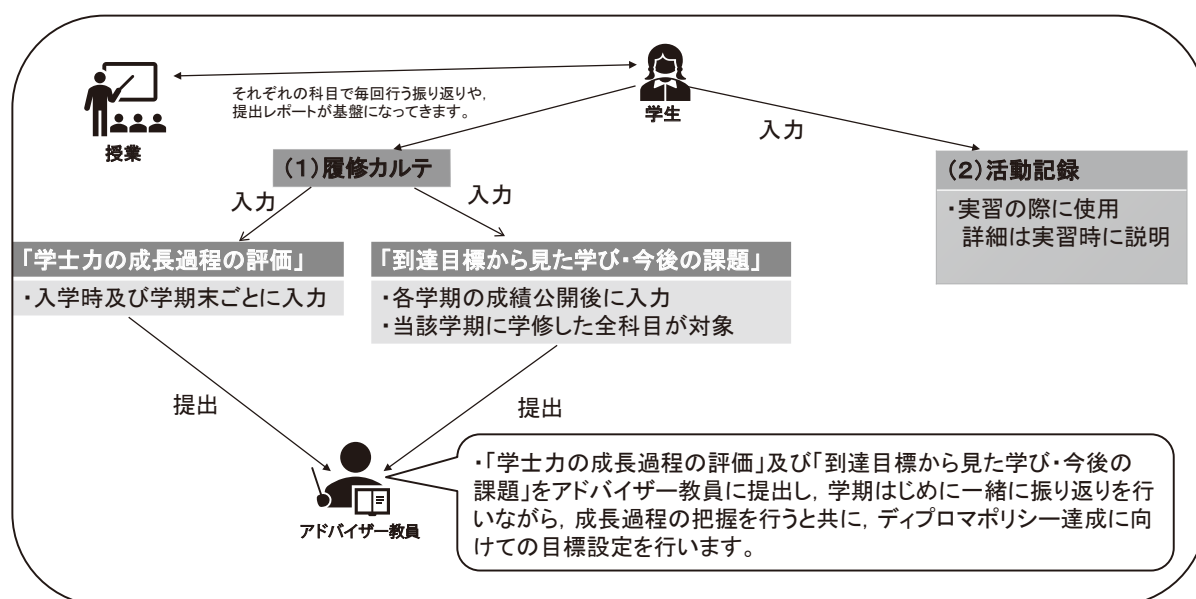
7 学修の統合について

みなさんは看護学科の教育カリキュラムに沿って科目を履修してくことになりますが、ディプロマ・ポリシーを達成するためには、学修内容をどのように積み上げ、統合していくかが大切になります。看護学科では、自分自身の学びの状況や課題を明確化し、可視化するための方法としてLCUのポートフォリオ機能を活用しながら教員と共に振り返りを行い、学修内容の統合を行っていきます。

(1) LCU の活用について

学修ポートフォリオには、「学修成果」「活動記録」「成績ダッシュボード」「履修カルテ」等の機能があります。看護学科では、学修ポートフォリオ機能の「履修カルテ」「活動記録」を主に使用していきます（下図参照）。

LCUの学修ポートフォリオについて



「履修カルテ」では、「学士力の成長過程の評価」を入学時及び学期末ごとに行っていくほか、履修科目ごとの「到達目標から見た学び・今後の課題」を明確化していきます。「到達目標から見た学び・今後の課題」を明確化するためには、それぞれの科目で毎回行う振り返りや、提出レポート等が基盤になってきますので、科目担当教員が教授する内容に沿って学修をすすめてください。また「課外活動等の状況」では、課外活動等で体験したことや学びを自由に記載していきます。大学生活で経験する様々な体験は、将来や今後の進路を考えるきっかけにもなりますので、経験したことを意味あるものにするために積極的に活用していきましょう。

「活動記録」では、実習でお会いする対象との出会いや、どのような体験をしたかを記載することで、自分自身の学びを振り返れるようにしていくものです。実習の際に使用していきますので、具体的な記載方法については実習時に指示します。

(2) 前・後期ごとの学生と教員によるポートフォリオ評価

看護学科では、学年毎に担任教員がいますが、より細やかな支援をするためにアドバイザー教員を配置しており、そのアドバイザー教員とは、学期毎に面談等を行いながら振り返りを行います。アドバイザー教員との振り返りを行うために、学生はまず学期末に自分自身で各科目の学修状況の振り返りを行い、「履修カルテ」の「到達目標から見た学び・今後の課題」を記載します。次に、当該学期に学修した全科目の学修成果をポートフォリオとして整理し、ディプロマ・ポリシーにおける達成度を評価することで、次学期における課題を明確化します。また、入学時と学期末に行う学士力の成長過程の評価もあわせて行います。それらを基に、学期はじめにアドバイザー教員との振り返りを行いながら、成長過程の把握を行うと共に、ディプロマ・ポリシー達成に向けての今学期の目標設定を行います。このように、看護学科では、学生が学期はじめにアドバイザー教員と目標設定を行うことで、学生が主体的にディプロマ・ポリシーを達成し、卒業できるようにサポートしていきます。

8 養護教諭二種免許状の取得について

看護学部看護学科での養護教諭二種免許状取得については、保健師免許取得後、都道府県の教育委員会に申請することで授与されます。

申請時に保健師免許の原本とコピーの提出が必要となるため、保健師免許が発行されたあとに二種免許状を申請するようにしましょう。

〈保健師の資格を持つ人の養護教諭二種免許状取得に必要な修得科目〉

「教育職員免許法施行規則第66条の6」において、以下の4科目8単位の修得が必要とされています。本学科ではすべて卒業要件単位として必修科目に指定されているためあらためて修得する必要はありません。

免許法施行規則に定める科目及び単位数		左記に対応する開設科目				
科目名	単位数	授業科目	単位	年次配当	所属	最低修得単位数
日本国憲法	2	日本国憲法	2	1	共通教育科目	2
体育	2	現代社会とスポーツ	2	1	//	2
外国語コミュニケーション	2	英語オーラル・コミュニケーションⅠ	1	1	//	2
		英語オーラル・コミュニケーションⅡ	1	1	//	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報処理	2	1	//	2
合計						8

9 第一種衛生管理者免許の取得について

看護学部看護学科での第一種衛生管理者免許の取得については、保健師免許取得後、労働基準監督署や都道府県労働局に免許を申請することで授与されます。ただし、都道府県によって異なる場合がありますので、具体的な手続きは「都道府県労働局」に問い合わせてください。

衛生管理者とは

企業・地方自治体等において安全で衛生的な環境を整え労働者の健康管理を行う者です。50名以上の従業員を雇用している企業は必ず衛生管理者を選任する事が労働安全衛生法で決められています。

看護学科共通教育科目

科目区分			主要 概念	ナンバリング コード	授業科目	単位	配当 年次	キャンパス 区分	時間 数	卒業所要単位数		
基礎科目	新入生ゼミナール		暮らし	B_GEN110027	新入生ゼミナール	2	1		30	2単位	共通教育科目合計18単位以上	
	数理・データサイエンス・AI			B_GEN100076	データサイエンス・AI 入門	2	1	○	30	履修指定 (注)参照		
				B_GEN100076	情報処理	2	1	○	30	2単位		
				B_GEN104170	確率と統計	2	1	○	30			
	キャリアデザイン		人 間	B_GEN116070	コミュニケーション力育成	2	1	○	30			
				B_GEN106070	キャリア形成のための一般教養Ⅰ	2	1	○	30			
				B_GEN106070	キャリア形成のための一般教養Ⅱ	2	1	○	30			
				B_GEN206070	キャリア形成のための一般教養Ⅲ	2	3	○	30			
				B_GEN206070	キャリア形成のための一般教養Ⅳ	2	3	○	30			
				B_GEN206070	論理的思考と数的処理	2	2	○	30			
暮らし			B_GEN216070	キャリア形成のための文章力育成	2	3	○	30				
			人文科学		人 間	B_GEN109100	日本文学	2	1	○		30
B_GEN109300	外国文学	2				1	○	30				
B_GEN107620	音楽文化論	2				1	○	30				
B_GEN102100	日本史	2				1	○	30				
B_GEN102300	西洋史	2				1	○	30				
B_GEN102200	東洋史	2				1	○	30				
B_GEN102090	東西文化の交流	2				1	○	30				
B_GEN101000	哲学	2				1	○	30				
B_GEN101500	倫理学	2				1	○	30				
B_GEN101401	心理学	2				1	○	30				
社会科学		暮らし	B_GEN103210	法学	2	1	○	30				
			B_GEN103231	日本国憲法	2	1	○	30	2単位			
			B_GEN103110	政治学	2	1	○	30				
			B_GEN103310	経済学	2	1	○	30				
			B_GEN103610	社会学	2	1	○	30				
			B_GEN102901	地理学	2	1	○	30				
自然科学		暮らし	B_GEN104100	数学Ⅰ	2	1	○	30				
			B_GEN104100	数学Ⅱ	2	1	○	30				
		いのち	B_GEN104600	生命科学	2	1	○	30				
			B_GEN104680	環境科学	2	1	○	30				
地域志向		暮らし	B_GEN103617	地域創生Ⅰ	2	1	○	30				
			B_GEN103617	地域創生Ⅱ	2	1	○	30				
		人 間	B_GEN102100	Japanology	2	1	○	30				
			B_GEN103336	地域から世界へ	2	1	○	30				
		暮らし	B_GEN110000	かごしま教養プログラム	2	1	○	30				
			B_GEN110000	かごしまフィールドスクール	2	1	○	30				
			B_GEN133697	ボランティア活動	2	1	○	90				
			B_GEN236070	海外インターンシップ	3	2	○	75				
		人 間	B_GEN100000	教養特講Ⅰ	2	1	○	30				
			B_GEN100000	教養特講Ⅱ	2	1	○	30				
		暮らし	B_GEN100000	教養特講Ⅲ	2	1	○	30				
			コミュニケーションスキルズ科目		人 間	B_GEN128311	英語オーラル・コミュニケーションⅠ	1	1	○		30
		B_GEN128311				英語オーラル・コミュニケーションⅡ	1	1	○	30		
		B_GEN138300				英語海外研修	2	1	○	90		
B_GEN128377	英語リーディング	1				1	○	30				
B_GEN128360	英語ライティング	1				1	○	30				
コア		B_GEN108375				英文読解の技法	2	1	○	30		
		B_GEN108300				TOEIC・TOEFL 対策	2	1	○	30		
		B_GEN118350				コミュニケーションのための英文法	2	1	○	30		
		B_GEN118378				Global Economy and Business	2	1	○	30		
関連		B_GEN128200				基礎中国語Ⅰ	1	1	○	30		
		B_GEN128200				基礎中国語Ⅱ	1	1	○	30		
		B_GEN128500				基礎フランス語Ⅰ	1	1	○	30		
		B_GEN128500				基礎フランス語Ⅱ	1	1	○	30		
第二外国語		中国語				B_GEN128400	基礎ドイツ語Ⅰ	1	1	○	30	
						B_GEN128400	基礎ドイツ語Ⅱ	1	1	○	30	
		フランス語				B_GEN128291	基礎韓国語Ⅰ	1	1	○	30	
						B_GEN128291	基礎韓国語Ⅱ	1	1	○	30	
		ドイツ語				B_GEN138291	韓国語海外研修	2	1	○	90	
			韓国語									

共通教育科目合計18単位以上

科目区分		主要 概念	ナンバリング コード	授業科目	単位	配当 年次	キャンパ ス区分	時間 数	卒業所要単位数	
スポーツ・健康科目	講義	健 康	B_GEN107801	日常生活に生かすスポーツ科学	2	1	○	30	2単位	
			B_GEN107801	現代社会とスポーツ	2	1	○	30		
	実習		B_GEN127800	スポーツ実習Ⅰ（屋内集団球技）	1	1	○	30		
			B_GEN127800	スポーツ実習Ⅱ（屋内個人球技）	1	1	○	30		
			B_GEN127800	スポーツ実習Ⅲ（個人種目）	1	1	○	30		
			B_GEN127800	スポーツ実習Ⅳ（屋外個人球技）	1	1	○	30		
			B_GEN127800	スポーツ実習Ⅴ（屋外集団球技）	1	1	○	30		

（注）「データサイエンス・AI入門」は、履修指定とし、配当された年次に全員必ず登録し授業を受けなければならない。
※キャンパス区分の○印が付いている科目は、坂之上キャンパスにて開講いたします。

看護学科専門教育科目

科目区分		主要 概念	ナンバリング コード	授業科目	単位	配当 年次	キャンパス 区分	時間 数	卒業所要単 位数	
専門基礎科目	看護構想科目	いのち	B_NUR104480	いのちをはぐくむ地球	1	1		15	2単位	専門基礎科目32単位以上
			B_NUR104610	地球で生きるいのち	1	1	○	15		
		人 間	B_NUR103711	教育方法学	2	1	○	30	4単位 以上	
			B_NUR203890	文化人類学	2	1	○	30		
			B_NUR203614	社会心理学	2	1	○	30		
			B_NUR202100	日本史特論	2	1	○	30		
			B_NUR202197	鹿児島の歴史	2	1	○	30		
			B_NUR101430	生涯発達論	2	2		30	2単位	
		暮らし	B_NUR103335	地域社会論	2	1	○	30	4単位 以上	
			B_NUR203335	まちづくり概論	2	1	○	30		
			B_NUR203329	地域経済論	2	1	○	30		
			B_NUR205190	環境経済論Ⅰ	2	1	○	30		
			B_NUR205190	環境経済論Ⅱ	2	1	○	30		
			B_NUR104929	医療情報活用論	1	2		15	20単位	
		B_NUR103640	暮らしをまもる制度	1	2		15			
		健 康	B_NUR104911	からだの仕組みと働きⅠ	1	1		30		
			B_NUR104911	からだの仕組みと働きⅡ	1	1		30		
			B_NUR104914	代謝と栄養	1	1		30		
			B_NUR104916	からだの異常と発生メカニズム	1	1		30		
			B_NUR104917	感染と防御	1	1		30		
			B_NUR104921	からだの異常の診断技術	1	1		30		
			B_NUR104915	薬理学	1	2		30		
			B_NUR104929	働く人の健康	1	1		15		
			B_NUR104930	健康障害とその治療Ⅰ	1	2		30		
			B_NUR104930	健康障害とその治療Ⅱ	1	2		30		
			B_NUR104930	健康障害とその治療Ⅲ	1	2		30		
			B_NUR104930	健康障害とその治療Ⅳ	1	2		30		
			B_NUR104980	保健統計学	1	2		30		
			B_NUR104980	疫学	2	2		30		
			B_NUR104981	健康をまもる法律	1	2		30		
			B_NUR104980	保健医療福祉行政論	2	2		30		
	看護導入科目		いのち	B_NUR104929	いのちと看護	1	1		15	
		人 間	B_NUR104929	人間と看護	1	2		15		
		暮らし	B_NUR104929	暮らしと看護	1	2		15		
		健 康	B_NUR104929	健康と看護	1	2		15		
		看 護	B_NUR104929	看護への招待	1	1		30		
	看護実践コア科目	看 護	B_NUR204929	看護学概論	1	1		30		
			B_NUR204929	援助関係論	1	1		30		
			B_NUR204929	看護倫理	1	2		30		
			B_NUR214929	生活機能援助論Ⅰ：安全をまもる機能	1	1		30		
			B_NUR214929	生活機能援助論Ⅱ：生きるを支える機能	1	1		30		
			B_NUR214929	生活機能援助論Ⅲ：食物・水分摂取を支える機能	1	1		30		
			B_NUR214929	生活機能援助論Ⅳ：排便・排尿を支える機能	1	1		30		
			B_NUR214929	生活機能援助論Ⅴ：動くを支える機能	1	2		30		
			B_NUR214929	生活機能援助論Ⅵ：休むと情報交換を支える機能	1	2		30		
B_NUR214929			生活機能援助論Ⅶ：子どもを産み育てることを支える機能	1	2		30			
B_NUR214929			生活機能援助論Ⅷ：救命救急・診療の補助	1	2		30			
B_NUR214929			生活機能援助論Ⅸ：在宅展開・事例展開	1	2		30			
B_NUR204929			家族看護論	1	2		30			
B_NUR204929			看護展開基礎論	1	2		30			
B_NUR234929			看護展開基礎実習	2	2		90			
看護実践能力育成科目	健康増進看護	看 護	B_NUR204929	健康増進看護総論Ⅰ：地域保健	1	1		30		
			B_NUR204929	健康増進看護総論Ⅱ：成育保健	1	1		30		
			B_NUR204929	健康増進看護総論Ⅲ：成人老年保健	1	1		30		
			B_NUR204929	健康増進看護総論Ⅳ：精神保健	1	1		15		
			B_NUR204929	健康増進ケア論Ⅰ：地域保健看護活動の基礎	1	2		30		
			B_NUR204929	健康増進ケア論Ⅱ：対象の発達段階に応じた地域看護活動	1	2		30		
			B_NUR204929	健康増進ケア論Ⅲ：健康課題の特性に応じた地域看護活動	1	2		30		
			B_NUR204929	健康増進ケア論Ⅳ：学校・産業保健活動	1	2		30		
	B_NUR234929	健康増進ケア論実習	3	3		135				
	健康回復看護		B_NUR204929	健康回復看護総論	1	2		30		
			B_NUR204929	健康回復過程論Ⅰ：急性－回復期・治療過程における看護	1	2		30		
			B_NUR204929	健康回復過程論Ⅱ：リハビリ期・慢性期の看護	1	2		30		

科目区分				主要 概念	ナンバリング コード	授業科目	単位	配当 年次	キャンパス 区分	時間 数	卒業所要単 位数
				B_NUR204929	健康回復過程論Ⅲ：人生の最期のとき・外来通院期の看護	1	2		30		
				B_NUR204929	成育健康回復ケア概論	1	2		30		
				B_NUR204929	成人老年健康回復ケア概論	1	2		30		
				B_NUR204929	精神・在宅健康回復ケア概論	1	2		30		
				B_NUR204929	成育健康回復ケア論Ⅰ	1	2		30		
				B_NUR204929	成育健康回復ケア論Ⅱ	1	2		30		
				B_NUR204929	成人健康回復ケア論	1	2		30		
				B_NUR204929	老年健康回復ケア論	1	2		30		
				B_NUR204929	精神健康回復ケア論	1	2		30		
				B_NUR204929	在宅健康回復ケア論	1	2		30		
				B_NUR234929	健康回復看護総論実習	1	2		45		
				B_NUR234929	成育健康回復ケア論実習Ⅰ	3	3		135		
				B_NUR234929	成育健康回復ケア論実習Ⅱ	3	3		135		
				B_NUR234929	成人健康回復ケア論実習	3	3		135		
				B_NUR234929	老年健康回復ケア論実習	3	3		135		
				B_NUR234929	精神健康回復ケア論実習	3	3		135		
				B_NUR234929	在宅健康回復ケア論実習	3	3		135		
					統 合 科 目	長期療養生活 看護	B_NUR304929	長期療養生活看護総論	1		3
	B_NUR304929	長期療養生活ケア論	1				4		30		
	B_NUR304929	長期療養生活ケア論実習	2				4		90		
	発展	B_NUR334929	健康増進ケア論発展実習				2	4			90
		B_NUR304929	看護管理論				1	4			30
		B_NUR314929	看護統合演習				1	4			30
	学部横断 科目	B_NUR304929	地域包括チームケア論			1	3		30		
		B_NUR304929	災害支援論			1	3		30		
		探 究	B_NUR414929			暮らし探索フィールドワーク	1	1			30
			B_NUR404929			看護研究	1	2			30
			B_NUR404929			卒業研究Ⅰ	1	4			30
			B_NUR404929			卒業研究Ⅱ	1	4			30
	B_NUR404929		看護キャリア発達論	1	4		30				
合計										111単位	

※キャンパス区分の○印が付いている科目は、坂之上キャンパスにて開講いたします。

Ⅳ 資格課程等（全学共通）

[司書課程（音楽学科、看護学科を除く）]

本課程は、大学で「司書」の資格が取得できるように設けられたものです。

(1) 単位修得の方法

資格を取得するには、次の表で示されている科目の単位を修得する必要があります。

省令に定める科目		ナンバリング コード	本学における 授業科目	単 位	年次 配当	所 属	備 考
必修	生涯学習概論	B_LIB203790	生涯学習概論	2	2	社会福祉学科・国際文化学科	必修
	図書館概論	B_LIB200107	図書館概論	2	2	司書課程	
	図書館制度・経営論	B_LIB300107	図書館制度・経営論	2	3	//	
	図書館情報技術論	B_LIB200107	図書館情報技術論	2	2	//	
	図書館サービス概論	B_LIB200107	図書館サービス概論	2	2	//	
	情報サービス論	B_LIB300107	情報サービス論	2	3	//	
	児童サービス論	B_LIB200107	児童サービス論	2	2	//	
	情報サービス演習	B_LIB310107	情報サービス演習Ⅰ	2	3	//	
		B_LIB310107	情報サービス演習Ⅱ	2	3	//	
	図書館情報資源概論	B_LIB300107	図書館情報資源概論	2	3	//	
	情報資源組織論	B_LIB200107	情報資源組織論	2	2	//	
	情報資源組織演習	B_LIB310107	情報資源組織演習Ⅰ	2	3	//	
		B_LIB310107	情報資源組織演習Ⅱ	2	3	//	
選択	図書館基礎特論	B_LIB200170	学校経営と学校図書館	2	2	司書課程・司書教諭課程	2科目以上 選択（注）
	図書館サービス特論	B_LIB200170	学習指導と学校図書館	2	2	//	
		B_LIB209090	児童文学	2	1	児童学科	
					1	国際文化学科	
	図書館実習	B_LIB330107	図書館実習	1	3	司書課程	

（注）文部科学省令に定める科目「図書館サービス特論」は、「学習指導と学校図書館」または「児童文学」のいずれか一方の修得により認定する。両方修得しても、2科目を選択したとはみなさない。

以下の科目については、卒業指定科目としても登録できます。

なお、卒業単位として登録を希望する場合は、指定する期日までに「卒業指定科目等登録願」を必ず提出してください。また、「卒業指定科目等登録願」は提出した年度のみ有効です。

図書館概論	図書館制度・経営論	図書館情報技術論
図書館サービス概論	図書館実習	

(2) 履修登録の手続き

司書課程を履修する場合には、履修費を指定する期間に納入してください。また、「図書館実習」を履修する場合は、指定する期間に図書館実習費を納入してください。なお、履修費・実習費等は、どのような理由があっても返金しません。

納 入 金	
区 分	金 額
司書課程履修費	10,000円
図書館実習費	10,000円

〔司書教諭課程（看護学科を除く）〕

本課程は、本学で「司書教諭」の資格を取得できるように設けられたものです。

(1) 基礎資格

司書教諭の資格を取得するためには、基礎資格として、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員免許状のいずれか一つを取得しなければなりません。

(2) 履修資格

本課程を履修できる者は、(1)に定める教員免許状を既に取得している者またはその免許状取得に関する教職課程を履修する本学学生（科目等履修生を含む。）のみです。

(3) 単位修得の方法

資格を取得するためには、次の表で示されている科目の単位を修得する必要があります。

学校図書館司書教諭講習規程の科目（法令上の科目）	単位	ナンバリングコード	本学における授業科目	単位	年次配当	所 属	備考
学校経営と学校図書館	2	B_TLI200170	学校経営と学校図書館	2	2	司書教諭課程	必修
学校図書館メディアの構成	2	B_TLI200170	学校図書館メディアの構成	2	2	//	
学習指導と学校図書館	2	B_TLI200170	学習指導と学校図書館	2	2	//	
読書と豊かな人間性	2	B_TLI200170	読書と豊かな人間性	2	2	//	
情報メディアの活用	2	B_TLI200170	情報メディアの活用	2	2	//	

(4) 履修登録の手続

司書教諭を履修する場合には、履修費を指定する期間に納入してください。

なお、履修費等は、どのような理由があっても返金しません。

納 入 金	
区 分	金 額
司 書 教 諭 課 程 履 修 費	3,000円

* 司書教諭資格の取得について

司書教諭資格は、卒業時に基礎教員免許状（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）を取得し、併せて司書教諭課程の必要単位を修得することで、国立大学等で行っている「学校図書館司書教諭講習」の申込期間（例年6月）に「書類申請」として一括申請します。

その後、国立大学等が文部科学省へ申請を行い、文部科学省から『学校図書館司書教諭講習修了証書』が発行され大学へ届きます。

したがって、司書教諭資格証書（学校図書館司書教諭講習修了証書）は、卒業式の日に授与されるものではありません。

卒業して1年後に『学校図書館司書教諭講習修了証書』が授与されます。

なお、証書は大学へ届き次第、申請者の申し出た住所へ送付します。

司書教諭資格の取得（国立大学等への申請）については、4年生の後期に説明会を行いますので、必ず出席してください。

※在学時に、司書教諭課程の必要単位を修得し、申請することも可能です。

[グローバル英語プログラム]

本プログラムは、英語を用いてのビジネスに将来携わることができる人材の育成を目的に設けられたものです。

(1) 単位の修得方法

グローバル英語プログラムを学修するには、本プログラムに登録し、次の表に示されている科目を履修する必要があります。なお、本プログラムの修了要件を満たした場合は、本プログラムの修了証を授与します。

科目 区分	ナンバリング コード	授業科目	単位	年次 配当	所属	最低修得単位数	
基礎科目	B_GEP103336	地域から世界へ	2	1	共 通 教 育	4 単位 以上	合計16 単位以上
	B_GEP236070	海外インターンシップ*	3	2	共 通 教 育 経 済 学 科 経 営 学 科 国際文化学科		
	B_GEP128311	英語オール・コミュニケーションⅠ	1	1	共 通 教 育		
	B_GEP128311	英語オール・コミュニケーションⅡ	1	1	共 通 教 育		
多 文 化 理 解	B_GEP128377	英語リーディング	1	1	共 通 教 育	2 単位 以上	
	B_GEP128360	英語ライティング	1	1	共 通 教 育		
	B_GEP118378	Global Economy and Business	2	1	共 通 教 育		
フ ロ ア ー ア ッ プ 科 目	B_GEP138300	英語海外研修	2	1	共 通 教 育	4 単位 以上	
	B_GEP108375	英文読解の技法	2	1	共 通 教 育		
	B_GEP108300	TOEIC・TOEFL 対策	2	1	共 通 教 育		
	B_GEP118350	コミュニケーションのための英文法	2	1	共 通 教 育		
	B_GEP103336 B_GEP303336	外書講読Ⅰ	2	1	経 済 学 科		
		3		経 営 学 科			
	B_GEP103336 B_GEP303336	外書講読Ⅱ	2	1	経 済 学 科		
		3		経 営 学 科			
	B_GEP203750	英語	2	2	児 童 学 科		
	B_GEP218310	英語中級オール・スキルズⅠ	2	1	国際文化学科 音 楽 学 科		
	B_GEP218310	英語中級オール・スキルズⅡ	2	1	国際文化学科 音 楽 学 科		
	B_GEP218377	英語中級リーディング・スキルズ	2	1	国際文化学科 音 楽 学 科		
	B_GEP318377	英語上級リーディング・スキルズ	2	1	国際文化学科		

(2) 履修登録の手続き

本プログラムへの登録を希望する場合は、『『グローバル英語プログラム』履修願』を指定された期間に教務課に提出してください。対象が1学年20名程度なので、応募数が20名を極端に上回る場合、選考を行います。

(3) 他学部・他学科の単位認定

授業科目の所属が自分と違う学部・学科の授業科目を履修する場合、その授業科目を卒業所要単位として算入することができます。算入する場合は、指定された期日までに「卒業指定科目等登録願」を教務課に提出してください。詳しくは、教務課に相談してください。

(4) その他

一旦、提出された書類は、いかなる理由があっても返還しません。

[学部横断プログラム]

本プログラムは、個々の学生の志望、関心、学びのスタイルに応じて、学部・学科の垣根を超えた多様な学びを通して、広い視野と実践力を有する人材を養成することを目的に、5つのプログラムを設置しています。

(1) 単位の修得方法

「学部横断プログラム」を学修するには、本プログラムに登録し、(表1～5)に示されている科目をそれぞれ履修する必要があります。なお、本プログラムの修了要件を満たした場合は、本プログラムの修了証を授与します。

(2) 履修登録の手続き

本プログラムへの登録を希望する場合は、「『学部横断プログラム』履修願」を指定された期間に教務課に提出してください。

(3) 他学部・他学科の単位認定

授業科目の所属が違う学部・学科の授業科目を履修する場合、その授業科目を卒業所要単位として算入することができます。算入する場合は、指定された期日までに「卒業指定科目等登録願」を教務課に提出してください。

(4) その他

一旦、提出された書類は、いかなる理由があっても返還しません。

(表1) データサイエンス・AI プログラム

科目区分	ナンバリング コード	授業科目	単位	年次 配当	所属	最低修得単位数	
基礎科目	B_UEP100076	データサイエンス・AI 入門	2	1	共通教育	8 単位	合計 16 単位
	B_UEP100076	情報処理	2	1	共通教育		
	B_UEP104170	確率と統計	2	1	共通教育		
	B_UEP104100	数学Ⅰ	2	1	共通教育		
	B_UEP104100	数学Ⅱ	2	1	共通教育		
応用科目	B_UEP100076	コンピュータ概論	2	1	経営学科 国際文化学科	2 単位	
	B_UEP103311	統計学Ⅰ	2	1	経済学科 経営学科		
	B_UEP103311	統計学Ⅱ	2	1	経済学科 経営学科		
	B_UEP103311	経済数学Ⅰ	2	1	経済学科		
	B_UEP203311	数理経済学	2	2	経済学科		
	B_UEP200076	プログラミングⅠ	2	2	経営学科		
	B_UEP300076	マルチメディア表現と技術Ⅰ	2	2	経営学科 国際文化学科		
B_UEP300076	マルチメディア表現と技術Ⅱ	2	2	経営学科 国際文化学科			
発展科目	B_UEP200076	ビジネスデータ処理	2	2	経営学科 国際文化学科	4 単位	
	B_UEP203311	情報経済論	2	2	経済学科 経営学科		
	B_UEP203311	経済統計	2	2	経済学科		
	B_UEP303311	計量経済学	2	3	経済学科		
	B_UEP200076	情報処理論	2	2	経営学科 国際文化学科		
	B_UEP300076	データベース論	2	3	経営学科		
	B_UEP203361	経営数学	2	2	経営学科		
	B_UEP103368	経営シミュレーション	2	1	経営学科		
	B_UEP303367	マーケティング論Ⅰ	2	3	経済学科 経営学科		
	B_UEP303367	マーケティング論Ⅱ	2	3	経済学科 経営学科		

(表2) 公共経済プログラム

科目区分	ナンバリングコード	授業科目	単位	年次配当	所属	最低修得単位数	
基礎科目	B_UEP103231	日本国憲法	2	1	共通教育	4単位	合計16単位
	B_UEP206070	論理的思考と数的処理	2	2	共通教育		
	B_UEP103210	法学	2	1	共通教育		
	B_UEP216070	キャリア形成のための一般教養Ⅲ	2	3	共通教育		
応用科目	B_UEP103110	政治学	2	1	共通教育	4単位	
	B_UEP103610	社会学	2	1	共通教育		
	B_UEP103310	ミクロ経済学入門	2	1	経済学科		
	B_UEP103310	マクロ経済学入門	2	1	経済学科		
	B_UEP103351	経営学総論	4	1	経済学科		
	B_UEP103240	民法入門	2	1	経済学科		
発展科目	B_UEP103240	民法総論	2	1	経済学科	4単位	
	B_UEP203410	財政学Ⅰ	2	2	経済学科		
	B_UEP203410	財政学Ⅱ	2	2	経済学科		
	B_UEP203410	地方財政論	2	2	経済学科		
	B_UEP203286	労働法Ⅰ	2	2	経済学科		
	B_UEP303286	労働法Ⅱ	2	3	経済学科		
	B_UEP203239	行政法	4	2	経営学科		
	B_UEP303691	福祉行財政と福祉計画	2	3	社会福祉学科		

(表3) 金融経済プログラム

科目区分	ナンバリング コード	授業科目	単位	年次 配当	所属	最低修得単位数	
基礎科目	B_UEP104100	数学Ⅰ	2	1	共通教育	4単位	合計16単位
	B_UEP104100	数学Ⅱ	2	1	共通教育		
	B_UEP104170	確率と統計	2	1	共通教育		
応用科目	B_UEP103311	経済数学Ⅰ	2	1	経済学科	4単位	
	B_UEP103311	経済数学Ⅱ	2	1	経済学科		
	B_UEP203381	証券論	2	2	経済学科		
	B_UEP203311	情報経済論	2	2	経済学 経営学		
	B_UEP203311	経済統計	2	2	経済学科		
	B_UEP203361	経営統計	2	2	経営学科		
	B_UEP203361	経営数学	2	2	経営学科		
発展科目	B_UEP203380 B_UEP303380	金融論Ⅰ	2	2 3	経済学科 経営学科	4単位	
	B_UEP203380 B_UEP303380	金融論Ⅱ	2	2 3	経済学科 経営学科		
	B_UEP303391	保険論	2	3 2	経済学科 経営学科		
	B_UEP203381	コーポレート・ファイナンス	2	2	経済学科		
	B_UEP203336	国際経済論Ⅰ	2	2	経済学科		
	B_UEP203336	国際経済論Ⅱ	2	2	経済学科		
	B_UEP303389	国際金融論Ⅰ	2	3	経済学科		
	B_UEP303389	国際金融論Ⅱ	2	3	経済学科		
	B_UEP203360	リスクマネジメント論	2	2	経営学科		

(表4) 鹿児島プログラム

科目区分	ナンバリング コード	授業科目	単位	年次 配当	所属	最低修得単位数	
基礎科目	B_UEP103336	地域から世界へ	2	1	共 通 教 育	4 単位	合計 16 単位
	B_UEP102090	東西文化の交流	2	1	共 通 教 育		
	B_UEP110000	かごしま教養プログラム	2	1	共 通 教 育		
	B_UEP110000	かごしまフィールドスクール	2	1	共 通 教 育		
	B_UEP102100	日本史	2	1	共 通 教 育		
応用科目	B_UEP203329	地域経済論	2	2	経 済 学 科 経 営 学 科	4 単位	
	B_UEP103329	鹿児島経済論	2	1	経 済 学 科		
	B_UEP103335	鹿児島論	2	1	経 営 学 科		
	B_UEP106020	地場産業論	2	1	経 営 学 科		
	B_UEP103335	地域社会論	2	1	経 営 学 科		
	B_UEP103690	鹿児島社会福祉入門	2	1	社会福祉学科		
	B_UEP202100	日本史特論	2	1	国際文化学科		
	B_UEP202197	鹿児島の歴史	2	1	国際文化学科		
	B_UEP203615	鹿児島の文化	2	1	国際文化学科		
発展科目	B_UEP206110	農業経済論	2	2	経 済 学 科 経 営 学 科	4 単位	
	B_UEP203410	地方財政論	2	2	経 済 学 科 経 営 学 科		
	B_UEP203358	NPO 概論	2	2	経 営 学 科		
	B_UEP203335	まちづくり概論	2	2	経 営 学 科		

(表5) メンタルヘルスプログラム

科目区分	ナンバリング コード	授業科目	単位	年次 配当	所属	最低修得単位数	
基礎科目	B_UEP101401	心理学	2	1	共 通 教 育	2 単位	合計 16 単位
応用科目	B_UEP101401	心理学概論	2	1	社会福祉学科	4 単位	
	B_UEP203692	認知症の理解 I	2	1	社会福祉学科		
	B_UEP201430	発達心理学	2	2	社会福祉学科		
	B_UEP203614	社会心理学	2	2	社会福祉学科		
発展科目	B_UEP301460	臨床心理学	2	3	社会福祉学科	6 単位	
	B_UEP303692	精神保健学Ⅰ	2	3	社会福祉学科		
	B_UEP303692	精神保健学Ⅱ	2	3	社会福祉学科		
	B_UEP104937	精神医学Ⅰ	2	3	社会福祉学科		
	B_UEP304937	精神医学Ⅱ	2	3	社会福祉学科		
	B_UEP203692	精神保健福祉制度論	2	3	社会福祉学科		
	B_UEP203692	精神保健福祉の原理Ⅰ	2	3	社会福祉学科		

【日本語特別プログラム（留学生対象）】

本プログラムは、外国人留学生が日本語に関する知識を学び、高度な日本語運用能力を身につけることができるよう、その学修を支援することを目的に設けられたものです。

(1) 単位の修得方法

科目の単位を修得するには、本プログラムを登録し、次の表で示されている科目を履修する必要があります。なお、本プログラムの修了要件を満たした場合は、「日本語特別プログラム修了」を認定します。

ナンバリング コード	授業科目	単位	年次 配当	所 属	プログラム修了 所要単位数	
B_JSL128100	日本語入門Ⅰ	2	1	学 部 共 通		
B_JSL128100	日本語入門Ⅱ	2	1	//		
B_JSL128111	初級日本語Ⅰ	2	1	日 本 語 特 別 プ ロ グ ラ ム	4 単位	16単位 以上
B_JSL128111	初級日本語Ⅱ	2	1	//		
B_JSL118111	中級日本語Ⅰ	2	1	//		
B_JSL118111	中級日本語Ⅱ	2	1	//		
B_JSL118111	上級日本語Ⅰ	2	1	//		
B_JSL118111	上級日本語Ⅱ	2	1	//		
B_JSL108170	日本語講読	2	1	//		
B_JSL108160	日本語作文	2	1	//		
B_JSL108107	日本語教育入門	2	1	国 際 文 化 学 部		
B_JSL208101	日本語と日本文化	2	1	//		
B_JSL108100	留学生のための日本事情	2	1	学 部 共 通		
B_JSL208101	日本語学概論Ⅰ	2	1	国 際 文 化 学 科		
B_JSL208101	日本語学概論Ⅱ	2	1	//		
B_JSL208102	日本語史	2	2	//		
B_JSL102101	日本文化史	2	1	//		
B_JSL209100	日本文学概論	2	1	//		

(2) 履修登録の手続き

日本語特別プログラムを履修する場合には、「日本語特別プログラム履修願」を指定する期間に提出してください。

以下の科目については、卒業指定科目としても登録できます。なお、卒業単位として登録を希望する場合は、指定する期日までに「日本語特別プログラム履修願」に○印をして必ず提出してください。

初 級 日 本 語 Ⅰ	中 級 日 本 語 Ⅰ	上 級 日 本 語 Ⅰ	日 本 語 講 読	日 本 語 作 文
初 級 日 本 語 Ⅱ	中 級 日 本 語 Ⅱ	上 級 日 本 語 Ⅱ		

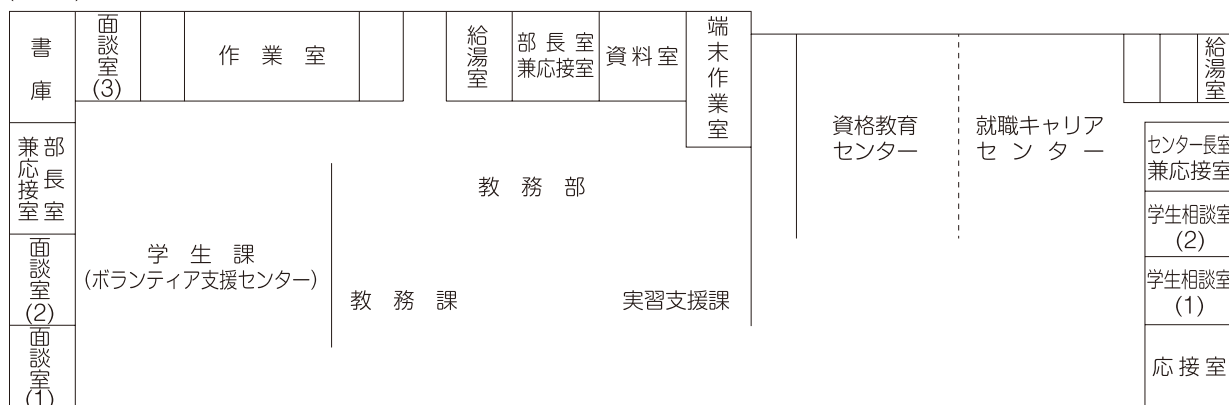
この他学科により卒業指定科目として登録出来る授業科目が異なりますので教務課で十分確認してください。

V 教室・研究室棟略図

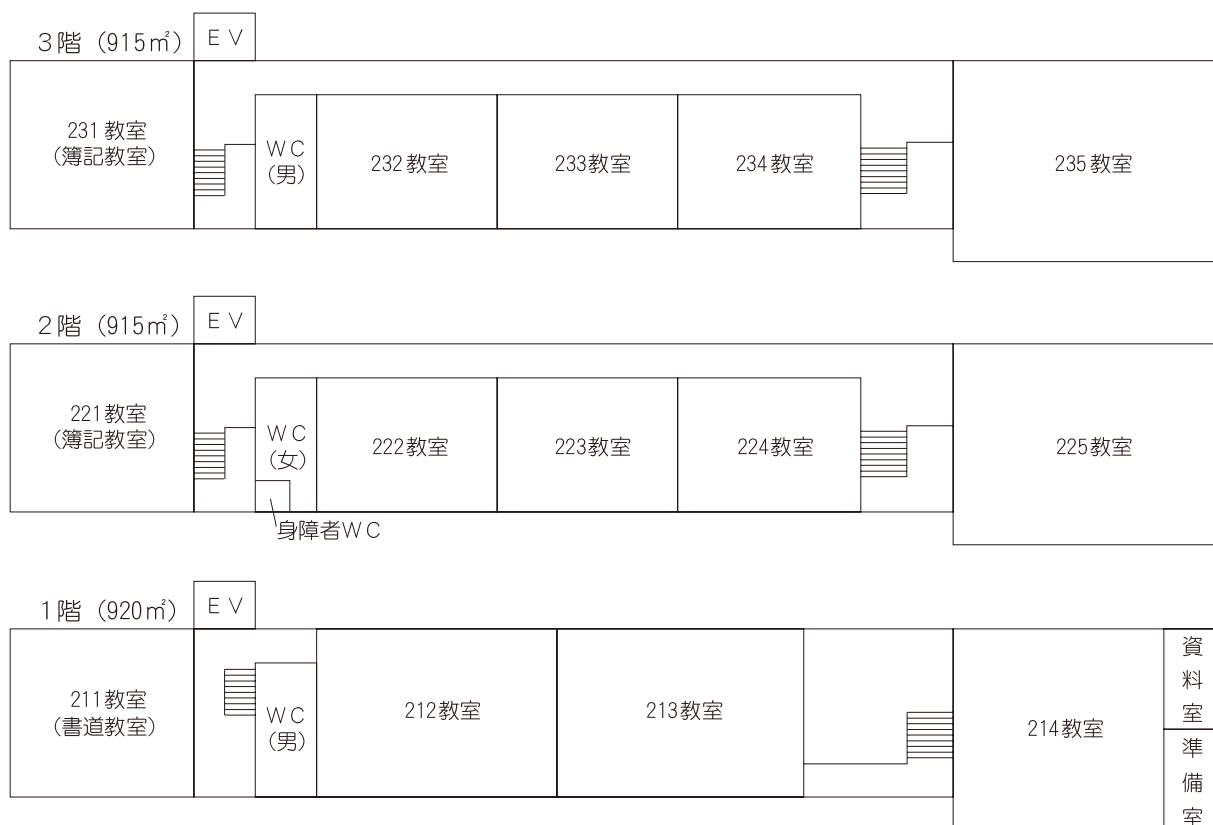
〈坂之上キャンパス〉

学生総合支援センター

(798㎡)

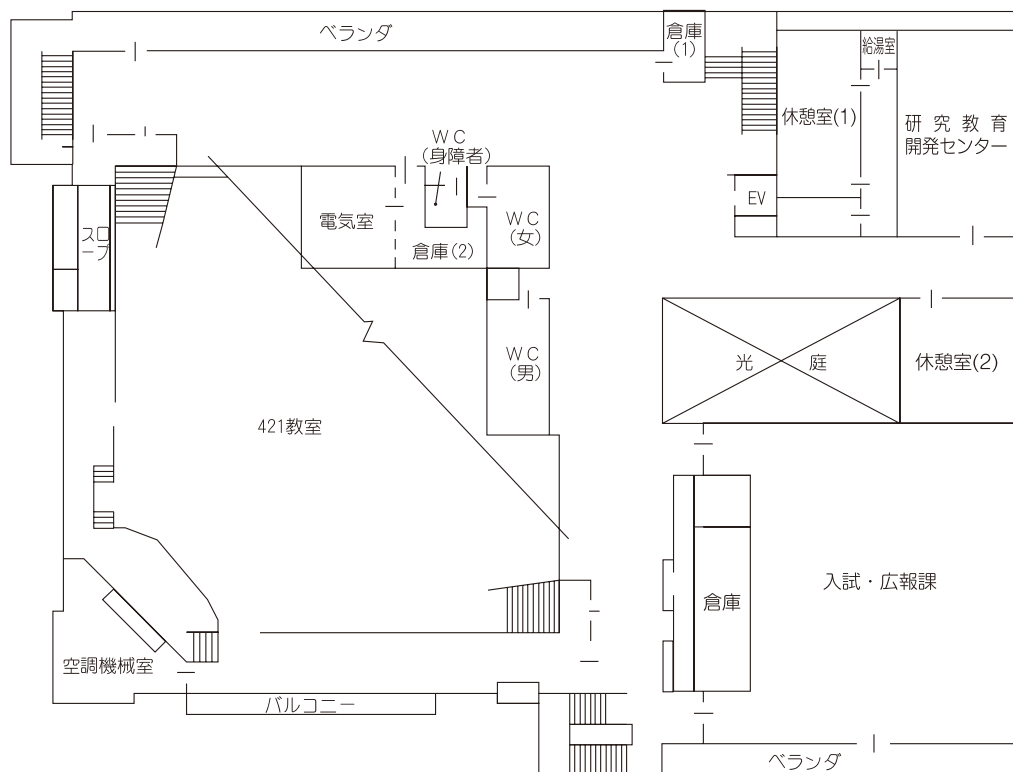


2 号 館

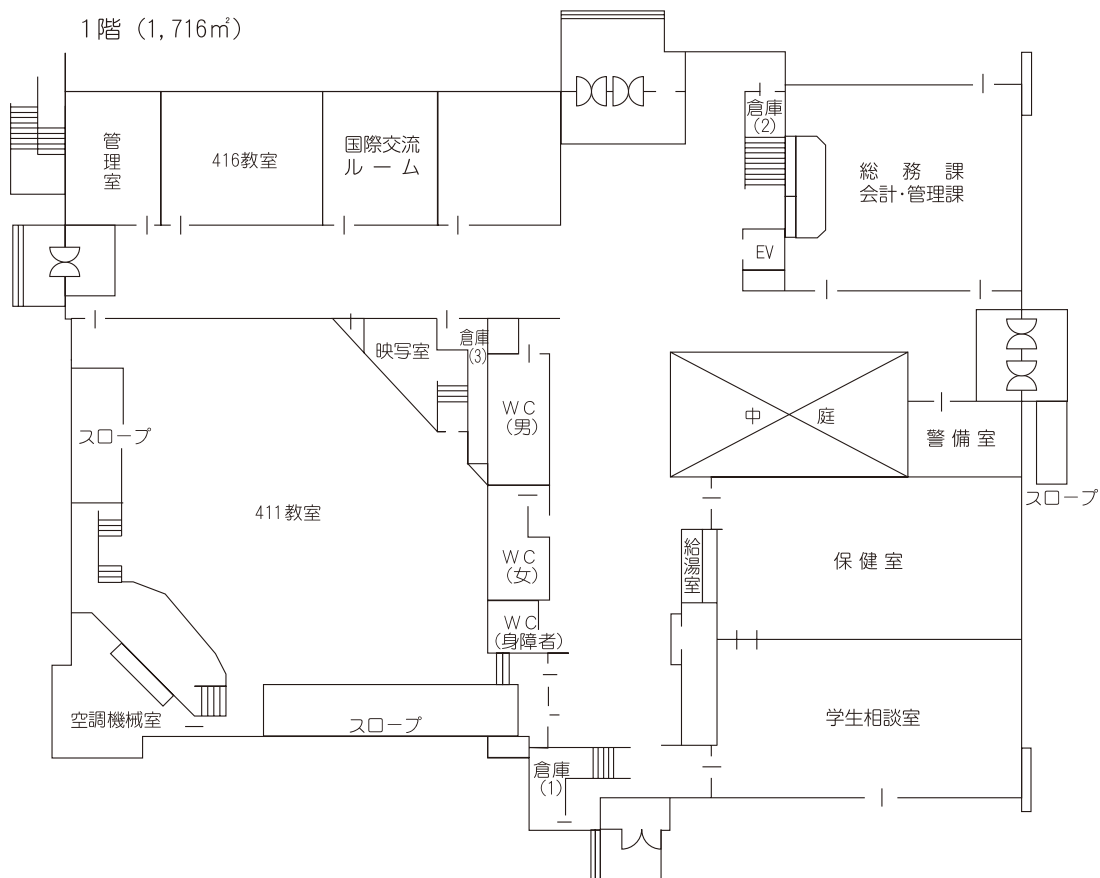


4 号 館

2階 (1,732㎡)

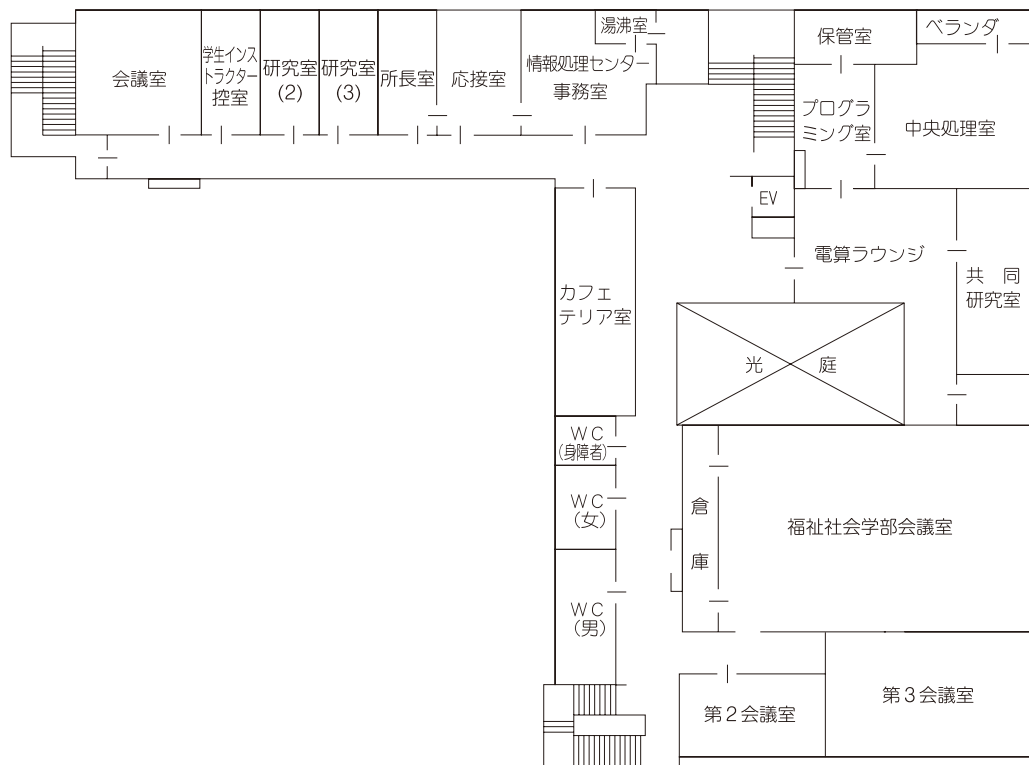


1階 (1,716㎡)

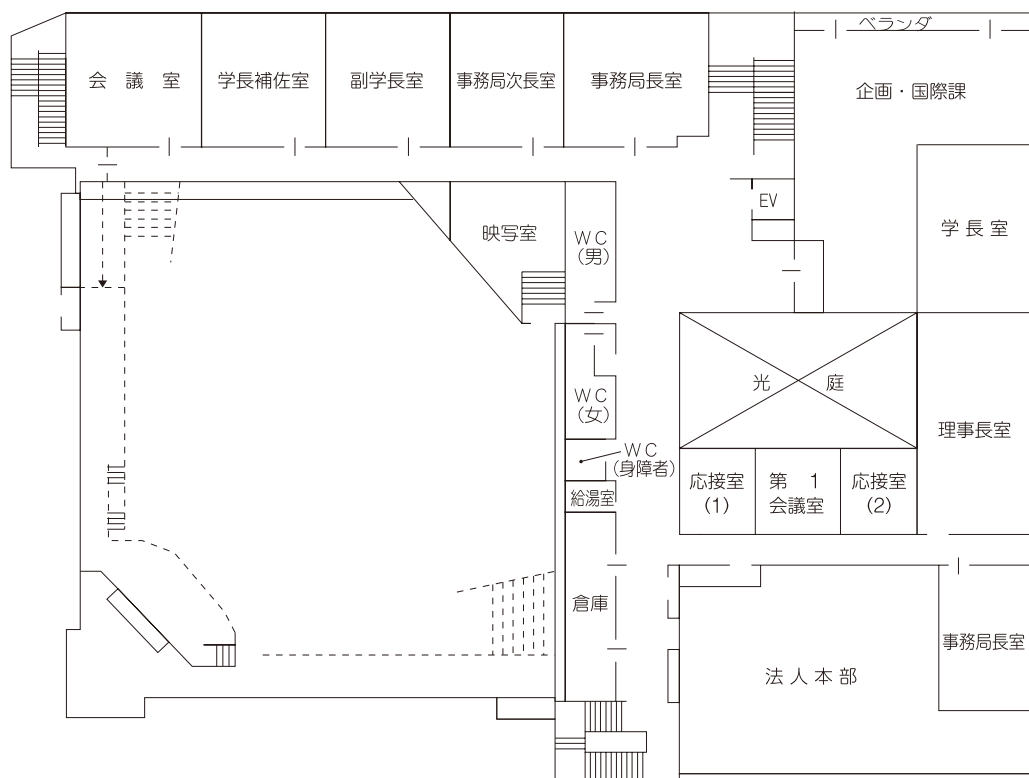


4 号 館

4階 (1,153㎡)



3階 (1,141㎡)



5 号 館

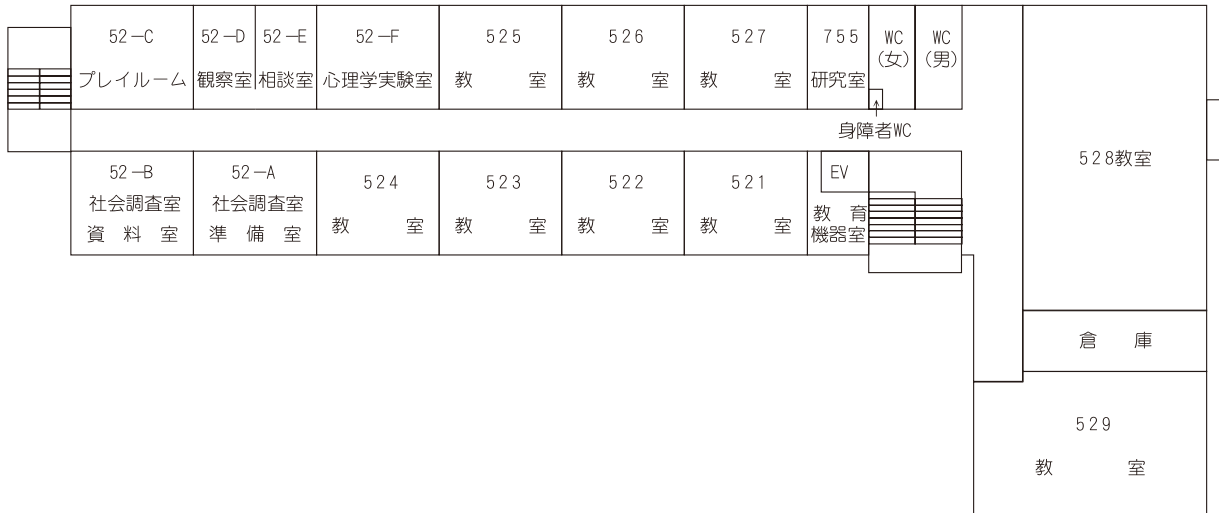
4 階 (939㎡)



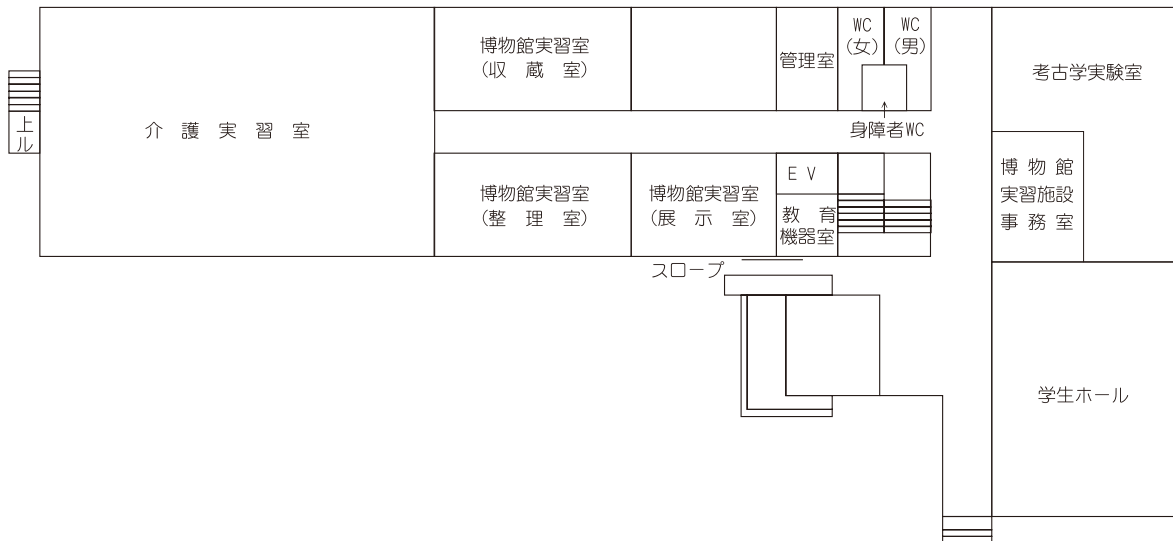
3 階 (939㎡)



2 階 (1,152㎡)

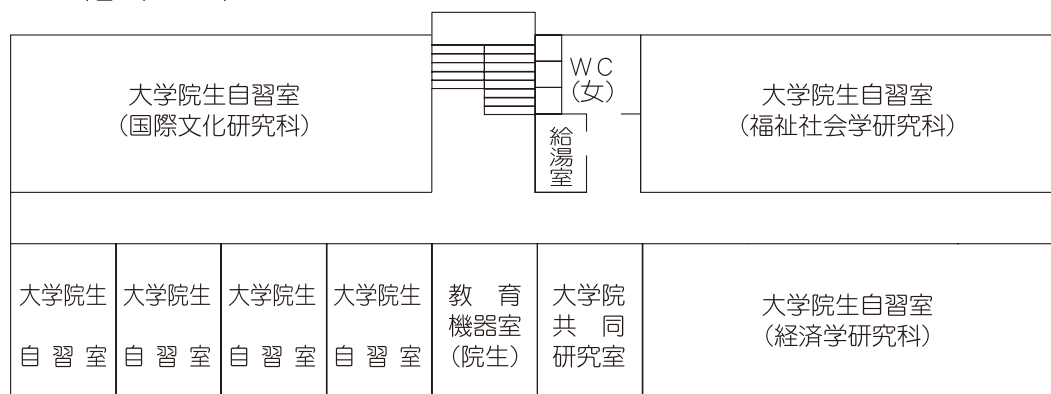


1 階 (1,195㎡)

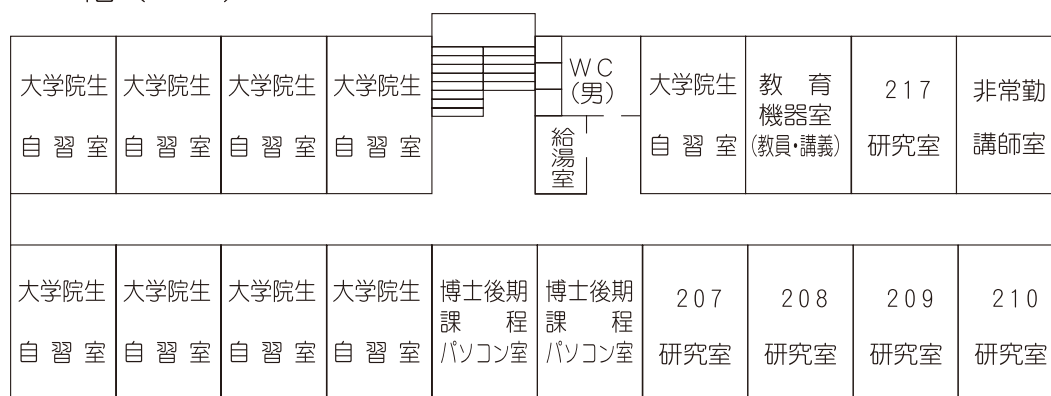


6 号 館

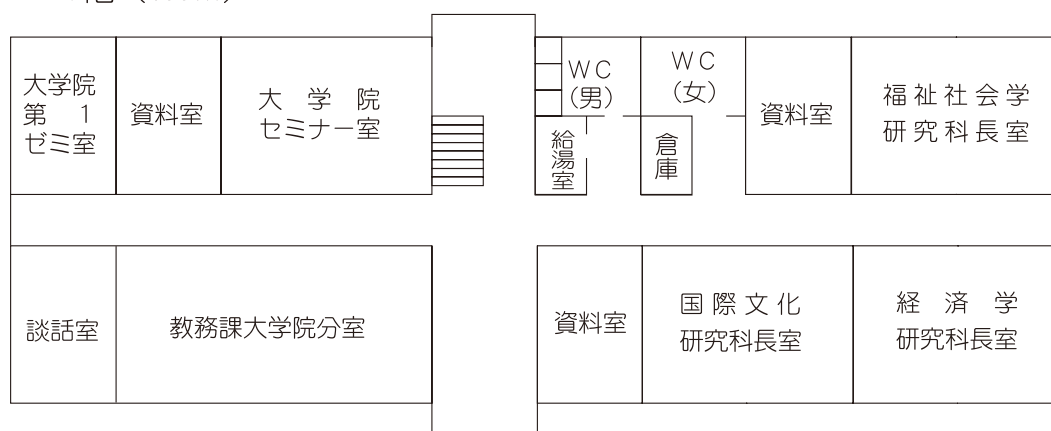
3 階 (463m²)



2 階 (463m²)

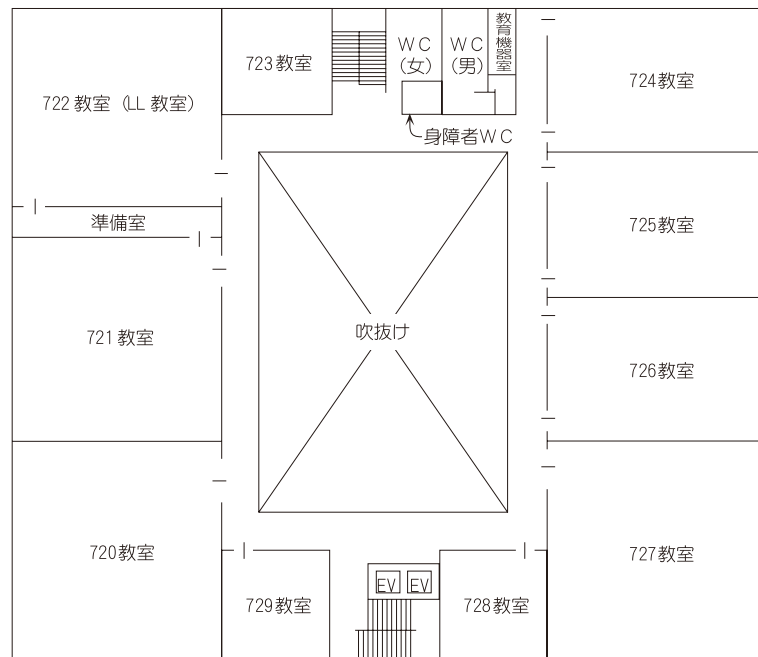


1 階 (466m²)

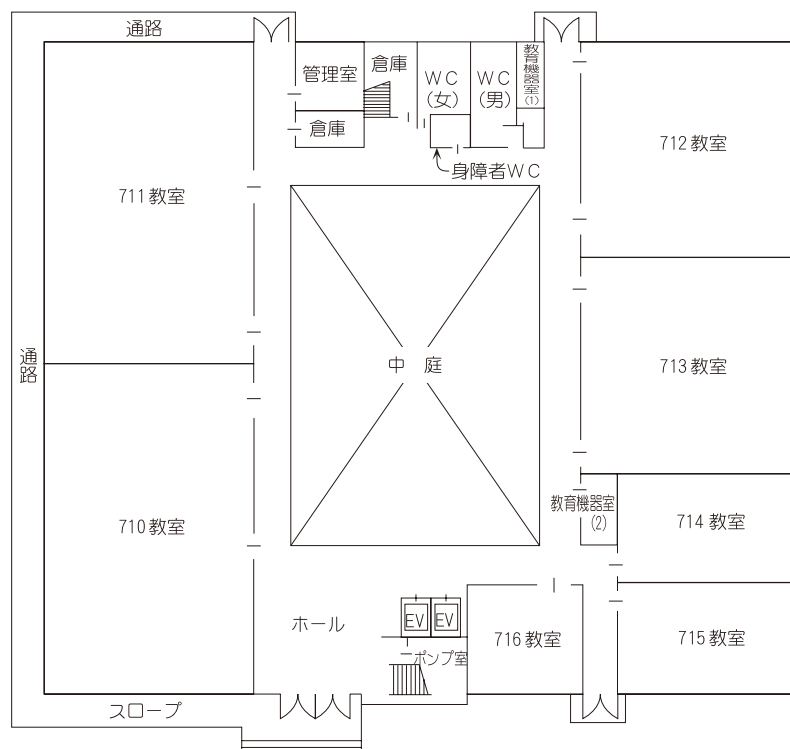


7 号 館

2 階 (1,690㎡)

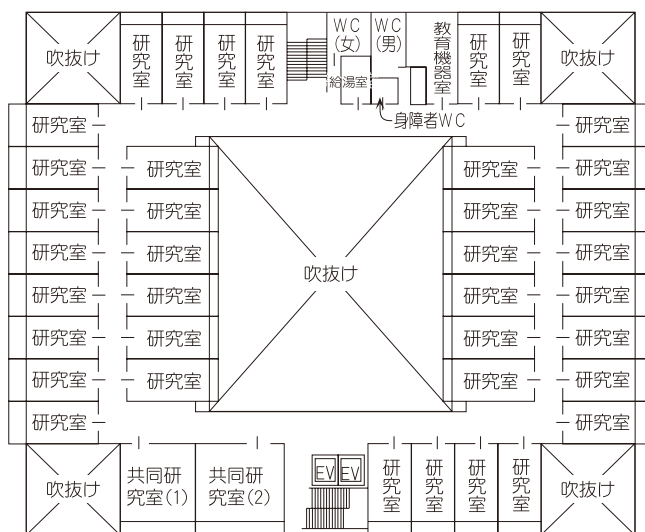


1 階 (1,690㎡)

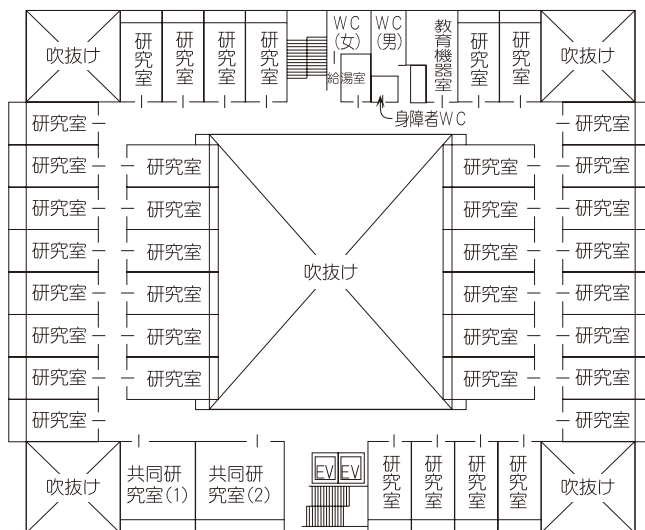


7 号 館

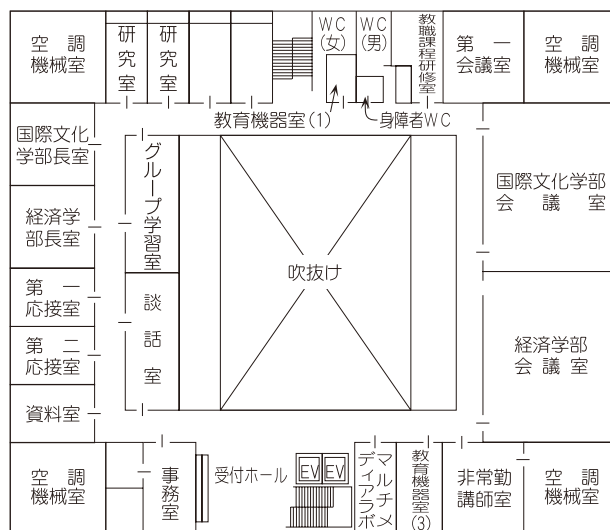
5 階 (1,396㎡)



4 階 (1,396㎡)

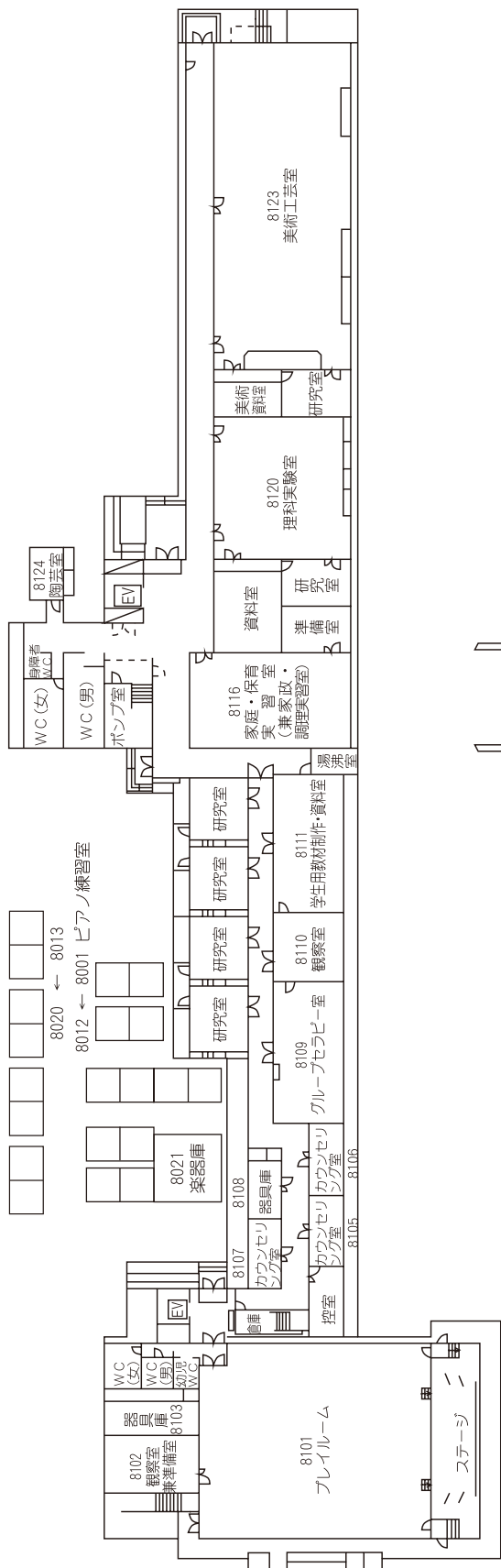


3 階 (1,319㎡)

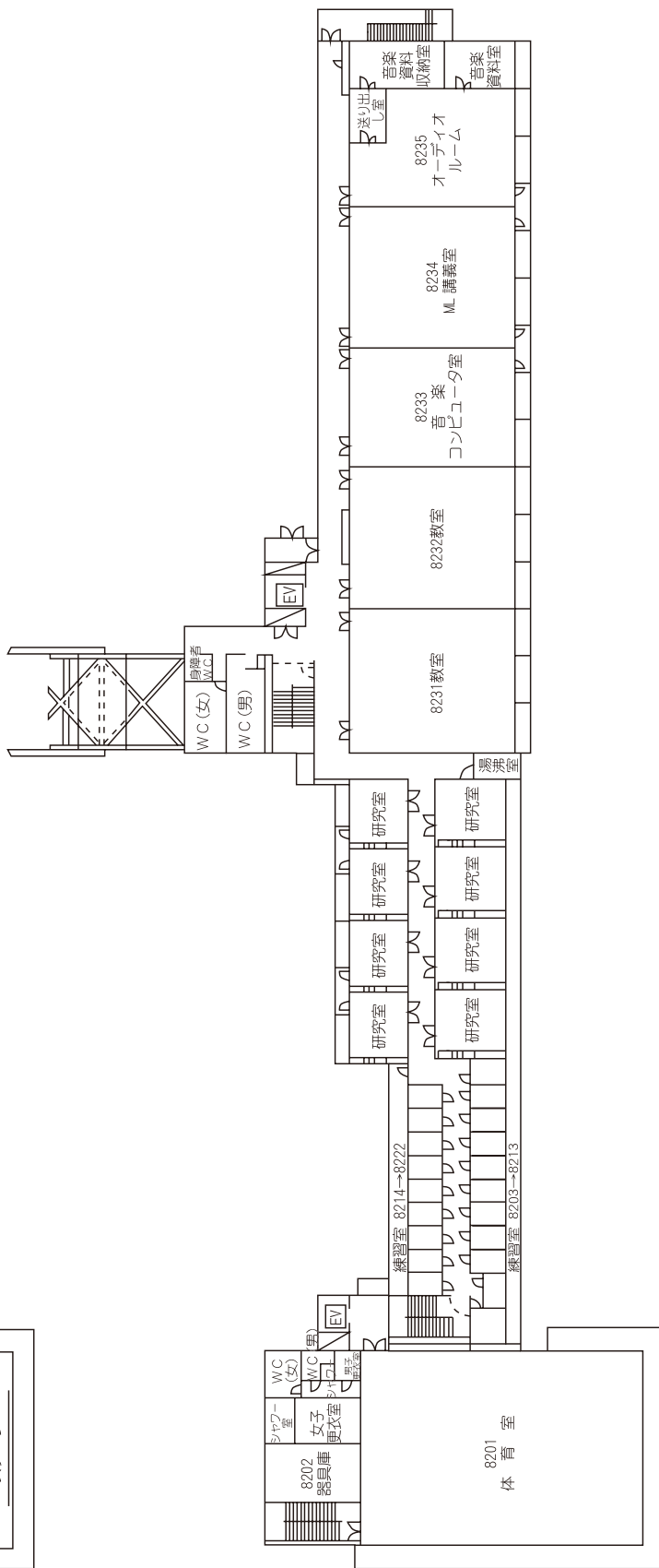


8 号 館

1 階 (2,135 m²)

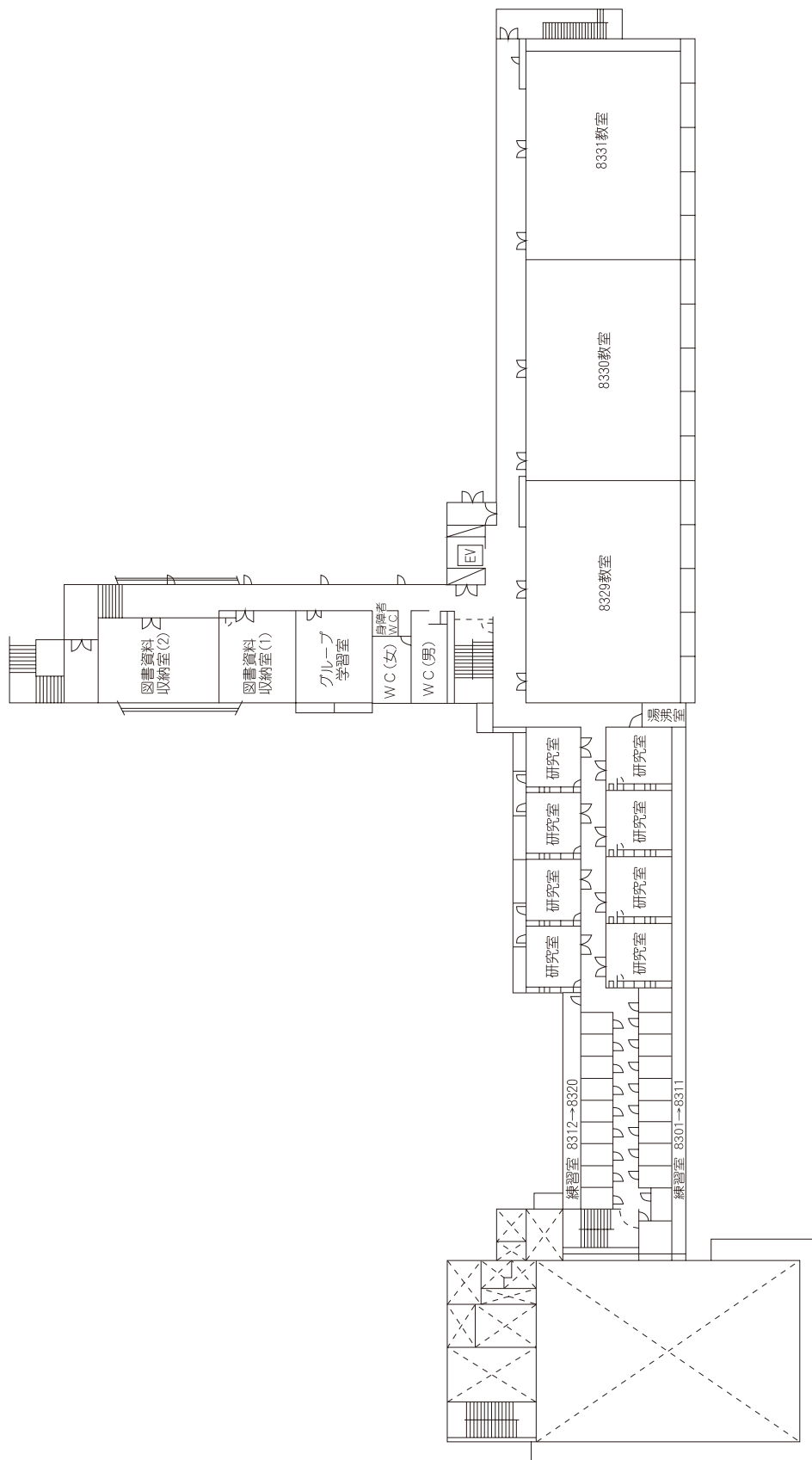


2階 (2, 248m²)



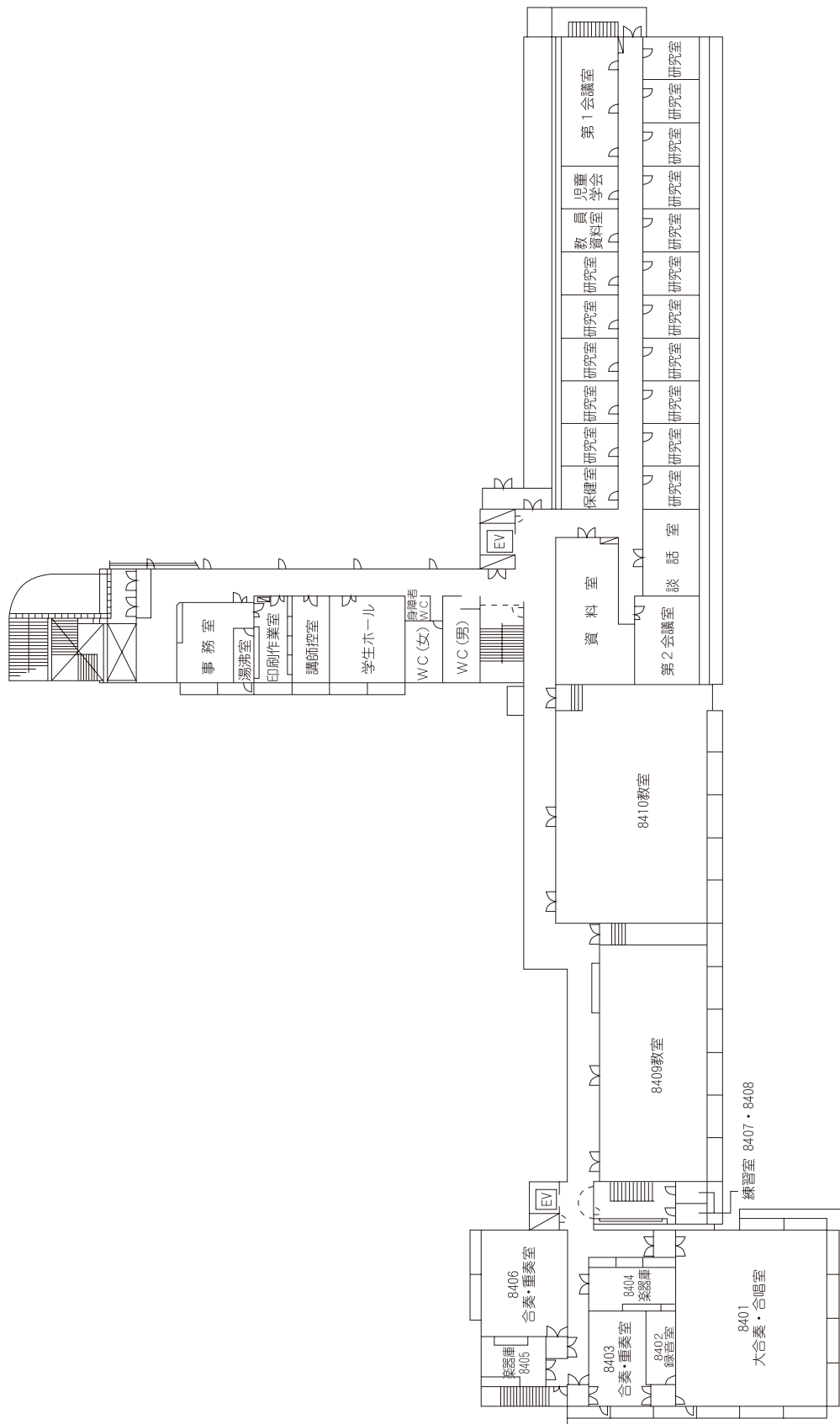
8 号 館

3階 (1, 999m²)



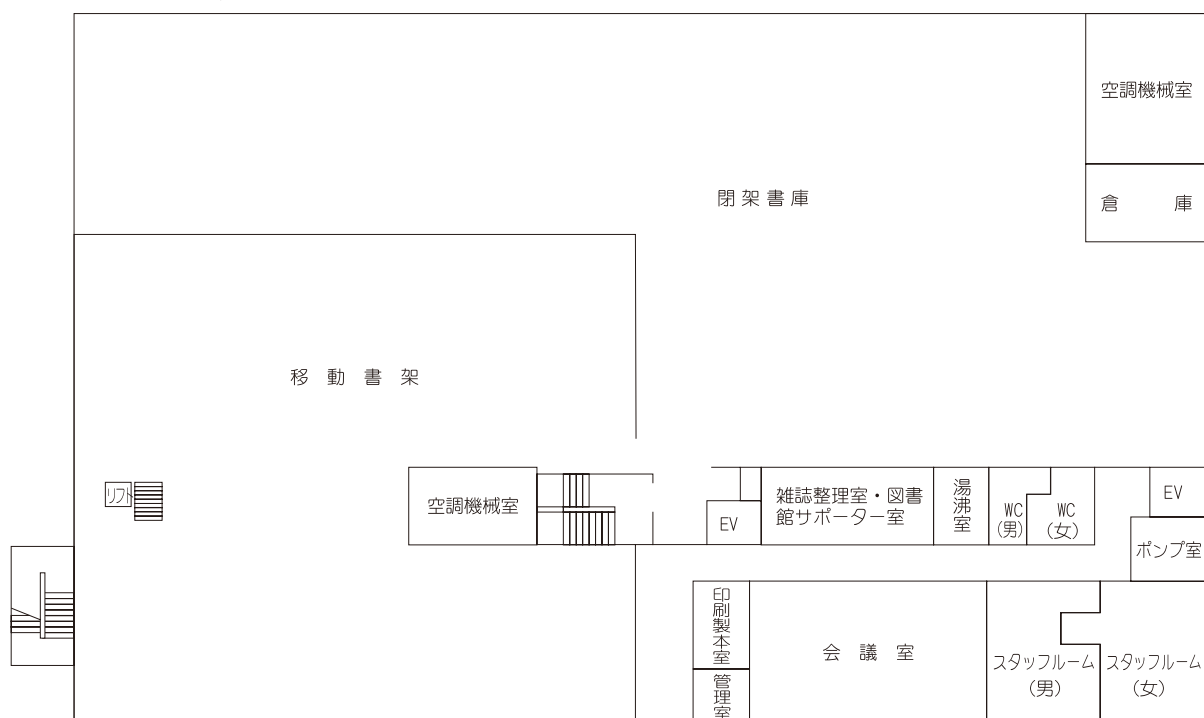
8 号 館

4 階 (2, 517m²)

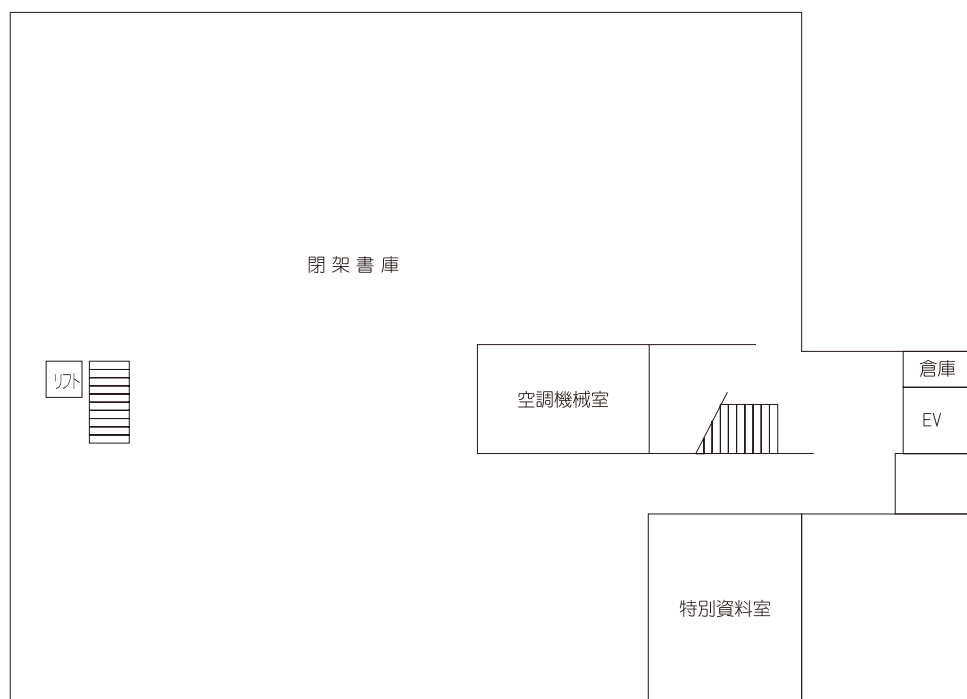


附 属 図 書 館

1 階 (1,864㎡)

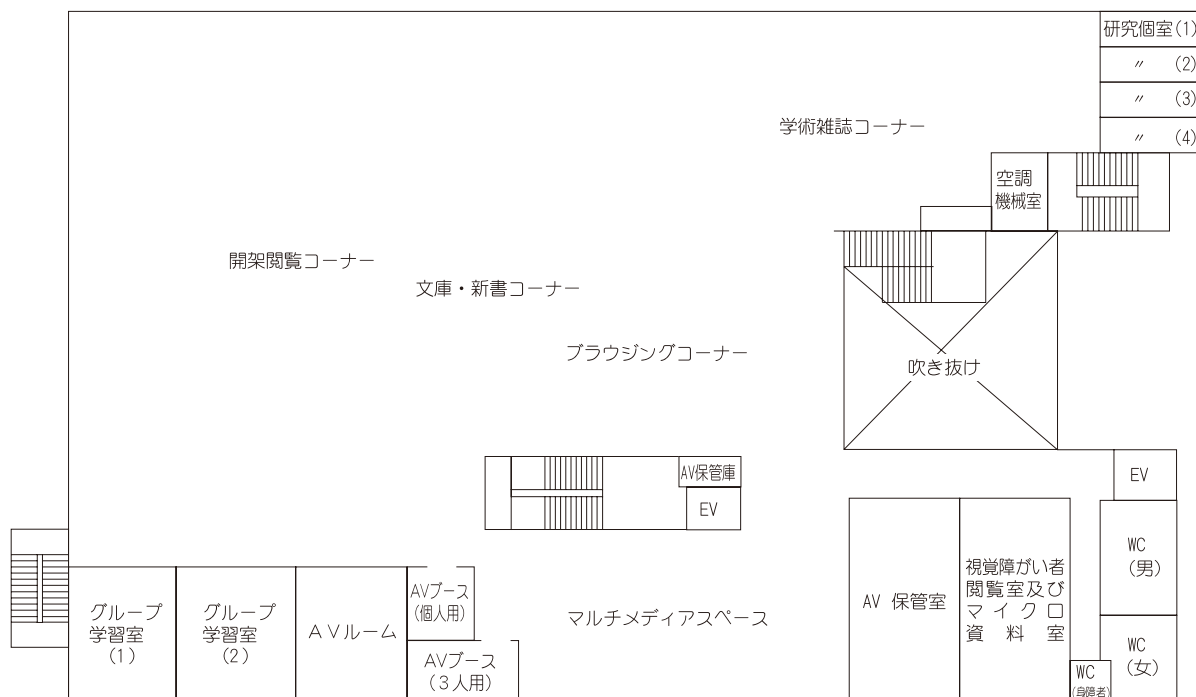


地 階 (678㎡)

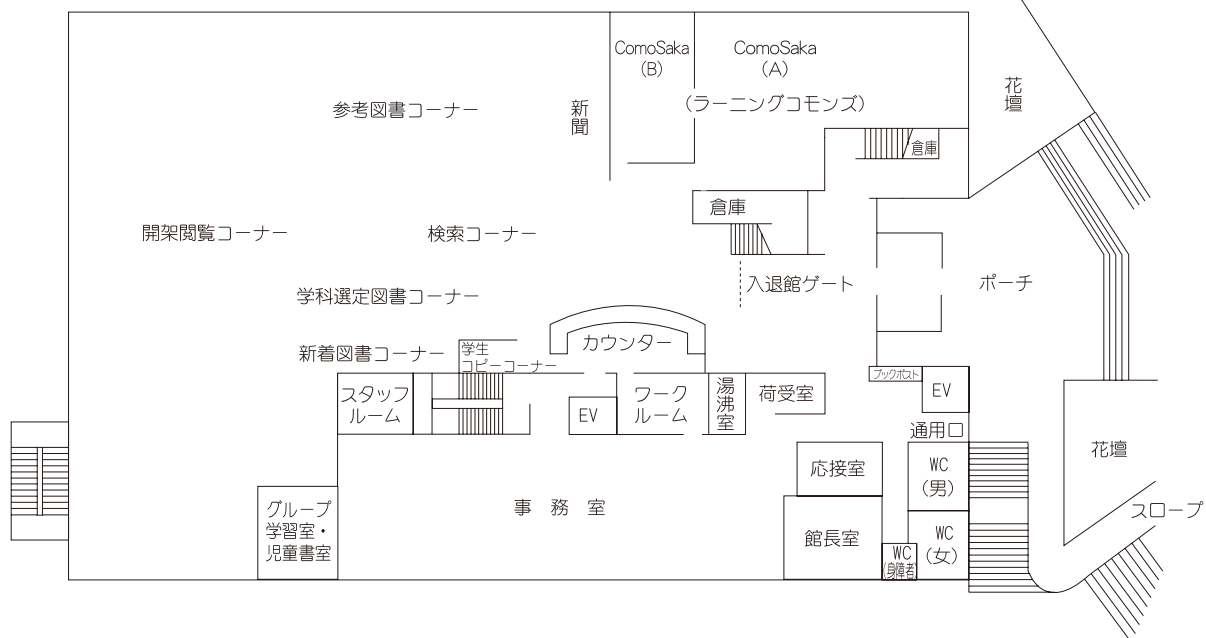


附属図書館

3 階 (1,691㎡)

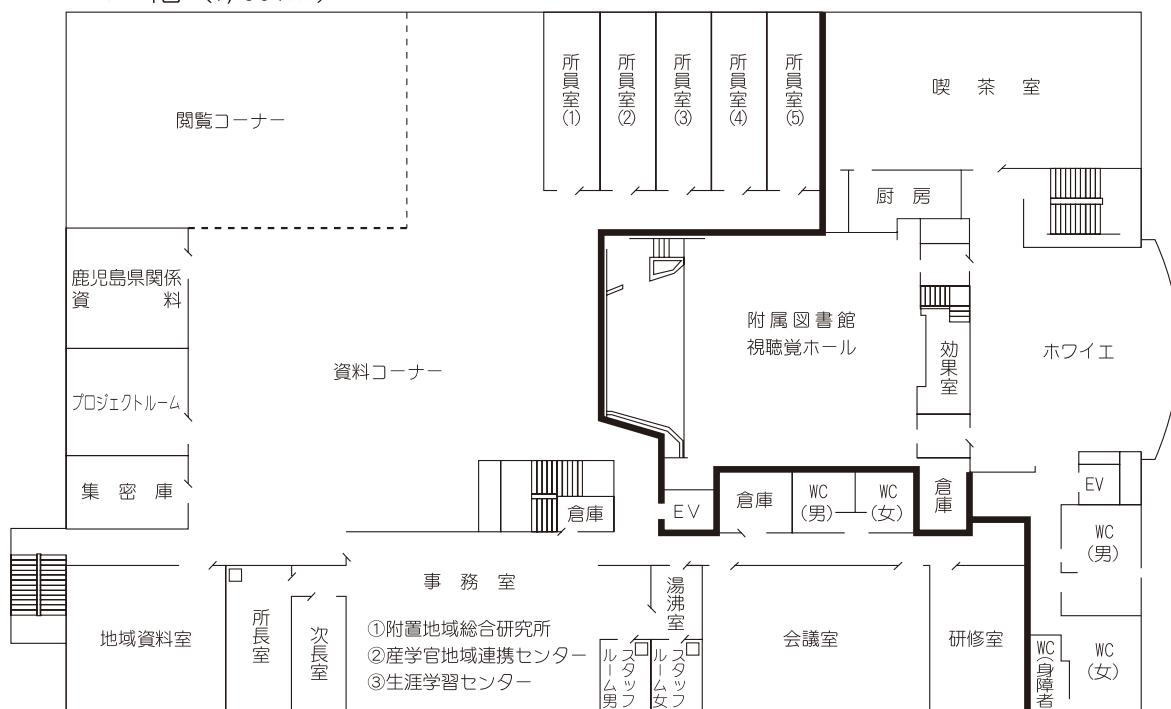


2 階 (1,807㎡)



附置地域総合研究所
産学官地域連携センター
生涯学習センター
附属図書館
〔視聴覚ホール〕

4 階 (1,861m²)

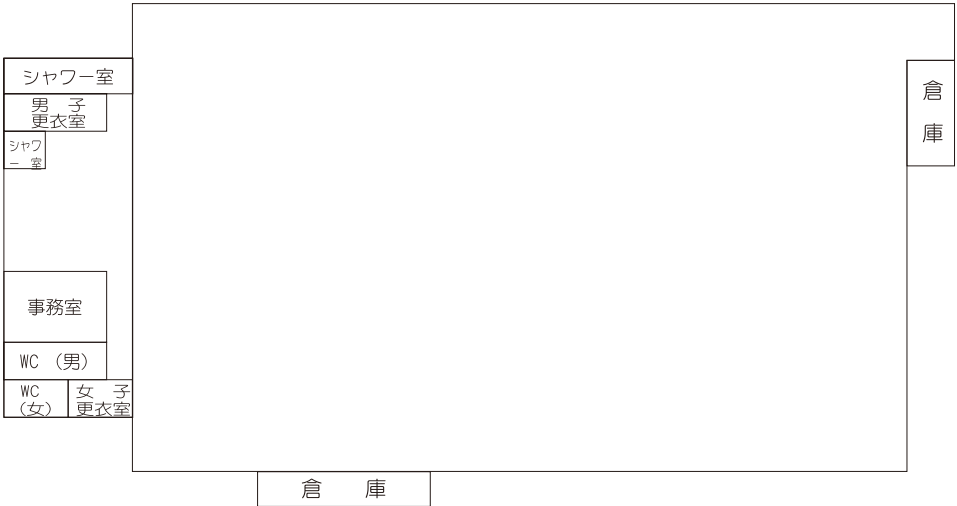


体育館（フィールドハウス）

2階（243㎡）

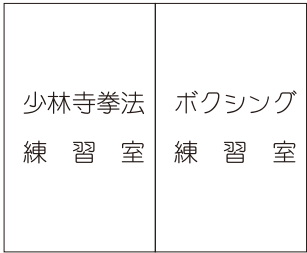


1階（10,241㎡）



体育練習室

(368㎡)



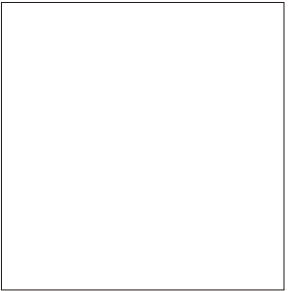
柔道場

(446㎡)



体育ホール

(267㎡)

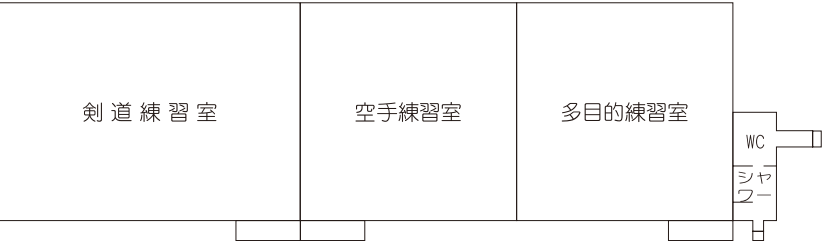


体育練習室

(214㎡)



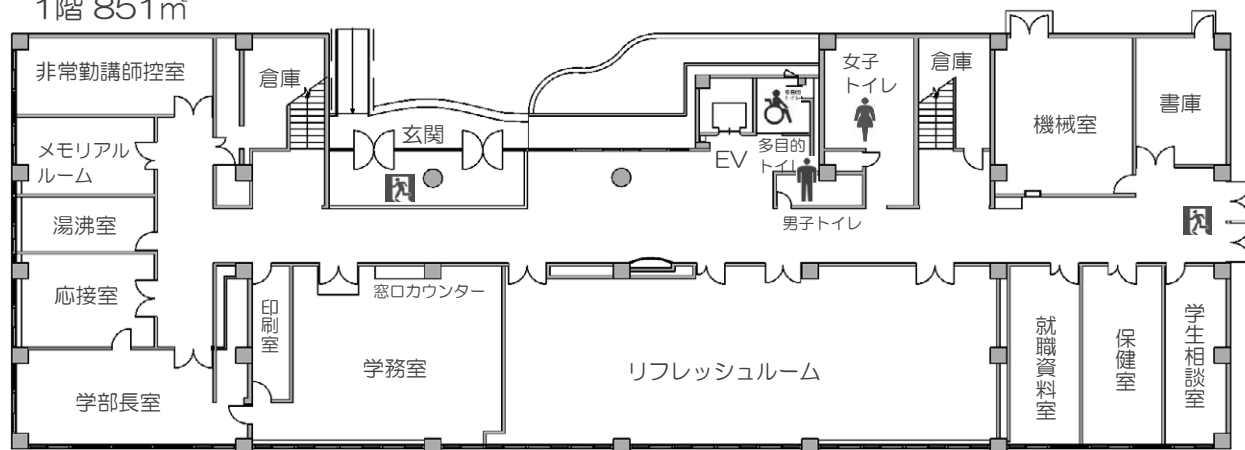
(800㎡)



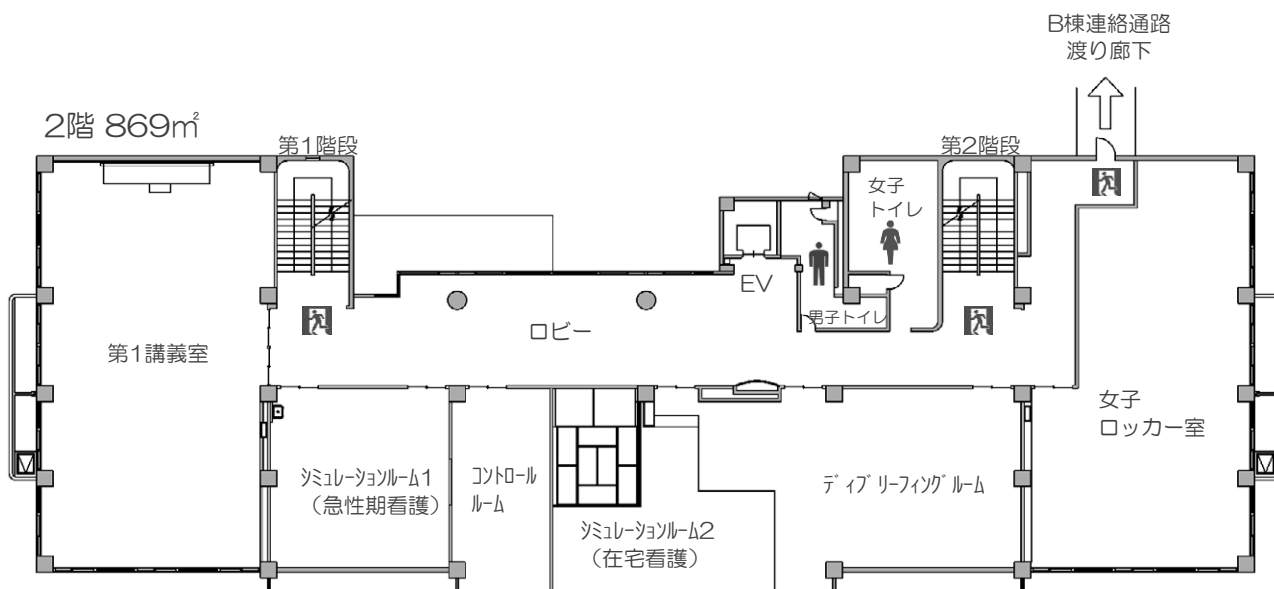
〈伊敷キャンパス〉

A棟（本館）

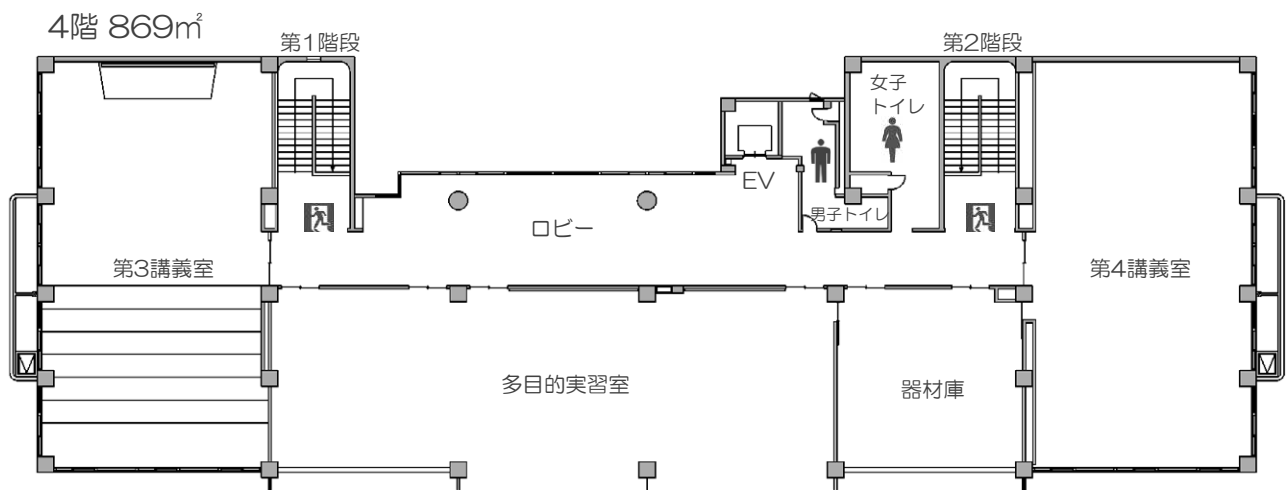
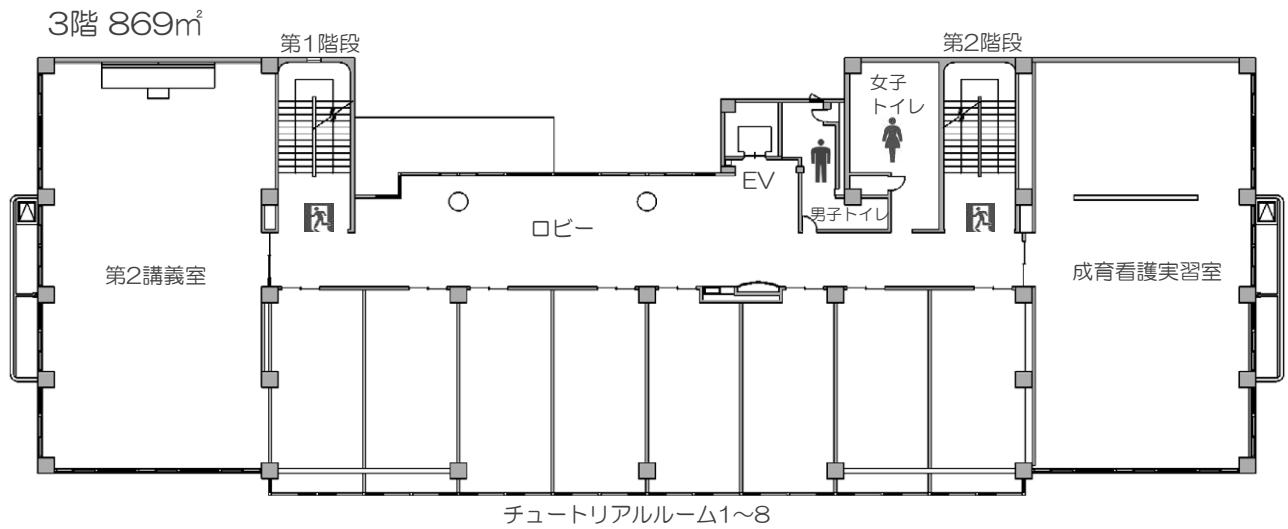
1階 851m²



2階 869m²

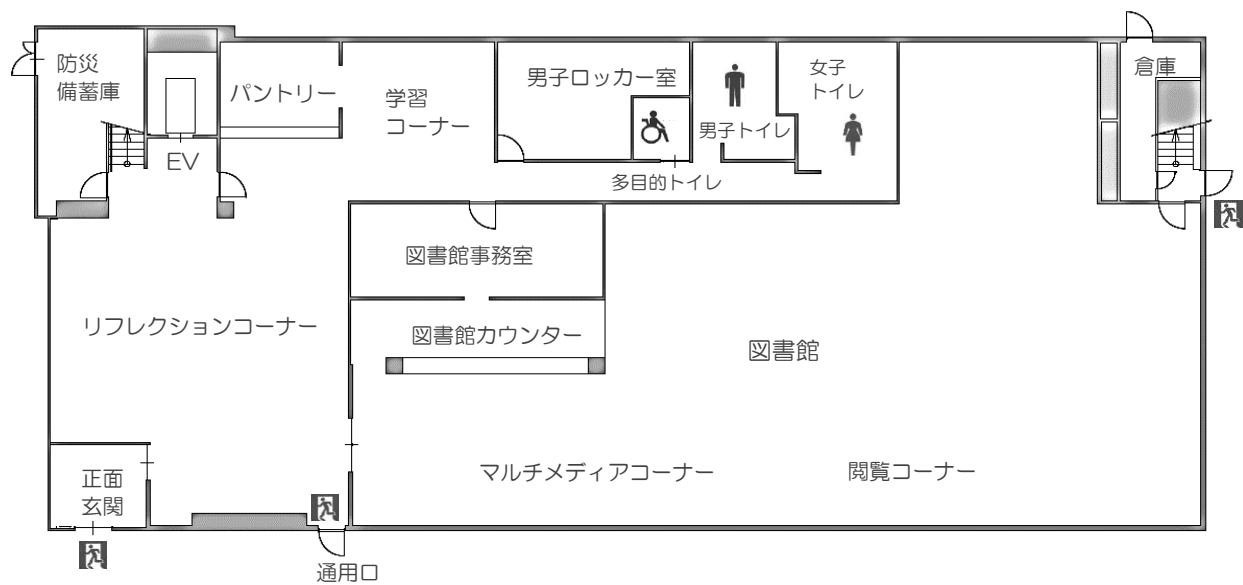


A棟（本館）

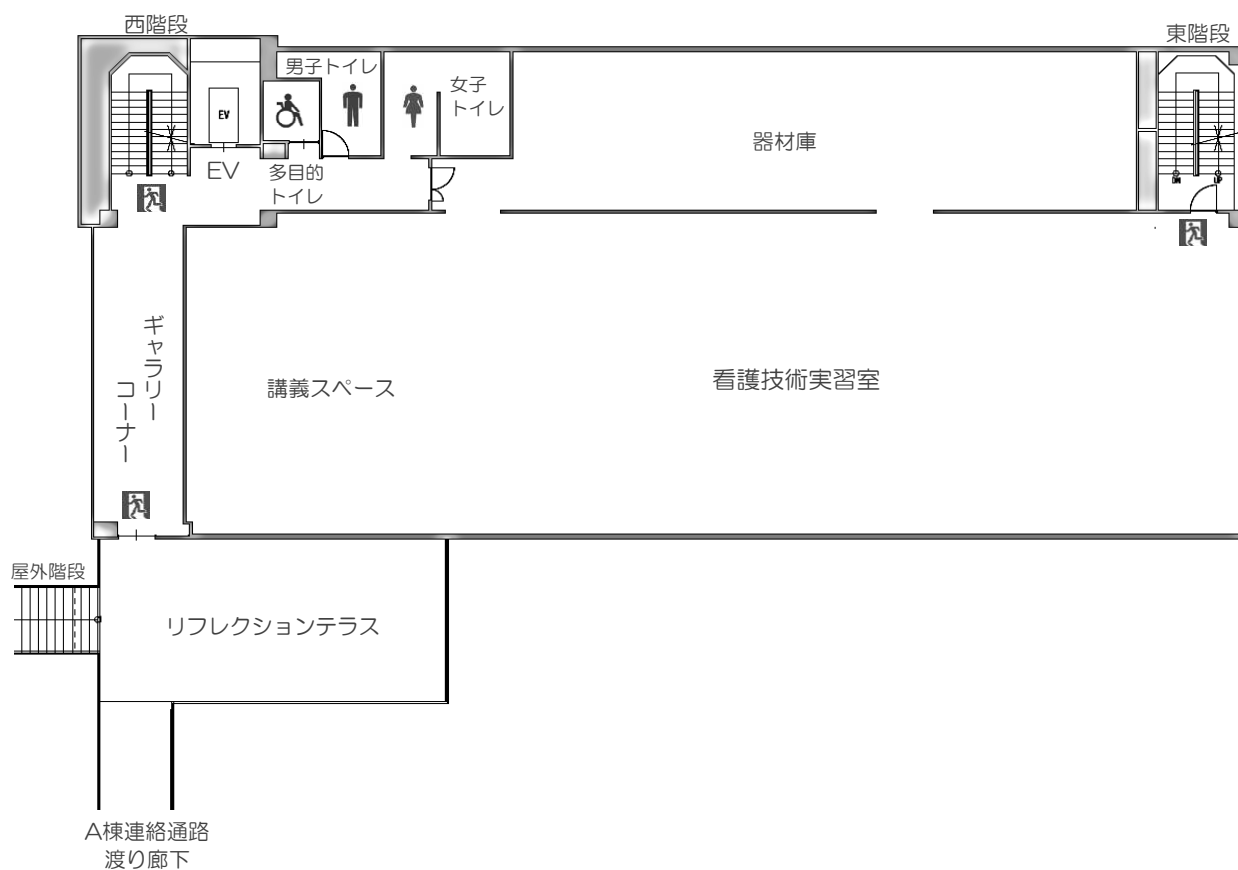


B棟（創生館）

1階 745m²



2階 797m²



B棟（創生館）

3階 761m²

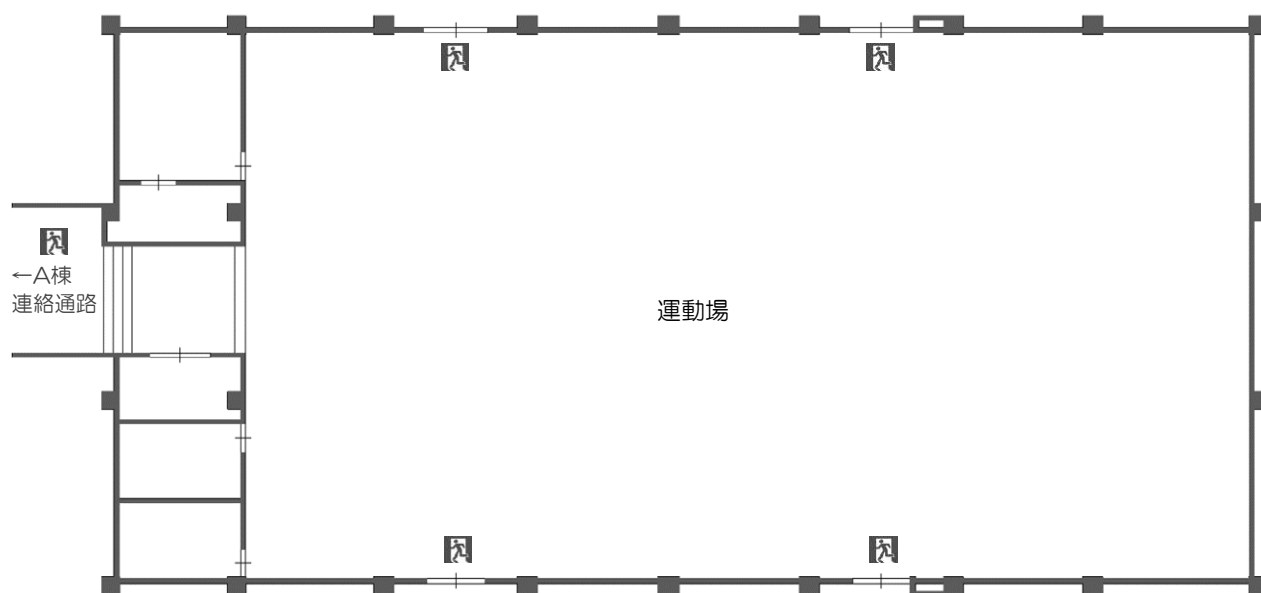


4階 761m²

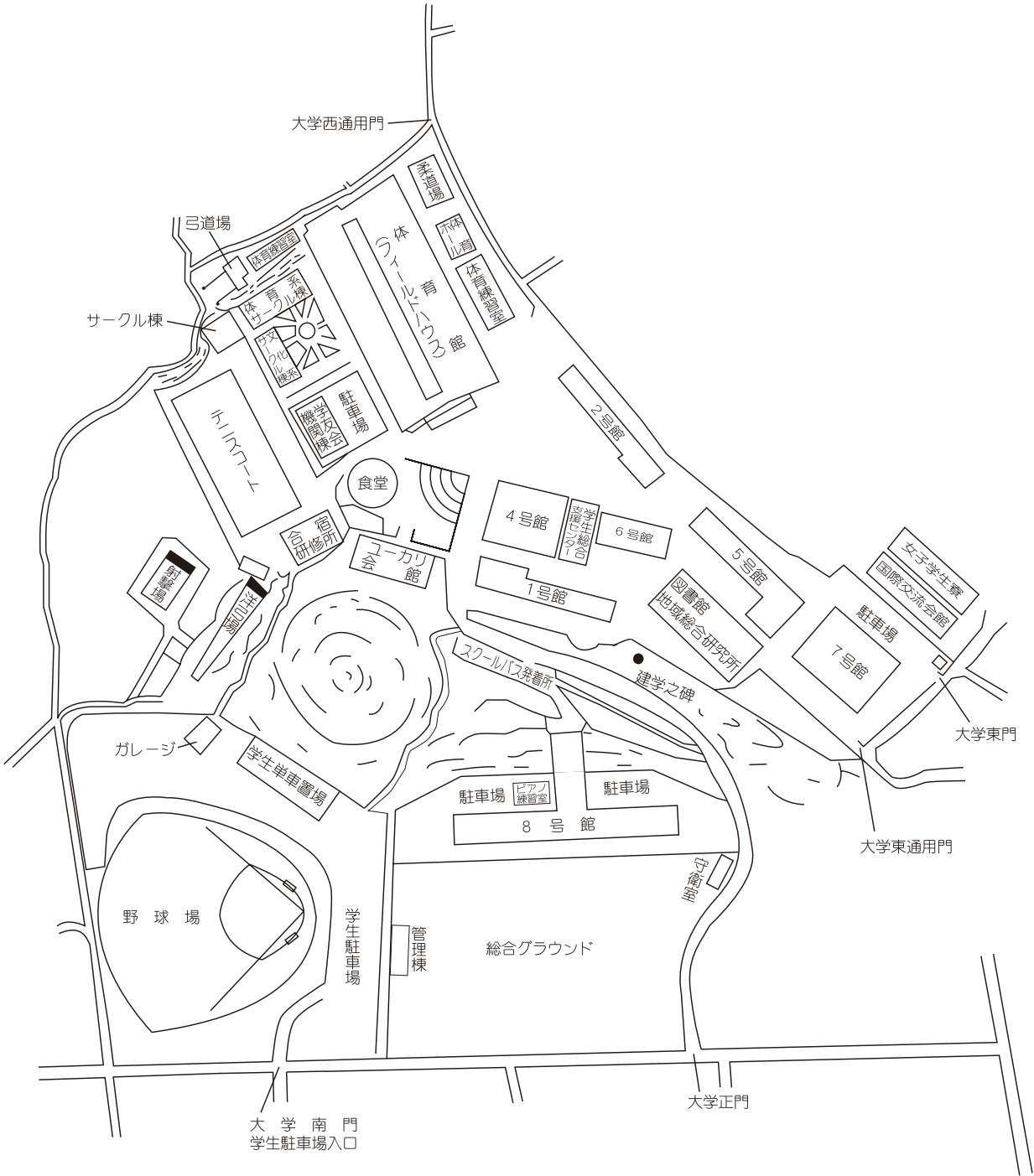


屋内運動場

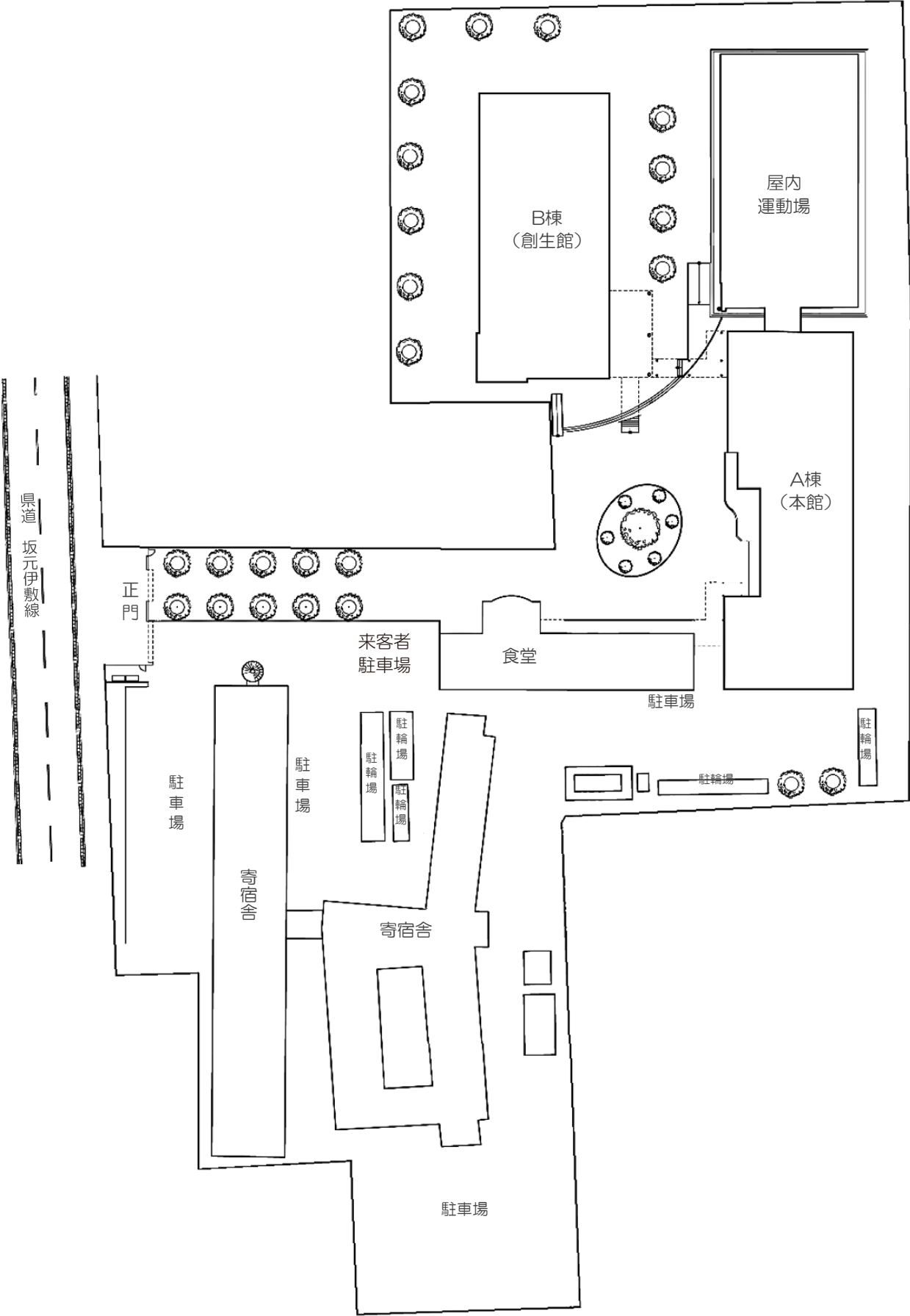
652㎡



坂之上キャンパス校舎等建物配置図



伊敷キャンパス校舎等建物配置図





知を学び、地に活かす。

鹿児島国際大学

学 籍 番 号						
		学 部		学 科		
氏 名						

〒891-0197 鹿児島市坂之上8-34-1

鹿児島国際大学

T E L 099 - 261 - 3211 (代 表)